岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

台太郎（だいたろう）遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

岩　手　県　盛　岡　市

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

台太郎遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達が創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺跡が消滅することはまことに惜しいことでありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、（財）岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘を行い、記録保存する処置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成14年度に調査した台太郎遺跡第44次調査の結果をまとめたものであります。調査によって奈良時代から平安時代の遺構が発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に心より感謝申しあげます。

平成15年３月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1　本報告は、岩手県盛岡市向中野字八口市場41－1他に所在する台太郎遺跡第44次発掘調査の結果を収録したものである。

2　本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は盛岡市都市整備部盛岡南整備課と岩手県教育委員会事務局文化課（現・生涯学習文化課）の協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3　岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号はLE16－2269、遺跡略号はODT－02－44である。

4　発掘調査の期間・担当者・調査面積は次のとおりである。

平成14年4月9日～平成14年8月5日　金子佐知子・皆川英香・安藤由紀夫
阿部眞澄　菊池　賢

調査面積：2,907㎡

5　室内整理の期間・担当者は次のとおりである。

平成14年11月1日～平成15年3月31日　阿部　眞澄・安藤由紀夫・菊池　賢

6　出土石器類の石材鑑定は花崗岩研究会、炭化材同定は木炭協会の早坂松次郎氏、火山灰・骨同定はパリノ・サーヴェイ株式会社、鉄製品保存処理は岩手県立博物館に依頼した。

7　基準点の測量・打設は、東北エンジニアリング株式会社、航空写真はハイマーティク株式会社に委託した。

8　野外調査および室内整理・報告書作成にあたり、次の方々ならびに機関から指導・助言・協力をいただいた。（敬称略）

千葉正彦（岩手県立盛岡商業高等学校教諭）、盛岡市教育委員会

9　野外調査では地元盛岡市の方々にご協力いただいた。

10　本報告書の執筆・編集・校正は、当センター臨時職員の協力を得て、阿部眞澄と菊池　賢が担当した。

11　本報告書では、国土地理院発行の次の地形図を使用した。

1／25,000　盛岡・小岩井農場・矢巾・南昌山

1／50,000　盛岡・日詰

また、土層の色調観察は、「新版　標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄　1990年版）を使用し表記した。

12　調査で得られた出土遺物および調査の諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターで保管し、保存活用を図る予定である。

13　調査成果の一部については現地説明会資料および「平成14年度岩手県埋蔵文化財発掘調査略報」において公表したが、記載内容については本報告書が優先する。

〔本　　文〕

序

例言

Ⅰ．調査に至る経過 …… 2

Ⅱ．遺跡の位置

1．遺跡の位置 …… 3

2．遺跡周辺の地形と地質 …… 5

3．基本層序 …… 6

4．周辺の遺跡 …… 6

Ⅲ．調査の方法と室内整理

1．野外調査 …… 12

2．室内整理と掲載方法 …… 14

Ⅳ．検出された遺構と遺物

1．竪穴住居跡 …… 18

2．掘立柱建物跡 …… 32

3．土坑 …… 34

4．竪穴状遺構 …… 42

5．焼土遺構 …… 43

6．溝跡・堀跡 …… 43

7．井戸跡 …… 51

8．その他の遺構 …… 52

9．遺構外出土遺物 …… 52

Ⅴ．まとめ

1．遺構について …… 132

2．古代台太郎ムラについての若干の考察 …… 139

3．遺跡について …… 147

4．おわりに …… 147

Ⅵ．分析鑑定 …… 165

報告書抄録 …… 241

職員一覧 …… 242

〔図　　版〕

第 1 図　遺跡の位置 …… 1

第 2 図　調査区と周辺の地形 …… 4

第 3 図　地形分類 …… 5

第 4 図　調査区各地点の層序 …… 7

第 5 図　周辺の遺跡 …… 9

第 6 図　グリッド配置図 …… 12

第 7 図　凡例 …… 15

第 8 図　台太郎遺跡・第44次
遺構配置図（1） …… 16

第 9 図　台太郎遺跡・第44次
遺構配置図（2） …… 17

第 10 図　RA185竪穴住居跡 …… 53

第 11 図　RA185・393竪穴住居跡
過年度分合成図 …… 54

第 12 図　RA396竪穴住居跡 …… 55

第 13 図　RA393竪穴住居跡 …… 56

第 14 図　RA547（1）竪穴住居跡 …… 57

第 15 図　RA547（2）竪穴住居跡 …… 58

第 16 図　RA549竪穴住居跡 …… 59

第 17 図　RA550竪穴住居跡 …… 60

第 18 図　RA551（1）竪穴住居跡 …… 61

第 19 図　RA551（2）・RA552
竪穴住居跡 …… 62

第 20 図　RA553（1）竪穴住居跡 …… 63

第 21 図　RA553（2）・RA554・555（1）
竪穴住居跡 …… 64

第 22 図　RA554・555（2）竪穴住居跡 …… 65

第 23 図　RA556（1）竪穴住居跡 …… 66

第 24 図　RA556（2）竪穴住居跡 …… 67

第 25 図　RA557・558・559竪穴住居跡 …… 68

第 26 図　RA560竪穴住居跡 …… 69
第 27 図　RA561・562竪穴住居跡 …… 70
第 28 図　RA563竪穴住居跡 …… 71
第 29 図　RA564竪穴住居跡 …… 72
第 30 図　RB044掘立柱建物跡…… 73
第 31 図　RB045掘立柱建物跡…… 74
第 32 図　RB046掘立柱建物跡…… 75
第 33 図　RB047掘立柱建物跡…… 76
第 34 図　RB048掘立柱建物跡…… 77
第 35 図　RD1039・1040土坑 …… 78
第 36 図　RD1041～1047土坑 …… 79
第 37 図　RD1048～1057土坑 …… 80
第 38 図　RD1058・1059・1060・1061・1062
　　1063・1068・1072土坑…… 81
第 39 図　RD1064・1066・1067・1069・1070
　　1071・1073土坑…… 82
第 40 図　RD1074・1075・1076土坑 …… 83
第 41 図　RE055（1）竪穴状遺構…… 84
第 42 図　RE055（2）竪穴状遺構…… 85
第 43 図　RE056竪穴状遺構…… 86
第 44 図　RF063・064焼土遺構・
　　RI016井戸跡 …… 87
第 45 図　RG464・465・466溝跡（西区）… 88
第 46 図　RG457・458・459・460・462・463
　　溝跡・RG461堀跡（東区）…… 89
第 47 図　RG453・454・455・456溝跡
　　（北東区）…… 90
第 48 図　RG442～452溝跡（北Ⅰ区）…91・92
第 49 図　RZ031（1）（北Ⅰ区）
　　柱穴状土坑 ……93・94
第 50 図　RZ031（2）（北Ⅱ区）・032（西区）
　　柱穴状土坑…… 95
第 51 図　RZ033（東区）柱穴状土坑…… 96
第 52 図　RA185（1）出土遺物 …… 97
第 53 図　RA185（2）出土遺物 …… 98
第 54 図　RA393（1）出土遺物 …… 99
第 55 図　RA393（2）・547（1）
　　出土遺物……100
第 56 図　RA547（2）出土遺物 ……101
第 57 図　RA547（3）出土遺物 ……102
第 58 図　RA549（1）出土遺物 ……103
第 59 図　RA549（2）・550（1）
　　出土遺物……104
第 60 図　RA550（2）・551　出土遺物 …105
第 61 図　RA553・554・555（1）
　　出土遺物……106
第 62 図　RA555（2）出土遺物 ……107
第 63 図　RA556（1）出土遺物 ……108
第 64 図　RA556（2）出土遺物 ……109
第 65 図　RA556（3）出土遺物 ……110
第 66 図　RA556（4）出土遺物 ……111
第 67 図　RA556（5）出土遺物 ……112
第 68 図　RA556（6）出土遺物 ……113
第 69 図　RA557・559・560・561
　　出土遺物……114
第 70 図　RA562（1）出土遺物 ……115
第 71 図　RA562（2）・563（1）
　　出土遺物……116
第 72 図　RA563（2）出土遺物 ……117
第 73 図　RA563（3）出土遺物 ……118
第 74 図　RA564（1）出土遺物 ……119
第 75 図　RA564（2）出土遺物 ……120
第 76 図　RD1060（1）出土遺物 ……121
第 77 図　RD1060（2）出土遺物 ……122
第 78 図　RD1039・1066・1071・1072・1073
　　1074・1075　出土遺物……123
第 79 図　RE055・056　出土遺物 ……124
第 80 図　RG446・447　出土遺物 ……125
第 81 図　RG448・449・450　出土遺物 …126
第 82 図　RG453・454（1）出土遺物 ……127

第83図　RG454（2）・456・457・464
出土遺物……128
第84図　北Ⅰ・北Ⅱ遺構外　出土遺物……129
第85図　西・東・北東・不明・RE005攪乱
遺構外　出土遺物……130
第86図　遺構外　出土遺物……131
第87図　住居跡床面積・軸方向分布図……149
第88図　不掲載遺物　遺構別口縁・
体部数（1）……158
第89図　不掲載遺物　遺構別口縁・
体部数（2）……159
第90図　不掲載遺物　器種別口縁・
体部数……160
第91図　出土土器集成図（1）……161・162
第92図　出土土器集成図（2）……163
第93図　台太郎遺跡・遺構配置図……164

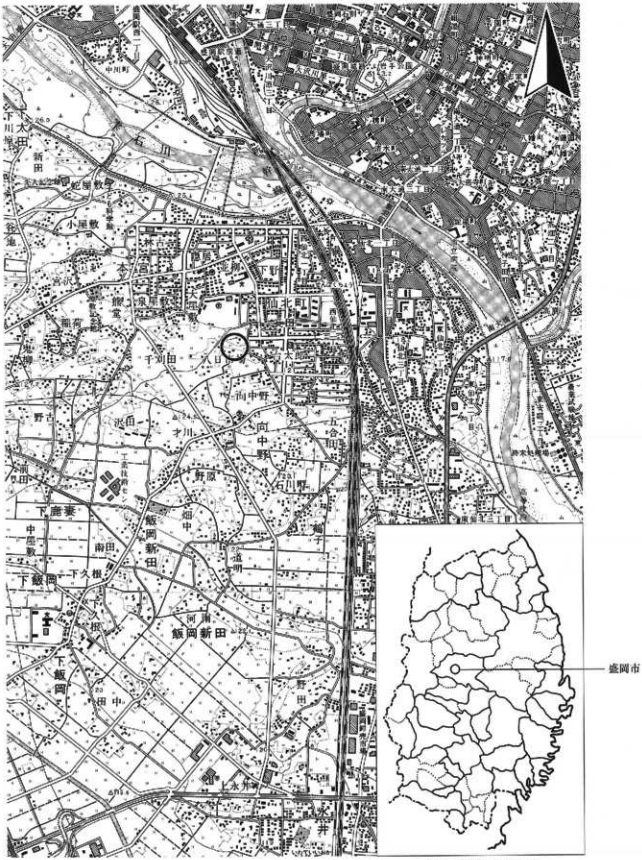
〔写　真　図　版〕

写真図版1　遺物……169
写真図版2　RG461堀跡……170
写真図版3　RB045掘立柱建物跡・
東区作業風景……171
写真図版4　盛南地区の変遷……172
写真図版5　空中写真……173
写真図版6　空中写真……174
写真図版7　空中写真・北Ⅱ区全景……175
写真図版8　RA185竪穴住居跡……176
写真図版9　RA393竪穴住居跡……177
写真図版10　RA396竪穴住居跡……178
写真図版11　RA547竪穴住居跡……179
写真図版12　RA549竪穴住居跡……180
写真図版13　RA550竪穴住居跡……181
写真図版14　RA551竪穴住居跡……182
写真図版15　RA552竪穴住居跡……183
写真図版16　RA553竪穴住居跡……184
写真図版17　RA554・555竪穴住居跡……185
写真図版18　RA556竪穴住居跡……186
写真図版19　RA557・558竪穴住居跡……187
写真図版20　RA559竪穴住居跡……188
写真図版21　RA560竪穴住居跡……189
写真図版22　RA561竪穴住居跡……190
写真図版23　RA562竪穴住居跡……191
写真図版24　RA563竪穴住居跡……192
写真図版25　RA564竪穴住居跡……193
写真図版26　RB044・045掘立柱建物跡……194
写真図版27　RB046・047・048
掘立柱建物跡……195
写真図版28　RD1039～1042土坑……196
写真図版29　RD1043・1045～1047土坑…197
写真図版30　RD1048～1051土坑……198
写真図版31　RD1052～1055土坑……199
写真図版32　RD1056～1060土坑……200
写真図版33　RD1060～1063土坑……201
写真図版34　RD1064・1066～1068土坑…202
写真図版35　RD1069～1072土坑……203
写真図版36　RD1073～1076土坑……204
写真図版37　RE055（1）竪穴状遺構……205
写真図版38　RE055（2）竪穴状遺構……206
写真図版39　RE056竪穴状遺構……207
写真図版40　RF063・064焼土遺構・
RG442溝跡……208
写真図版41　RG442～449溝跡……209
写真図版42　RG444・446～450溝跡……210
写真図版43　RG445・451・452溝跡……211
写真図版44　RG453・454溝跡……212
写真図版45　RG455～457溝跡……213

写真図版46　RG458溝跡 ……214
写真図版47・RG459・460溝跡
RG461堀跡 ……215
写真図版48　RG462～465溝跡 ……216
写真図版49　RG463～465溝跡・
RI016井戸跡 ……217
写真図版50　RZ031・RZ033
柱穴状土坑 ……218
写真図版51　RA185　出土遺物 ……219
写真図版52　RA393　出土遺物 ……220
写真図版53　RA547（1）出土遺物 ……221
写真図版54　RA547（2）出土遺物 ……222
写真図版55　RA549　出土遺物 ……223
写真図版56　RA550・551　出土遺物 ……224
写真図版57　RA553・554・555（1）
出土遺物 ……225
写真図版58　RA555（2）出土遺物 ……226
写真図版59　RA556（1）出土遺物 ……227
写真図版60　RA556（2）出土遺物 ……228
写真図版61　RA556（3）出土遺物 ……229
写真図版62　RA556（4）出土遺物 ……230
写真図版63　RA557・559・560・561
出土遺物 ……231
写真図版64　RA562　出土遺物 ……232
写真図版65　RA563　出土遺物 ……233
写真図版66　RA564　出土遺物 ……234
写真図版67　RD1060　出土遺物 ……235
写真図版68　RD1074・1075　RE055・056（1）
出土遺物 ……236
写真図版69　RE056（2）RG444・446・447
出土遺物 ……237
写真図版70　RG448・449・450・453・454
出土遺物 ……238
写真図版71　RG456・457・464・北Ⅰ外・
北Ⅱ外　出土遺物 ……239
写真図版72　西外・東外・北東外・-2-A・
RE055・出土地点不明
出土遺物 ……240

〔表〕

表1　周辺の遺跡……10・11
表2　北Ⅰ区柱穴状土坑一覧……93・94
表3　北Ⅱ区・西区柱穴状土坑一覧 …… 95
表4　東区柱穴状土坑一覧 …… 96
表5　北Ⅰ区竪穴住居跡一覧 ……132
表6　北東区竪穴住居跡一覧 ……134
表7　西区竪穴住居跡一覧 ……136
表8　台太郎遺跡不掲載土器一覧（1）……150
表9　台太郎遺跡不掲載土器一覧（2）……151
表10　台太郎遺跡不掲載土器一覧（3）……152
表11　台太郎遺跡不掲載土器一覧（4）……153
表12　台太郎遺跡不掲載土器一覧（5）……154
表13　台太郎遺跡不掲載土器一覧（6）……155
表14　台太郎遺跡不掲載土器一覧（7）……156
表15　台太郎遺跡不掲載土器一覧（8）……157



第１図　遺跡の位置

Ⅰ　調査に至る過程

1　調査に至る過程

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市として発展していくことをめざし、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都市を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成２年９月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が地域振興整備公団に対して事業要請を行い、これを受けて公団が実施計画を作成した。平成３年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成３年度から平成17年度までの15年間を事業予定期間とし、面積約313 ha を対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、本調査に関しては盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、調査を必要とする範囲を確定し、（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

当遺跡44次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成14年度の事業として確定した。これを受け、平成14年４月１日に、（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長との間で委託契約を締結し発掘調査を実施するはこびとなった。野外調査は平成14年４月９日～８月５日迄、室内整理は同年11月１日～翌15年３月31日迄行われた。

2　過去の調査

台太郎遺跡は昭和60年に第１次調査が始まる。当初は遺跡として把握されておらず、土地区画整理事業の進行に伴い新たに発見された。以降、平成14年度末までに49次の調査が行われ、調査面積は合計12万㎡にも及ぶ。調査開始以来、竪穴住居跡は合計500棟以上も発見され、古代を中心にした一大集落であることが判明している。今回はそのうち第44次調査についての報告である。

次数	所在地	面積（㎡）	期間	調査原因	調査期間
1	向中野１丁目地内		85,05,24～06,25	仙北西地区区画整理	盛岡市教育委員会
2	向中野１丁目地内	515	85,07,01～07,31	仙北西地区区画整理	盛岡市教育委員会
3	向中野２丁目３番地内	125	85,11,13～11,30	倉庫改築	盛岡市教育委員会
4	向中野２丁目３番地内	100		共同住宅新築	盛岡市教育委員会
5	向中野１丁目地内	50	89,05,10～05,11	個人	盛岡市教育委員会
6	向中野１丁目地内	302	90,05,07～05,26	個人	盛岡市教育委員会
7	向中野字向中野36-3	138	91,04,25～05,08	新築住宅	盛岡市教育委員会
8	向中野２丁目７番	830	91,06,17～06,27	タクシー会館新築	盛岡市教育委員会
9	向中野字向中野40	50	93,05,11	農作業小屋新築	盛岡市教育委員会
10	向中野字八日市場地内	12,00	95,04,04～04,06	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
11	向中野１丁目９番地内	320	95,06,19～06,27	倉庫新築	盛岡市教育委員会
12	向中野字八日市場地内	5,176	95,09,01～11,30	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
13	向中野字八日市場地内	4,064	96,10,14～10,25	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
14	向中野２丁目３番地内	25	96,11,25～11,29	下水道引込管工事	盛岡市教育委員会
15	向中野字八日市場地内	12,906	97,04,04～11,26	盛南開発関連	県埋文センター
16	向中野字八日市場地内	790	97,08,10～08,29	盛南開発関連	県埋文センター
17	向中野字向中野地内	10	97,08,23	個人下水配管工事	盛岡市教育委員会

18	向中野字八日市場地内	26,404	98,04,15～11,20	盛南開発関連	県埋文センター
19	向中野字八日市場地内	4,755	98,07,02～08,31	盛南開発関連	県埋文センター
20	向中野字向中野地内	1,400	98,09,17～12,21	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
21	向中野２丁目４番地内	324	98,09,25	車庫新築	盛岡市教育委員会
22	向中野字向中野地内	2,500	99,09,01～11,02	盛南開発関連(県警待機宿舎)	県埋文センター
23	向中野字八日市場地内	27,800	99,04,16～11,15	盛南開発関連	県埋文センター
24	向中野字中野地内	3,425	99,05,06～07,16	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
25	向中野字八日市場地内	2,141	99,07,07～12,15	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
26	向中野字向中野地内	14,229	00,04,19～10,31	盛南開発関連	県埋文センター
27	向中野字八日市場地内	2,513	00,06,12～11,14	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
28	向中野字八日市場地内	460	00,06,29～09,08	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
29	向中野字向中野	125	00,07,19～08,25	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
30	向中野字八日市場	35	00,07,25～07,31	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
31	向中野字八日市場	128	00,08,01～08,08	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
32	向中野字八日市場地内	1,030	00,09,18～10,20	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
33	向中野字八日市場地内	694	00,09,22～10,13	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
34	向中野２丁目	156	00,11,20～11,22	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
35	向中野字向中野地内	4,394	01,04,17～08,02	盛南開発関連	県埋文センター
36	向中野字向中野地内	290	01,05,22～06,05	盛南開発関連	県埋文センター
37	向中野字向中野20他	872	01,05,28～06,22	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
38	向中野字向中野	309	01,06,01～06,15	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
39	向中野字八日市場地内	1,096	01,08,01～11,02	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
40	向中野字八日市場	300	01,08,01～09,19	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
41	向中野字八日市場	220	01,08,02～09,19	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
42	向中野字八日市場	123	01,11,26～12,12	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
43	向中野字向中野	112	01,11,26～12,12	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
44	向中野字八日市場地内	2,907	02,04,09～08,05	盛南開発関連	県埋文センター

Ⅱ　遺跡の位置

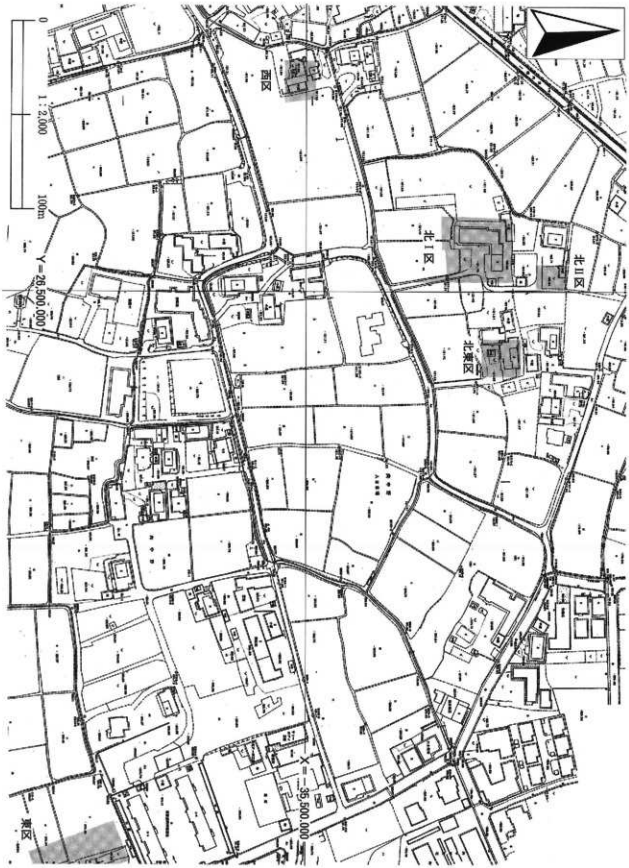
1　遺跡の位置

台太郎遺跡の所在する盛岡市は、岩手県の中央部に位置している。総面積は489.15㎢、人口288,318人(平成15年２月１日現在)、東側は下閉伊郡岩泉町と川井村、西側が岩手郡半石町、南側が紫波郡矢巾町と紫波町及び稗貫郡大迫町、北側が岩手郡滝沢村と玉山村の５町３村に隣接する。南部藩丰南部重直公による盛岡城完成の1633年より録ること370年、現在岩手県の県庁所在地であり、北東北における中核都市として発展を続けている。

台太郎遺跡は、岩手県盛岡市向中野字八日市場41－１他に所在し、国土地理院発行の２万5000分の１の地図「盛岡」NJ－54－13－14－２（盛岡新庄14号－２）の図幅に含まれ、北緯39度40分47秒、東経141度８分40秒付近、JR東北本線仙北町駅の西約900m、奥羽山脈より東流する雫石川右岸の微高地上に位置する。

第44次調査は、宅地間の５区からなる。畑地であった東区を除き、建物の基礎や配水管工事の影響で遺構の残存状態はよくなかった。東区は昨年度行われた第35次、北区は当センター第18次と盛岡市教委調査区、西区は当センター第23次、北東区は盛岡市教委調査区に隣接している。

調査区の標高値は123m前後と概ね平坦であるが、その中でも若干の高低差がみられ、その差が古地の状況を微妙に左右する。



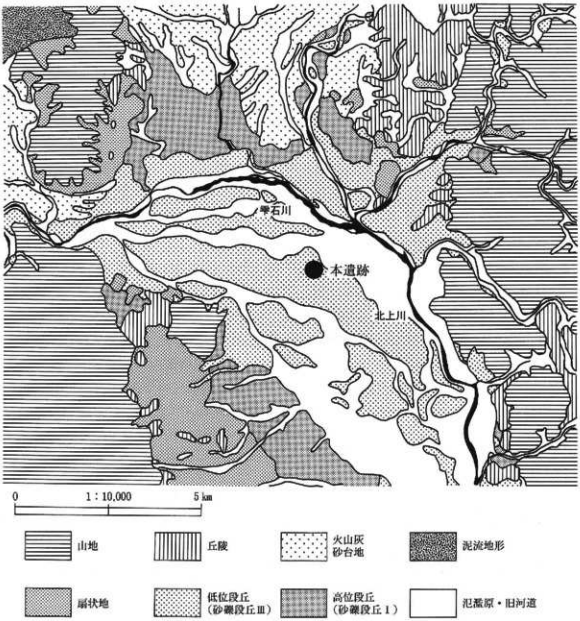
第２図　調査区と周辺の地形

2　遺跡周辺の地形と地質

盛岡市は東西に迫る山々に挟まれた盆地を中心に広がる緑と水の街である。市街地からは北西にコニーデ火山特有の裾野を東側に広げる岩手山（標高2038.2m）、北東側に姫神山（1124.5m）、南東側に霊峰早池峰山（標高1917m）を望むことができる。いずれも、歌人石川啄木が遠い異郷からその姿を詠み、詩人宮澤賢治が自らの中の宇宙を見つめながら生命の輝きを讃えた山々である。

また、盛岡市は水の街でもある。東北新幹線が盛岡駅に近づきスピードを落とす頃、まず目にはいるのは白鳥が羽根を休める緩やかな北上川の流れである。急峻な山々に囲まれた盆地は、また、北上川とその支流中津川・梁川・雫石川が合流し、力強く南下を始める地点である。

北上川は東北地方最大の１級河川で、主流部の延長294km、流域面積10,250km²、支流数216を有し、西側に



第３図　地形分類

連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の底地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。古代より人と物の流れは北上川により司られ、時には荒れ狂う自然の恐ろしさを人間に知らしめ、またある時にはその豊かな恵みを人々に分け与えてきた大河である。流域は、盛岡市北部の四十四山峡谷と一関市弧禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられており、盛岡市は中流域北部にあたる。

中流域の地形は、背後に控える山地構造の違いにより対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、各支流に多量の土砂を供給し、西岸に大小の扇状地が複合する広い平野部を作り出している。これらの扇状地は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化している。これに対して老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵縁辺部に小規模な段丘と沖積地が観察されるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究は中川久夫ほかの業績が大きく、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ケ崎段丘に分類した。中流域北部ではこれらに相当するものとして石烏谷段丘、二枚橋段丘、都南段丘が設定されている。

本遺跡の所在する北上川中流域北部右岸では、大規模な平野と奥羽脊梁山脈から供給される多量の堆積物による扇状地が形成されており、雫石川以南北上川以西には雫石川の下刻・堆積作用により高位から順に「砂礫段丘Ⅰ」「砂礫段丘Ⅱ」「砂礫段丘Ⅲ」の沖積段丘面が形成されている。低位の「砂礫段丘Ⅲ」面には雫石川の河道変遷に伴う4期にわたる旧河道が確認されている。文献史料によれば、志波城は雫石川の水害が原因で廃絶したとされており、発掘の結果からも志波城北辺部分は雫石川の旧河道によりきられて消失していることが確認されている。さらに小河川の河道痕跡が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状の微高地を形成する。本遺構を含めた古代遺跡の多くは「砂礫段丘Ⅲ」面の微高地や扇状地の縁辺部に位置している。

3　基本層序

調査区内の現状の地形はほぼ平坦であるが、宅地化、道路整備、耕地整理等による削平で旧地表面の改変も見られ、表土下位の地層は一様ではない。

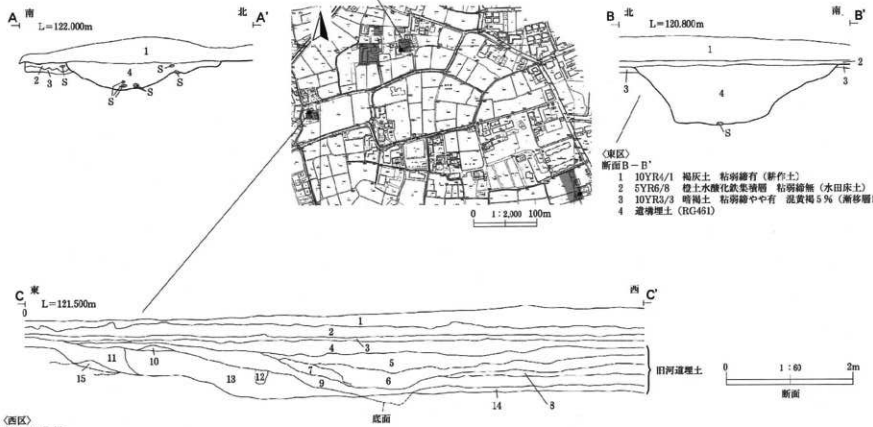
北区・北東区・西区は調査区が宅地及び畑地であったため、攪乱が地山付近まで至り、遺構が壊れている場合が多かった。このような状態の中、地表面下の薄いⅢ層下面（主に漸移層）～Ⅳ層上面（主に地山層）で遺構を検出した。ただ、攪乱部分の下に遺構が全部または一部が残っている場合が多く、不用意に掘り進めない状態であった。西区の南側は旧河道へ続き、古代の遺構は検出されなかった。

それに対して、東区は水田と畑地に利用されていた時期が長いためか、部分的にⅢ層が厚く、Ⅲ層下面において残存状態の良好な形で遺構プランを検出することが出来た。東区南西部分においてはⅢ層下位より礫層に至り西側に続く。

4　周辺の遺跡

盛岡市内における遺跡は、岩手県遺跡台帳平成7年度によれば、521箇所余が登録されている。第5図は台太郎遺跡周辺の主な遺跡の分布を雫石川右岸を中心に図示したものである。これらの遺跡分布状況を見ると、雫石川左岸（北岸）と右岸（南岸）では対照的な様相を示している。

左岸の台地上には、大館遺跡群をはじめとする縄文時代の集落群が数多く分布している。それに対し右岸の低位段丘面上には、縄文時代の遺構は陥し穴状遺構が散在する程度となり、僅かに熊堂A遺跡から縄文時



〈北東区〉
断面A－A'

1　10YR3/2　黒褐土　粘中締やや有　混拳大礫若干（宅地造成時盛土）
2　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有　混小礫若干（自然堆積層）
3　10YR3/3　暗褐土　粘弱締やや有　混黄褐３％（漸移層Ⅲ層）
4　遺構埋土（RG453）

〈東区〉
断面B－B'

1　10YR4/1　褐灰土　粘弱締有（耕作土）
2　5YR6/8　橙土水酸化鉄集積層　粘弱締無（水田床土）
3　10YR3/3　暗褐土　粘弱締やや有　混黄褐５％（漸移層Ⅲ層）
4　遺構埋土（RG451）

〈西区〉
断面　C－C'

1　10YR5/1　褐灰土　粘弱締有（盛土層）
2　10YR4/2　暗黄褐土　粘弱締有　混水酸化鉄５％（盛土層）
3　5YR5/8　暗褐土　粘弱締有　混黄褐50％　水平に集積（水田床土）
4　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有　混水酸化鉄10％と土師器片（耕作土）
5　10YR2/2　黒褐土　粘中締やや有　混にぶい黄橙砂５％水酸化鉄３％（旧河道埋土）
6　7.5YR4/1　褐灰土　粘強締やや有　混水酸化鉄５％ややグライ化の様相（旧河道埋土）
7　7.5YR4/2　灰褐土　粘強締やや有　混水酸化鉄５％ややグライ化の様相（旧河道埋土）
8　10YR2/1　黒土　粘強締やや有　混水酸化鉄３％ややグライ化の様相（旧河道埋土）
9　10YR2/2　黒褐土　粘強締やや有　混水酸化鉄３％（旧河道埋土）
10　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締有　混水酸化鉄３％小礫（１～３㎝大）50％（旧河道埋土）
11　10YR4/2　灰黄褐砂礫層　粘無締有　混水酸化鉄３％
12　2.5GY2/1　黒土　粘強締やや有　混水酸化鉄３％　柱穴状土坑かグライ化の様相
13　10YR5/2　灰黄褐土　粘強締やや有　混水酸化鉄３％・層厚不明（地山層）
14　10YR4/1　褐灰土　粘強締やや有　混水酸化鉄３％グライ化の様相・層厚不明（旧河道埋土）
15　10YR5/3　にぶい黄褐砂　粘無締やや有　混水酸化鉄３％（河岸の砂）

第４図　調査区各地点の層序

代晩期の竪穴住居跡が1棟発見されたにすぎない。しかし、古代の遺跡は多く、八掛遺跡などの8世紀時代の集落跡や太田蝦夷森古墳群、延暦22年（803）に造営された古代城柵である志波城や林崎遺跡などの集落跡も数多く分布している。このような遺跡の分布域の相違は立地する地形面と大きく係わるものと考えられる。以下は近年周辺で調査された志波城跡、熊堂B遺跡、野古A遺跡、飯岡沢田遺跡の調査概要である。

（14）志波城跡

本遺跡の北西約2kmに位置する太田方八丁遺跡は、昭和51・52年に東北縦貫自動車道建設に伴う調査が行われた。その後に盛岡市教育委員会による範囲確認調査を経て、所在地が不明であった古代城柵『志波城跡』と認定された。昭和55年度から59年度に亘る5カ年計画による発掘調査によって、陸奥の国最北端の城柵跡としての独自性が明らかになるに至り、昭和59年に国指定史跡となった。

発掘調査は昭和55年から毎年継続して行われており、平成14年度迄に第93次調査を数えている。平成5年度からは史跡保存整備事業も着手され、櫓および築地塀の復元工事が行われている。

（30）熊堂B遺跡

JR 仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川右岸の標高123m前後の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は休耕田と畑地である。盛岡市教委と当センターで第13次までの調査が行われ、奈良～平安時代の集落跡が確認されている。平成14年度の第14・15次調査の結果、検出した遺構は竪穴住居跡13棟、土坑52基、溝跡19条、竪穴状遺構1基、柱穴状土坑、出土遺物は土師器（坏・高台付坏・甕）須恵器、土製品（勾玉）、鉄製品（刀子等）と縄文土器片である。

（34）野古A遺跡

JR 仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川右岸の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は畑地と果樹園である。段丘縁下から北50mの位置には熊堂B遺跡が、南側には幅約5mの「鹿妻堰」を隔てて飯岡沢田遺跡が隣接する。

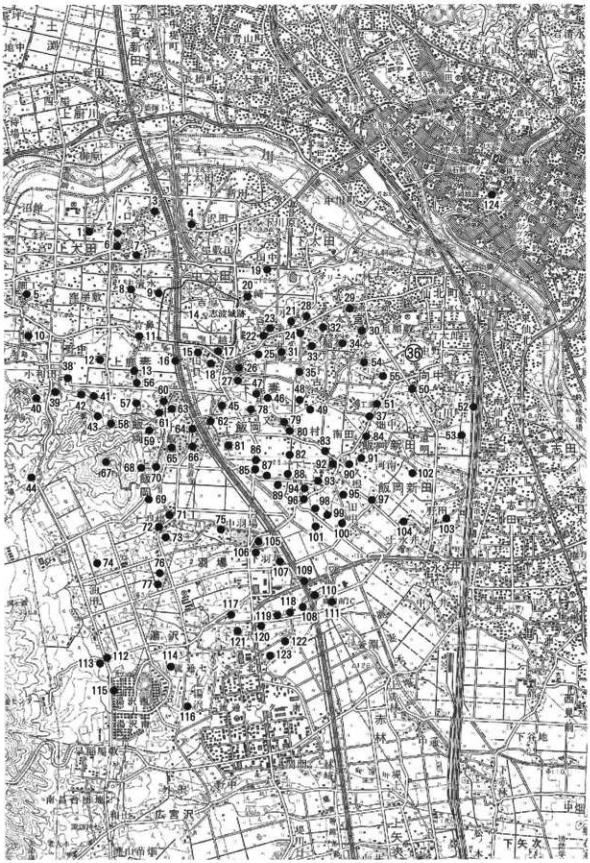
平成13年度と同14年度の2ヶ年にわたる当センターによる約10,000㎡の調査の結果、検出した遺構は竪穴住居跡40棟（古墳時代末期1棟、奈良時代18棟、平安時代21棟）、掘立柱建物跡1棟、隔し穴状土坑5基、墓壙8基、土坑54基、溝跡14条、焼土遺構1基、柱穴状小土坑などである。主な出土遺物は、土師器（坏・高坏・高台付坏・甕・耳皿・小型壺）、須恵器（坏・甕・壺）、土製品（紡錘車・円盤状土製品）、石製品（砥・砥石）、鉄製品（刀子）、陶磁器である。残りの良い竪穴住居跡が多数検出され、当遺跡が段丘縁辺部に立地した、主に奈良～平安時代の集落跡であったことを確認した。

（54）飯岡沢田遺跡

JR 仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川南岸の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は畑地、果樹園と休耕地である。本遺跡の西側に「鹿妻堰」を隔てて野古A遺跡が隣接する。

平成13年度と同14年度の2ヶ年にわたる当センターによる約13,400㎡の調査の結果、主に奈良～平安時代の古墳及び円形・方形周溝が45基、中世のものと考えられる大形の方形周溝が1基、古代の竪穴住居跡が20棟（古墳時代末期2棟、奈良時代11棟、平安時代7棟）、掘立柱建物跡2棟、土坑86基、溝跡12条、竪穴状遺構5棟、及び縄文時代の陥し穴状土坑を検出した。多くの古墳及び円形・方形周溝群を多数検出したことから、当遺跡は奈良～平安時代を中心にした墓域であったことを確認した。

（（30）（34）（54）の内容は、『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集：岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）』による。）



第５図　周辺の遺跡

表1　周辺の遺跡（1）

No.	遺跡名	種別	時代 / 備考
1	細田	散布地	平安/土師器
2	松ノ木	集落跡	平安/土師器
3	八ツ山	散布地	古代/土師器/住居跡
4	八掛	集落跡	古代/土師器/住居跡/土坑
5	太田蝦夷森古墳	古墳	奈良/土師器/刀・玉/相同墓跡
6	館	集落跡	平安/土師器/住居跡/城館跡/堀
7	上野原畝	散布地	古代/土師器
8	畑中	集落跡	古代/土師器
9	小沼	集落跡	平安/土師器・緑釉陶器/住居跡
10	一本木	集落跡	平安/土師器/住居跡
11	五兵衛新田	集落跡	古代/土師器
12	天沼	集落跡	古代/土師器
13	竹鼻	集落跡	古代/土師器
14	志波城	城柵跡	平安/土師器/掘立柱建物跡/門跡
15	田其	集落跡	古代/土師器/住居跡
16	竹花前	集落跡	平安/土師器・緑釉陶器/住居跡
17	新堀遺	城柵跡	縄文・古代/縄文土器(晩)・土師器
18	石仙	集落跡	古代/土師器
19	田中	散布地	平安/土師器
20	林崎	集落跡	平安/土師器/掘立柱建物跡
21	小堀	集落跡	平安/土師器/住居跡/掘立柱建物跡
22	大宮	集落跡	古代・中世/土師器/住居跡
23	大宮北	散布地	平安/土師器/住居跡/土坑/溝跡
24	鬼柳A	集落跡	古代/土師器
25	小林	集落跡	古代/土師器
26	水門	集落跡	古代/土師器
27	上越場	集落跡	古代/土師器
28	宮沢	散布地	平安/溝状遺構
29	熊堂A	散布地	縄文/縄文土器(晩)/住居跡等
30	熊堂B	集落跡	奈良～近世/土師器/住居跡/土坑/掘立柱建物跡
31	鬼柳B	集落跡	古代/土師器
32	新荷	集落跡	平安/土師器・須恵器/溝跡
33	鬼柳C	集落跡	古代/土師器
34	野古A	集落跡	古墳末～平安/土師器・須恵器/住居/溝跡/土坑
35	野古B	散布地	古代/土師器
36	台太郎	集落跡	奈良～近世/土師器/住居跡/溝跡/掘立柱建物跡
37	矢釜	集落跡	平安/土師器/住居跡/土坑/溝跡
38	蟹沢下	散布地	古代/土師器
39	二ツ沢	散布地	縄文・古代/土器(中・後)/土師器
40	小和田館	城柵跡	中世/堀/郭
41	蟹沢	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
42	ヘビ塚	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
43	オミ坂	散布地	縄文・平安/縄文土器・土師器
44	大ケ森	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
45	辻屋敷	集落跡	古代/土師器
46	西田A	集落跡	古代/土師器
47	上越場B	集落跡	古代/土師器
48	西田B	集落跡	古代/土師器・須恵器
49	前田	集落跡	古代/土師器
50	向中野館	城柵跡	中世/堀/土塁
51	細谷地	集落跡	平安/土師器/住居跡・陥穴状土坑/溝
52	南仙北	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
53	向中野堀	集落跡	古代/土師器
54	飯岡沢田	集落跡	古墳末～中世/土師器・須恵器/古墳/周溝/環濠/住居
55	飯岡才川	集落跡	平安/土師須恵/円形周溝/掘立柱建物跡/住居
56	中村	散布地	平安/土師器・須恵器
57	月見山	散布地	縄文・古代/土師器
58	山中	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
59	飯岡館	城柵跡	中世・縄文/縄文土器(中)/空堀
60	堤	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
61	高館古墳群	古墳	奈良～平安/土師器・蕨手刀
62	藤島II	散布地	平安?/土師器

No.	遺跡名	種別	時代 / 備考
63	高原	集落跡	縄文/縄文土器(中)・石器
64	大柳 I	散布地	古代/土師器・須恵器
65	大柳 II	散布地	古代?/土師器
66	船野前	散布地	縄文/縄文土器(後)
67	飯岡山館	城館跡	中世
68	飯岡赤坂	散布地	古代
69	いたご塚	祭祀跡	近世
70	赤坂 II	散布地	平安?/土師器
71	羽場館	城館跡	中世/空堀
72	羽場白月木	散布地	縄文/縄文土器(中)
73	砂子塚	散布地	古代/小塚
74	アイノ野	散布地	縄文/縄文土器(晩)
75	因幡	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
76	木師	集落跡	平安
77	福千代	集落跡	奈良
78	二又	散布地	古代/土師器・須恵器
79	内村	集落跡	平安/土師器・常滑
80	中屋敷	散布地	古代/土師器
81	藤島 I	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
82	深淵 I	集落跡	平安/住居跡
83	高屋敷	散布地	古代/住居跡
84	法領桧塚	祭祀跡	時代不明
85	飯岡林崎 II	集落跡	古代/土師器・須恵器・硯/住居跡
86	飯岡林崎 I	集落跡	平安/土師器
87	上新田	集落跡	平安/土師器/住居跡
88	深淵 II	集落跡	平安/住居跡
89	上新田 I	集落跡	平安/住居跡/上新田と重複
90	下久根 I	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
91	石持	散布地	古代/土師器・須恵器
92	高屋敷 II	散布地	平安/土師器・須恵器
93	内	集落跡	平安/土師器/住居跡
94	西田	集落跡	平安/須恵器
95	下久根 II	散布地	縄文・古代/縄文土器
96	熊堂 I	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
97	松島	集落跡	古代/土師器・須恵器
98	熊堂 III	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
99	熊堂 II	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
100	田中	集落跡	平安/土師器・須恵器・石器
101	南谷地	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
102	夕覚	散布地	古代/土師器
103	横屋	集落跡	古代/土師器・須恵器
104	葛本	散布地	古代/土師器・石器
105	新井田 I	散布地	古代/土師器・須恵器
106	新井田 II	散布地	古代/土師器・須恵器
107	新田	集落跡	平安/土師器・須恵器
108	閂渡 I	散布地	古代/土師器
109	下羽場	集落跡	平安/土師器・須恵器・緑釉陶器
110	下湯沢	散布地	古代/土師器・須恵器
111	大島	散布地	古代/土師器・須恵器
112	湯壷	散布地	縄文/縄文土器(晩)・石器
113	湯壷経塚	経塚	中世/常滑
114	後島	散布地	縄文/縄文土器・石器
115	湯沢	散布地	縄文/縄文土器(前・中・後)
116	島	墳墓	時代不明/小塚
117	小田 I	散布地	古代/土師器
118	閂渡 II	散布地	古代/土師器・須恵器
119	閂渡 III	散布地	古代/土師器・須恵器
120	森子	散布地	古代/土師器
121	小田 II	散布地	平安/土師器
122	湯沢大館	城館跡	古代～中世/土師器・須恵器
123	落沢	散布地	古代/土師器
124	盛岡城	城館跡	中世～近世/瓦・陶磁器・その他

Ⅲ　調査の方法と室内整理

1　野外調査

（1）調査の過程

平成14年４月９日　台太郎遺跡第44次調査開始（調査員２名作業員19名）

４月上旬～下旬にかけ、北区→東区→西区試掘の後重機による表土掘削と遺構検出。

４月30日～５月１日　北区のグリッド設営

５月２日　北区検出と精査開始

５月13日～17日　新任者研修（東区中心に検出と精査）

７月３日　北区（Ⅰ・Ⅱ区）の精査終了　北東区の精査に着手

７月11日～７月12日台風による降雨のため野外調査出来ず。被害少。

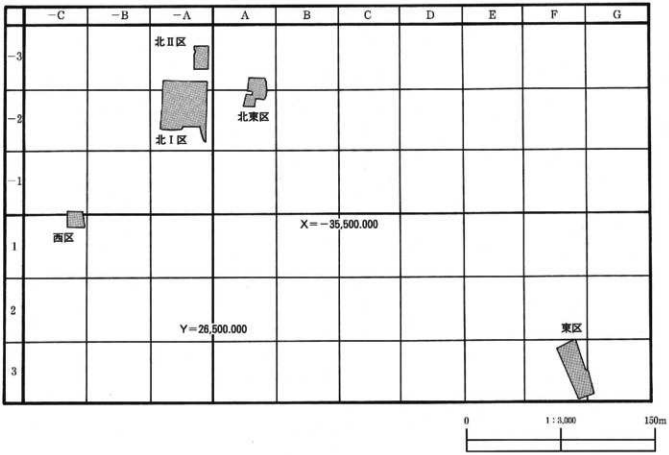
７月15日　北東区の精査終了　東区の精査開始

７月16日　再び台風による降雨のため野外調査出来ず。西区冠水

７月25日　西区精査開始　同日終了確認

７月27日　午後現地説明会　約40人の参加者有り。

７月31日　航空写真撮影　遺構配置図と同じ写真がモニターに映った。



第６図　グリッド配置図

8月1日　予定していた調査を終え、午後現場撤収、野古A遺跡へ移動する。

8月5日　埋戻し終了

暑く長い初夏の日々であった。

（2）グリッドの設定

グリッドの設定にあたっては、盛岡市教育委員会の方針に準じ、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標を用いた。台太郎遺跡の調査座標原点は、X＝－35,500.000、Y＝＋26,500.000である。この座標原点を基点として、遺跡全体を一辺50mの大グリッドに区画した。北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの大文字でA～Y、南方向へは1～25の数字を付して、これを組み合わせて1A、2B、24X、25Yというように表示した。小グリッドは大グリッドを25等分して2×2mに区画し、北西隅を基点に東方向へはa～y、南方向へは1～25をつけて1a、1b、25yというような設定にした。

報告書への掲載には、過去の台太郎遺跡報告書に準じ、3-A25b、3F24gというように表示している。

（3）粗掘りと遺構検出

今次調査に先立ち、盛岡市教育委員会および当センターの過去の調査結果から、今次調査対象区域のほぼ全面について遺構と遺物の状況がある程度把握されていた。このため、層序が比較的単純でしかも地形が水平であること、灰黄褐色土（Ⅰ層）中には遺物が僅少であることから、粗掘りには重機（パワーショベル）を使用し、その後人力によって遺構の検出を行った。

（4）遺構の命名

検出した遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に準じ、下記の通りに行った。各種遺構の遺構番号は、第3次調査からの通し番号で付しており、欠番となっているものについては調査進行中、または整理作業の過程で遺構としての認定から除外したものである。

竪穴住居跡・RA　掘立柱建物跡・RB　柱穴列・RC　土坑・RD　竪穴状遺構・RE

炉・焼土遺構・RF　溝跡・RG　井戸跡・RI　その他・RZ

調査途中で種別を決めかねた遺構については、全てその他として扱った。

（5）遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構および土坑類を除く遺構は4分法、土坑については2分法を原則とし精査を行った。ただし、必要に応じてはその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階で適宜これを行った。溝跡については一部平板測量で平面図を作成した。

実測図の縮尺は1/20を基本とし、平面図と断面図を作成した。

遺構内出土遺物は、埋土の場合上層・中層・下層に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土位置または層位を記して取り上げた。

（6）写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7㎝判カメラ（モノクロ）と35㎜判カメラ（モノクロとリバーサルフイルム）を使用し、この他にポラロイドカメラ1台とデジタルカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、調査終了間近に小型飛行機による空中写真の撮影を実施した。

2　室内整理と掲載方法

野外調査の終了後、平成14年11月１日～平成15年３月31日の期間に、調査記録及び出土遺物の整理を行った。整理作業の大まかな内容は以下の通りである。

（１）遺構

遺構の実測図は遺構毎の分類・整理及び点検を行った後に、第二原図（修正図）を作成しトレースした。次に図版・写真図版を作成した。原図と第二原図には番号を付して、図面台帳を作成した。

遺構配置図は、発掘作業時に作成した原図をもとに1/100の第二原図を作成し、印刷仕上がり1/300で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にそれぞれスケール・縮尺率を付した。

竪穴住居跡	平面図1/60	断面図1/60	掘立柱建物跡	平面図1/100	断面図1/100
土坑	平面図1/60	断面図1/60	竪穴状遺構	平面図1/60	断面図1/60
溝跡	平面図1/150	断面図1/60	焼土・井戸跡	平面図1/40	断面図1/40

（２）遺物

野外調査の段階で出土遺物の洗浄を行っており、平成14年８月～９月にかけて当センター調査課室内作業員に遺物の注記・接合・一部登録を依頼することが出来た。土器については、遺構・グリッド別に注記・接合・復元・選別・登録を行った。登録については、出土遺物の多い遺構については立体として反転実測可能な状態まで接合した土器、出土遺物の少ない遺構についてはその基準を破片実測可能な土器まで下げた。

登録した遺物は、実測・拓影作成・写真撮影を行った後、図版・写真図版を作成した。

土器の実測は、原則として反転可能なものに限ったが、一部は破片実測して掲載した。掲載遺物の縮尺率は原則として、土師器・須恵器・縄文土器片・弥生土器片は1/3、 石器は原寸・1/2又は1/3、鉄製品1/2、土製品1/2又は1/3である。

遺物写真の縮尺は原則として図版の縮尺と一致しているが、例外については縮尺率を付した。

（３）実測図版中の土器の調整方法等は実測凡例図に記した。

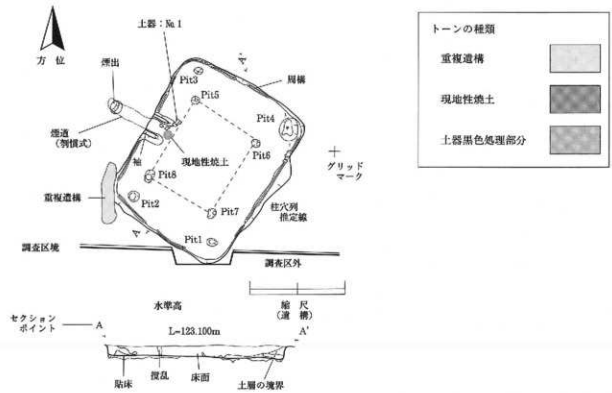
（４）遺物観察表中の記号や分類については、下記の報告書を参照した。

『小幅遺跡第４次発掘調査報告書』（1966 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第265集）

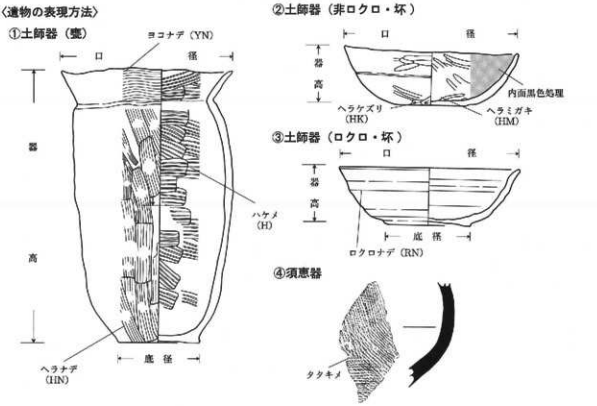
『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』（2000　　同　　第369集）

『熊堂Ｂ遺跡第10次発掘調査報告書』（2001　　同　　第377集）

〈遺構の表現方法〉



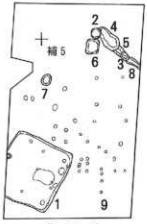
〈遺物の表現方法〉



第7図　凡例

〈北区遺構名〉

1	RA549	竪穴住居跡	15	RA552	竪穴住居跡	29	RD1048	土坑
2	RD1058	土坑	16	RA553	竪穴住居跡	30	RD1049	土坑
3	RD1059	土坑	17	RA554	竪穴住居跡	31	RD1050	土坑
4	RD1060	土坑	18	RA555	竪穴住居跡	32	RD1051	土坑
5	RD1061	土坑	19	RB046	掘立柱建物跡	33	RD1052	土坑
6	RD1068	土坑	20	RB047	掘立柱建物跡	34	RD1053	土坑
7	RD1070	土坑	21	RB048	掘立柱建物跡	35	RD1054	土坑
8	RD1072	土坑	22	RD1041	土坑	36	RD1055	土坑
9	RZ031(2)柱穴状土坑		23	RD1042	土坑	37	RD1056	土坑
10	RA185	竪穴住居跡	24	RD1043	土坑	38	RD1057	土坑
11	RA393	竪穴住居跡	25	RD1044	土坑	39	RD1062	土坑
12	RA396	竪穴住居跡	26	RD1045	土坑	40	RD1063	土坑
13	RA550	竪穴住居跡	27	RD1046	土坑			
14	RA551	竪穴住居跡	28	RD1047	土坑			



基3 X＝－35400.000
Y＝ 26462.000
(-2-A1g)
基4 X＝－35400.000
Y＝ 26492.000
(-2-A1v)

補3 X＝－35422.000
Y＝ 26462.000
(-2-A12g)
補4 X＝－35422.000
Y＝ 26492.000
(-2-A12v)
補5 X＝－35370.000
Y＝ 26488.000
(-3-A11t)
(日本測地系)

0 1：300 10m

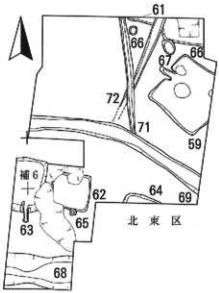
北 I 区

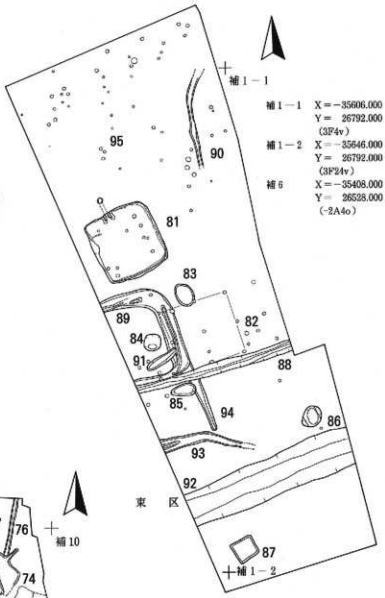
41	RD1064	土坑	50	RG444	溝跡
42	RD1066	土坑	51	RG445	溝跡
43	RD1067	土坑	52	RG446	溝跡
44	RD1069	土坑	53	RG447	溝跡
45	RD055	竪穴状遺構	54	RG448	溝跡
46	RF063	焼土遺構	55	RG449	溝跡
47	RF064	焼土遺構	56	RG450	溝跡
48	RG442	溝跡	57	RG451	溝跡
49	RG443	溝跡	58	RG452	溝跡

第8図 台太郎遺跡・第44次遺構配置図（1）

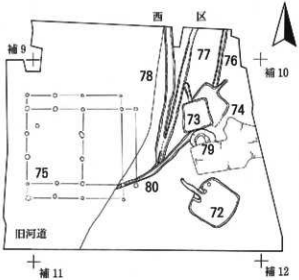
〈北東区遺構名〉

59	RA556	竪穴住居跡	66	RD1073	土坑
60	RA557	竪穴住居跡	67	RD1074	土坑
61	RA558	竪穴住居跡	68	RG453	溝跡
62	RA559	竪穴住居跡	69	RG454	溝跡
63	RA560	竪穴住居跡	70	RG455	溝跡
64	RA561	竪穴住居跡	71	RG456	溝跡
65	RD1071	土坑			





補1－1　X＝－35606.000
Y＝　26792.000
(3F4v)
補1－2　X＝－35646.000
Y＝　26792.000
(3F24v)
補6　X＝－35408.000
Y＝　26538.000
(-2A4o)



〈西区遺構名〉

72	RA562	竪穴住居跡	77	RG464	溝跡
73	RA563	竪穴住居跡	78	RG466	溝跡
74	RA564	竪穴住居跡	79	RI016	井戸跡
75	RB044	掘立柱建物跡	80	RZ032	柱穴状土坑
76	RG465	溝跡			

〈東区遺構名〉

81	RA549	竪穴住居跡
82	RB045	掘立柱建物跡
83	RD1039	土坑
84	RD1040	土坑
85	RD1075	土坑
86	RD1076	土坑
87	RE056	竪穴状遺構
88	RG457	溝跡
89	RG458	溝跡
90	RG459	溝跡
91	RG460	溝跡
92	RG461	堀跡
93	RG462	溝跡
94	RG463	溝跡
95	RZ033	柱穴状土坑

補9　X＝－35500.000
Y＝　26378.000
(1-C1o)
補10　X＝－35500.000
Y＝　26396.000
(1-C1x)
補11　X＝－35516.000
Y＝　26378.000
(1-C9o)
補12　X＝－35516.000
Y＝　26396.000
(1-C9x)
(日本測地系)

0　1：300　10m

第9図　台太郎遺跡・第44次遺構配置図（2）

Ⅳ　検出された遺構と遺物

1　竪穴住居跡

RA１８５竪穴住居跡

遺構（第10・11図　写真図版８）

〈位置〉①北Ⅰ区南端　②-2-A17g～17i グリッド付近

〈重複関係〉①有　RA184より古い。南側2/3は調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形　西側部分に撹乱と礫層有　　〈規模〉4.4×（1.05）m

〈床面積〉（4.62）㎡　　〈主軸方向〉N－9°－W

〈埋土〉黒褐色土主体の３層に分層、褐色土粒と黄褐色土粒が混じり層状に堆積。東壁際に Pit 1 に関わる焼土有り。

〈壁高残存値〉北壁22cm　東壁22cm　南壁と西壁調査区外へ

〈床面〉①東部分に土師器・甕、口縁部を上に潰れた状態で出土。カマド袖間に土師器片有り。

②床面に Pit 1 ～３有り。西側部分は撹乱と礫層に入るため、壁やコーナー部分は不明瞭である。

〈土坑〉① Pit 1 － 長径40×短径（22）cm　深さ14cm

埋土灰黄褐色土主体にぶい赤褐焼土と黒色土わずかに混じる。

② Pit 2 － 平面楕円形　長径85×短径75cm　深さ20cm

③ Pit 3 － 平面不正楕円形　長径120×短径80cm 深さ22cm

埋土灰黄褐色土主体、にぶい赤褐色焼土混じり、上層に土師器片・甕有り。床面上で検出、焼土混の埋土より貯蔵穴として利用されたか。

〈貼床〉構築土は粘性と締弱い灰黄褐色土が主体、東側にみられる。

〈カマド〉①位置　北壁中央やや西寄り、煙道方向はN－11°－W、作り方は刳貫式である。

②袖　構成土は締まりの有る黒褐色土が主体、明赤褐焼土混じる。　一部に土師器片混じる。

③燃焼部　中心は袖間半円の赤褐色焼土で焼成は弱い。袖間のにぶい赤褐焼土は天井崩落土か。支脚に礫が使用されている。（断面Ｅ－Ｅ'）埋土と Pit 3 埋土から獣骨片（ニホンジカ）の焼骨が出土した。

④煙道・煙出　長さ約0.85m、やや上昇しながら先端に掘り込まれた径40cm深さ12cmの煙出に至る。埋土は黒褐色土主体、１層南側に焼土が混じる。

出土遺物（第52・53図　写真図版51）

〈土師器〉①不掲載遺物に関しては、住居内カマド付近からの出土が大部分を占める。これは今次調査が住居跡の北側３分の１であることにも関係している。器種は非ロクロ・甕体部の割合が多い。

②登録数は14点、うち９点について図化し掲載した。器種は非ロクロ・甕（長胴・球胴・小型）と坏、出土場所はカマド袖付近と Pit 2 ・３上である。

③RA185－３は Pit 3 上層に口縁部を上に潰れた状態で出土した。RA185－１・２は同住居跡では数少ない坏で、内面に黒色処理が施され、外面に段が認められる。

〈その他〉①石器：RA185－10は支脚として使用された礫である。

②鉄製品：RA185－11・釘について写真のみの掲載とした。

時期　出土遺物の形態とカマドの向きより奈良時代（８世紀代）に属する。

RA３９６竪穴住居跡

遺構（第12図　写真図版10）

〈位置〉①北Ⅰ区北西端　②-3 A24i ～-2-A1i グリッド付近

〈重複関係〉無　北西コーナーと南西コーナーは調査区外へ延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形、南西壁と南東壁の一部に攪乱有り。

〈規模〉4.85×（4）m　〈床面積〉(19.4) ㎡　〈主軸方向〉N－36°－E

〈埋土〉検出可能部分で暗褐色土主体の４層に区分、南壁際に地山を含む黒褐色土～黄褐色土の層有り。

〈壁高残存値〉南壁20㎝

〈床面〉①検出時に於いて攪乱部分が広がり、プラン検出は困難であった。床面の焼成部分、南壁と東壁の立ち上がり状況、過年度の調査結果の４点より竪穴住居跡として登録した。

②床面焼土部分は径50㎝層厚12㎝、不整楕円形に広がり上層に炭化物を含む赤褐色焼土が主体である。

出土遺物　無　　**時期**　過年度の調査と総合し奈良時代に属すると推測される。

RA３９３竪穴住居跡

遺構（第11・13図　写真図版９）

〈位置〉①北Ⅰ区西中央端　②-2-A5g ～9g 付近

〈重複関係〉無　西側２分の１は調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形　〈規模〉5.6×（4.3）m　〈床面積〉(24) ㎡

〈主軸方向〉N－24°－E　〈埋土〉黒褐色土～暗褐色土主体の６層に区分、黄褐色ブロックと炭化物粒混じる。埋土は粘性に富み、締まり有り～やや有りである。

〈壁高残存値〉北壁35㎝　東壁35㎝　南壁35㎝　西壁調査区外

〈床面〉①締まり有　②北東コーナー、東壁中央、Pit２上に土師器片有り。Pit１～８有り。

〈貼床〉①全体に有　②構築土はにぶい黄褐色土～褐色シルトで締まり有。

〈周溝〉①一部に有り。　②北壁沿長さ２m幅10㎝、東壁沿長さ2.05m幅14㎝深さ６㎝前後である。

〈土坑〉①Pit１－平面円連結　長径1.6×短径0.4m　深さ33㎝　埋土はにぶい黄褐色土主体　層状堆積で埋土下層まで炭化物混

②Pit２－平面不正形　長径1.35×短径0.65m　深さ33㎝　黒褐色土～暗褐色土主体　一部層状一部レンズ状堆積　埋土下層まで土師器片混

③Pit６－平面円形　長径0.3×短径0.2m　深さ27㎝　Ⅰ期主柱穴

④Pit７－平面円形　長径0.32×短径0.3m　深さ50㎝　Ⅱ期主柱穴

⑤Pit８－平面円形　径0.3m　深さ60㎝　Ⅱ期主柱穴

⑥Pit３－平面楕円形　長径0.9×短径0.6m　深さ67㎝　貼床下で検出　埋土暗褐色土と黒褐色土と黄褐色土　炭化物と焼土粒混　下層層状堆積　Ⅰ期住居Pitか　骨片混（ニホンジカの上腕骨片や鼓室部骨片を含む獣骨片）

⑦Pit４－平面楕円形　長径1.1×短径0.8m　深さ30㎝　貼床下で検出　埋土貼床と同じ締まり有る黄褐色土主体　Ⅰ期住居Pitか

⑧Pit５－平面楕円形　長径1.75×短径0.1m　深さ23㎝　貼床下で検出　埋土はPit４に同じ

〈カマド〉盛岡市教委過年度調査分に有り。

〈その他〉①増改築有か。Pitが Ⅰ・Ⅱ期に分かれることと貼床下からPitを検出したことから可能性あり。
すなわち旧住居の主柱穴がPit 7．8、 住居内土坑がPit 3．4．5と考えられる。

出土遺物（第54・55図　写真図版52）

〈土師器〉①不掲載遺物に関して、非ロクロの甕・体部破片と坏が多い。出土場所は埋土中、床面とPit 1～3埋土中である。

②登録数は13点、うち4点について実測・図化した。すべて非ロクロの甕である。出土場所は床面とPitである。

③RA393－2・4は小型甕で、北と南のコーナーより出土、RA393－1・3も同じコーナー付近より出土、胎土は砂質傾向である。

〈その他〉様々な遺物が出土している。

①縄文・弥生土器－RA393－5・6は貼床層と床面より出土

②石鏃－RA393－8・9はPit 4埋土中より出土

③釘・刀子の先端№RA393－11・12・13は、写真のみ掲載

④上製紡錘車－RA393－7はPit 2埋土中より出土

時期　出土遺物の傾向とカマドの向きより、奈良時代（8世紀後半）に属する。

RA５４７竪穴住居跡

遺構（第14・15図　写真図版11）

〈位置〉①東区中央　②3F9t～12tグリッド付近　　〈重複関係〉無

〈平面形〉隅丸方形　　〈規模〉5.7×5.3m　　〈床面積〉30.2㎡　　〈主軸方向〉N－24°－W

〈埋土〉黒褐色土～黒色土を主体にした12層に区分

〈壁高残存値〉北壁42㎝　東壁36㎝　南壁33㎝　西壁30㎝

〈床面〉①四壁沿いに土師器片有り。②北西コーナーと南西コーナーの一部は礫層に至り小礫多い。

③Pit 1～9まで検出する。

〈周溝〉①有　②北壁の一部、東壁、南壁に沿って巡る。礫層に至る西壁沿いには無い。

③長さ計10.2m、深さ北壁沿い4㎝、東壁沿い5～11㎝、南壁沿い7～12㎝を測る。

④埋土は粘性無縮まり弱のにぶい黒褐色土が主体である。

⑥北西コーナー南に間仕切り様の溝、長さ1.5m幅5㎝、先端東側に径10㎝の小土坑有り。

〈貼床〉①住居跡西側は粘性弱の暗褐色土主体、東側は縮まり有る黒褐色土主体、東側の床面に一部硬化部分が認められる。

〈土坑〉①Pit 1－平面円形　長径20×短径15㎝　深さ12㎝　埋土黒褐色土主体焼土混　主柱穴

②Pit 2－平面円形　径20㎝　深さ28㎝　埋土黒褐色土主体　炭混？

③Pit 3－平面円形　径20㎝　深さ28㎝　埋土黒褐色土主体　主柱穴

④Pit 4－平面円形　長径32×短径23㎝　深さ14㎝　埋土黒褐色土主体

⑤Pit 5－平面円形　長径22×短径20㎝　深さ23㎝　埋土黒褐色土主体

⑥Pit 6－平面円形　長径34×短径30㎝　深さ53㎝　埋土黒褐色土主体　主柱穴

⑦Pit 7－平面円形　長径28×短径26㎝　深さ13㎝　埋土黒褐色土主体

⑧ Pit 8 － 平面円形　長径22×短径20cm　深さ13cm　埋土黒褐色土主体

⑨ Pit 9 － 平面円形　長径30×短径26cm　深さ27cm　埋土黒褐色土主体　主柱穴

〈カマド〉①位置　北壁中央やや西寄り、煙道方向N－21°－W、作り方は袖貫式である。

②袖　構成土はやや締まりの有る黄褐色土主体、一部被熱により赤変する。

③燃焼部　中心は袖先端長径0.5×短径0.3m層厚5cmの赤褐色焼土部分、焼成は中である。

④煙道・煙出　燃焼部中心より長さ約1.5m、5°程に緩やかに下降しながら先端の径30cm深さ45cmの煙出に至る。埋土は褐色土～黒褐色土主体、煙道中程まで明赤褐色焼土が混じる。

〈その他〉①増改築を行った住居跡か、床面東側と西側に柱穴多くみられる。

出土遺物（第55・56・57図　写真図版53・54）

〈土師器〉①全体の傾向として、住居跡全体からの出土破片数が多い。不掲載遺物の分析より、非ロクロ・甕・口縁～体部破片、非ロクロ・坏（内黒）の割合が多い。

②①のうち形をなすもの15点について登録、うち10点について図化・掲載した。すべて非ロクロ、器種は甕、鉢？、高坏と坏、出土場所は床面北西部分埋土、南ベルトと南壁沿いである。

③RA547－8・10はAIT 1に属する（後述の分類参照）、RA547－1は丸底、RA547－2は丸底に近い平底で内外に段を有する坏である。RA547－4・5の鉢？は口縁が内湾するボール状の形、RA547－3高坏は外面有段、ヘラミガキが明瞭であり、いずれも台太郎遺跡奈良時代の住居跡にみられる土師器の形である。

〈その他〉①石器：4点を登録した。RA547－11（奥羽山脈起源の安山岩）は支脚として使われ、熱により赤変した部分が認められる。RA547－12は砥石として使用された痕跡が残る安山岩である。

時期　出土遺物とカマドの向きより奈良時代（8世紀中葉～後半）に属する。

RA５４９竪穴住居跡

遺構（第16図　写真図版12）

〈位置〉①北Ⅱ区南側　②3 A14s～18sグリッド付近　〈重複関係〉無　南西コーナー部分は西側の調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分方形　〈規模〉5.4×（5.0）m　〈床面積〉27㎡　〈主軸方向〉N－26°－E

〈埋土〉締まりやや有る黒褐色土～暗褐色土の3層に区分、黄褐色土ブロックの混じる層状堆積である。

〈壁高残存値〉北壁23cm　東壁50cm　南壁40cm 西壁（15）cm

〈床面〉①硬く締まるが砂質傾向である。②床面にPit 1～9有り。西壁沿いにカマド袖？、南側に焼土部分、南東コーナーに土師器片有り。③南側床面焼土部分については、2カ所について記録する。

〈土坑〉① Pit 1 － 平面円形　長径50×短径50cm　深さ10cm　埋土暗褐色土主体炭粒と焼土混

② Pit 2 － 平面楕円形　長径50×短径35cm　深さ10cm　埋土灰黄褐色土主体

③ Pit 3 － 平面隅丸方形　長径170×90cm　深さ7cm　にぶい黄褐色土主体　深くなる状況でRA 393の貼床下Pit（Pit 3～5）に似る。

④ Pit 4 － 平面方形　長径28×短径20cm　深さ8cm　主柱穴？　抜き取り痕を含め方形？

⑤ Pit 5 － 平面円形　径20cm　深さ16cm　主柱穴？

⑥ Pit 6 － 平面楕円形　長径32×短径30cm　深さ17cm　主柱穴？

⑦ Pit 7 － 平面楕円形　長径30×短径20cm　深さ21cm

⑧ Pit 8 … 平面方形　長径38×短径30cm　深さ20cm　主柱穴？　抜き取り痕を含め方形？

⑨ Pit 9 … 平面円形　長径26×短径16cm　深さ16cm　主柱穴？

〈貼床〉①全体に有り、締まりのある褐色土が主体である。

〈カマド〉①位置　一部推定西壁部分　②作り方　不明

③袖　残りと推定される部分を平面図に記録（断面F－F'）、6層の締まりの有るにぶい黄褐色土が構成土主体か。

④燃焼部　③の南側に径50cmにぶい赤褐色焼土部分（断面F－F'）、焼成は中である。

⑤煙道・煙出　調査区外にあり不明

出土遺物（第58・59図　写真図版55）

〈土師器〉①登録数8点、うち7点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕4点と坏3点である。出土場所は床面、Pit 3埋土中と貼床下土坑構築土である。甕はAIT に属するものがみられ、RA549－5のように胎土は粗、作りも粗い。坏はAIに属し、平底と平底に近い丸底が認められる。（一部推定）RA549－1・2は内外面に段が認められる。やはりヘラミガキは明瞭である。

〈その他〉埋土上層から陶磁器、埋土中層から器種不明の鉄製品が出土した。両者は写真のみの掲載とした。また埋土中からRA549－8縄文土器1片が出土、図化・掲載した。

時期　出土遺物の特徴より奈良時代（8世紀中葉～後半）に属する。付近に非ロクロの土師器を多く出土するRD1060が有り、両者の関係についても注目したい。

RA550竪穴住居跡

遺構（第17図　写真図版13）

〈位置〉①北I区　②-2-A7n～9n グリッド付近

〈重複関係〉有　RD1055・北I区柱穴状土坑より古い。南西コーナー付近が攪乱にきられる。

〈平面形〉方形　〈規模〉3.9×3.6m　〈床面積〉14㎡　〈主軸方向〉N－40°－W

〈埋土〉粘性と締まりのやや有る黒褐色土が主体、全体に褐色土粒～ブロックが混じる。東西壁際にくっつくように暗褐色土部分がわずかに認められる。

〈壁高残存値〉北壁27cm　東壁15cm　南壁10cm　西壁17cm

〈床面〉①中央部と北東コーナー付近に土器片が散乱する。また南東コーナー寄南壁際に2.5YR7/6明黄褐色粘土、北東コーナーと北西コーナーにPit が有る。

〈土坑〉① Pit 1－ 平面円形　径20cm　深さ35cm

② Pit 2 － 平面楕円形　長径20×短径18cm　深さ14cm

③ Pit 3 － 平面円形　長径40×短径30cm　深さ15cm　袖を作る前に掘り込んだ Pit か。

④①②とも主柱穴の位置だが他の主柱穴について南東方向に確認は出来ない。

〈貼床〉①全体に均一に有り、構築土はにぶい黄褐色土主体、一部赤褐色焼土が混じる。

〈カマド〉①位置　北壁の概ね中央、北壁にほぼ直交する。煙道方向はN－40°－W、作り方は掘込式ある。

②袖　東側のみ残る。構成土主体は締まりの有るにぶい黄褐色土、内側の一部は被熱により赤変する。

④燃焼部　東袖南側の平面円形の暗赤褐色焼土部分で、焼成は中である。

⑤煙道・煙出　燃焼部中心よりいったん下降し後はまっすぐに北西に延びる。埋土は締まり有る黒

色土～黒褐色土が主体、焼土はみられない。

出土遺物（第59・60図　写真図版56）

〈土師器〉①不掲載遺物の分析による全体傾向は、非ロクロの甕と坏の出土である。不掲載遺物に関しては甕の口縁部～体部が主である。

②登録数11点、そのうち9点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕・小型甕・鉢？と坏、出土場所は床面と埋土中である。

③甕についてはAITはRA550－6の1点のみ、他は小型甕、鉢？、器種不明である。RA550－9・10とも鉢か、口縁部内湾し器高は低い。坏はAIに属する。RA550－9・10は平底と丸底の中間の器形である。甕も坏も形式的に、中間型が集まっている。

〈その他〉①土製品：Pit1埋土より、RA550－8土玉が出土、図化・掲載した。

時期　出土遺物の特徴とカマドの位置より奈良時代（8世紀後半）に属する。ロクロ成形土器に影響されたような遺物がみられることが特徴であろうか。

RA551竪穴住居跡

遺構（第18・19図　写真図版14）

〈位置〉北I区の南、調査区境に近い　②-2-A13s～16s グリッド付近

〈重複関係〉有　RG452・北I区柱穴状土坑より古い　〈平面形〉隅丸方形　〈規模〉3.5×3.7m

〈床面積〉13㎡　〈主軸方向〉N－25°－W　〈埋土〉粘性・締まりのやや有る黒褐色土の単層、炭化物粒や褐色土が混じる。　〈壁高残存値〉北壁11cm　東壁10cm　南壁10cm　西壁8cm

〈床面〉住居床面は平坦、カマド袖南側、東壁沿いと北側にPitが有る。床面にRZ031（2）に属する柱穴状土坑が多くみられる。

〈土坑〉①Pit1－平面円形　径25cm　深さ12cm　位置的にみてカマドに関係した土坑か

②Pit2－平面円形　径44cm　深さ12cm　位置的にみてカマドに関係した土坑か

③Pit3－平面円形　径20cm　深さ29cm　位置的にみてカマドに関係した土坑か

④Pit4－平面円形　径20cm　深さ7cm

⑤Pit5－平面方形　長径110×短径65cm　深さ20cm　貼床のやや厚い部分か

〈貼床〉粗密はあるが、粘性締まりやや有る黒褐色土が構築土主体、住居跡全体に施される。

〈カマド〉①位置　西壁中央南寄り、煙道方向S－74°－Wである。

②作り方　検出においては掘込式と判断されるが、住居埋土の様子から煙道地山部分が削平された刳貫式の可能性もある。

③袖　締まりのやや有る黒褐色土主体でにぶい黄褐色土混じる。南側袖断面のように（断面F－F'）わずかであるが芯材に礫を使用している。

④燃焼部　袖間の径40cm層厚5cm、暗赤褐色焼土部分が中心部で焼成は良。

⑤煙道・煙出　燃焼部中心より多少上下し、長さ1.4mの先端に向けて約10度で下降する。先端部分は柱穴状土坑との重複のため全容は不明。埋土は暗褐色土主体、カマド燃焼部埋土部分にのみにぶい赤褐色焼土が有る。

出土遺物（第60図・写真図版56）

〈土師器〉①不掲載遺物の分析より、非ロクロの甕体部、ロクロ坏（内黒）とあかやき坏の口縁部～体部破

片がみられる。

②登録数は5点、うち4点について図化・掲載した。器種はロクロ使用の小型甕、非ロクロの鍋とロクロ使用の坏、出土場所はカマドと貼床構築土である。

③相対的に数は少ないが甕が減り坏の割合が多くなっている。RA551－3は小型甕でカマドの支脚（断面E－E'）として使用されていた様子である。RA551－1はロクロ使用内黒の坏である。

時期　カマドの向き及び出土遺物の形態より平安時代（9世紀後半）に属する。

RA552竪穴住居跡

遺構（第19図　写真図版15）

〈位置〉①北Ⅰ区北東　②-2-A5v～7v グリッド付近

〈重複関係〉有　東壁の一部に攪乱有り。またRA552はRA553より新しく、柱穴状土坑より古い。

〈平面形〉方形　〈規模〉2.8×2.5m

〈床面積〉7㎡　〈主軸方向〉N－63°－W

〈埋土〉①黒褐色土～暗褐色土主体、褐色土粒・炭化物・焼土粒混じる。

②南壁際1・2層は水酸化鉄含む攪乱の土混じる。

〈壁高残存値〉北壁20cm　東壁15cm　南壁30cm　西壁13cm

〈床面〉締まりが有り平坦である。南東コーナー付近にPit 1有り。

〈土坑〉Pit 1　平面円形　長径86×短径80cm　深さ22cm　埋土暗褐色砂質土主体　用途不明

〈カマド〉①位置　西壁概ね中央に埋土に焼土を含む煙出プランを検出し精査を行ったが、袖部分の確認ができなかった。煙道方向はN－63°－Wである。

②作り方　掘込式であるが、地山が削平されていることも考えられる。15層部分を地山とするなら刳貫式の可能性も有り。11層は天井部焼成部分、13層と14層は焼土を含む煙道埋土である。

③袖　無

④燃焼部　中心は楕円形、径40cm厚10cmの赤褐色焼土部分で焼成は良好である。

⑤煙道・煙出　長さ約70cmにまっすぐに掘り込まれ、埋土下層に炭化物と焼土が混じる。

出土遺物

〈土師器〉不掲載遺物の傾聞より非ロクロ・甕・口縁部～体部破片、ロクロ・あかやき土器体部破片が出土している。数的に少なく破片も小さかったので、不掲載とした。

時期　RA553より新しい。

RA553竪穴住居跡

遺構（第20・21図　写真図版16）

〈位置〉①北Ⅰ区北東　②-2-A2v～6v グリッド付近

〈重複関係〉有　RA552、RE055、柱穴状土坑より古い。

〈平面形〉ほぼ方形　〈規模〉推定（6.8×6.5）m

〈床面積〉12㎡　〈主軸方向〉N－30°－W

〈埋土〉5～8層は褐色土ブロック混じる黒褐色土～にぶい黄褐色土主体、自然堆積の様相を呈する。他層には攪乱の土が混じる。

〈壁高残存値〉北壁23cm　東壁26cm　西壁38cm　東壁の大部分と南壁については攪乱とRA552との重複のため大部分が不明である。

〈床面〉硬く締まりがあるが攪乱の土（N3/暗灰土）混入のため汚れた様子である。　〈貼床〉無

〈カマド〉①位置　北壁中央部分、煙道方向はN－32°－Wである。

②作り方　掘込式、1層黒色土（断面D　D'）は天井崩落土、2層暗褐色砂質土は焼土は含まないが煙道埋土である。

③袖　検出しない。RE055に破壊されている。

④燃焼部　RE055床面に長径50×短径40cm層厚5cmの不整形赤褐色焼土部分が焼成良好の状態で残る。この部分が中心とみられる。

⑤煙道・煙出　北壁より1m延び、底面は緩やかに上昇する。

〈その他〉重複部分が多く、攪乱の影響で全体プランが不明瞭だが、一辺が6m規模の竪穴住居跡であろう。

出土遺物（第61図　写真図版57）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、遺物は非ロクロ・甕の体部～底部が主であり、ロクロ使用の坏（内黒）の体部、あかやき土器の口縁部～体部、須恵器・甕の体部がみられる。

②登録数6点、うち3点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕、出土場所は埋土下層と床面である。

③甕は3点あり。RA553－1についてはユビナデ、ハケメ、ヘラナデ等の調整技法が用いられている。RA553－2に関しては、底部にかすかではあるが刷痕が認められる。乾かす時点でついたものであろうか。

時期　煙道の向きと一部遺物より、奈良時代の住居跡（8世紀代）と推定される。一部遺物にはロクロ使用のものも含まれることも記しておく。

RA554竪穴住居跡

遺構（第21・22図　写真図版17）

〈位置〉①北Ⅰ区北西　②-2-A5*l*～8*l*グリッド　〈重複関係〉有　RA555より古い。

〈検出状況〉①壁高残存値南壁24cm東壁26cm、南東コーナー検出により竪穴住居跡として登録した。

②規模（4.5×3.6）m　③RA555より浅く、埋土下層はにぶい黄褐色土である。

④床面は平坦で砂質、床面ほぼ中央にPit1有り。平面楕円形　長径1.8×短径1.5m　深さ10cm

出土遺物（第61図　写真図版57）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕の体部36片、非ロクロ坏（内黒）破片が出土している。

②登録数は5点、うち2点の非ロクロ・甕RA554－1・2について図化・掲載した。出土場所は埋土中層である。調整はハケメとヘラナデ、小片であるので全容は不明であるが、AIに属するとみられる。

時期　出土遺物の傾向とRA555との関係より奈良時代に属すると推定される。

RA５５５竪穴住居跡

遺構（第21・22図　写真図版17）

〈位置〉①北Ⅰ区北西　②-2-A5*l*～8*l* グリッド付近　　〈重複関係〉有　RA554より新しい。

〈平面形〉方形　　〈規模〉4.55×４m

〈床面積〉18.2㎡　　〈主軸方向〉N－55°－W

〈埋土〉①12層に区分したが、黒色土～灰黄褐色土～にぶい黄褐色土～暗褐色土が主体である。５・６層の自然堆積の後、層状に堆積した可能性有り。

〈壁高残存値〉北壁33cm　東壁47cm　南壁47cm　西壁重複のため不明

〈床面〉概ね平坦、砂質傾向、北東コーナー付近中層～下層に土師器・甕片が散乱する。

〈土坑〉Pit１－平面不正形　長径120×短径50cm　深さ５cm　埋土やや締まり有る黒色土主体
貼床の厚い部分か？

〈貼床〉全体に有り。構築土は黒褐色土主体、一部厚くなる。

〈カマド〉①位置　西壁南寄り、煙道方向はN－58°－Wである。

②作り方　重複のため一部不明瞭だが、断面Ｂ－Ｂ'より地山部分が確認できることから例貫式とみられる。

③袖　やや締まりの有る褐色土と黒褐色土が主体、内側は被熱のため赤変している。

④燃焼部　袖間の円形部分に径33cm層厚約10cmの赤褐色焼土が認められる。焼成は中である。

⑤煙道・煙出　燃焼部中心より北西方向へ緩やかに上昇しながら延びる。埋土は黒褐色土～灰黄褐色土主体でにぶい赤褐色焼土が混じる。

⑥カマド燃焼部中心と南袖下に支脚抜き取り痕有り。径10cm深さ15cmで１カ所確認した。埋土は黒褐色中に焼土と黒色土が混じる。

出土遺物（第61・62図　写真図版57・58）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕が主であり、非ロクロ・坏（内黒）口縁部～体部、ロクロ使用あかやき土器体部と須恵器・甕口縁破片が出土している。

②登録数13、うち８点について図化・掲載した。出土場所は埋土中層～下層、北東コーナー部分貼床埋土であり、器種は甕、小型甕と小型手づくね土器である。

③RA555掲載遺物については非ロクロ・甕が中心であり、北東コーナーからまとまって出土したものである。RA555－１・２・３はAITに属しハケメ・ヘラナデ・ヨコナデの調整が明瞭である。また、RA555－５・７は小型甕、RA555－８は小型手捏ね土器でつくりも粗い。この住居跡の土師器は、胎土に砂が多く混じる傾向にある。

〈その他〉①石器：３点を登録、RA555－９は削掻器、埋土下層より出土している。１点のみ図化・掲載した。

時期　カマドの向きと出土遺物の傾向より奈良時代（８世紀前半～中葉）に属する。

RA５５６竪穴住居跡

遺構（第23・24図　写真図版18）

〈位置〉①北東区東側　②-3A24t～-2A2t 付近　　〈重複関係〉無　　〈平面形〉方形

〈規模〉4.9×4.8m　　〈床面積〉23.5㎡　　〈主軸方向〉N－43°－E

〈埋土〉①黒褐色土～にぶい黄褐色土～褐色土主体の５層に区分した。

②４層のみ自然堆積、他は層状堆積である。

〈壁高残存値〉北東壁15cm　南西壁22cm　北西壁21cm　東壁の一部分が調査区外へ延びる。

〈床面〉①硬く締まる。北東に向けやや低くなる。

②Pit２周辺に炭片と暗赤褐色焼土とにぶい赤褐色焼土分布する。貼床の広がる部分か。

〈土坑〉①Pit１－平面形　長径130×短径120cm　深さ34cm　埋土黒褐色土～暗褐色土主体　自然堆積

３層に土師器片多数混入　用途不明

②Pit２－平面楕円形　長径90×短径65cm　深さ35cm　埋土黒色土主体で黄褐色土と上層に暗赤褐色焼土とにぶい赤褐色焼土混じる　主に層状堆積　位置的にみてカマドに係わるPit か

③Pit３－平面楕円形（推定　一部調査区外へ延びる）　径50cm　深さ10cm　埋土上層下層とも明赤褐色焼土と赤褐色焼土混じる　用途と全容不明

〈貼床〉黒褐色土主体で全体にみられ、一部厚くなる。

〈カマド〉①位置　西壁中央部、煙道方向はN－50°－Wである。②作り方は掘込式である。

③袖　芯材に石を使用、その周囲を土で固めた。S－１とS－２を、地山を掘り込んで10層黒褐色土を置いた上に損え、４・５・６層で固める。その際S－１の安定を考え、小礫で支える。S－７は天井石に使用されたものか。（断面D　D'）

④燃焼部　袖間中央部やや東側袖寄りにあり、径20cm層厚10cm、焼成は中である。

〈煙道・煙出〉長さ1.2m、平坦又はやや上昇するように掘り込まれ、主な埋土は粘性も締まりも無い褐色土である。須恵器・甕（RA556－33）の下にある支脚の後ろには赤褐色焼土がみられるが他には無い。第44次の他の住居跡に比して煙道は短い。最初から短いのか、または削平等で不明瞭になったものであろうか。

出土遺物（第63～68図　写真図版59～62）

〈土師器・須恵器〉①不掲載遺物の整理より、出土場所は埋土、検出面、Pit 中が大部分で床面には遺物はほとんど無い。土師器は非ロクロ・甕・体部、ロクロ・坏・内黒とあかやき土器の体部が主で、甕と坏の割合はほぼ半々。また須恵器は、甕・体部と坏・口縁部～体部～底部がみられる。

②登録数は土師器25点、うち20点について図化・掲載した。出土場所は検出面と埋土である。須恵器は17点について図化・掲載、出土場所は埋土、床面、カマド部分である。

③土師器：甕２点坏17点で坏が多い。RA556－１・２・３・４・５・７・８・９は内面にミガキ、底部には回転糸切痕が認められる内黒坏、RA556－10・11・12・13・14はあかやき土器、他に高台付坏・台部分１点が出土した。

須恵器：RA556－33の甕の他に床面からもRA556－32が出土した。坏はおもに埋土中から出土、回転糸切痕が明瞭な残りの良いものもみられる。（詳しくはまとめにあり。）

〈その他〉①石器：RA556－38の安山岩はカマド須恵器下の支脚であるが、砥石として使用された形跡がある。

②土製品：ベルト中よりRA556－37羽口（30%残）が出土、図化・掲載した。

時期　あかやき土器の割合と須恵器の出土及び形態により平安時代（９世紀中葉～後半）と推定される。

RA557・558竪穴住居跡

遺構（第25図　写真図版19）

〈位置〉①北東区北側　②－3A24s～24v付近　北側と東側を宅地フェンスに囲まれる。

〈重複関係〉有　新旧関係は　RG455（新）→RA557・558（旧）、RA557とRA558の新旧関係は不明、RD1073（新）－RA557（旧）である。

〈平面形・壁高残存値〉①RA557　　平面方形　（3.6×2.0）m　南壁18cm　西壁18cm

②RA558　平面不整形　（2.7×0.5）m　南壁6cm

③検出は黄褐色土面に黒褐色上の広がりと断面B－B'、Pit 1断面の焼土及び検出面の土師器片出土による。

〈埋土〉RA557は黒褐色土～にぶい黄褐色土～暗褐色土主体、4層は他と比べやや締まり有るが床面は締まり無し。RA558は黒褐色土～暗褐色上、床面褐色土で締まりが無くかなり砂質である。

〈カマド〉無　Pit 1埋土はにぶい黄褐色上主体で、赤褐色焼土が混じる。RA556のPit 3に似る。

〈その他〉RA557は埋土とPitの状況により住居跡の可能性があるが、RA558は疑わしい。ただし北東区の遺構密度からすると住居跡の可能性はある。

出土遺物（第69図　写真図版63）

①RA557－不掲載遺物を整理すると、埋土下層より土師器は非ロクロ・甕・体部1片、ロクロ・坏（内黒）・体部と口縁各1片、須恵器は甕・口縁～体部1片が出土している。登録は、土師器ロクロ・甕・口縁部～体部1点であるが、小片のため全容は不明である。須恵器はRA557－2坏・体部～底部を図化・掲載した。

②RA558－遺物は無い。

時期　少量の遺物と北東区の他の住居跡との関係から平安時代の住居跡と推定される。

RA559竪穴住居跡

遺構（第25図　写真図版20）

〈位置〉①北東区南西　② 2A3q～5qグリッド付近

〈重複関係〉有　撹乱と重複のため北東コーナーと南西コーナーのプラン不明、RD1071より古い。

〈平面形〉方形　〈規模〉2.9×2.8m　〈床面積〉8.1㎡　〈主軸方向〉N－15°－E

〈埋土〉黒褐色土～褐色土主体の5層に区分、大部分は黒褐色土である。

〈壁高残存値〉北壁15cm　東壁13cm　南壁15cm　西壁11cm　わずかではあるが壁の立ち上がりが確認でき、住居跡とする。

〈床面〉締まりが有る。西側の一部で小礫混じる。　〈貼床〉無

〈土坑〉① Pit 1 － 平面円形　径24cm　深さ15cm　埋土黒色土主体　用途不明

② Pit 2 － 平面円形　径30cm　深さ10cm　埋土黒色土主体　用途不明

出土遺物（第69図　写真図版63）

①不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・体部11片、ロクロの坏（内黒）4片出土。立体にはならなかったが、須恵器・甕・口縁部の一部を図化・掲載した。

時期　周囲の住居跡と同じ平安時代に属するとみられる。

RA560竪穴住居跡

遺構（第26図　写真図版21）

〈位置〉①北東区　② 2A3o～6o グリッド付近　撹乱のため南東コーナープラン不明　〈重複関係〉無

〈平面形〉方形（一部推定）　〈規模〉4.2×（2.4）m

〈床面積〉(10) ㎡　〈主軸方向〉N－5°－E

〈埋土〉黒色土～黒褐色土～暗褐色土主体、上層に土師器片、北壁と東壁際に一部炭片混じる。

〈壁高残存値〉北壁28cm　東壁12cm　南壁13cm　西壁調査区外へ延び、南壁部分緩傾斜をなす。

〈床面〉硬く締まるが小礫散乱　〈土坑〉無　〈貼床〉無

〈カマド〉一部推定　①位置　南壁の中央部分　煙道方向南北

②作り方　掘込式であるが上部削平の可能性が大きい。

③袖　位置と作り方は不明、南壁緩傾斜部分の少し高い部分を袖と考え平面図には残した。精査を行ったが袖構成土・芯材・埋土部分焼土等も認められない。

④燃焼部　緩傾斜の先に不整形の焼土が認められるが、焼成が弱く燃焼部中心とは断言できない。

〈煙道・煙出〉①南東壁より0.8m南へ延びる。

②埋土は黒褐色土～暗褐色土主体、1層北側にのみ赤褐色焼土有り。

③燃焼部　約3°緩やかに上昇するように南に向けて掘り込まれている。

出土遺物（第69図　写真図版63）

〈土師器・須恵器〉①不掲載遺物の整理より、出土位置は埋土上層が中心で床面は無い。甕は非ロクロ・口縁部～体部中心、坏は非ロクロとロクロが混在、非ロクロでは内黒坏が、ロクロではあかやき土器が目立つ。

②土師器は7点を登録、うち甕2点と坏2点について図化・掲載した。RA560－1・4の甕は非ロクロ、ヘラナデ中心の調整、RA560－2・3の坏はロクロを使用している。

③須恵器は1点を登録、図化・掲載した。RA560－5はロクロ使用、底部糸切り痕が明瞭な坏である。

〈鉄製品〉①RA560－6が埋土中より出土、器種は不明、写真のみの掲載とした。

時期　カマドの向きと僅かの出土遺物の傾向より平安時代（9世紀後半以降）に属する。

RA561竪穴住居跡

遺構（第27図　写真図版22）

〈位置〉①北東区南　②-2A4s～4u グリッド付近、遺構の大部分が調査区外へ延びる。　〈重複関係〉無

〈平面形〉隅丸方形　〈主軸方向〉N－15°－E　〈規模〉(2.7×0.8) m　〈床面積〉(21.6) ㎡

〈埋土〉黒褐色土主体　径1cm～拳大の礫多数混じる。北西コーナー1層中位より土師器・甕が出土した。

〈その他〉最初は土坑として精査、後に北東壁の広がりで住居跡として登録した。

出土遺物（第69図　写真図版63）

〈土師器〉①RA561－1は北西コーナー埋土中層から出土、ハケメ調整が明瞭な非ロクロの甕1点である。

②住居跡全体の様相が不明であることから分類をAIT3としたが、北東区の他の住居跡との関係からIBとしてもよいかとも考えられる。

時期　住居跡の全容が不明のため断定できないが、北東区の他の遺構と同じ、平安時代に属する。

RA562竪穴住居跡

遺構（第27図　写真図版23）

〈位置〉①西区南東側　②1-C6w ～8w グリッド付近　　〈重複関係〉無

〈平面形〉隅丸方形　　〈規模〉3.3×3.3m　　〈床面積〉10.8㎡　〈主軸方向〉N－41°－W

〈埋土〉黒褐色土～灰黄褐色土主体の４層に区分、一部に撹乱の土と水酸化鉄混じる。

〈壁高残存値〉北壁10㎝　東壁12㎝　南壁８㎝　西壁11㎝

〈床面〉締まりはあるが砂質、北コーナー付近に土師器片散乱する。　〈土坑〉無　　〈貼床〉無

〈カマド〉①位置　北壁中央部、煙道方向はN－50°－Wである。

②作り方は掘込式である。ただし削平が多いこと、煙道埋土の様子、煙出部分に向け下降する煙道の角度から刳貫式の可能性もあることを記しておく。

③袖　構成土は締まりの有るにぶい黄褐色土主体である。

④燃焼部　中心は袖間の径40㎝層厚８㎝の焼土部分、平面は円形である。

⑤煙道・煙出　燃焼部中心から北西方向に長さ1.8m、約10°に緩やかに下降しながら先端まで掘り込まれている。埋土は黒色土～黒褐色土主体、５・６層において中央過ぎまで焼土が混じる。２層は褐色土主体、天井部分の崩落土であろう。

出土遺物（第70・71図　写真図版64）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、床面より非ロクロ・甕口縁１片、体部12片出土している。

②登録数７点、うち６点について図化・掲載した。非ロクロの甕４点、非ロクロの坏２点、いずれも北コーナー付近の床面からの出土である。甕はAIに属しハケメとヘラナデの調整が明瞭である。RA562－３・４は胎土のためか全体が赤い傾向に有る。坏は非ロクロ、AIに属し、RA562－１・２は段が認められる。

時期　カマドの向きと出土遺物の傾向より奈良時代（８世紀中葉～後半）に属する。

RA563竪穴住居跡

遺構（第28図　写真図版24）

〈位置〉①西区北側　②1-C4u ～4v グリッド付近　　〈重複関係〉①有　②RA564より新しい。

〈平面形〉菱形に近い方形　　〈規模〉2.4×2.2m

〈床面積〉5.3㎡　　〈主軸方向〉N－11°－W

〈埋土〉①黒褐色土主体、炭化物と褐色土混じる。②残存状況が悪く検出面から床面までは８～10㎝である。

〈カマド〉①位置　北壁やや西より、煙道方向はN－18°－Wである。

②作り方　検出時点で煙道が明確であるので掘り込み式、ただし上部削平のため全容は不明である。

③袖　無

④煙道　煙出　北壁より長さ1.56m北西方向へ延びる。約４°緩やかに下降しながら掘り込まれている。埋土は黒褐色土～黒色土主体、北端部分にわずかに焼土が混じる。

出土遺物（第71～73図　写真図版65）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕体部、非ロクロ・内黒の坏体部、ロクロのあかやき土器体部が床面とカマド付近から出土している。

②登録数は11点、うち６点について図化・掲載した。器種は甕・高台付坏・坏・鉢？である。

③甕についてはRA563－５の１点で胎土に砂を多く含む非ロクロである。坏は３点、RA563－４の高台付坏と併せてロクロ使用が明瞭で口径が広い傾向にある。RA563－６は器種不明である。

〈その他〉①石器：砥石として使用されたRA563－９・10について図化・掲載した。

時期　平安時代の住居跡　あかやき土器の出土がみられ、坏・口径が広くなる傾向より９世紀後半に属する。

RA５６４竪穴住居跡

遺構（第29図　写真図版25）

〈位置〉①西区北　②1-C4u～4v グリッド付近　　〈重複関係〉有　RA563より古く、RG465より新しい。

〈平面形〉菱形に近い方形　重複のため南西コーナーと南壁一部プラン不明

〈規模〉2.8×（2.5）m　　〈床面積〉（７㎡）　　〈主軸方向〉N－40°－E

〈埋土〉①締まりのある黒褐色土～黒色土～暗褐色土主体、東側に焼土を含む層（６層）有り。

②埋土自体の締まりは全体として良くない。

〈床面〉締まりやや有り。全体に平坦で砂質傾向にある。

〈土坑〉無　　〈貼床〉無

〈カマド〉①位置　北東壁やや北寄り、煙道方向はN－45°－Eである。

②作り方　検出時点で煙道が明確であるため掘込式とした。ただし、RA563同様上部削平のため全容は不明である。

③袖　無　　④燃焼部　検出しない

⑤煙道・煙出　北東壁より1.2m北に延びる。最初0.7mは一旦掘り込まれ平坦に戻る。0.8m付近から10°傾きながらゆるやかに下降する。埋土は黒色土主体、１・２層に焼土が混じる。

出土遺物（第74・75図 写真図版66）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕・体部、非ロクロ・坏（内黒）、僅かにロクロ・あかやき土器・口縁部～体部破片が出土している。出土地点は埋土中と煙道である。

②12点について登録、うち６点について図化・掲載した。ロクロ使用の甕と坏３点である。出土位置は煙道埋土と床面である。

③甕についてはRA564－４はロクロ使用、RA564－５・６とも残り少ない。坏についてはRA564－１・２・３ともロクロ使用の内黒である。RA564－１については、体部下半から底部にかけてヘラケズリ調整が認められる。

〈その他〉①RA564　７・８は検出面と埋土から出土した縄文土器片である。またRA564－９は埋土から出土した削掻器、いずれも図化・掲載した。またRA564－10刀子は、写真のみの掲載である。

時期　平安時代に属する。重複の状況と出土遺物の傾向よりRA563よりも僅かに古い時期の住居跡である。

2　掘立柱建物跡

RB０４４掘立柱建物跡

遺構（第30図　写真図版26）

〈位置・重複関係〉①西区西側　1-C7n ～7t グリッド北側に位置する。旧河道とみられる部分にある。
②重複　無

〈規模・方向〉桁行３間（7.5m）梁行３間（６m）で、一部欠けるものの北側と南側の２面に、縁か庇、東側に入り口とみられる柱穴配置がある。棟方向は東西にあてはまる。

〈身舎・庇〉①身舎の桁行柱間寸法は、断面Ｂ－Ｂ'で2.2m＋2.3m＋3.0m　Ｅ－Ｅ'で2.2m＋2.0m＋3.2mを測る。梁行柱間寸法は、断面Ｇ－Ｇ'で2.0m＋2.0m＋2.0m　Ｈ－Ｈ'で2.2m＋1.9m＋2.1mを測る。
②庇の２面については、断面Ａ－Ａ'で2.2m＋2.2m－3.05m　Ｆ－Ｆ'で2.1m＋3.35mを測る。
③入り口部分１間は Ｊ－Ｊ' 6.0m'である。柱間寸法については2.0～2.3mが意識されている。

〈掘り方〉①掘り方の規模は径30～34cm、深さ20～60cmを測る。平面形は円形を基調にしている。
②柱痕は確認されていない。

出土遺物　時期　①遺物の出土は無い。②時期については不明であるが、旧河道上での検出であり、付近の住居跡よりは新しい時代の掘立柱建物跡とみられる。

RB０４５掘立柱建物跡

遺構（第31図　写真図版３・26）

〈位置　重複関係〉①東区中央、3F16t ～16w 北側に位置する。②RG454・458と重複する。そのいずれよりも古い。皿層黒褐色土下面、暗褐色土とより濃いめの黒褐色土の存在で検出した。

〈規模　方向〉①２間×２間の方形、主軸方向はＮ－16°－Ｗである。②東西方向　断面Ａ－Ａ'2.6m＋2.5m　断面Ｃ－Ｃ'2.5m＋2.8m　南北方向　断面Ｄ－Ｄ'2.3m＋2.6m　断面Ｅ－Ｅ'2.6m＋2.4m

〈掘り方〉①掘り方の規模は径20～60cm、深さ20～72cmを測る。平面形は円形を基調にしている。
②柱痕は認められない。埋土はにぶい黄褐色土混の暗褐色土～黒褐色土が主体、締まりは弱い。

出土遺物　時期　①遺物の出土は無い。②時期については不明であるが、重複する溝より古いことから、RA549と同時期古代の倉庫と考えられる。

RB０４６掘立柱建物跡

遺構（第32図　写真図版27）

〈位置　重複関係〉①北Ｉ区中央部分、-2-A5u グリッドの西側に位置する。②RE055と重複する。この竪穴状遺構が馬屋となる曲屋と考えられる。
②北側の撹乱、RA553との重複のため、すべての柱穴を精査することはできなかった。

〈規模　方向〉①馬屋と作業場部分は桁行６間（10.9m）梁行３間（5.4m）である。北側には１間の間に柱がみられる。また一部南側に入り口部分と庇に係わる柱穴配置がみられる。棟方向は東西方向に対して５°北に寄る。②①に対して、直角に３間×２間の身舎が交わる。棟方向はＮ－６°－Ｅである。西側の一部に縁・庇に係わる柱配置がみられる。

〈身舎　庇〉①馬屋部分の桁行寸法は、断面Ｂ－Ｂ'で１m＋２m＋3.8m＋２m＋２m、梁行寸法は断面Ｇ－

G'1.5m＋2m＋1.8m、南側に張り出した庇部分は断面I－I'2m＋2.2m，柱の中心から中心まで1mが意識されている様子である。

②身舎部分の桁行寸法は、断面F－F'で2m＋1.4m＋2m、梁行寸法は2m＋（1.8）m、西側庇部分は2m＋2m＋2m＋1m、南に折れて1m＋1.8mである。

〈掘り方〉①掘り方の規模は、径40～50cm深さ20～58cmを測る。平面形は円形を基調にする。

②柱痕は断面A－A'のように一部に認められる。柱痕座標は、締まりの無い黒色土主体、掘り方は黄褐色土の混じる黒褐色土である。

出土遺物　時期　①遺物の出土は無い。②時期は近世以降か。

RB047掘立柱建物跡

遺構（第33図　写真図版27）

〈位置　重複関係〉①北I区南側部分　2-A15n～15v グリッド付近に位置する。RA551・RG454と重複しそのいずれよりも新しい。

②攪乱と重複のため柱穴全てについて調査することはできなかった。

〈規模　方向〉①棟方向は東西、東西に細長い建物であろう。桁行7間（約15m）梁行3間（約5m）。

〈身舎〉①桁行寸法は、断面A－A'5m＋2m＋1m＋1.5m＋1m＋2.5m＋2.5mである。プランが曲がっているため、桁行と桁行寸法の間に差が生じている。梁行寸法は断面H－H'2m＋2m＋1m（－部推定）である。柱の間が1mを意識している点がRB046と類似している。

〈掘り方・埋土〉①掘り方の規模は、径36～80cm深さ16～52cmを測る。平面形は円形を基調にしている。

②柱痕については確定できないが、柱穴中層～下層に角礫が入るものがみられる。

出土遺物　時期　①遺物の出土は無い。②時期は近世以降か。柱間の間隔に対する感覚の類似が読みとれる。柱穴中に角礫が入ることが特徴か。

RB048掘立柱建物跡

遺構（第34図　写真図版27）

〈位置　重複関係〉①北I区南側部分　-2-A12v グリッド西側に位置する。②直接にはRB047と重複しそれより古い。（柱穴の重複より判断する）

〈規模　方向〉①棟方向は南北である。南北に細長い建物で、RB047と90°に交わる。

②桁行5間（約8.8m）　梁行3間（約7m）

〈身舎〉①桁行寸法は、断面A－A'6m＋2m、B－B'0.6m＋1.2m＋3.3m＋2m＋（2）m、梁行寸法はC－C'で3m＋2m＋2m（一部推定）である。

〈掘り方・埋土〉①掘り方の規模は径40～60cm深さ30～50cmを測る。上部の削平のため実際はより深いものであろう。②柱痕については確定できないが、柱穴中層～下層に角礫が入るものがみられる。

出土遺物　時期　①遺物の出土は無い。②時期は不明。ただし、RB047より古いが、梁行と桁行寸法よりRB047より僅かに古いとみられる。

3　土坑

RD１０３９土坑

遺構（第35図　写真図版28）

（１）位置　東区3F13u グリッドの西　　（２）重複　有　Pit53より古い。

（３）①平面楕円形　②長軸方向　N－40°－W　③開口部長径1.9×短径1.4m　④深さ32cm
　　⑤断面皿状　⑥埋土　黒褐色土～褐色土主体黄褐色土と褐色土混

（４）①用途不明　RG456（方形周溝）の東側にあり。

出土遺物（第78図）

（１）不掲載遺物の整理より、検出面と埋土中から出土した非ロクロの甕と坏・体部破片が主体である。坏に関しては内外黒色処理が施されている破片がみられる。

（２）非ロクロ甕・口縁～体部破片２点を登録、うち１点を図化・掲載した。RD1039－１は小片であるがハケメとヨコナデが明瞭な甕・口縁部である。

時期　古代（奈良時代）に属する。

RD１０４０土坑

遺構（第35図　写真図版28）

（１）位置　東区3F14s グリッド南　　（２）重複　無

（３）①平面隅丸方形　②長軸方向N－62°－W　③開口部径1.2m　内側に長径1.1×短径0.9mのより深い部分有り　④深さ40cm　⑤断面不整形　⑥埋土黒褐色土～暗褐色土～にぶい黄褐色土主体、１・２層で焼骨とにぶい赤褐色焼土検出、上層から西側にかけて径10～15cmの礫散見、礫間にも焼骨有り。

（４）RG456（方形周溝）の内側に位置し、平面は隅丸方形、焼骨の出土より墓壙である。

出土遺物

（１）不掲載遺物の整理から検出面で非ロクロ・甕体部破片と坏（内黒・内外黒）・口縁～体部破片が出土している。

（２）登録数は１点、外面有段の坏・口縁～体部破片である。小片のため登録のみとした。

（３）出土した焼骨は火葬された30代男性の頭骨という鑑定の結果である。この頭骨は800°以上の高温で焼かれたことまで判明した。墓壙に埋葬された人骨であり、付近にもまだ墓壙のある可能性はある。

時期　古代（付近の遺構と同じ奈良時代）に属する。

RD１０４１土坑

遺構（第36図　写真図版28）

（１）位置　北Ｉ区　-2 A14s グリッドの東　　（２）重複　無

（３）①平面円形　②開口部径0.9m　③深さ　12cm　④断面　皿状　⑤埋土　褐灰土主体の単層

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０４２土坑

遺構（第36図　写真図版28）

（１）位置　北Ｉ区　-2-A11u グリッドの西　　（２）重複　有　RG449より新しい。

（3）①平面隅丸方形　②長軸方向　南北　③開口部長径1.2×短径0.9m　④深さ　14cm　⑤断面逆台形
⑥埋土1・2層灰赤色と暗赤褐色焼土層
（4）形状は隅丸方形であるが、下に溝が有る。穴を掘りその中でものを焼いた跡の可能性も有る。
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1043土坑
遺構（第36図　写真図版29）
（1）位置　北Ⅰ区　-2-A15q グリッドの東　　（2）重複　無
（3）①平面円形　②開口部径0.7m　③深さ46cm　④断面不整形　⑤埋土黒褐色土主体
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1044土坑
遺構（第36図）
（1）位置　北Ⅰ区　-2 A13v グリッドの北　　（2）重複　有　RG444より新しい。
（3）①平面楕円形　②長軸方向N－50°－E　③開口部長径0.9×短径0.75m　④深さ　不明
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1045土坑
遺構（第36図　写真図版29）
（1）位置　北Ⅰ区　-2-A12h グリッド　　（2）重複　無
（3）①平面円形　②開口部径1.1m　③深さ　18cm　④断面皿状　⑤埋土暗赤褐色焼土主体
（4）穴を掘り物を焼いた跡か
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1046土坑
遺構（第36図　写真図版29）
（1）位置　北Ⅰ区　-2 A15o グリッドの東　　（2）重複　無
（3）①平面円形　②開口部径1m　③深さ20cm　④断面皿状　⑤埋土黒褐色土主体2層目ほどブロック多
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1047土坑
遺構（第36図　写真図版29）
（1）位置　北Ⅰ区　-2-A12o グリッドの東　　（2）重複　有　RG448よりも古く、RG447よりも新しい。
（3）①平面円？（全容不明）②開口部径2.45m　③深さ20cm　④断面浅い皿状　⑤埋土黒色シルト主体
出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1048土坑
遺構（第37図　写真図版30）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A11j グリッドの南東　　（2）重複　無　　（3）①平面円　②開口部径0.8m
③深さ12cm　④断面皿状　⑤埋土　水酸化鉄と炭化物混じる黒褐色土主体

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1049土坑

遺構（第37図　写真図版30）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A13j グリッド付近　　（2）重複　無

（3）①平面円　②開口部径0.8m　③深さ10cm　④断面浅い皿状　⑤埋土炭化物混じる暗褐色土主体

（4）埋土中にごく微か炭化物混じる。（RD1045・1048・1050・1051も同じ）

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1050土坑

遺構（第37図　写真図版30）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A12k グリッド　　（2）重複　有　RG446より新しい。

（3）①平面円？（全容不明）②開口部径（1）m　③深さ10cm　④断面皿状
⑤埋土　酸化鉄と炭化物混じる暗褐色土主体

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1051土坑

遺構（第37図　写真図版30）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A12k グリッド　　（2）重複　有　RG446より新しい　（3）①平面円？（全容不明）②開口部径（0.5）m　③深さ10cm　④断面皿状　⑤埋土　酸化鉄と炭化物混じる暗褐色土主体

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD1052土坑

遺構（第37図　写真図版31）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A12l グリッドの西　　（2）重複　有　RG446より古い

（3）①平面円？（全容不明）②開口部径0.8m　③深さ12cm　④断面皿状　⑤埋土　暗褐色土主体

出土遺物（1）不掲載遺物の整理より、出土遺物は埋土中層からの非ロクロ・甕体部破片5点である。

（2）登録は1点、非ロクロ・甕体部破片1点、小片であるために、登録のみとした。

（3）近接するRD1050・1051からも出土遺物は無い。RD1052はRG446との重複があり、非ロクロ・甕体部破片も出土していることから、溝に関係した遺物ともみられる。

時期　出土遺物と付近の遺構との関係から古代に属する。

RD1053土坑

遺構（第37図　写真図版31）

（1）位置　北Ⅰ区　-2-A15f グリッドの北西　　（2）重複　無　　（3）①平面円　②開口部径1.1m

③深さ15cm　④断面皿状　⑤埋土は黒褐色土主体で炭化物混じる。

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０５４土坑

遺構（第37図　写真図版31）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A13g グリッドの北西　　（２）重複　無

（３）①平面楕円形　②長軸方向N－80°－W　③開口部長径1.1×短径0.8m　④深さ10cm

⑤断面皿状　⑥埋土は黒褐色土主体で炭化物混じる。

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０５５土坑

遺構（第37図　写真図版31）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A7p グリッドの西　　（２）重複　有　RA550より新しい。

（３）①平面方形　②長軸方向南北　③開口部長径1.3×短径0.75m　④深さ30cm　⑤断面逆台形

⑥埋土は暗褐色土～黒褐色土主体、全体に炭化と焼土混じる。底面付近に灰の層有り。

（４）穴を掘りその底面でものを焼いた跡か。

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０５６土坑

遺構（第37図　写真図版32）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A9r グリッドの西　　（２）重複　有　RG452より新しい。

（３）①平面方形（一部推定）　②長軸方向N－82°－E　③開口部長径２×1.5m

④深さ55cm　⑤断面逆台形　⑥埋土記無

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０５７土坑

遺構（第37図　写真図版32）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A10r グリッドの西　　（２）重複　有　RG446より新しい。

（３）①平面楕円形　②長軸方向東西　③開口部長径1.05×短径0.8m　④深さ20cm　⑤断面逆台形

⑥埋土黒褐色土主体の単層

出土遺物　不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕と坏の口縁破片と須恵器・甕体部破片出土。小片のため登録せず。

時期　不明

RD１０５８土坑

遺構（第38図　写真図版32）

（１）位置　北Ⅱ区　-3-A11v グリッドの北　　（２）重複　有　RD1060より新しい。

（３）①平面楕円形　②長軸方向　N－32°－W　③開口部長径0.9×短径0.7m　④深さ20cm

⑤断面形皿状　⑥埋土暗褐色土単層

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０５９土坑

遺構（第38図　写真図版32）

（１）位置　北Ⅱ区　-3-A12w グリッドの東　　（２）重複　有　RD1061・1072より新しい。

（３）①平面隅丸方形　②長軸方向N－55°－W　③開口部長径0.5×短径0.42m　④深さ32cm　⑤断面U字形　⑥埋土黒褐色土単層

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０６０土坑

遺構（第38図　写真図版32・33）

（１）位置　北Ⅱ区　-3-A11w グリッドの西　　（２）重複　有　RD1061より新しい。RD1068より古い。

（３）①平面楕円形　②長軸方向N－40°－W　③開口部長径2.3×1.2m　④深さ60cm　⑤断面形開いたU字　⑥埋土黒褐色土～暗褐色土主体の７層に区分　層状に堆積　上層～中層に焼土と土師器片混

（４）土坑であるが土師器片多量出土する。

出土遺物（第76・77図　写真図版67）

（１）不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕体部と坏（内黒）の口縁部～体部が主体である。

（２）登録数は19点、器種は甕10点、坏５点を図化・掲載した。３点が小型甕、他はAIの長胴甕が多く、RD1060－11・12のように口縁の開きの大きい甕もみられる。坏は５点、いずれも外面又は内外面に段があり黒色処理されている。RD1060－１は大型の坏であることが予想されるが全容は不明である。

（３）今次調査の土坑中、最も遺物量が多い。

時期　出土遺物の傾向より、奈良時代に属し、RA549と同時期の遺構とみられる。

RD１０６１土坑

遺構（第38図　写真図版33）

（１）位置　北Ⅱ区　-3-A12w グリッドの北　　（２）重複　有　RD1059・1060より古い。

（３）①平面楕円形（重複のため全容不明）　②長軸方向N－40°－W　③開口部長径（１）×短径（0.6）m　④深さ44cm　⑤断面開いたU字形　⑥埋土は黒褐色土～暗褐色土主体で上層～中層に焼土と炭化物混じり、層状堆積である。

出土遺物　無　　**時期**　奈良時代。RD1060より古い。

RD１０６２土坑

遺構（第38図　写真図版33）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A1r グリッドの北　　（２）重複　無

（３）①平面西側が深い横長の楕円形　②長軸方向東西　③開口部長径4.4×短径１m　④深さ34cm　⑤断面皿状　⑥埋土黒褐色土主体

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０６３土坑

遺構（第38図　写真図版33）

（１）位置　北Ⅰ区　RD1062の南　　（２）重複　無

（３）①平面東側に緩やかな張出部分あるが円形　②開口部径１ｍ

出土遺物　無　　時期　不明

RD１０６４土坑

遺構（第39図　写真図版34）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A5m グリッドの東　　（２）重複　無

（３）①平面楕円形　②長軸方向Ｎ－14°－Ｅ　③開口部長径1.2×短径１ｍ　④深さ40cm

⑤断面開いたＵ字形　⑥埋土黒褐色土～黄褐色土主体の４層

出土遺物　無　　時期　不明

RD１０６６土坑

遺構（第39図　写真図版34）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A10l グリッドの西　　（２）重複　無

（３）①平面楕円形（小判型）　②長軸方向Ｎ－35°－Ｅ　③開口部長径1.4×短径0.8ｍ　④深さ26cm

⑤断面皿状　⑥埋土:暗褐色単層

出土遺物（第78図　写真図版68）　埋土中より非ロクロ・甕３片出土。小片のため不掲載とした。また、埋土中より、RD1066-11弥生土器？が出土、図化・掲載した

時期　不明

RD１０６７土坑

遺構（第39図　写真図版34）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A6n グリッドの南　　（２）重複　無

（３）①平面円形　②開口部径0.5ｍ　③深さ50cm　④断面Ｕ字形　⑤埋土黒褐色土主体で層状堆積、１層部分に炭化物混じる。

出土遺物　無　　時期　不明

RD１０６８土坑

遺構（第38図　写真図版34）

（１）位置　北Ⅱ区　-3-A12v グリッドの北　　（２）重複　無

（３）①平面隅丸方形　②長軸方向Ｎ－７°－Ｅ　③開口部長径1.12×0.9ｍ　④深さ30cm　⑤断面逆台形

出土遺物　無　　時期　不明

RD１０６９土坑

遺構（第39図　写真図版35）

（１）位置　北Ⅰ区　-2-A2p グリッドの南　　（２）重複　無

（3）①平面方形　半分は撹乱のド（一部プラン点線で表示）②長軸方向東西　③開口部長径1.3×短径1m　④深さ34cm　⑤断面開いたU字形　⑥埋土黒褐色土～暗褐色土主体、層状堆積である。

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０７０土坑

遺構（第39図　写真図版35）

（1）位置　北Ⅱ区　-3-A13t グリッドの北　　（2）重複　無

（3）①平面円形　②開口部径0.8m　③深さ20cm　④断面皿状　⑤埋土黒褐色土単層

出土遺物　無　　**時期**　不明

RD１０７１土坑

遺構（第39図　写真図版35）

（1）位置　北東区　-2A5q グリッド　　（2）重複　有　RA559より新しい。

（3）①平面円形　②長軸方向南北　③開口部径0.62m　④深さ28cm　⑤断面開いたU字形
⑥埋土黒褐色土単層　礫層は北東区の一般的傾向である。

出土遺物（第78図）

（1）小規模の土坑であるが、不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・体部、ロクロ使用の坏（あかやき・内黒）が出土している。

（2）登録数1点、ロクロ使用のRD1071－1・坏について図化・掲載した。

時期　北東区の他の遺構同様平安時代に属する。

RD１０７２土坑

遺構（第38図　写真図版35）

（1）位置　北Ⅱ区　-3-A12w グリッドの東　　（2）重複　有　RD1059より古い。

（3）①平面楕円形　②長軸方向N－50°－W　③開口部長径（1.0）×短径（0.4）m　④深さ25cm
⑤断面開いたU字　⑥埋土黒褐色土主体の3層に区分、中～下層に焼土混の層状堆積。

（4）焼土を含むことと埋土が層状に堆積することから他遺構の続きともみられる。

出土遺物（第78図　写真図版68）

（1）非ロクロ・甕口縁～体部2点を登録、うちRD1072－1・甕1点と埋土から出土したRD1072－2縄文土器を図化・掲載した。

（2）遺物の出土が多いRD1060に近接する。

時期　周囲の遺構同様古代（奈良）に属するか。

RD１０７３土坑

遺構（第39図　写真図版36）

（1）位置　北東区　－3A24u グリッドの西　　（2）重複　有　RA557より新しい。

（3）①平面不整形　②長軸方向N－40°－W　③開口部長径1.3×短径0.85m　④深さ28cm
⑤断面開いたU字形　⑥埋土灰黄褐色土～暗褐色土主体　上層は撹乱の土で根痕の可能性もある。

出土遺物（第78図）

（1）不掲載遺物を整理すると、土師器・甕体部破片3点、須恵器・甕体部破片2点、埋土中より出土する。

（2）登録はRD1073－1非ロクロ・甕1点、底部に木柴痕が認められる。図化・掲載した。

時期　周囲の遺構同様古代（平安）に属する。

RD1074土坑

遺構（第40図　写真図版36）

（1）位置　北東区　-3A23s グリッド　　（2）重複　無

（3）①平面楕円形　②長軸方向N－45°　E　③開口部長径0.74×短径0.64m　④深さ14cm

⑤断面逆台形　⑥埋土黒褐色土～にぶい黄褐色土主体　上層に炭と焼土混じる

出土遺物（第78図　写真図版68）

（1）不掲載遺物はロクロ・坏（あかやき・内黒）口縁部～体部破片、須恵器・坏口縁部1片である。小片であるため登録は行わなかった。

（2）残りの様子は良くないが、埋土下層から回転糸切痕が明瞭なRD1074－1・2と須恵器・坏が出土、図化・掲載した。RD1074－1は、体部下半に丸味をおびるが、RD1074－2は丸味は目立たず、やや直線的に口縁部に至る。RA556の出土遺物に似るか。

時期　周囲の遺構同様古代（平安）に属する。

RD1075土坑

遺構（第40図　写真図版36）

（1）位置　東区　3F17u グリッドの西　　（2）重複　有　RG463よりも古い

（3）①平面楕円形　②長軸方向N－80°－E　③開口部長径2×短径0.9m　④深さ18cm　⑤断面皿状

⑥埋土黒褐色土単層

（4）方形周溝の南側に有　骨片や焼土無

出土遺物（第78図　写真図版68）

（1）不掲載遺物の整理より、埋土上層より非ロクロ・甕と坏体部片出土する。登録数1点、残りの様子は良くないが、RD1075－1非ロクロ・甕について図化・掲載した。

時期　周囲の遺構同様古代（奈良）に属する。

RD1076土坑

遺構（第40図　写真図版36）

（1）位置　東区　3G17d グリッドの南西　　（2）重複　無

（3）①平面楕円形　②長軸方向N－32°－E　③開口部長径2×短径1.56m　④深さ50cm

⑤断面不整形　⑥埋土黒褐色土～にぶい黄褐色土～褐色土主体　層状堆積　7層部分に焼土塊中

（4）焼土混の埋土を積み重ねた形跡あり　または土坑を掘り中層で火を焚いたかとも考えられる。

出土遺物　無　　**時期**　遺物は無いが周囲の遺構同様古代（奈良）に属する。

4　竪穴状遺構

RE０５５竪穴状遺構（馬屋）

遺構（第41・42図　写真図版37・38）

〈位置〉①北Ⅰ区　北東隅

②-2-A5q ～5s グリッド付近に位置する。

③Ⅳ層地山面で長方形の黒褐色土の広がりとして検出した。RA553竪穴住居跡と重複し、これより新しい。南西隅部分は底面より深くまで撹乱を受け、損なわれていた。

〈平面形・規模〉①平面　隅丸長方形　　②主軸方向　N－6°－E

③規模　Ⅲ時期の変遷を確認した。

・Ⅰ期は本体部が東西5.5m×南北4.3m深さ40cmで、その西に東西1.1m×南北2.8m深さ23cmの浅い掘り込みを伴う。

・Ⅱ期は、西側の浅い掘り込み部分が埋め戻されて規模が縮小する。本体部東西5.5m×南北4.3m深さ40cmで、本体部の大きさに変化は無い。

・Ⅲ期は更に小さくなる。本体部の東西壁側が部分的に埋め戻されて東西方向に縮小し、東西4.8m×南北4.3m深さ40cmの規模となる。なお、Ⅲ期・東壁ならびに西壁側床面において南北に並ぶ小規模な杭穴状小土坑が検出されている（第42図）。そのうち東壁側の１基は、杭状の木材がささったままの状態で検出された。またⅢ期・東壁においては杉材が壁面に貼り付く状態で確認されている。これらはⅡ期からⅢ期への規模縮小過程において埋め戻した部分の崩落を防ぐよう、いわば土留めの役割があったものと考えられる。

〈埋土〉時期別に明瞭に分層される。第10層はⅠ期～Ⅱ期移行期に埋め戻された部分である。第９層はⅡ期からⅢ期移行時に埋め戻された部分である。第６層はⅢ期の埋土で黄褐色を呈し、その様相から人為的埋め戻しと判断される。

〈壁・床面〉壁はいずれの時期も床面より若干外傾して立ち上がる。床面はよく締まっていて堅く、若干の凹凸があるものの概して平坦である。

出土遺物（第79図　写真図版68・72）

埋土中から古代の遺物が出土しているが、当遺構に伴うものではない。

時期　当遺構は埋土中に腐蝕しきらぬ木材が残存するなど、ごく新しい時期（近世）のものとみてよい。おそらくは当遺構を取り囲むようにして検出されたRB046掘立柱建物跡（南部曲家）に伴う馬屋跡と考えられる。当遺跡の東側撹乱中より北Ⅰ外－12鉄鉄（第85図　写真図版72）が出土しているのもこの推定を助ける。

RE０５６　竪穴状遺構

遺構（第43図　写真図版39）

〈位置〉①東区　南東端　RG561の南側　②3F24v ～24w グリッドの北側に位置する。

③黒褐色上下層により濃い黒褐色土（黒色土に近い）と北壁沿いの土師器片の存在により検出した。最初は住居跡として精査したが、カマド部分及び煙道が検出できず、竪穴状遺構とする。

〈平面形・規模〉平面方形　主軸方向N－26°－W　規模東西2.4×南北2.25m

〈埋土〉①黒褐色土～暗褐色土を主体にした４層に区分した。

②褐色土細粒を含む締まりの有る黒褐色土が中心であり、上層に土師器片を含む。この部分が検出の目安になった。

〈壁・床〉①床は埋土の続きにより平坦である。

②壁は床面より約50°で垂直に立ち上がる。立ち上がりは明瞭である。

出土遺物（第79図　写真図版68・69）

①不掲載遺物の整理により、北壁沿い埋土と住居跡埋土1層から非ロクロの甕・口縁部～体部破片が出土している。

②登録数は6点、うち非ロクロ・甕3点、坏2点について図化・掲載した。甕はRE056－4・5の如く、長胴甕、調整はハケメとヘラケズリが明瞭である。RE056－2・坏は内黒・丸底で段が認められず、調整には丁寧なヘラミガキが施されている。RE056－1・坏は平底に近いが不安定である。

時期　RA547や他の遺構と関わりがあり、古代（奈良・8世紀後半以降）に属する。

5　焼土遺構

RF063・064焼土遺構

遺構（第44図　写真図版40）

〈位置〉①北I区　中央部分

②2-A5p～6pグリッド東に位置する。RF063が北側、RF064が南側である。

〈平面形・規模〉①RF063　平面不整形　長径70cm　焼成の厚さ黒褐色土の下8cm　焼成良好の赤褐色焼土である。

②RF064　平面楕円形　長径42×短径30cm　焼成の厚さは6cm　焼成良好の赤褐色焼土である。

出土遺物・時期　無　不明

6　溝跡・堀跡

RG442溝跡

遺構（第48図　写真図版41）

（1）位置　北I区南東端　南東調査区外から北I区南端にあり。

（2）重複　有　RG443より古く、RG451より新しい。

（3）規模　検出部分の全長約12.2m　幅開口部上端28～42cm下端10～30cm　深さベルト部分で4cm

断面は浅い皿状　底面は多少東側高い。

（4）埋土　褐灰色土主体、水酸化鉄が混じる。　（5）流路方向　N－13°－W

出土遺物　無　　**時期**　古代に属する。

RG443溝跡

遺構（第48図　写真図版41）

（1）位置　北I区南東端　南東調査区外から北I区にあり。

（2）重複　有　RG442・445・452より新しい。（RG452は一部推定）

（3）規模　検出部分の全長約6.65m　幅開口部上端40～70cm下端18～32cm　深さベルト部分で14cm

断面は開いたU字　底面は平坦

（4）埋土　灰黄褐色土主体で撹乱、水酸化物と炭化物混じる。　（5）流路方向　N－86°－E

出土遺物

（1）不掲載遺物の整理より、埋土中より非ロクロ・甕体部～底部破片各3点、坏・あかやき土器体部破片9点が出土している。

（2）登録は底部糸切りが認められる坏、小片のため登録のみである。

時期　古代に属する。

RG444溝跡

遺構（第48図　写真図版41・42）

（1）位置　北Ⅰ区南　調査区を東西に横切る。

（2）重複　有　RD1044より古い。RG447・448・449より新しい。

（3）規模　検出部分の全長約35.5m　幅開口部上端5～12cm下端30～60cm　深さベルト部分で26～36cm
断面はU字　壁はやや傾きながら立ち上がる　深さは全体に一様

（4）埋土　黒褐色土主体で水酸化鉄混じる。　（5）流路方向　N－88°－E

出土遺物（写真図版69）

（1）不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕と坏の口縁～体部、西側埋土中よりロクロ・坏が出土している。破片が多いが、なかなか立体にならない。

（2）登録は回転糸切が認められる坏・体部下半～底部、小片のため登録のみとする。他に埋土中より、RG444－1・鉋の刃とRG444－2・釘の出土した。写真による掲載のみとした。

時期　古代に属する。

RG445溝跡

遺構（第48図　写真図版41・43）

（1）位置　北Ⅰ区南東　南東調査区外から調査区内にあり。

（2）重複　有　RG443より新しい。

（3）規模　検出部分の全長は約5m　幅開口部上端12～48cm下端10～40cm　深さベルト部分で4～7cmと浅い　底面は平坦　（4）埋土　黒褐色土主体で水酸化鉄は無い。

（5）流路方向　主にN…15°－W　北西部分約1/3はN－64°－W

出土遺物　無　　**時期**　古代に属する。

RG446溝跡

遺構（第48図　写真図版41・42）

（1）位置　北Ⅰ区南　調査区を東西に横断する。

（2）重複　有　RD1057より古い。東側でRG447と合流、RG446が新しい可能性がある。

（3）規模　検出部分の全長は約37.4m　幅開口部上端66～110cm下端40～60cm　深さ西側で32cm東側で14cm

（4）埋土　黒褐色土主体で水酸化鉄無い。　（5）流路方向　N－68°－E

出土遺物（第80図　写真図版69）

（1）不掲載遺物の整理より、非ロクロ・体部破片44点、非ロクロ・坏の口縁～体部破片5点、ロクロ・あ

かやき土器、埋土中より出土した。

（2）登録数は4点、うち小片であるがRG446－1非ロクロ・甕口縁～体部を図化・掲載した。

時期　遺物は不掲載のものも含めて出土しているが、重複と攪乱が多く、時期を特定することはできない。

RG447溝跡

遺構（第48図　写真図版41・42）

（1）位置　北Ⅰ区南　調査区を東西に横断する。

（2）重複　有　RD1047・RG448より古い。東側でRG446と合流する。RG446との新旧は不明。

（3）規模　検出部分の全長は約39m　幅開口部上端85～110cm下端60～90cm　深さ10～14cm

（4）埋土　黒色土主体で砂礫が部分的に混じる。水酸化鉄無し。

（5）流路方向　N－85°－E　RG446とほぼ平行に走る。

出土遺物（第80図　写真図版69）

（1）非ロクロ・甕と非ロクロ・内黒と糸切痕が認められる坏を登録、うちRG447－3・甕1点、RG447－5小型甕1点、RG447－1・2・坏2点を図化・掲載した。甕の残りは良くないが、坏については焼成良のロクロ使用のものと、内外有段で内黒のものである。また、須恵器はRA447－4・6・7・甕・体部について3点図化・掲載した。

時期　古代に属する。掲載した遺物は数と種類は多いが攪乱や他遺構との重複が多いため、RG447だけの遺物とは断言出来ず時期の特定はできない。

RG448溝跡

遺構（第48図　写真図版41・42）

（1）位置　北Ⅰ区南　調査区を東西に横断する。

（2）重複　有　RG447・449・RD1047より新しくRG444より古い。RG444との合流点で消滅する。

（3）規模　検出部分の全長は約31m　幅開口部上端60～120cm下端40～100cm　深さ14～22cm
底面一部平坦、一部で傾斜有り。　（4）埋土　黒褐色土主体で砂礫混じる。

（5）流路方向　西側N－65°－E　東側N－60°－E

出土遺物（第81図　写真図版70）

（1）不掲載遺物の整理より、遺物数は西側埋土を中心に非常に多い。かつ、土師器は非ロクロ・甕と坏（内外黒色処理）、ロクロ・坏（内外黒色処理・あかやき土器）、須恵器と多種にわたる。

（2）登録数は10点、非ロクロ・甕7点、坏3点、うちAIの甕と坏2点を図化・掲載した。RA448－2は内外黒色処理及び底部に再調整がなされているロクロ使用の坏である。須恵器はRG448－4・5の甕と壺、口縁部の2点掲載、いずれも残存状況は良くない。

時期　古代に属する。RG447と同じ埋山で時期の特定はさける。

RG449溝跡

遺構（第48図　写真図版41・42）

（1）位置　北Ⅰ区南　調査区を東西に横断する。

（2）重複　有　RG450より新しく、RG448・444より古い。

（3）規模　検出部分の全長は34m　幅開口部上端80～120cm下端30～110cm　重複のため北側壁立ち上がりが一部不明　深さ10～18cm

（4）埋土　黒褐色土主体である。　（5）流路方向　東側部分N－63°－E、RG448とほぼ平行である。

出土遺物（第81図　写真図版70）

（1）不掲載遺物の整理より、西端部分より非ロクロ・甕と坏の体部破片が出土している。

（2）土師器の甕2点と坏1点を登録したが、小片であったため図化・掲載はしなかった。須恵器はRG449－1・甕・体部下半～底部1点を図化・掲載した。

時期　古代に属する。

RG450溝跡

遺構（第48図　写真図版42）

（1）位置　北Ⅰ区　（2）重複　有　RG449より古い。

（3）規模　検出部分の全長6m　幅開口部上端68cm下端40cm　深さ24cm　重複のため全容不明
北1調査区西端のみに見られるが深い

（4）埋土　黒褐色土主体である。　（5）流路方向　N－61°－E

出土遺物（第81図　写真図版70）

（1）不掲載遺物の整理より、西端埋土より非ロクロの甕・口縁～体部破片、坏・体部破片、非ロクロの坏・体部破片が出土している。

（2）甕1点と坏2点を登録、RG450－1・甕とRG450－2・坏それぞれ1点を図化・掲載した。いずれも残りの状態は良くない。

時期　古代に属する。

RG451溝跡

遺構（第48図　写真図版43）

（1）位置　北Ⅰ区南東端　東西に於いてそれぞれ調査区外へ延びる。

（2）重複　有　Pit231・232より古い。

（3）規模　検出部分の全長2.2m　幅開口部上端40～50cm下端20～40cm　深さ14cm
断面形は開いたU字　底面に凹凸有

（4）埋土　黒褐色土主体で下位に水酸化鉄混じる。　（5）流路方向　N－70°　E

出土遺物　無　**時期**　古代に属する。

RG452溝跡

遺構（第48図　写真図版43）

（1）位置　北Ⅰ区　北Ⅰ区を南北に縦断、北と南の調査区外に延びる。

（2）重複　有　RG444・446・447・448・449、RD1056、RF063・064より古く、RA551より新しい。

（3）規模　検出部分の全長36.7m　幅開口部上端30～60cm下端10～40cm　ベルト部分深さ10cm
断面形は開いたU字　底は丸い。

（4）埋土　黒褐色土主体、水酸化鉄無し。

（5）流路方向　-2-A11q付近で横にずれるがN－17°－W　　（6）撹乱との重複のため全容不明
出土遺物　無　　時期　古代に属する。過年度調査区の溝に続く。

RG453溝跡

遺構（第47図　写真図版44）

（1）位置　北東区の南端、-2A6n～-2A6q付近、調査区外西側から調査区外東側にあり。
（2）重複　無
（3）規模　検出部分の全長5.3m　幅開口部上端240～305cm下端50～162cm　深さベルト部分で44cm
断面は皿状で底面はU字　自然堆積
（4）埋土　黒褐色土主体、5層下位に水酸化鉄、底面に礫多数混じる。　（5）流路方向　東西

出土遺物（第82図　写真図版70）

（1）遺物量が多い。不掲載遺物の整理より、主に検出面・底面・埋土から土師器・非ロクロ・甕口縁部～体部、非ロクロ・坏（内黒）体部～底部、ロクロ使用・坏（あかやき）・口縁部～底部、坏（内黒）口縁部～体部が出土している。加えて、須恵器・甕と坏の破片と多種にわたる。（あかやきの割合が多少多くなっている）意図的に投げ込まれた遺物が多いのではないかと考えたが、出土状況について細かい記録をとることができなかったため、その可能性のみ記しておく。
（2）登録数は10点、うち小型甕1点、高台付坏3点、あかやき土器2点、内黒坏1点について図化・掲載した。RG453－2・3・6・坏と高台付坏は胎土が粗であり、また5YR6/6～6/8橙のあかやき土器が多くみられる。

時期　遺物の傾向と付近の遺構の年代より、平安時代（9世紀後半～10世紀初め）の溝とみられる。

RG454溝跡

遺構（第47図　写真図版44）

（1）位置　北東区の中央　-2A1o～1qグリッド付近　　（2）重複　有　RG456より新しい。
（3）規模　検出部分の全長14.8m　幅開口部上端100～140cm下端60～100cm　深さベルト部分で16～28cm
断面は西側やや箱状で底は平　東側はU字形
（4）埋土　黒褐色土主体、埋土上層～下層まで水酸化鉄混じる。
（5）流路方向　-2A1o～2rまでは東西　-2A2rから東はN－60°－W

出土遺物（第82・83図　写真図版70）

（1）不掲載遺物の整理から、非ロクロ・甕体部破片、ロクロ使用・坏（あかやきと内黒）の割合が多い。少数だが須恵器・甕と坏の破片もみられる。
（2）登録数は甕2点、坏3点、うち土師器：甕1点と坏2点、須恵器4点を図化・掲載した。RG454－1は内外面黒色処理が施されており、RG454－2は内黒で糸切痕が明確である。

時期　RG453と比べ、少し古いか同時期である。

RG455溝跡

遺構（第47図　写真図版45）

（1）位置　北東区の北側　-3A22t～-2A1sグリッド

（2）重複　有　RG456より古い。RA557・558より新しい。
（3）規模　検出部分の全長8.6m　幅開口部上端30～180cm下端25～50cm　深さ北東端ベルト部分35cm
断面はU字形一部の底は平である。
（4）埋土　にぶい黄褐土～灰褐土～褐土主体、底面に水酸化鉄混じる。　（5）流路方向　N－20°－E
出土遺物
（1）埋土中より非ロクロ・甕体部破片出土、小片のため登録無し。
時期　出土遺物数少なく時期について積極的に判断できない。周辺の遺構と同時期とする。

RG４５６溝跡

遺構（第47図　写真図版45）
（1）位置　北東区の北側　-3A22t ～-2A2s グリッド
（2）重複　有　RG455より新しく、RG454より古い。
（3）規模　検出部分の全長9.2m　幅開口部上端30～65cm下端15～20cm　深さ東西ベルト部分20cm
底面は上が開いたU字形で一部の底は平
（4）埋土　にぶい黄褐色土主体、上層～下層まで水酸化鉄混じる。　（5）流路方向　N－10°－W
出土遺物（第83図　写真図版71）
（1）不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・坏（内黒）口縁～体部、ロクロ使用の坏（あかやき土器）埋土中より出土している。
（2）登録は坏２点、うち１点糸切痕が認められるRG456－１・坏について、図化・掲載した。
時期　周辺の遺跡と同時期の古代（平安）とする。

RG４５７溝跡

遺構（第46図　写真図版45）
（1）位置　東区南側　3F16r ～3F15x グリッド　（2）重複　有　RG458・463より新しい。
（3）規模　検出部分の全長12.7cm幅開口部上端40～100cm下端8～20cm深さ24～48cm　東側V字中央U字
（4）埋土　黒褐色土　（5）流路方向　N－76°－E
出土遺物（第83図　写真図版71）
（1）不掲載遺物の整理より、埋土中より非ロクロ・甕と坏破片あり。
（2）残りは悪いが、RG457－１の坏について、図化・掲載した。
時期　周辺の遺構と同じ古代（奈良）に属する

RG４５８溝跡

遺構（第46図　写真図版46）
（1）位置　東区南西　3F13q ～13t ～16t ～16r グリッド付近
焼土と焼骨片が出土するRD1040の外側を囲むように巡る。
（2）重複　有　RB045・RG463よりも新しく、RG460よりも古い。
（3）規模　検出部分の全長14.5m　幅開口部上端130～175cm下端70～110cm　深さ22～34cm
底面は平坦　部分的に深く掘り込まれている場所あり。溝自体が枝分かれしたりⅡ時期に分かれてい

る可能性もある。 断面は箱形

（4）埋土　黒褐色土～褐色土主体の5層に区分、溝本体とより深い掘り込み部分に焼土混じる。

（5）流路方向　東西部分N－80°－E　南北部分N－20°－W

（6）形態と内側にある焼骨の出土が認められたRD1040の存在より、方形周溝である。

出土遺物

（1）不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕体部破片が著しく多い。他に非ロクロ・坏底部破片が埋土上層より出土している。しかし、立体になる遺物は少なく、甕破片を1点登録したのみである。

（2）遺構としてはRD1040の外側を囲むように巡る断面が箱形の溝であるが、より積極的に方形周溝という遺構の性格を示すような遺物の出土について確認することはできない。（1）のように、他の遺構に比べて非ロクロ・甕体部破片が多いことは言えるが、出土状況の詳しい観察が行われてない状態であったため、遺構の性格と結びつけることは出来ない。事実を記すのみである。

時期　古代に属するか。

RG459溝跡

遺構（第46図　写真図版47）

（1）位置　東区東側　3F4t～8tグリッド　（2）重複　無

（3）規模　検出部分の全長7.7m　幅開口部上端40～60cm下端40～80cm　深さ10cm　断面箱形の浅い溝
　　壁の立ち上がり確認できない部分もある。

（4）流路方向　3F4t～5tグリッドは、N－18°－E　3F5t～8tグリッドは、N－7°－W

（5）調査区北東～南東へ至る。

出土遺物　無　**時期**　不明

RG460溝跡

遺構（第46図　写真図版47）

（1）位置　東区の3F15tグリッド　（2）重複　有　RG458よりも新しい。

（3）規模　検出部分の全長2.6m　幅開口部上端68cm下端40cm

（4）流路方向　N－62°－W

（5）性格は不明

出土遺物

（1）非ロクロ・甕体部破片2点出土、小片のため不掲載とする。

時期　古代（奈良）に属する。

RG461堀跡

遺構（第46図　写真図版2・47）

（1）位置　東区南側　3F22u～3G20aグリッド　（2）重複　無

（3）規模　全長13.8m　幅開口部上端270～340cm下端76～132cm　深さ78～96cm
　　断面は箱形（逆等脚台形）　3F22vより西は縁層に至る。

（4）埋土　暗褐色土～にぶい黄褐色土、褐色土混じりで壁際に褐色土多い。底中央部分湧水有り。

（5）流路方向　東西

（6）堀の行方について①このまま東西方向で直進するものか、曲がるものか②区画溝ならば何と何を区画するのか、今後の東区の調査を待ちたい。

出土遺物

（1）埋土中層より非ロクロ・甕口縁部1点のみの出土、小片のため不掲載とする。

時期　古代～中世に属するか。時期を特定する遺物は少ない。

RG462溝跡

遺構（第46図　写真図版48）

（1）位置　東区南側　3F19t西～19wグリッド　　（2）重複　無

（3）規模　全長7.3m　幅開口部上端55～90cm下端22～60cm　深さ24cm

断面は開いたU字形底は平坦、西側に少し高い（中端）部分あり。

（4）埋土　暗褐色土～黒褐色土主体　層状堆積

（5）流路方向　西調査区境～3F18uグリッドはN－75°－E

3F18u～19wグリッドはS－74°－E　3Fを境に『へ』の字に折れる。

出土遺物　無

時期　不明　古代に属するか。

RG463溝跡

遺構（第46図　写真図版48・49）

（1）位置　東区　3F15t～18vグリッド　　（2）重複　有　RG457　RD1075より古い。

（3）規模　検出部分の全長6.6m　幅上端30～70cm下端10～50cm　深さ20cm

（4）流路方向　N－23°－w　　（5）RG458より古い溝といえよう。形態としてみた場合は、RG463を用いてRG548を作っていたものであろうか。

出土遺物　無

時期　不明　古代に属するか。

RG464溝跡

遺構（第45図　写真図版48・49）

（1）位置　西区東側　1C25t～1-C5tグリッド

（2）重複　有　RG463・465より古い。

（3）規模　検出部分の全長11.2m　幅上端50～70cm下端35～60cm　深さベルト部分で6cm

断面は浅い皿状　底は平坦

（4）埋土　黒褐色土主体で褐色土の他に水酸化鉄粒混じる。

（5）流路方向　1－C2tより北N－5°－W　南N－10°－E

出土遺物（第83図　写真図版71）

（1）RG464とRG466との検出部分より、非ロクロ・甕、埋土中より須恵器・坏底部1片出土、小片のため登録のみとする。埋土中から出土したRG464－1・縄文土器を掲載した。

RG４６５溝跡

遺構（第45図　写真図版48・49）

（１）位置　西区東側　-1-C25v ～1 C6s グリッド

（２）重複　有　RA563・564・RI003よりも古く、RG463・464より新しい。

（３）規模　検出部分の全長16.5m　幅上端30～50cm下端25～30cm　深さ10～18cm　南側が深い
断面形はU字

（４）埋土　黒褐色土～暗褐色土～黄褐色土主体

（５）流路方向　北～1-C2v グリッドはN－６°－W　　1-C4u ～5t グリッドはN－43°－W
1-C5t ～1-C6s グリッドはN　72°－W

出土遺物　（１）土師器・甕体部破片６点出土、小片のため登録のみとする。

RG４６６溝跡

遺構（第45図　写真図版48・49）

（１）位置　西区東側　-1-C25t ～1-C5t グリッド

（２）重複　有　RG464より新しく、RG465より古い。

（３）規模　検出部分の全長11.8m　幅上端40～50cm下端30～40cm　深さは６～10cm
北側部分は壁が緩やかに立ち上がるが、南側は底が平坦で壁も緩かである。

（４）埋土　暗褐色土主体、一部北東壁際に水酸化鉄の層有り。　（５）流路方向　N－12°－E

出土遺物　無

時期（１）積極的に時期を断定する遺物は出土していない。

（２）遺構の新旧関係から考えると、（旧）RG464－466－465－RA564－563（新）となり、RA563・564の時期（９世紀中～後半）より僅かに古いと考えられる。

７　井戸跡

RI０１６井戸跡

遺構（第44図　写真図版49）

〈位置〉①西区　東側部分　②1-C04u グリッド東に位置する。　③RG465より新、且つRA563に接する。南側が攪乱にきられる。④黄褐色土上面で黒褐色土の広がりで検出。

〈平面形　規模　埋土等〉①平面楕円形　長径2.1×短径1.2m　検出面より１m掘りすすむが、攪乱（コンクリート）に入り掘り進むことができない状況であった。

②埋土は夾雑物の無いきれいな黒褐色土主体である。断面は上が広いロート形である。

③湧水や井戸枠等遺物が無く井戸跡とは断言できないが、埋土の状況と断面形より井戸跡として登録した。

出土遺物・時期　無　不明

8　その他の遺構

（1）ＲＺ０３１（北Ⅰ・Ⅱ区柱穴群）（第49・50図　写真図版50）

①遺構図版第49図の北Ⅰ区分は最終的にはかなりの柱穴がRB046・047・048に属する。残っている柱穴に関しても埋土傾向や平面形においては上述の掘立柱建物跡に等しい。ただし、RB047・048付近の柱穴については建て替えなど、まだ掘立柱建物跡を構成する可能性がある。 ②北Ⅱ区の柱穴群の平面形は楕円形、埋土は黒褐色土が主体である。径25～40cm深さ16～30cm前後、数は多いが掘立柱建物跡は構成できなかった。

（2）ＲＺ０３２（西区柱穴群）（第50図）　ほぼ全てがRB044に属する。

（3）ＲＺ０３３（東区柱穴群）（第51図　写真図版50）

①東区3F4v～3F10vグリッドとRB045付近に位置する。前者は径18～40cm深さ９～40cm、平面形は円形、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体である。数は多いが建物を構成するには至らない。東区の柱穴群には畑地等に使われた杭痕も含まれるものとみられる。

9　遺構外出土遺物（第84・85・86図 写真図版71・72）

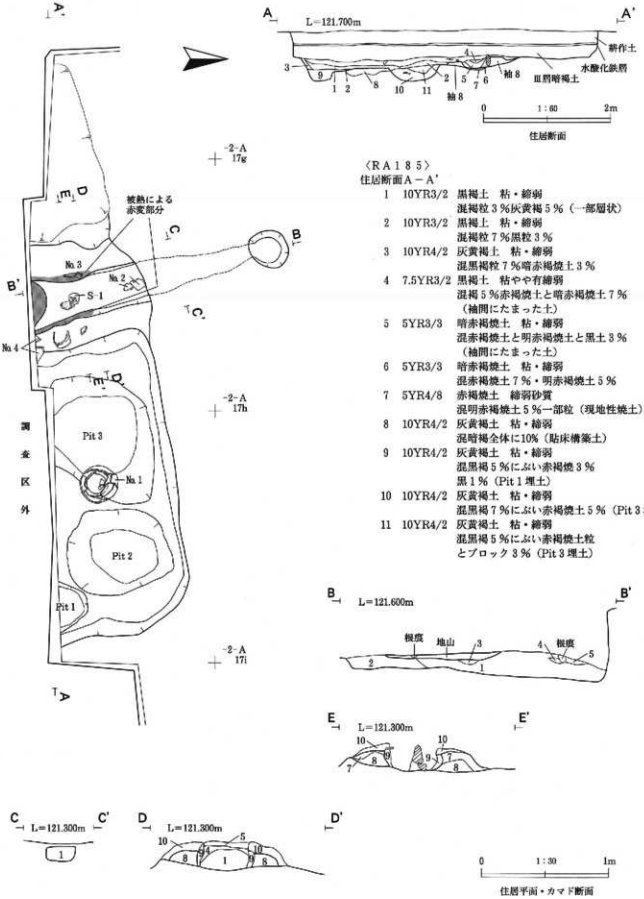
（1）北Ⅰ区で７点（土師器・甕１点　坏３点　縄文土器片１点　鉄製品１点　甑底部１点）について図化・掲載した。内北Ⅰ外－12は蹄鉄でありRE055と重複する撹乱より出土し、RE055の性格を考える資料となった。また北Ⅰ外－６は、出土位置は明確にできなかったが甑の底部である。

（2）北Ⅱ区では、非ロクロ・甕・口縁部を図化・掲載、非ロクロであり、調整痕が明瞭であるという同区の遺構内出土遺物と同じ傾向を示す。

（3）西区からは６点（ロクロ・坏４点　甕底部１点　縄文土器１点）を図化・掲載した。甕と坏については西区西側に位置する旧河道トレンチから出土した回転糸切痕が明確な坏である。流れ込んで入ったものとみられる。

（4）北東区と東区からは各１点図化・掲載した。同区の遺構内出土遺物と同じ傾向を示し、東外－１は外面に段を有する内黒坏体部破片、北東外－１は内面にヘラミガキが施され体部下半の丸味を帯びているロクロ使用の坏である。

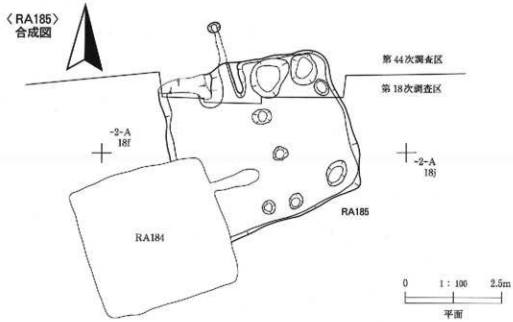
（5）遺構外の陶磁器片の出土は東外－２と-2-A-1～-2-A-3の４点である。写真のみの掲載とした。-2-Aグリッドは北Ⅰ区にあたり、攪乱や検出面から出土している。

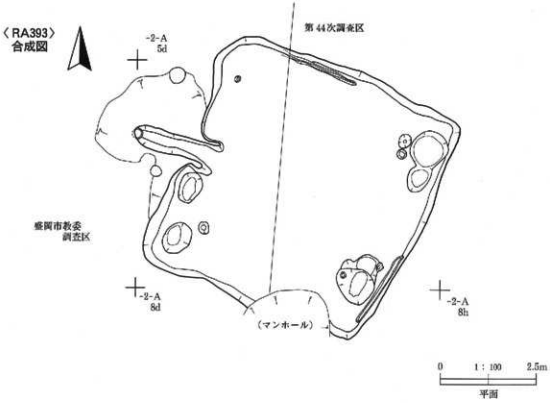


〈RA185〉
住居断面A－A'

1	10YR3/2	黒褐土	粘・締弱 混褐粒3％灰黄褐5％（一部層状）
2	10YR3/2	黒褐土	粘・締弱 混褐粒7％黒粒3％
3	10YR4/2	灰黄褐土	粘・締弱 混黒褐粒7％暗赤褐焼土3％
4	7.5YR3/2	黒褐土	粘やや有締弱 混褐5％赤褐焼土と暗赤褐焼土7％ （袖間にたまった土）
5	5YR3/3	暗赤褐焼土	粘・締弱 混赤褐焼土と明赤褐焼土と黒土3％ （袖間にたまった土）
6	5YR3/3	暗赤褐焼土	粘・締弱 混赤褐焼土7％・明赤褐焼土5％
7	5YR4/8	赤褐焼土	締弱砂質 混明赤褐焼土5％一部粒（現地性焼土）
8	10YR4/2	灰黄褐土	粘・締弱 混暗褐全体に10％（貼床構築土）
9	10YR4/2	灰黄褐土	粘・締弱 混黒褐5％にぶい赤褐焼3％ 黒1％（Pit 1埋土）
10	10YR4/2	灰黄褐土	粘・締弱 混黒褐7％にぶい赤褐焼土5％（Pit 3埋土）
11	10YR4/2	灰黄褐土	粘・締弱 混黒褐5％にぶい赤褐焼土粒 とブロック3％（Pit 3埋土）

第10図　RA185竪穴住居跡

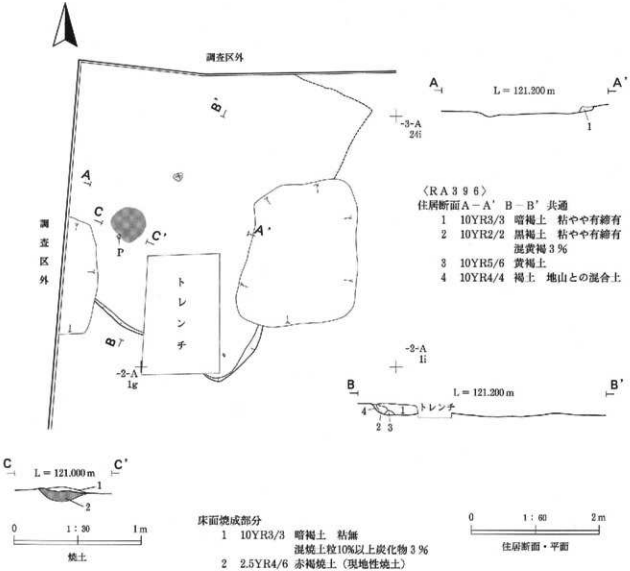




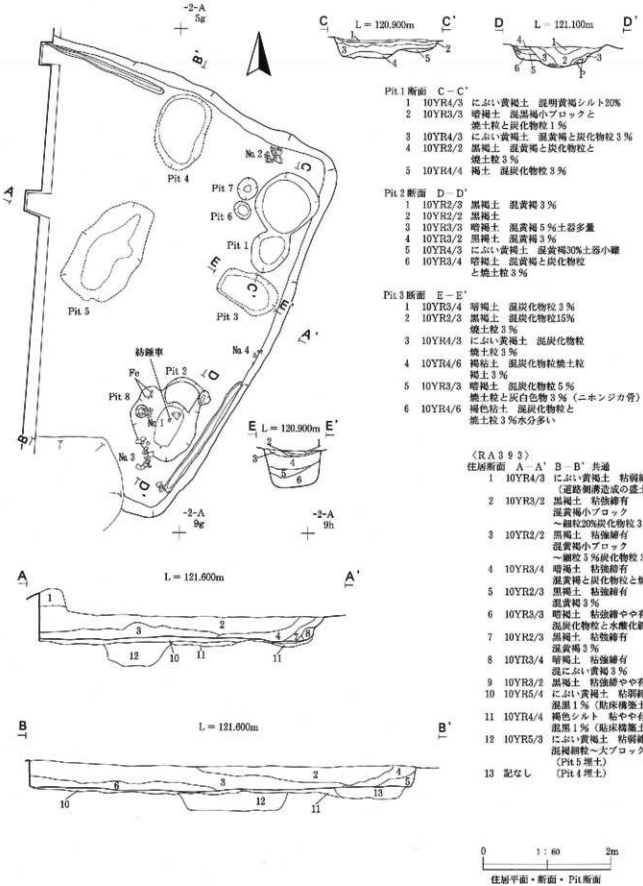
第11図　RA185・393竪穴住居跡　過年度分合成図

カマド断面　B－B'　C－C'　D－D'　E－E'　共通

1　10YR2/2　黒褐土　粘無締やや有
　混炭片５%赤褐焼土粒南10%中３%（煙道埋土）
2　10YR2/2　黒褐土　粘無締やや有
　混褐５%黒褐３%（煙道埋土）
3　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　混黒３%
4　10YR5/4　にぶい黄褐土　粘無締やや有
　混黒と黒褐３%
5　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　混黒10%赤褐焼土15%
6　10YR3/2　黒褐土　砂質締やや有
　混黄褐10%
7　7.5YR3/2　黒褐土　粘無締有
　混黒と明赤褐焼土３%（袖構成土）
8　7.5YR3/2　黒褐土　粘無締有
　混黒３%・明赤褐焼土１%（袖構成土）
9　5YR4/4　にぶい赤褐焼土　粘無締有
　混黒５%橙と赤褐焼土３%（袖間の埋土）
10　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締有
　混黒褐３%



第12図　RA396竪穴住居跡



Pit 1 断面　C－C'

1	10YR4/3	にぶい黄褐土　混明黄褐シルト20%
2	10YR3/3	暗褐土　混黒褐小ブロックと焼土粒と炭化物粒１%
3	10YR4/3	にぶい黄褐土　混黄褐と炭化物粒３%
4	10YR2/2	黒褐土　混黄褐と炭化物粒と焼土粒３%
5	10YR4/4	褐土　混炭化物粒３%

Pit 2 断面　D－D'

1	10YR2/3	黒褐土　混黄褐３%
2	10YR2/2	黒褐土
3	10YR3/3	暗褐土　混黄褐５%土器多量
4	10YR3/2	黒褐土　混黄褐３%
5	10YR4/3	にぶい黄褐土　混黄褐30%土器小礫
6	10YR3/4	暗褐土　混黄褐と炭化物粒と焼土粒３%

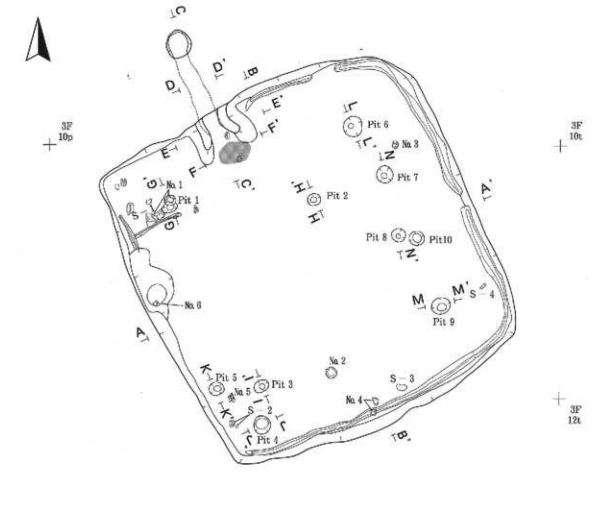
Pit 3 断面　E－E'

1	10YR3/4	暗褐土　混炭化物粒３%
2	10YR2/3	黒褐土　混炭化物粒15%焼土粒３%
3	10YR4/3	にぶい黄褐土　混炭化物粒焼土粒３%
4	10YR4/6	褐粘土　混炭化物粒焼土粒褐土３%
5	10YR3/3	暗褐土　混炭化物粒５%焼土粒と灰白色砂３%（ニホンジカ骨）
6	10YR4/6	褐色粘土　混炭化物粒と焼土粒３%水分多い

〈RA３９３〉
住居断面　A－A'　B－B'共通

1	10YR4/3	にぶい黄褐土　粘弱締有（遺路側溝造成の盛土）
2	10YR3/2	黒褐土　粘強締有　混黄褐小ブロック～細粒20%炭化物粒３%
3	10YR2/2	黒褐土　粘強締有　混黄褐小ブロック～細粒５%炭化物粒３%
4	10YR3/4	暗褐土　粘強締有　混黄褐と炭化物粒と焼土粒３%
5	10YR2/3	黒褐土　粘強締有　混黄褐３%
6	10YR3/3	暗褐土　粘強締やや有　混炭化物粒と水酸化鉄３%
7	10YR2/3	黒褐土　粘強締有　混黄褐３%
8	10YR3/4	暗褐土　粘強締有　混にぶい黄褐３%
9	10YR3/2	黒褐土　粘強締やや有
10	10YR5/4	にぶい黄褐土　粘弱締有　混黒１%（貼床構築土）
11	10YR4/4	褐色シルト　粘やや有締有　混黒１%（貼床構築土）
12	10YR5/3	にぶい黄褐土　粘弱締有　混褐細粒～大ブロック10%（Pit５理土）
13	記なし	（Pit４理土）

第13図　RA393竪穴住居跡

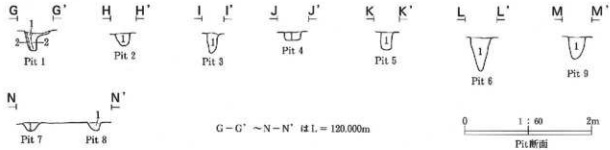


住居平面・断面

〈RA547〉
住居断面　A－A'　B－B'共通

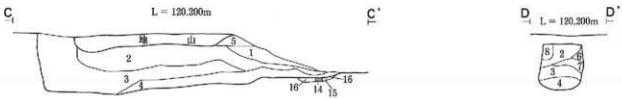
1	10YR2/2	黒褐土　粘無締有 （自然堆積層）
2	10YR2/2	黒褐土　粘無締やや有 混褐ブロック
3	10YR2/1	黒土　粘有締やや有 混炭北断面の8層近く褐3％
4	10YR2/2	黒褐土　粘・締やや有
5	10YR2/1	黒土　粘有締無
6	10YR2/3	黒褐土　粘有締無 混褐10%以上
7	10YR2/3	黒褐土　粘有締無 混褐ブロックと粒
8	10YR3/4	暗褐土　粘有締無
9	10YR2/1	黒土　粘有締無
10	10YR2/1	黒土　粘有締無 赤サビ含（自然層）
11	10YR2/3	黒褐土　粘・締やや有 混炭ごく少量褐少量
12	10YR3/2	黒褐土　粘有締やや有 混炭微量
13	10YR4/3	にぶい黄褐土　粘無締弱 混褐3％（周溝埋土）
14	10YR3/3	暗褐土　粘・締弱 混黒3％褐3％（西側貼床）
15	10YR3/2	黒褐土　粘無締有 混黄褐10%黒5％褐5％ 東半分にあり硬化（東側貼床）

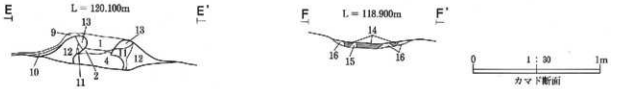
第14図　RA547（1）竪穴住居跡



Pit 1　G－G'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒（炭）と明赤褐３％（焼土）
　2　10YR3/2　黒褐土
Pit 2　H－H'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐土５％（炭？）
Pit 3　I－I'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐３％
Pit 4　J－J'
　1　10YR3/2　黒褐土 混褐５％

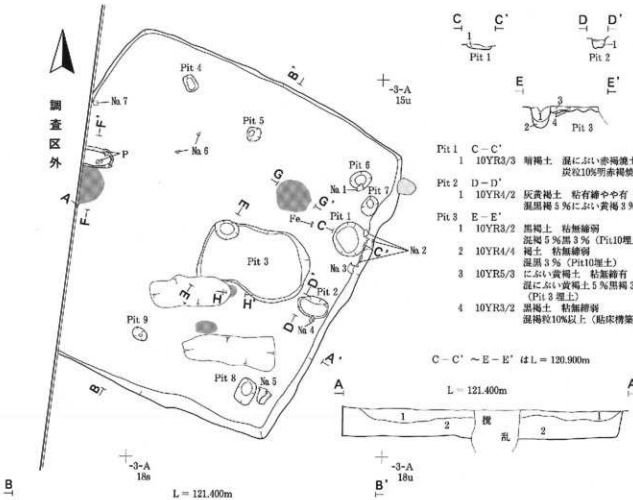
Pit 5　K－K'
　1　10YR2/2　黒褐土 混褐３％
Pit 6　L－L'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐と暗赤褐３％
Pit 7　N－N'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐と暗赤褐３％
Pit 8　N－N'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐３％明赤褐３％
Pit 9　M－M'
　1　10YR3/2　黒褐土 混黒褐10%褐と黄褐３％



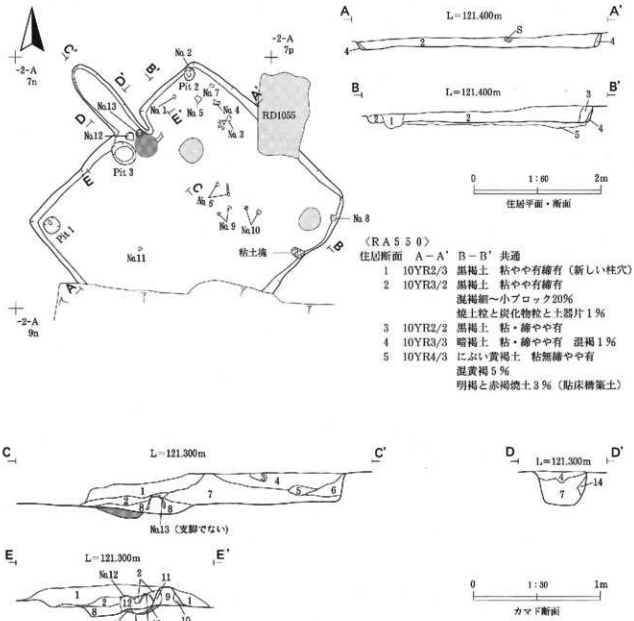


カマド断面　C－C'　D－D'　E－E'　F－F' 共通
　1　10YR3/3　暗褐土　粘・締やや有
　　混にぶい黄褐中粒５％黒褐３％
　2　10YR4/4　褐土　粘・締無
　　混明赤褐焼土と黒３％（煙道埋土）
　3　10YR3/2　黒褐土　粘無締弱
　　混暗褐３％黄褐小ブロック５％（煙道埋土）
　4　10YR3/2　黒褐土　粘無締無
　　混明赤褐焼土と明褐３％（煙道埋土）
　5　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘・締やや有
　　地山に近い
　6　10YR4/4　褐土　粘無締やや有
　　混明赤褐とにぶい赤褐５％
　7　10YR4/4　褐土　粘無締やや有
　　混明赤褐５％にぶい赤褐７％
　　（６・７層は２層に焼土多く混）
　8　10YR4/4　褐土　粘無締やや有
　　混黒と黒褐３％
　　（８層は２層に近く焼土無し）
　9　10YR5/6　黄褐土　粘無締やや有
　　混黒褐５％黒３％
　10　10YR4/2　灰黄褐土　粘弱締やや有
　　混褐５％
　11　5YR4/4　にぶい赤褐土　粘無締弱
　　混黒褐とにぶい黄褐３％
　　褐75%（袖構成土）
　12　10YR4/6　褐土　粘無締やや有
　　混黒褐と黄褐３％（袖構成土）
　13　10YR5/6　黄褐土　粘無締やや有
　　混黒褐５％（袖構成土）
　14　5YR4/6　赤褐焼土　粘無締やや有
　　混黒褐とにぶい黄褐５％
　　（現地性焼土）
　15　10YR4/2　灰黄褐土　粘無締やや有
　　混赤褐３％と褐３％
　16　10YR5/6　黄褐土　粘無締弱
　　混にぶい黄褐３％

第15図　RA547（２）竪穴住居跡



第16図 RA549竪穴住居跡



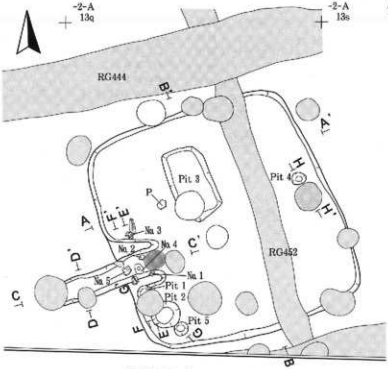
〈RA550〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通

1　10YR2/3　黒褐土　粘やや有締有（新しい柱穴）
2　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締有
　混褐細～小ブロック20%
　焼土粒と炭化物粒と土器片1%
3　10YR2/2　黒褐土　粘・締やや有
4　10YR3/3　暗褐土　粘・締やや有　混褐1%
5　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締やや有
　混黄褐5%
　明褐と赤褐焼土3%（貼床構築土）

カマド煙道縦断　C－C'　D－D'　E－E'　共通

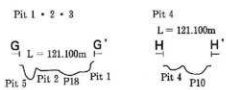
1　10YR2/3　黒褐土　粘・締有
　混褐10%
2　10YR3/4　暗褐土　粘・締有
　混褐3%
3　10YR4/6　褐土　粘・締有
4　10YR2/2　黒褐土　粘・締有
　混褐3%（煙道埋土）
5　10YR2/1　黒土　粘・締有（煙道埋土）
6　10YR2/3　黒褐土　粘・締有
　混褐3%（煙道埋土）
7　10YR3/3　暗褐土　粘・締有
　混黒褐3%（煙道埋土）
8　10YR4/4　褐土　粘弱締やや有
　混褐と炭化物粒と焼土粒3%
9　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締有
　混褐と黒褐3%（袖構成土）
10　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締有
　混黒褐5%（袖構成土）
11　5YR4/6　赤褐土　粘無締有
　混褐5%
　（袖構成土・被熱により赤変）
12　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
　混黒褐と暗赤褐焼土3%
　赤褐焼土粒（5㎜因方）5%
13　5YR3/6　暗赤褐焼土　粘無締弱
　混暗赤褐焼土粒3%（現地性焼土）
14　10YR4/4　褐土　粘弱締有
　混黒褐3%

第17図　RA550竪穴住居跡

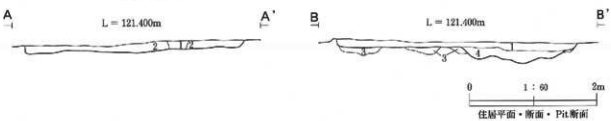


〈RA551〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通

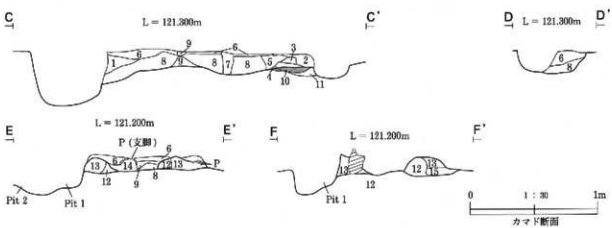
1　10YR2/3　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐土1％（RG452埋土）
2　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐土1％・炭化物粒3％
3　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐土ブロック10％（貼床埋土）
4　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐土粒10％
　　（Pit 3 埋土）



Pit 1, 2, 4, 5, 土層注記無



住居平面・断面・Pit断面



カマド断面

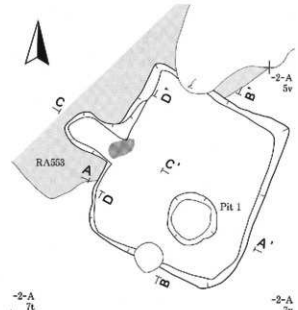
カマド断面　C－C'　D－D'　E－E'　F－F'　共通

1　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有　混にぶい黄褐5％
2　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混にぶい黄褐5％
　　にぶい赤褐焼土3％
　　暗赤褐焼土7％
3　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
　　混黒褐とにぶい赤褐焼土と明赤褐焼土3％
4　5YR4/4　にぶい赤褐焼土　粘弱締やや有
　　混黒褐土と明赤褐焼土5％
　　（一部天井崩落土）
5　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有　混明赤褐焼土粒3％

第18図　RA551（1）竪穴住居跡

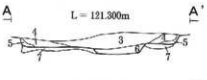
6　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
混褐とにぶい黄橙３％
東側にぶい赤褐焼土と黒３％
7　10YR3/4　暗褐土　粘無締弱　混にぶい黄橙３％
8　10YR3/4　暗褐土　粘無締弱
混にぶい黄褐土５％
一部ブロック（煙道埋土）
8-a 10YR3/4　暗褐土　粘無締弱
混にぶい赤褐焼土粒７％
明赤褐焼土粒３％黒３％（カマド埋土）
9　10YR5/4　にぶい黄褐土　粘無締弱
混暗褐５％（煙道埋土）

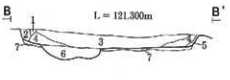
10　5YR3/6　暗赤褐焼土　粘無締有
混黒５％にぶい黄褐３％（現地性焼土）
11　10YR3/3　暗褐土　粘弱締有
混褐３％暗赤褐焼土１％
12　10YR2/3　黒褐土　粘無締やや有
混にぶい黄褐10%赤褐焼土粒３％（袖構成土）
13　10YR2/3　黒褐土　粘無締やや有
混にぶい黄褐10%（袖構成土）
14　10YR2/3　黒褐土　粘無締やや有
混赤褐焼土粒５％明赤褐焼土粒３％
15　10YR4/4　褐土　粘・締無　混黒褐３％

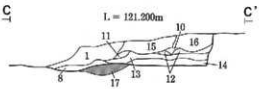


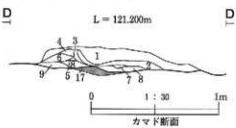
住居平面・断面

〈ＲＡ５５２〉
住居断面　Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ'　共通
1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有
混水酸化鉄３％（撹乱の土）
2　10YR3/3　暗褐土　粘弱締無　混水酸化鉄３％
3　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
混褐粒と炭化物と焼土粒３％
4　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有　混褐３％
5　10YR3/3　暗褐土　粘弱締やや有　混褐５％
6　10YR3/3　暗褐砂質土　粘弱締やや有
混褐１％（Pit１埋土）
7　10YR4/4　褐砂質土　粘弱締有
混黒１％（貼床構築土）





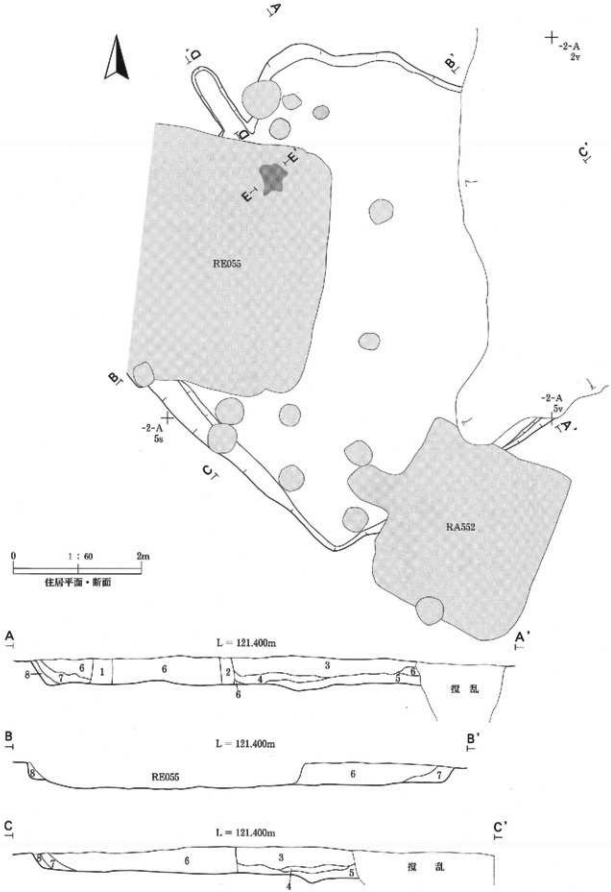




カマド断面

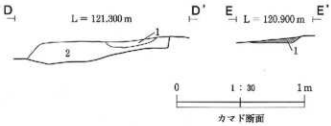
カマド断面　Ｃ－Ｃ'　Ｄ－Ｄ'　共通
1　10YR2/3　黒褐土　粘・締やや有
混褐と焼土粒と炭化物３％
2　10YR5/4　にぶい黄褐土　粘弱締やや有　混焼土粒３％
3　2.5YR3/3　暗赤褐焼土　粘弱締やや有
4　10YR2/2　黒褐土　粘やや有締有
混褐３％（袖構成土か？）
5　5YR3/4　暗赤褐焼土　粘・締やや有
混褐３％（被熱による袖赤変部分）
6　10YR5/4　にぶい黄褐土　粘弱締やや有　混黒褐１％
7　2.5YR3/3　暗赤褐焼土　粘弱締やや有
8　10YR3/3　暗褐土　粘・締やや有
混炭化物２％褐と焼土粒１％
9　10YR2/3　黒褐土　粘・締やや有
混焼土粒と炭化物３％褐１％
10　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有　50%焼土化
11　2.5YR3/4　暗赤褐焼土　粘弱締やや有　混褐３％
12　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有　焼土粒３％
13　10YR3/4　暗褐土　粘・締やや有
混焼土粒と炭化物３％（煙道埋土？）
14　10YR2/3　黒褐土　粘・締やや有
混褐３％（煙道埋土？）
15　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘やや有締有
混黒褐20%炭化物３％
16　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
17　2.5YR4/6　赤褐焼土　焼成良好（現地性焼土）

第19図　RA551（２）・RA552竪穴住居跡

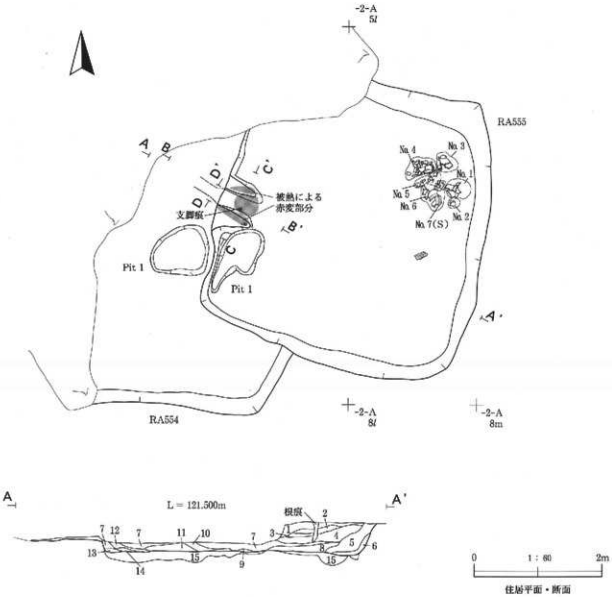


第20図　RA553（1）竪穴住居跡

〈RA553〉
住居断面　A－A'　B－B'　C－C'　共通
1　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有（新しい柱穴埋土）
2　10YR3/1　黒褐土　粘弱締有（新しい柱穴埋土）
3　10YR3/4　暗褐砂質土　粘弱締有
混褐粒～極大ブロック50%・
水酸化鉄１%と撹乱の土入
4　10YR4/1　褐灰土　粘・締やや有
混褐ブロック20%水酸化鉄１%
5　10YR3/1　黒褐土　粘・締やや有
混褐ブロック10%
6　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
混褐ブロック１%
7　10YR2/2　黒褐土　粘・締やや有
混褐ブロック３%
8　10YR4/3　にぶい黄褐砂質土　粘弱締有
混黒褐30%



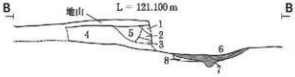
カマド断面　D－D'
1　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
混焼土粒２%褐１%（天井崩落土？）
2　10YR3/3　暗褐砂質土　粘弱締有　混褐５%
カマド燃焼部断面　E－E'
1　2.5YR4/6　赤褐焼土　焼成良好（現地性焼土）

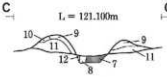


第21図　RA553（2）・RA554・555（1）竪穴住居跡

〈RA554・555〉
住居断面　A－A'

1　10YR2/3　黒褐土　粘無締有
　　混褐３％と撹乱の土（RA555埋土）
2　10YR3/2　黒褐土　粘無締有
　　混褐土10%黄褐７％（RA555埋土）
3　10YR2/3　黒褐土　粘無締有
　　混褐７％黒５％（RA555埋土）
4　10YR4/2　灰黄褐土　粘弱締有
　　混褐と明褐５％（RA555埋土）
5　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有
　　混暗褐３％床面近く７％（RA555埋土）
6　10YR4/6　にぶい黄褐土　粘弱締有
　　混黒褐７％（RA555埋土）
7　10YR3/3　暗褐土　粘無締やや有
　　混褐５％黒褐３％（RA555埋土）
8　10YR4/2　灰黄褐土　粘弱締有
　　混褐細粒10%（４層類似）（RA555埋土）
9　10YR4/2　灰黄褐土　粘弱締有
　　混褐10%以上明褐７％（４層類似）（RA555埋土）
10　10YR3/2　黒褐土　粘無締有
　　混褐３％（RA555埋土）
11　10YR3/3　暗褐土　粘無締有
　　混明褐３％（RA555埋土）
12　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混にぶい赤褐５％黒３％（RA555埋土）
13　10YR2/1　黒土　粘無締弱
　　混にぶい赤褐焼土ブロック５％
　　明赤褐焼土小ブロック３％（RA555カマド埋土）
14　5YR4/4　にぶい赤褐焼土　粘無締弱
　　混黒10%暗赤褐焼土７％（RA555カマド埋土）
15　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混褐10%（RA555貼床構築土）
16　10YR4/3　にぶい黄褐土
　　混褐５％（全体的に砂質傾向）（RA554埋土）



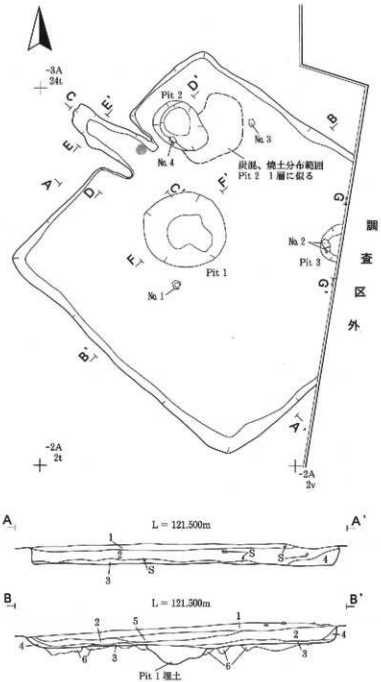


カマド断面

カマド断面　B－B'　C－C'　D－D'　共通

1　10YR4/2　灰黄褐土　粘無締やや有
　　混黒褐５％にぶい赤褐焼土３％
2　10YR4/2　灰黄褐土　粘やや有締弱
　　混にぶい赤褐焼土ブロック５％黒褐３％
3　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締弱
　　混黒と明褐とにぶい赤褐焼土ブロック３％
4　10YR3/2　黒褐土　粘無締弱砂質（煙道埋土）
5　10YR4/2　灰黄褐土　粘やや有締弱
　　混にぶい赤褐焼土５％黒褐３％
　　明褐１％（煙道埋土）
6　5YR4/4　にぶい赤褐焼土　粘無締弱
　　混黒と橙５％（現地性焼土）
7　5YR4/4　にぶい赤褐焼土　粘無締弱
　　混橙３％（現地性焼土）
8　7.5YR5/4　にぶい褐土　砂質
　　混にぶい赤褐焼土１％
9　5YR3/2　明赤褐焼土　粘・締弱
　　混赤褐焼土大粒と明赤褐焼土３％
　　（袖構成土・一部被熱により赤変）
10　10YR4/4　褐土　粘無締弱
　　混黒３％（袖構成土）
11　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混にぶい赤褐焼土と褐３％（袖構成土）
12　10YR3/2　黒褐土　粘弱締無
　　混赤褐焼土と黒３％（支脚抜取痕）

第22図　RA554・555（２）竪穴住居跡



Pit 1 断面　F－F'

1　10YR4/4　褐土
混黒褐 3 %・根痕

2　10YR2/3　黒褐土　混褐 5 %

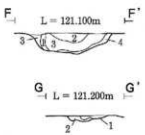
3　10YR2/2　黒褐土
混褐細粒 3 %上器片多量含

4　10YR3/3　暗褐土
混下位に水酸化鉄 1 %

Pit 3 断面　G－G'

1　5YR4/6　赤褐土　粘弱締やや有
混黒と明赤褐焼土 5 %

2　10YR5/6　黄褐土　粘弱締やや有
混明赤褐焼土と赤褐焼土
10%以上黒 5 %



住居平面・断面・Pit断面

〈ＲＡ５５６〉
住居断面　Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ'　共通

1　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
混褐 3 %黒 3 %水酸化鉄 1 %

2　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
混褐 3 %黒 5 %にぶい赤褐粒 5 %
北東側礫（径 3 ～ 5 cm）多数混

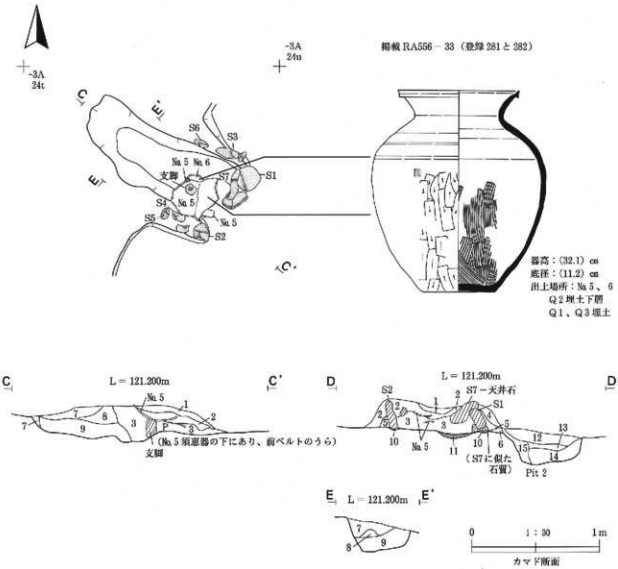
3　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘やや有締弱
混褐ブロック 7 %にぶい黄褐
とにぶい赤褐 3 %

4　10YR4/6　褐土　均質砂質
混黒褐 3 %

5　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
混褐灰 5 %黒とにぶい赤褐 3 %

6　10YR2/3　黒褐土　粘無締やや有
混褐10%以上（貼床構築土）

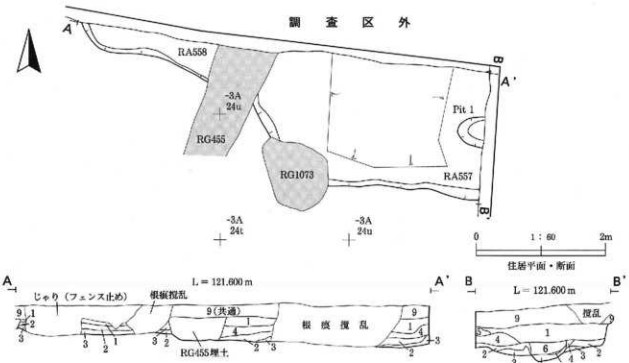
第23図　RA556（1）竪穴住居跡



カマド横断C－C' D－D' E－E' 共通

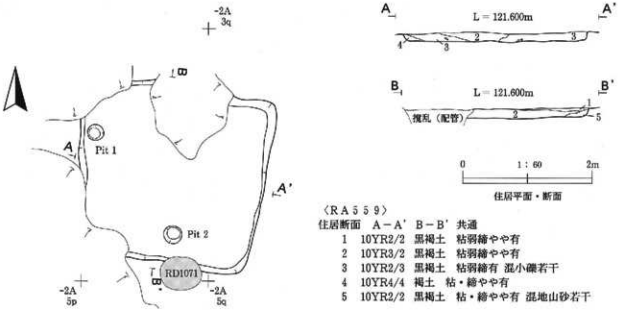
1　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混褐３％明赤褐焼土粒１％（カマド埋土）
2　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混明赤褐焼土粒３％褐１％（カマド埋土）
3　7.5YR3/2　黒褐土　粘無締弱
　　混にぶい赤褐焼土７％明赤褐焼土５％黒３％
　　（煙道埋土下部・12層に似る？）
4　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有
　　混褐３％（袖外側の上）
5　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有（袖外側の土）
6　10YR4/4　褐土　粘無締無（袖外側の土）
7　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱
　　混にぶい黄褐10%以上（煙道埋土上部）
8　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘・締弱
　　混黒褐５％（煙道埋土下部）
9　10YR4/4　褐土　粘・締無
10　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱（袖構成礫を支える土）
11　5YR4/6　赤褐土　粘無締やや有（現地性焼土）
12　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締弱
　　混暗赤褐焼土10%
　　にぶい赤褐焼土ブロック
　　と橙と炭片５％（Pit 2 埋土）
13　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締弱
　　混黄褐土３％（Pit 2 埋土）
14　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締弱
　　混黄褐土７％・下部ほぼブロック状（Pit 2 埋土）
15　10YR3/2　黒褐土　粘やや有締弱
　　混黄褐土５％・褐土３％（Pit 2 埋土）

第24図　RA556（２）竪穴住居跡



〈RA557・558〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通

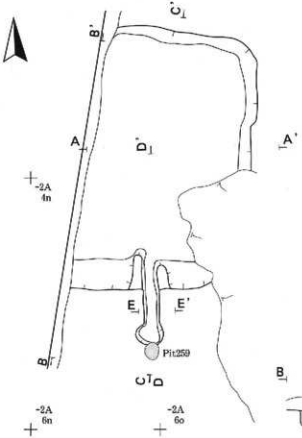
1　10YR2/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐５％黒褐と暗赤褐３％
2　10YR3/3　暗褐土　粘弱締やや有
　　混褐10%（ブロックと粒）
3　10YR4/6　褐土　粘有締やや有
　　混暗褐５％
4　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘弱締やや有
　　混暗褐５％（他より少し硬い）
5　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱
　　混黒５％赤褐焼土粒３％
6　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘弱締やや有
　　混褐10%黒と赤褐焼土粒３％（Pit１埋土）
7　10YR4/3　にぶい黄褐土
　　混にぶい黄褐５％（Pit１埋土）
8　10YR4/3　にぶい黄褐土
　　混褐７％赤褐焼土粒３％（Pit１埋土）
9　10YR2/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐５％黒褐と暗赤褐３％（盛土層）



〈RA559〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通

1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有
2　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
3　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有　混小礫若干
4　10YR4/4　褐土　粘・締やや有
5　10YR2/2　黒褐土　粘・締やや有　混地山砂若干

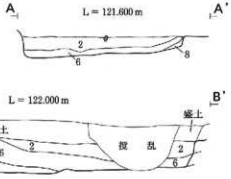
第25図　RA557・558・559竪穴住居跡

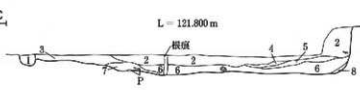


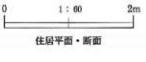
〈RA560〉

住居断面　A－A'　B－B'　C－C'　共通

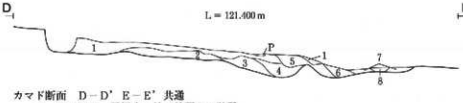
1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有（Pit259埋土）
2　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
　　混炭化物粒・焼土粒３％・土器片
3　10YR3/2　黒褐土　粘弱締有
4　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有
5　10YR2/1　黒土　粘弱締やや有
6　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混褐土細粒と炭化物粒と焼土粒３％
7　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘・締やや有
　　混炭化物粒・焼土粒・土器片（カマド上部か？）
8　10YR3/4　暗褐土　粘・締やや有　混炭化物粒３％
9　10YR2/3　黒褐土　粘・締やや有　混褐と炭化物粒３％
10　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有　混褐と炭化物粒３％

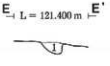


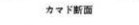




住居平面・断面





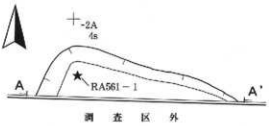


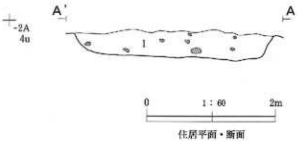
カマド断面

カマド断面　D－D'　E－E'　共通

1　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱やや砂質
　　混北側赤褐焼土３％（煙道埋土）
2　10YR3/4　暗褐土　粘無締弱　混黒褐３％小礫径３cm以下多数（煙道埋土）
3　10YR3/2　黒褐土　粘無締弱砂質　混黒３％（煙道埋土）
4　5YR4/6　赤褐焼土　粘締弱　混明赤褐色焼土５％黒３％（カマド天井崩落土）
5　10YR3/2　黒褐土　粘無締やや有　混黒と赤褐焼土３％
6　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱砂質　混炭黄褐５％
　　にぶい黄褐３％
7　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締弱砂質　混褐５％
　　にぶい黄褐３％
8　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘無締弱砂質　混褐７％

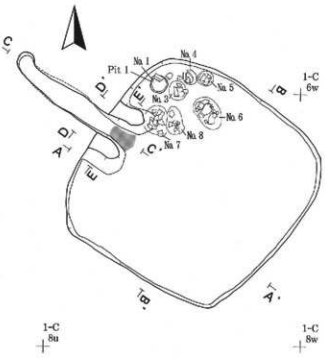
第26図　RA560竪穴住居跡

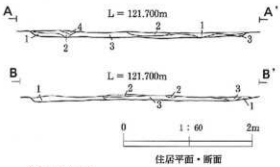




住居平面・断面

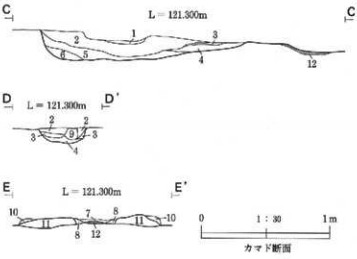
〈RA561〉
住居断面　A－A'
　1　10YR2/2　黒褐色土　粘中締やや有
　　混土器小片若干1㎝～拳大の礫多量





住居平面・断面

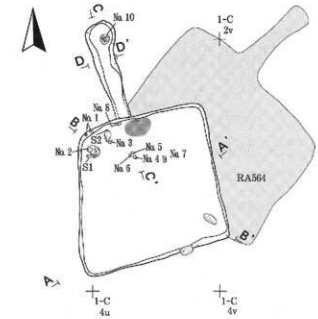
〈RA562〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通
　1　10YR4/2　灰黄褐土　砂質
　　混黒褐5％（攪乱の土混）黒3％
　　下位に水酸化鉄層有
　2　10YR4/2　灰黄褐土　砂質締やや有
　　混黒褐とにぶい黄褐3％
　3　10YR4/2　灰黄褐土　粘・締弱
　　混黒褐7％黒3％（攪乱の土少混）
　4　10YR3/1　黒褐土　粘無構成粗締弱
　　混褐5％黒3％（目立つ黒土）



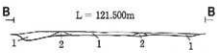
カマド断面

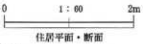
カマド断面　C－C'　D－D'　E－E'　共通
　1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有　混褐5％
　2　10YR4/4　褐土　粘無締やや有（天井部崩落土）
　3　10YR3/4　暗褐土　粘弱締やや有
　　混黒褐3％
　4　10YR2/3　黒褐土　粘中締やや有
　　混焼土粒～極小ブロック3％（煙道埋土）
　5　10YR2/1　黒土　粘中締弱
　　混焼土粒と褐3％（煙道埋土）
　6　10YR3/2　黒褐土　粘中締弱（煙道埋土）
　　混褐3％（煙道埋土）
　7　10YR3/3　暗褐土　粘中締やや有　混焼土粒3％
　8　10YR3/2　黒褐土　粘中締やや有
　　混焼土粒と黒土3％
　9　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有　混褐3％
　10　10YR3/2　黒褐土　粘・締弱（袖埋土）
　11　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘弱締有（袖構成土）
　12　5YR4/6　赤褐焼土　混暗褐3％焼成中（現地性焼土）

第27図　RA561・562竪穴住居跡

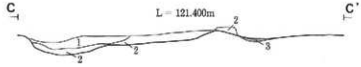


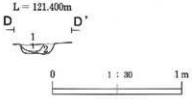
〈RA563〉
住居断面　A－A'　B－B'　共通
1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有
　　混炭化物粒３％褐土１％
2　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
　　混褐１％





住居平面・断面

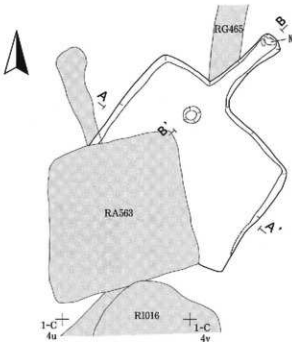




カマド断面

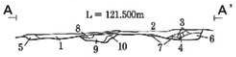
カマド断面　C－C'　D－D'　共通
1　10YR2/1　黒土　粘弱締やや有
　　混褐砂と焼土１％
2　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有
3　5YR4/6　赤褐焼土
　　混粘褐５％焼成不良
　　（現地性焼土）

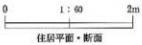
第28図　RA563竪穴住居跡

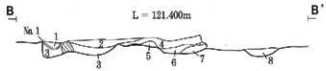


〈RA564〉
住居断面A－A'　B－B'共通

1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締有　混褐と水酸化鉄1％
2　10YR2/1　黒土　粘弱締有　混褐と炭化物粒3％
3　10YR3/3　暗褐土　粘弱締有
　　混褐3％焼土粒と炭化物粒1％土器片混入
4　5YR5/6　明赤褐焼土ブロック
　　粘弱締やや有　混褐1％
5　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
　　混褐10％水酸化鉄1％
6　10YR5/4　にぶい黄褐土　粘弱締有
　　混褐と焼土粒3％
7　10YR4/4　黄褐砂質土　粘無締有
　　混にぶい黄褐1％
8　10YR2/1　黒土　粘無締有（RG465埋土）
9　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有
　　混褐砂質土と焼土粒と炭化物1％（RG465埋土）
10　10YR3/3　暗褐土　粘弱締有
　　混褐砂質土5％（RG465埋土）



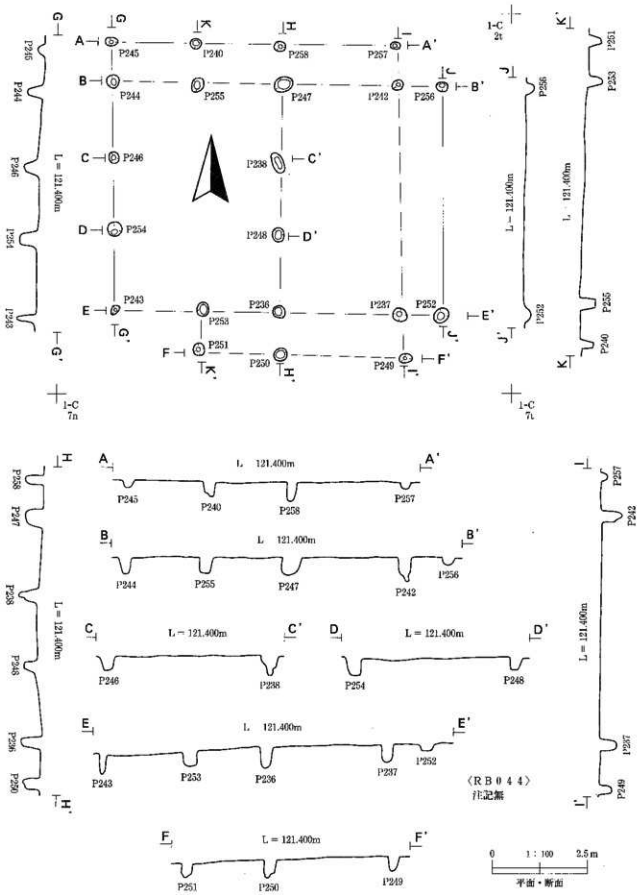




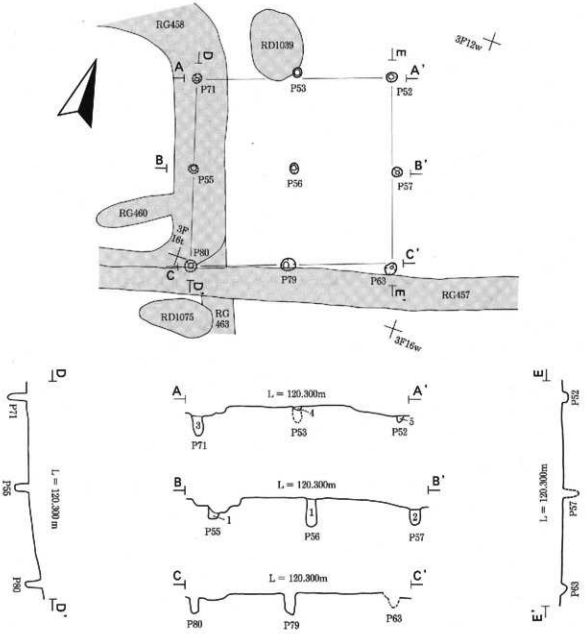
カマド煙道縦断　B－B'

1　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有
　　混焼土粒3％
2　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有
　　混焼土粒と褐砂質土3％
3　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
　　混褐砂質土1％
4　10YR2/2　黒褐土　粘弱締やや有
　　混炭化物粒と焼土粒3％
　　褐砂質土1％
5　10YR4/3　にぶい黄褐土　粘弱締有
　　混褐砂質土10％
6　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有
　　混焼土粒3％
7　暗褐土　粘弱締やや有
　　混褐砂質土10％
8　10YR2/3　黒褐土　粘弱締やや有
　　混焼土粒と褐砂質土10％

第29図　RA564竪穴住居跡



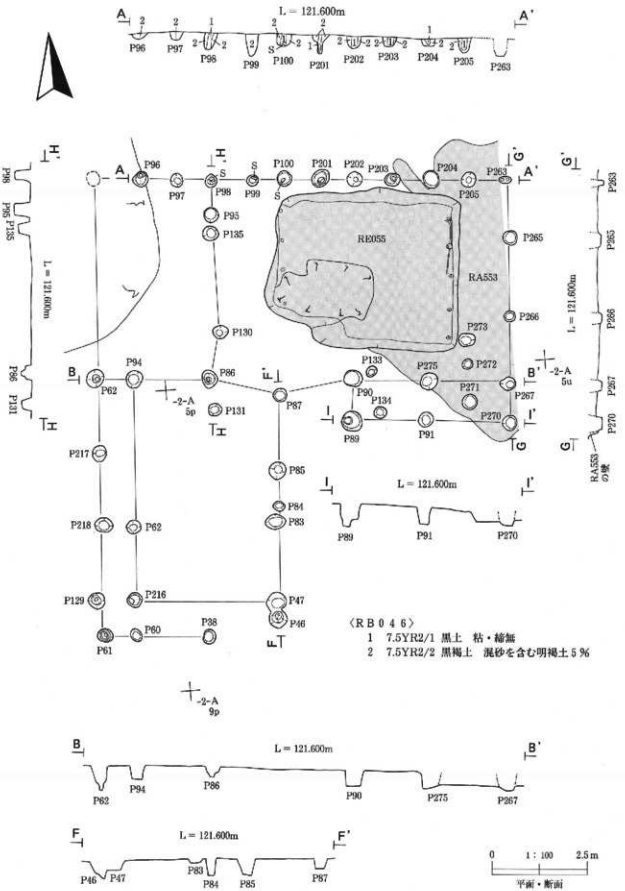
第30図　RB044掘立柱建物跡



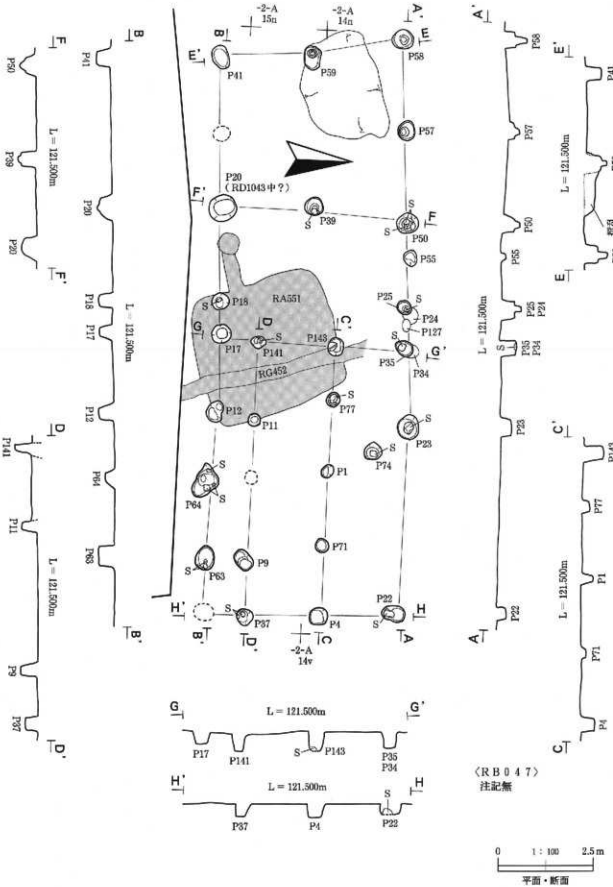
〈RB045〉
1　10YR3/3　暗褐土　粘・締やや有
　　混にぶい黄褐５％黒褐３％
2　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
　　混にぶい黄褐７％
3　10YR3/2　黒褐土　粘弱締やや有
4　10YR3/4　暗褐土　粘弱締やや有
　　混にぶい黄褐大粒７％
5　10YR3/2　黒褐土　粘締やや有

0　1：100　2.5m
平面・断面

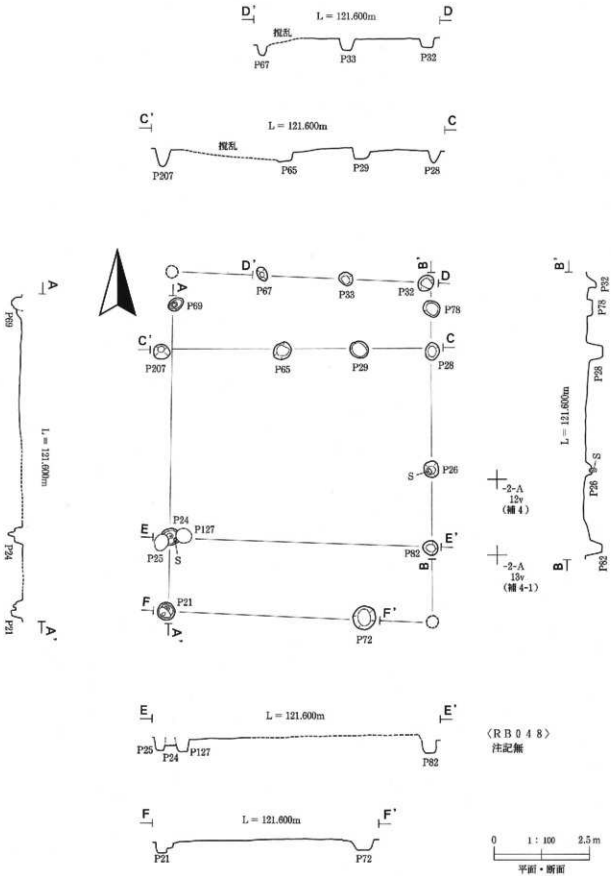
第31図　RB045掘立柱建物跡



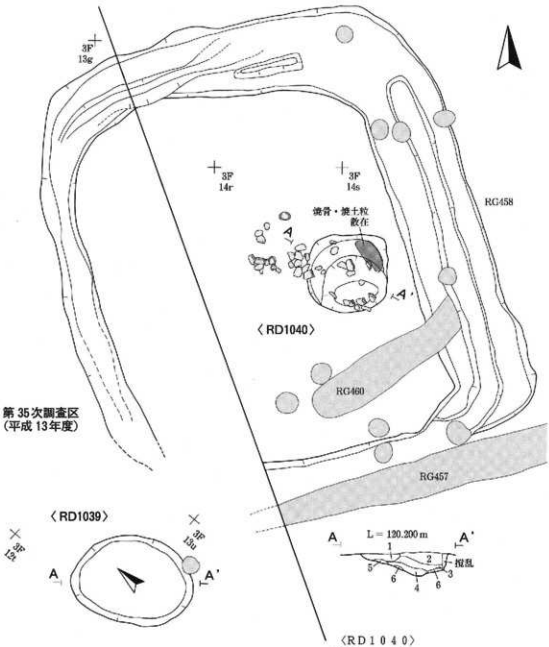
第32図 RB046掘立柱建物跡



第33図　RB047掘立柱建物跡



第34図　RB048掘立柱建物跡



〈RD1039〉
断面　A－A'

1　10YR2/2　黒褐土　混黒褐土5％
2　10YR4/4　褐土　混にぶい黄橙10%
　　黄褐5％明赤褐土5％
3　10YR2/2　黒褐土　混褐3％
4　10YR4/6　褐土　混黒褐5％

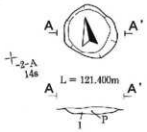
〈RD1040〉
断面　A－A'

1　10YR2/2　黒褐土　混にぶい赤褐（焼土状）と
　　褐3％　焼骨有
2　10YR2/3　黒褐土　混にぶい赤褐3％
　　褐細粒～極大ブロック5％
3　10YR3/3　暗褐土　混にぶい赤褐3％
　　褐細粒～極大ブロック10%
4　10YR2/3　黒褐土　混褐3％
5　10YR3/3　暗褐土　混褐10%
6　10YR4/3　にぶい黄褐土　混褐3％

0　1：60　2m
平面・断面

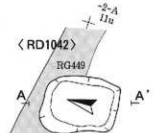
第35図　RD1039・1040土坑

〈RD1041〉



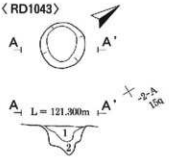
〈RD1041〉
断面　A－A'
1　10YR4/1　褐炭土　混水酸化鉄

〈RD1042〉



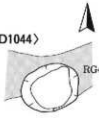
〈RD1042〉
断面　A－A'
1　2.5YR4/2　灰赤焼土
　　混水酸化鉄小礫（1～3㎝）
　　炭化物微量
2　2.5YR3/2　暗赤褐焼土　混1層に同
3　10YR4/6　褐土　地山崩落土
4　10YR2/3　黒褐土

〈RD1043〉



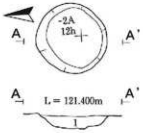
〈RD1043〉
断面　A－A'
1　10YR3/2　黒褐土　混褐1％
2　10YR3/2　黒褐土　混褐10％

〈RD1044〉



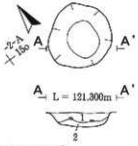
〈RD1044〉
断面　注記無

〈RD1045〉



〈RD1045〉
断面　A－A'
1　2.5YR3/2　暗赤褐焼土
　　混褐砂質ブロック1％
　　黒褐土ブロックと　炭化物3％

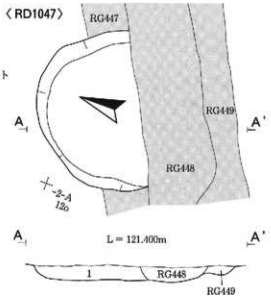
〈RD1046〉



〈RD1046〉
断面　A－A'
1　10YR3/2　黒褐土　混褐ブロック5％
2　10YR3/2　黒褐土　褐ブロックとの混合土

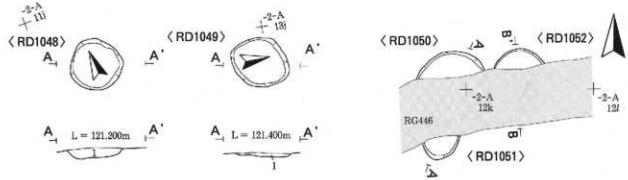
0　1：60　2m
平面・断面

〈RD1047〉



〈RD1047〉
断面　A－A'
1　7.5YR2/1　黒色土シルト

第36図　RD1041～1047土坑



〈RD1048〉
断面　A－A'
　1　7.5YR3/1 黒褐土　混水酸化鉄多量
　　炭化物3％

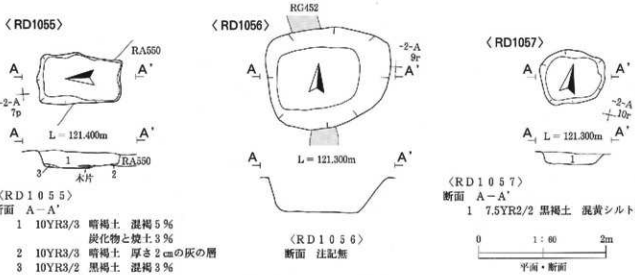
〈RD1049〉
断面　A－A'
　1　10YR3/3　暗褐土　混炭化物3％

〈RD1050・1051〉
断面　A－A'
　1　10YR3/3　暗褐土　混黒褐3％　酸化鉄・炭化物

〈RD1052〉
断面　B－B'
　1　10YR3/3　暗褐土　混黒ブロック（1～2㎝）5％
　　小礫3％

〈RD1053〉
断面　A－A'
　1　10YR3/2　黒褐土　混褐ブロック5％　炭化物1％

〈RD1054〉
断面　A－A'
　1　10YR3/2　黒褐土　混褐ブロック10％
　　炭化物1％



〈RD1055〉
断面　A－A'
　1　10YR3/3　暗褐土　混褐5％
　　炭化物と焼土3％
　2　10YR3/3　暗褐土　厚さ2㎝の灰の層
　3　10YR3/2　黒褐土　混褐3％

〈RD1056〉
断面　注記無

〈RD1057〉
断面　A－A'
　1　7.5YR2/2 黒褐土　混黄シルト粒

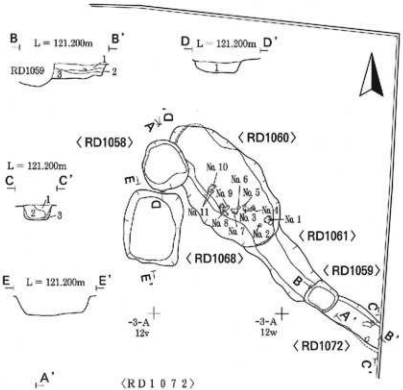
第37図　RD1048～1057土坑

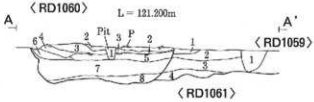
〈RD1058〉
断面　D－D'
1　10YR3/3　暗褐土
黄褐土ブロック径1cm
との混合土

〈RD1059〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土　黄土との混合土
混炭化物3％

〈RD1060〉
断面　A－A'
1　柱
2　10YR2/2　黒褐土　黄褐土との混合土
混炭化物と焼土3％
3　10YR3/4　暗褐土　混焼土粒と
炭化物粒3％
4　10YR3/3　暗褐土　混焼土粒3％
5　10YR3/4　暗褐土　混焼土粒と
炭化物粒7％　土器入
6　10YR3/3　暗褐土　4層より焼土粒少
黄褐土との混合土
7　10YR3/3　暗褐土　黄褐ブロック
との混合土
8　10YR2/2　黒褐土　混黄褐3％

〈RD1068〉
断面　注記解

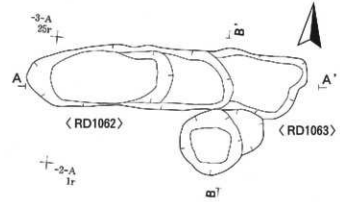




〈RD1061〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土　黄褐土との混合土
炭化物と焼土微量混
2　10YR3/4　暗褐土　混焼土粒・炭化物7％
土器入
3　10YR3/3　暗褐土　黄褐ブロックとの混合土
4　10YR2/2　黒褐土　混黄褐3％

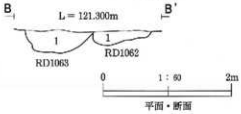
〈RD1072〉
断面　B－B'
1　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
混褐粒黒3％
2　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
混褐3％にぶい赤褐焼土5×5cm
ブロック5％
土器師・甕口縁部含む層
3　10YR3/2　黒褐土　粘・締やや有
混褐粒にぶい赤褐焼土3％
（下部に層状）

断面　C－C'
1　10YR3/2　黒褐土　混にぶい黄褐10％
2　10YR3/2　黒褐土　混赤褐5％粒と黒3％
3　10YR4/2　灰黄褐土

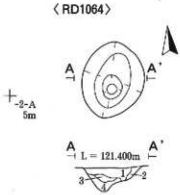


〈RD1062〉
断面　A－A'
1　10YR3/2　黒褐土　混褐小ブロック
～細粒5％

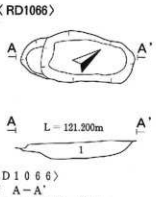
〈RD1063〉
断面　B－B'
1　10YR2/3　黒褐土　混褐小ブロック
～細粒5％



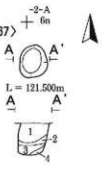
第38図　RD1058・1059・1060・1061・1062・1063・1068・1072土坑



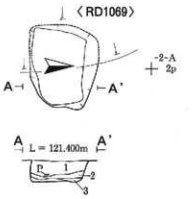
〈RD1064〉
断面　A－A'
1　10YR2/2　黒褐土　混褐小ブロック１％
2　10YR3/4　暗褐土　混黒褐30％
3　10YR3/2　黒褐土　混褐20％
4　10YR4/3　にぶい黄褐土　混黒褐１％



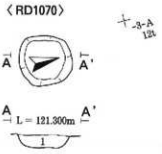
〈RD1066〉
断面　A－A'
1　10YR3/3　暗褐土



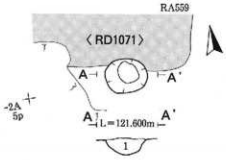
〈RD1067〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土　混褐と炭化物３％
2　10YR3/3　暗褐土
3　10YR2/2　黒褐土
4　10YR4/4　褐土



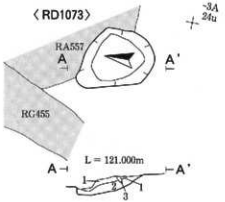
〈RD1069〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土　混小礫若干
2　10YR3/4　暗褐土
3　10YR3/2　黒褐土



〈RD1070〉
断面　A－A'
1　10YR4/3　にぶい黄褐土
混褐ブロック状５％



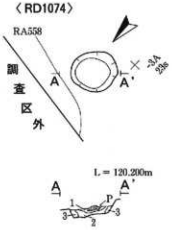
〈RD1071〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土
混径２～５cmの小礫若干
褐３％埋土上位に土師杯混在



〈RD1073〉
断面　A－A'
1　10YR5/2　灰黄褐土　攪乱の土？
混黒５％（炭片）
2　10YR3/3　暗褐土　混黄褐小ブロック５％
3　10YR3/3　暗褐土　混黒５％

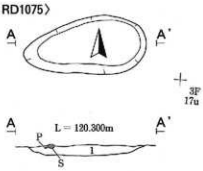
第39図　RD1064・1066・1067・1069・1070・1071・1073土坑

〈RD1074〉



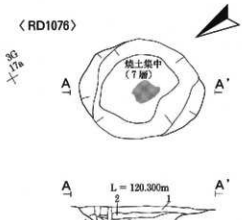
〈RD1074〉
断面　A－A'
1　10YR3/2　黒褐土　混褐粒１％黒５％(炭)
　　にぶい赤褐３％(混入?)
2　10YR3/2　黒褐土　混にぶい黄褐粒５％
　　褐１％
3　10YR4/3　にぶい黄褐土　砂質　混黒褐５％

〈RD1075〉

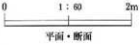


〈RD1075〉
断面　A－A'
1　10YR2/2　黒褐土　混褐細粒３％
　　埋土上位土器片若干

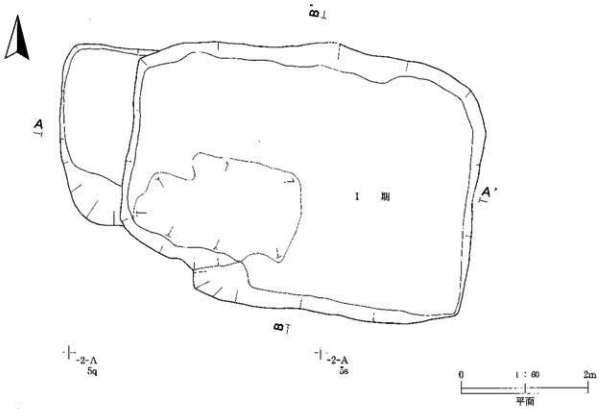
〈RD1076〉

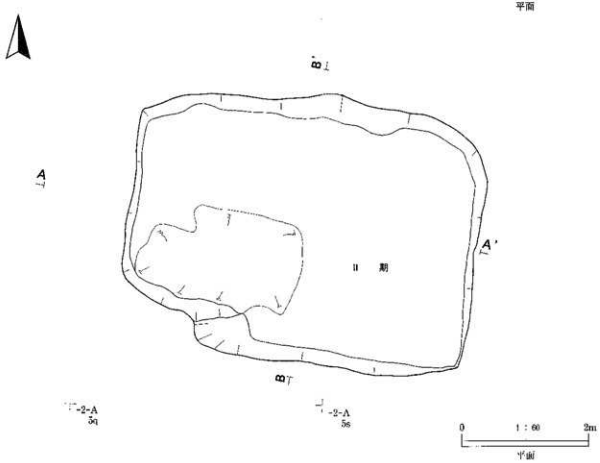


〈RD1076〉
断面　A－A'
1　10YR3/2　黒褐土　混褐３％黒３％
2　10YR4/3　にぶい黄褐土　混にぶい赤褐焼土粒３％
3　10YR4/3　にぶい黄褐土　混にぶい赤褐焼土粒５％
　　褐３％
4　10YR4/3　にぶい黄褐土
　　混にぶい赤褐焼土粒７％（小ブロック）
　　黒土（炭混５×３cm・２×３cmブロック）
5　10YR4/4　褐土　混黒褐５％
6　10YR4/4　褐土　混にぶい赤褐焼土３％
　　（３×２cmブロック）
7　2.5YR4/3　にぶい赤褐焼土　混赤褐土（焼土層）

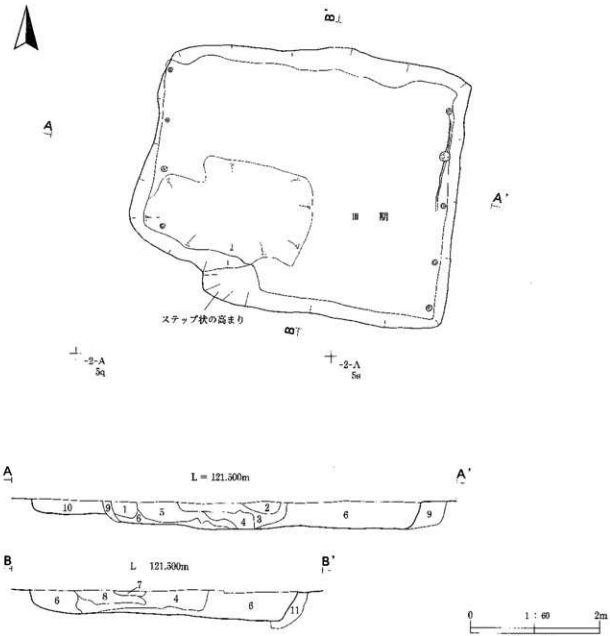


第40図　RD1074・1075・1076土坑





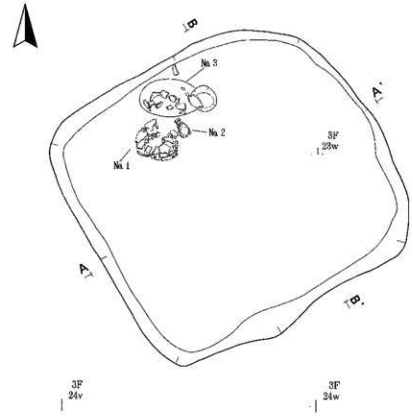
第41図　RE055（1）竪穴状遺構

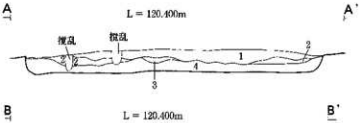


〈ＲＥ０５５〉
断面Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ' 共通

1	10YR7/1	黒色土　粘やや有締有　混炭多量ビニル（新しいゴミ穴）
2	10YR3/3	暗褐土　粘・締やや有　混黄褐10%籾殻小礫（撹乱）
3	10YR3/2	黒褐土　粘弱締無　混砂礫（１～５cm）多量籾殻（撹乱）
4	10YR3/1	黒褐土　粘やや有締有　混小礫と水酸化鉄３％（撹乱）
5	10YR5/2	灰黄褐砂　粘無締やや有　混小礫30%籾殻木片（撹乱）
6	10YR2/2	黄褐土　粘やや有締有　混小礫と水酸化鉄３％（ＲＥ055埋土）
7	10YR4/3	にぶい黄褐砂　粘弱締有　混炭化物３％（撹乱）
8	10YR4/4	褐灰砂　粘弱締有　混上位に籾殻（地山又は撹乱）
9	10YR3/2	黒褐土　粘・締やや有混水酸化鉄と炭化物３％
10	10YR2/2	黒褐土　粘やや有締有　混小礫と黄褐土３％
11	10YR3/2	黒褐土　粘・締やや有（古い土坑埋土）

第42図　RE055（２）竪穴状遺構

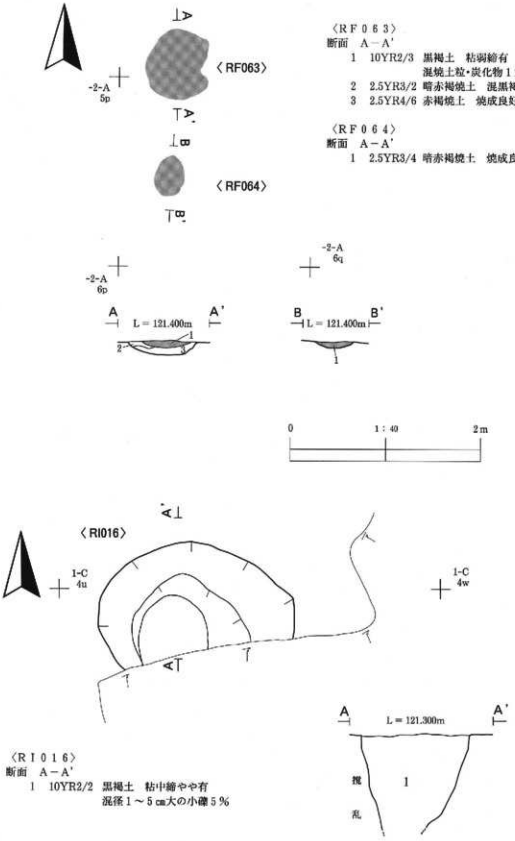




〈ＲＥ０５６〉
断面Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ'　共通

1	10YR2/2	黒褐土，粘弱締有 混褐細粒３％と土器片
2	10YR2/3	黒褐土，粘・締やや有 混褐細粒５％
3	10YR3/3	暗褐土　粘・締やや有 混暗赤褐焼土細粒 ～極小ブロック30％
4	10YR3/2	黒褐土　粘やや有締有 混褐細粒３％

第43図　RE056竪穴状遺構

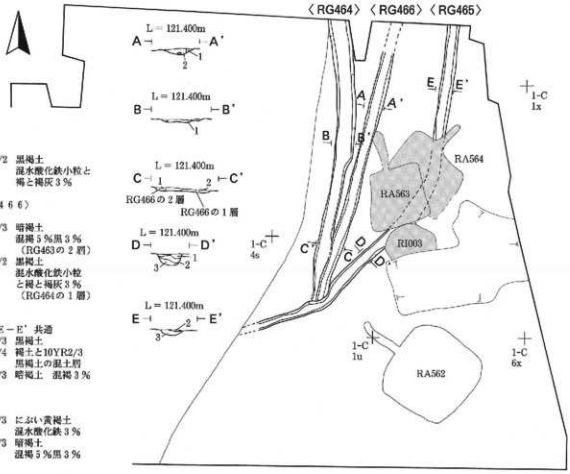


〈RF063〉
断面　A－A'
1　10YR2/3　黒褐土　粘弱締有
混焼土粒・炭化物1％
2　2.5YR3/2　暗赤褐焼土　混黒褐10％
3　2.5YR4/6　赤褐焼土　焼成良好

〈RF064〉
断面　A－A'
1　2.5YR3/4　暗赤褐焼土　焼成良好

〈RI016〉
断面　A－A'
1　10YR2/2　黒褐土　粘中締やや有
混径1～5㎝大の小礫5％

第44図　RF063・064焼土遺構　RI016井戸跡



〈RG464〉
断面　B－B'
1　10YR2/2　黒褐土
混水酸化鉄小粒と
褐と褐灰3％

〈RG464，466〉
断面　C－C'
1　10YR3/3　暗褐土
混褐5％黒3％
（RG463の2層）
2　10YR2/2　黒褐土
混水酸化鉄小粒
と褐と褐灰3％
（RG464の1層）

〈RG465〉
断面　D－D'　E－E'共通
1　10YR2/3　黒褐土
2　10YR4/4　褐土と10YR2/3
黒褐土の混土層
3　10YR3/3　暗褐土　混褐3％

〈RG466〉
断面　A－A'
1　10YR4/3　にぶい黄褐土
混水酸化鉄3％
2　10YR3/3　暗褐土
混褐5％黒3％

〈RG457〉
断面　A－A'　B－B'共通
1　10YR4/2　灰黄褐土(現耕作土)
2　7.5YR5/6　明褐土
水酸化鉄集積層混黒土3％（水田床土）
3　10YR2/2　黒褐土（検出面）
4　10YR2/3　極暗褐土（RG457埋土）
5　10YR3/3　暗褐土（RG457埋土）

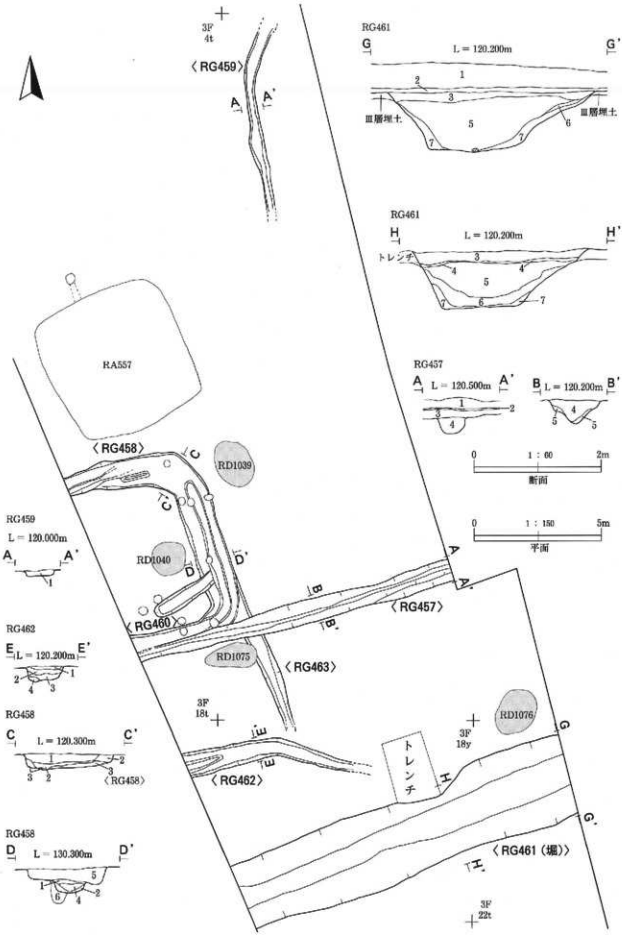
〈RG458〉
断面　C－C'　D－D'共通
1　10YR3/2　黒褐土　混黒と明赤褐3％
2　10YR3/2　黒褐土　混褐5％
3　10YR4/4　褐土　混黒褐5％
4　10YR3/2　黒褐土　混褐7％
5　10YR3/2　黒褐土　混褐と明赤褐3％
6　10YR3/2　黒褐土　混褐3％（Pit埋土）

〈RG459〉
断面
1　10YR3/3　暗褐土

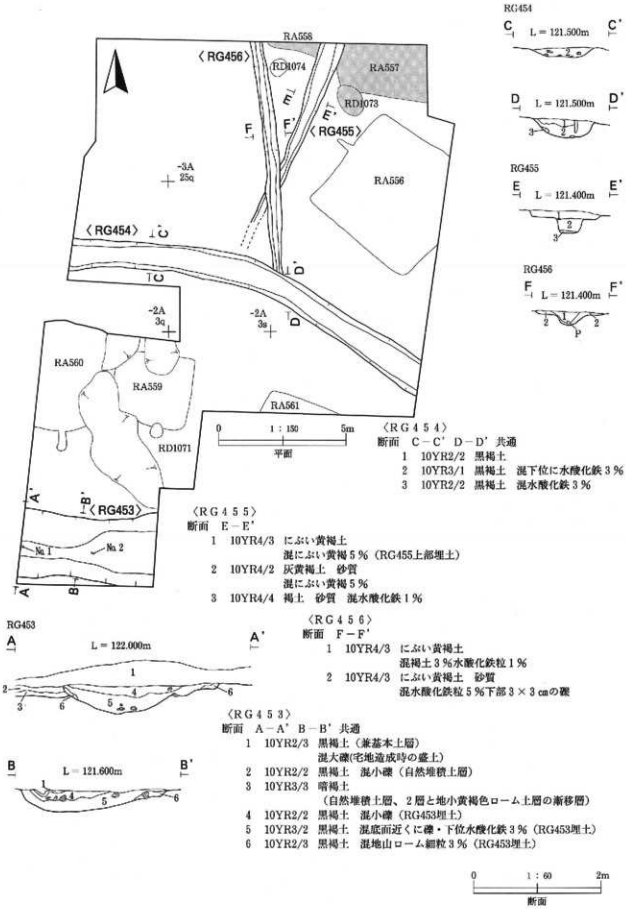
〈RG461〉
断面　H－H'　G－G'共通
1　10YR4/1　褐灰土　（現代耕作土）
2　5YR6/8　橙土　水酸化鉄集積層　（水田床土）
3　10YR4/3　にぶい黄褐土
混褐土3％・3～5cm大礫1％
全体に一様な色調（RG461埋土）
4　10YR4/4　褐土　混にぶい黄褐10％（R461埋土）
5　10YR3/3　暗褐土　混褐40％・西側湧水層（RG461埋土）
6　10YR3/4　暗褐土　混褐20％（RG461埋土）
7　10YR3/2　黒褐土　混褐1％黒褐多褐ごく微量
（黒が強い層）（RG461埋土）

〈RG462〉
断面　E－E'
1　10YR3/3　暗褐土
2　10YR4/3　にぶい黄褐土　混褐10％
3　10YR3/4　暗褐土
4　10YR3/2　黒褐土

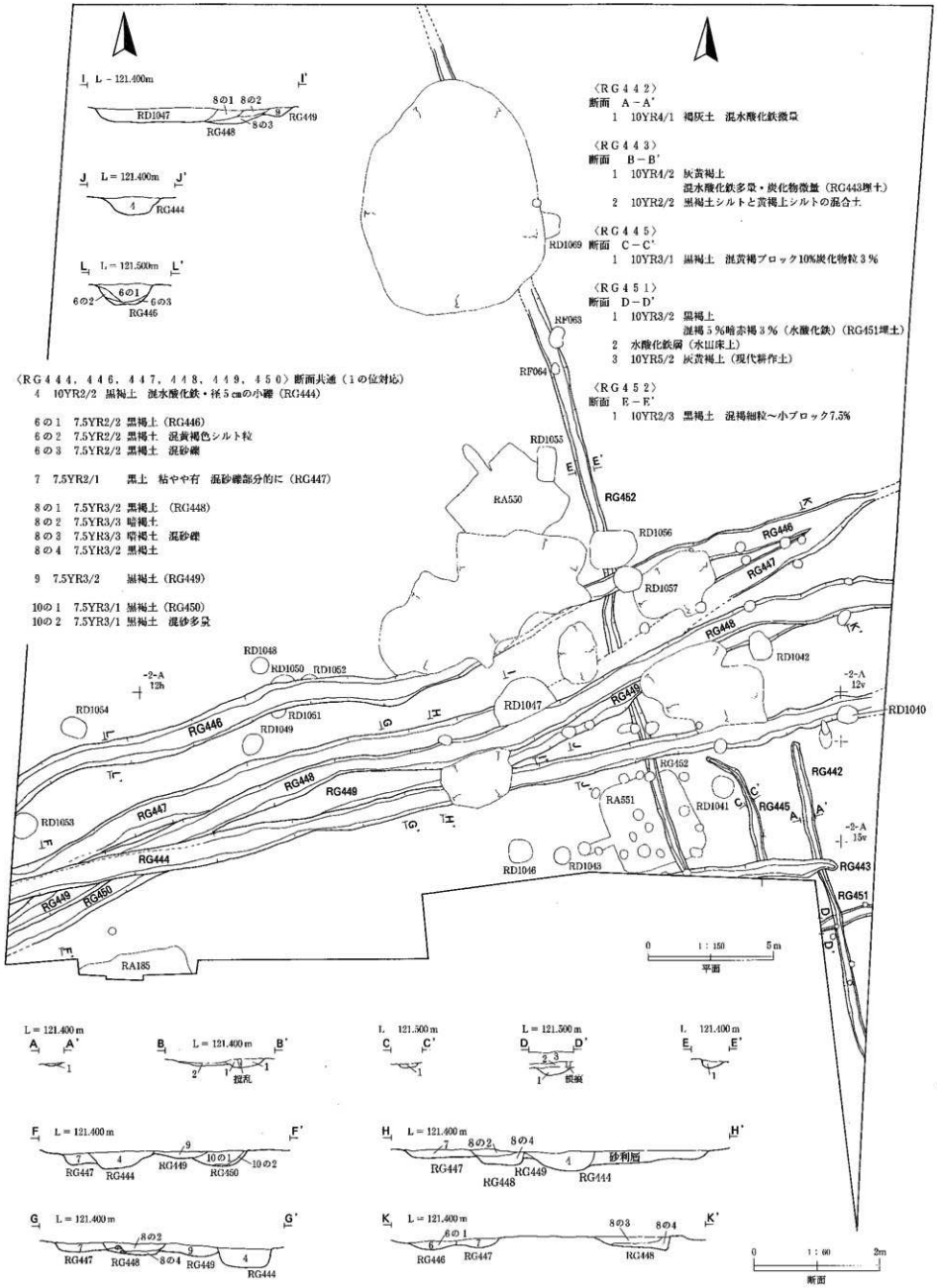
第45図　RG464・465・466溝跡（西区）



第46図　RG457・458・459・460・461・462・463溝跡（東区）



第47図 RG453・454・455・456溝跡（北東区）

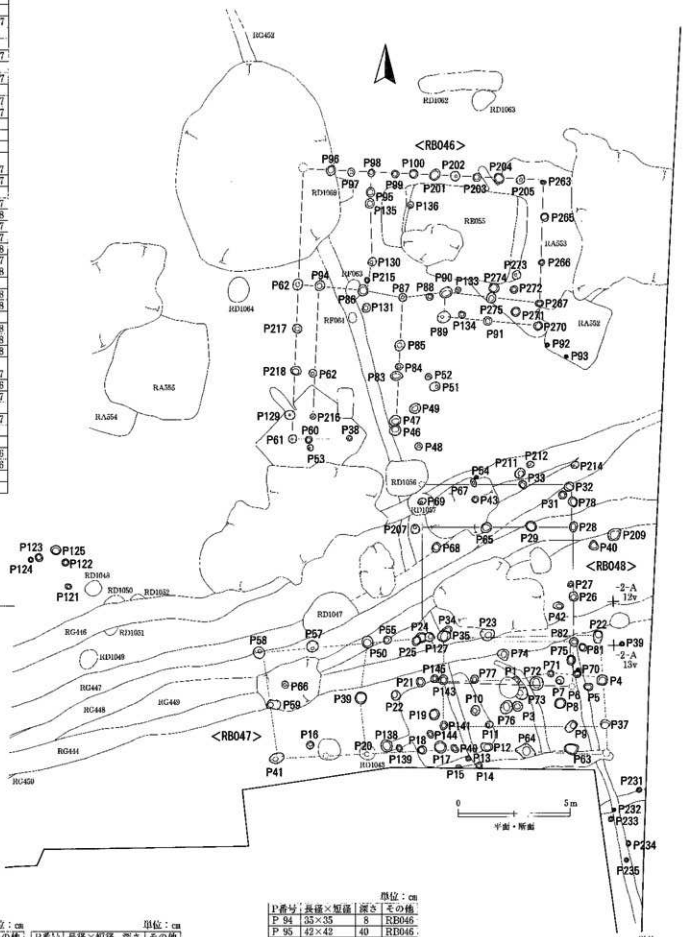


第48図 RG442～452遺構（北Ⅰ区）

表2　北Ⅰ区柱穴状土坑一覧

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P 1	35×30	32	RB047
P 2	50×30	49	
P 3	43×45	30	
P 4	45×45	36	RB047
P 5	43×35	24	
P 6	35×34	37	
P 7	38×35	26	RB047
P 8	50×50	33	
P 9	55×40	40	RB047
P10	50×30	40	
P11	35×33	41	RB047
P12	50×35	50	RB047
P13	35×30	21	
P14	40×(38)	44	
P15	40×(20)	37	
P16	30×30	33	
P17	32×50	32	RB047
P18	44×40	36	RB047
P19	45×42	32	
P20	75×70	50	RB047
P21	48×43	32	RB048
P22	40×40	24	RB047
P23	62×65	(8)	RB047
P24	45×40	35	RB048
P25	40×35	34	RB047
P26	40×35	(9)	RB048
P27	22×22	12	
P28	38×38	37	RB048
P29	47×40	32	RB048
P31	40×40	33	
P32	42×42	23	RB048
P33	36×35	30	RB048
P34	35×30	38	RB048
P35	32×35	31	
P37	45×45	31	RB047
P38	40×32	22	RB046
P39	50×48	46	RB047
P40	45×43	18	
P41	60×45	40	RB047
P42	50×35	15	
P43	30×30	22	
P46	50×48	44	RB046
P47	50×50	28	RB046
P48	30×35	45	
P49	50×48	8	



第49図　RZ031（1）（北Ⅰ区）柱穴状土坑

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P50	32×36	18	RB047
P51	68×36	23	
P52	20×18		
P53	30×30	21	
P54	22×20	15	
P55	45×32	12	RB047
P57	50×45	30	RB047
P58	50×50	35	RB047
P59	60×42	21	RB047
P60	40×30	20	RB046
P61	40×40	24	RB046
P62	48×42	58	RB046
P63	60×48	32	RB047
P64	60×53	44	RB047
P65	46×40	23	RB048
P66	30×30	14	
P67	40×27	30	RB048
P68	40×40	25	
P69	40×22	11	RB048
P70	16×15	45	

単位：cm

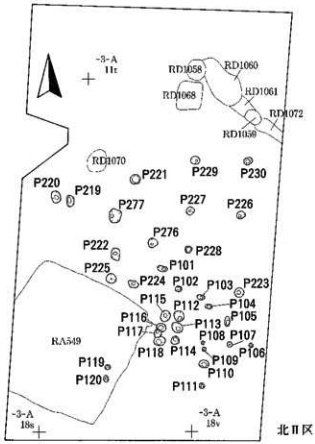
P番号	長径×短径	深さ	その他
P71	34×27	10	RB048
P72	63×60	23	
P73	58×45	46	
P74	50×45	34	
P75	44×40	32	RB048
P76	50×50	19	
P77	40×35	(19)	RB047
P78	50×42	18	RB048
P81	40×32	17	
P82	35×80	33	RB048
P83	50×45	11	RB046
P84	30×30	47	RB046
P85	50×46	72	RB046
P86	45×40	16	RB046
P87	36×36	33	RB046
P88	29×27	25	
P89	55×50	52	RB046
P90	50×43	41	RB046
P91	40×40	48	RB046
P92	50×30	25	

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P 94	35×35	8	RB046
P 95	42×42	40	RB046
P 96	45×40	19	RB046
P 97	35×35	26	RB046
P 98	35×35	48	RB046
P 99	35×30	58	RB046
P100	40×40	31	RB046
P121	30×22	16	
P122	40×30	13	
P123	40×30	22	
P124	28×20	21	
P125	42×42	11	
P127	40×38	20	
P129	48×42	22	RB046
P130	40×38	31	RB046
P131	40×35	25	
P133	30×30	19	
P134	35×32	12	
P135	40×40	28	RB046
P136	30×30	8	
P138	55×55		
P139	29×15		
P141	35×35	42	RB047
P143	50×38	46	RB047
P144	40×30	13	
P145	35×30	31	
P201	50×48	35	RB046
P202	40×40	40	RB046
P203	40×32	26	RB046
P204	45×40	21	RB046
P205	42×38	47	RB046
P207	42×40	46	
P209	60×50	30	
P211	42×40	19	
P212	30×30	15	
P214	30×25	7	

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P215	55×45		
P216	35×35	30	RB046
P217	42×36	32	RB046
P218	46×32	37	RB046
P219	45×30	26	
P220	45×35	36	
P221	40×35	27	
P222	45×35	34	
P223	40×40	28	
P224	48×30	29	
P225	40×38	39	
P226	35×30	33	
P227	30×30	32	
P228	28×28	21	
P229	34×30	28	
P230	35×30	31	
P231	30×30	31	
P232	30×20	6	
P233	32×32	21	
P234	30×26	19	
P235	30×20	20	
P262	60×(30)	21	
P263	30×20	14	RB046
P265	40×36	8	RB046
P266	32×25	6	RB046
P267	38×30	11	RB046
P270	40×36	12	RB046
P271	40×40	5	
P272	35×35	7	
P273	35×32	4	
P274	45×43	19	
P275	40×(35)	33	RB046



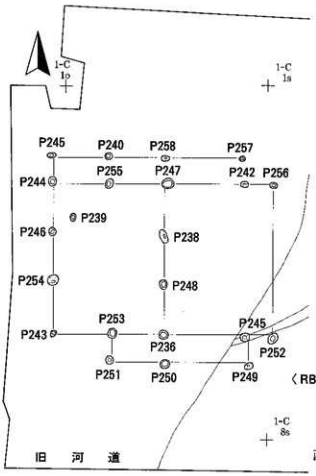
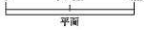


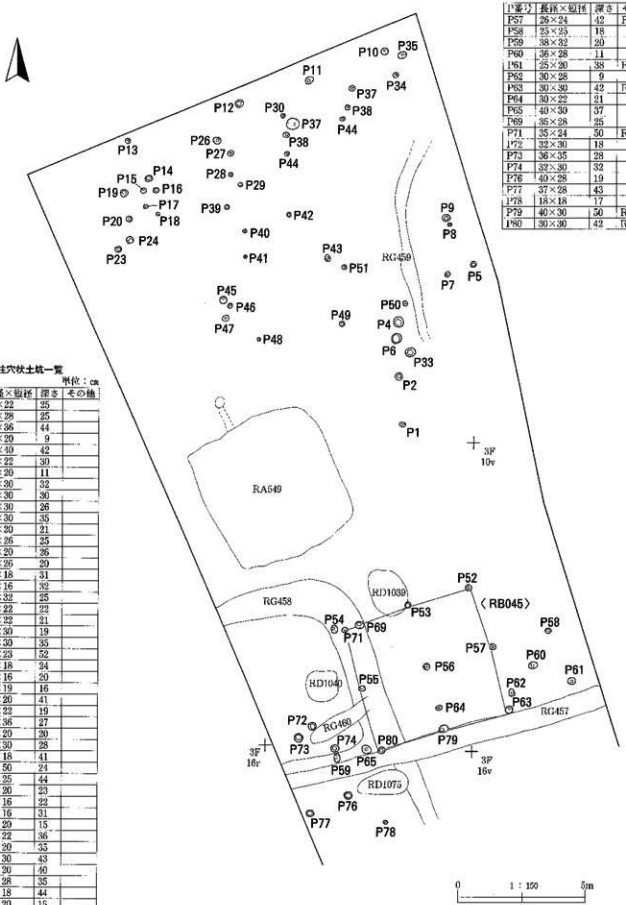
表3 北Ⅱ区・西区柱穴状土坑一覧

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P101	40×20	17	
P102	28×20	23	
P103	35×20	22	
P104	30×22	20	
P105	42×22	28	
P106	16×16	19	
P107	20×20	17	
P108	18×12	23	
P109	22×20	30	
P110	36×32	34	
P111	20×18	16	
P112	46×40	50	
P113	50×40	40	
P114	35×32	47	
P115	40×38	46	
P116	40×38	56	
P117	40×30	50	
P118	30×40	39	
P119	22×18	29	
P120	34×24	21	
P219	45×30	26	
P220	45×35	26	
P221	40×35	27	
P222	45×35	34	
P223	40×40	28	
P224	48×30	29	
P225	40×38	39	
P226	35×30	33	
P227	30×30	32	
P228	28×28	21	
P229	34×30	28	
P230	35×30	31	
P236	38×36	57	RB044
P237	40×40	46	RB044
P238	54×30	50	RB044
P239	30×20	11	
P240	30×30	41	RB044
P242	28×28	65	RB044
P243	32×20	23	RB044
P244	40×30	42	RB044
P245	32×24	17	RB044
P246	32×30	35	RB044
P247	46×46	42	RB044
P248	40×30	34	RB044
P249	32×28	36	RB044
P250	36×34	48	RB044
P251	38×35	35	RB044
P252	50×46	16	RB044
P253	40×38	21	RB044
P254	42×40	37	RB044
P255	40×30	40	RB044
P256	30×30	19	RB044
P257	22×22	20	RB044
P258	30×26	50	RB044
P259	30×24	18	北東区
P276	40×35	32	
P277	55×48	37	



第50図 RZ031（2）（北Ⅱ区）・032（西区）柱穴状土坑



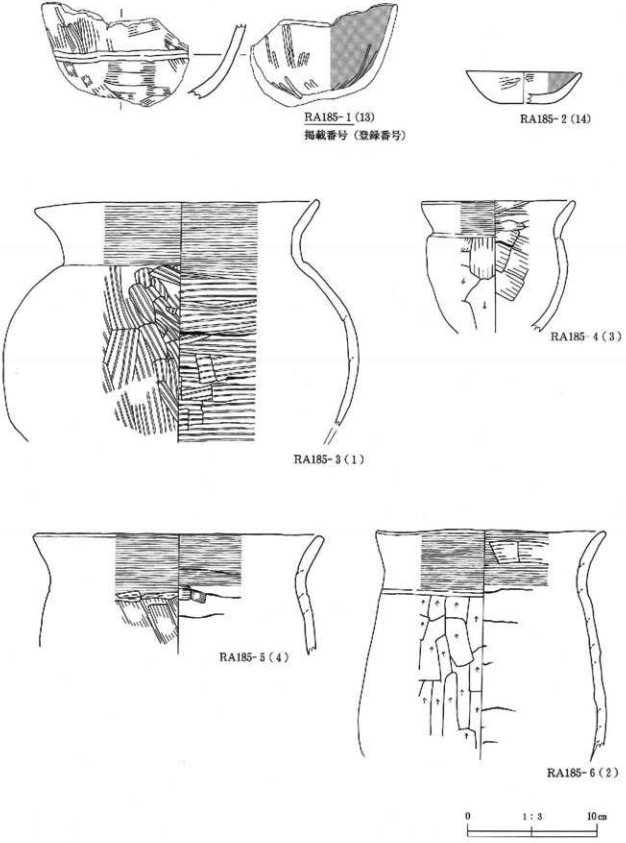
P番号	長径×短径	深さ	その他
P57	26×24	42	RB045
P58	23×25	18	
P59	38×32	20	
P60	36×28	11	
P61	25×20	38	RB045
P62	30×28	9	
P63	30×30	42	RB045
P64	30×22	21	
P65	40×30	37	
P69	35×28	25	
P71	35×24	50	RB045
P72	32×30	18	
P73	36×35	28	
P74	32×30	32	
P76	40×28	19	
P77	37×28	43	
P78	18×18	17	
P79	40×30	50	RB045
P80	30×30	42	RB045

表4　東区柱穴状土坑一覧

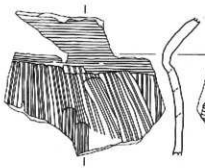
単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P1	22×22	25	
P2	30×28	25	
P4	40×36	44	
P5	38×20	9	
P6	42×40	42	
P7	38×22	30	
P8	20×20	11	
P9	30×30	32	
P10	35×30	30	
P11	40×30	26	
P12	40×30	35	
P13	26×20	21	
P14	32×26	25	
P15	20×20	26	
P16	26×26	20	
P17	18×18	31	
P18	16×16	32	
P19	40×32	25	
P20	22×22	22	
P23	24×22	21	
P24	30×30	19	
P26	32×20	35	
P27	23×23	52	
P28	18×18	24	
P29	16×16	20	
P30	19×19	16	
P34	20×20	41	
P35	30×22	19	
P37	40×36	27	
P38	21×20	20	
P39	32×30	28	
P40	18×18	41	
P41	53×50	24	
P42	30×25	44	
P43	22×20	23	
P44	18×16	22	
P45	18×16	31	
P46	30×29	15	
P47	30×22	36	
P48	22×20	33	
P49	30×30	43	
P50	24×20	40	
P51	32×26	35	
P52	30×20	24	RB045
P53	26×26	12	RB045
P54	33×28	61	
P55	25×20	54	RB045
P56	30×24	70	

第51図　RZ033（東区）柱穴状土坑

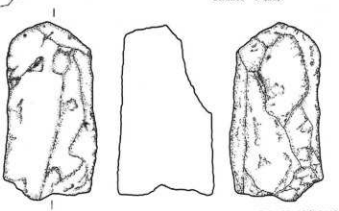


第52図　RA185（1）出土遺物

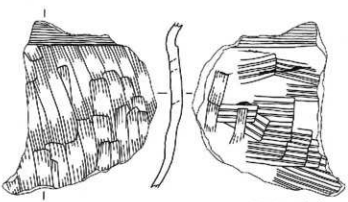


RA185-7(6)

RA185-8(12)



RA185-10(3010)



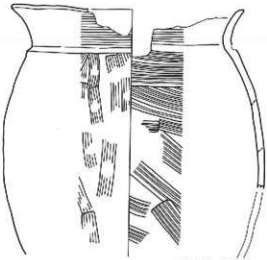
RA185-9(10)

0　1:3　10cm

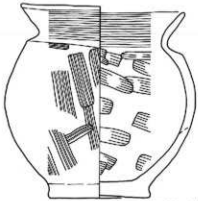
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA185-1	51	13	カマド埋土	土	坏	AI?	HM	HN	－	－	HM	－	○	－	－	(8.2)	30	7.5YR5/4 に近い褐	体部に沈線　中～大型の坏か。
RA185-2	51	14	埋土	土	坏	AIM2	－	HM	－	－	HM	－	○	(9.0)	(4.0)	2.5	40	7.5YR5/4 に近い褐	小型坏　外面下半かすかに有段
RA185-3	51	1	№1 一括	土	坏蓋	AIS	YN	H	－	YN	H	－	×	22.4	－	(19.4)	60	10YR6/4 に近い黄橙	輪積痕有
RA185-4	51	3	Pit 2 埋土	土	小型壺	／	YN	HN・HK	－	HN	HN	－	×	(12.0)	－	(10.4)	60	7.5YR5/4 に近い褐	RG446周土のものと接合　輪積痕有　HKは面取り状に大きい。
RA185-5	51	4	埋土	土	壺	AIT?	YN	HN	－	YN・HN	－	－	×	(23.0)	－	(9.5)	−10	7.5YR5/4 に近い褐	輪積痕有　頸部に沈線
RA185-6	51	2	カマド補、№3・6	土	壺	AIT3	YN	HK	－	YN・HN	－	－	×	18.1	－	(18.2)	50	7.5YR6/4 に近い橙	輪積痕有
RA185-7	51	6	Pit 3 埋土	土	壺	AIS	YN	H	－	YN	HN	－	×	－	－	(11.5)	−10	7.5YR5/2 灰褐	縦短痕有　頸部に沈線
RA185-8	51	12	№3	土	甕	AI	－	HK・H	－	－	H	－	×	－	(7.8)	(3.4)	−10	7.5YR4/2 灰褐	輪積痕有
RA185-9	51	10	Pit 2 埋土	土	甕	AIT?	YN	HN	－	YN	H・HN	－	×	－	－	(13.8)	−10	7.5YR6/3 に近い褐	
RA185-10	51	3010	カマドFS-1			種別：支脚				重量(g)：1950				石材：デイサイト			産出地：長羽山脈		
RA185-11	51	4001	Pit 2 埋土			種別：釘				重量(g)：2.10				計測値(cm)：長さ(4.4)　厚さ0.5					写真のみ

※黒色処理：◎は内外面、○は内面、×は処理なし
※胎土　：HNはエクロナデ、YNはヨコナデ、Hはハケメ、HKはヘラケズリ、HMはヘラミガキ、HNはヘラナデ
※残存率：「−10%」は、残りがわずかなもの

第53図　RA185（2）出土遺物

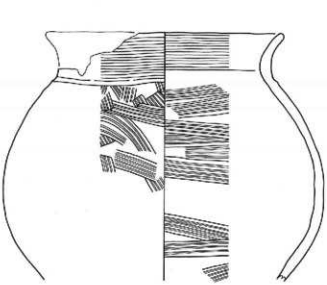


RA393-1 (16)



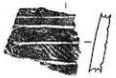
RA393-2 (15)

RA393-4 (19)



RA393-3 (17)

RA393-5 (329)

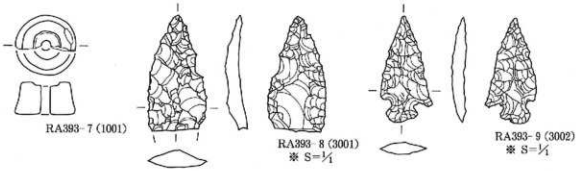


RA393-6 (330)

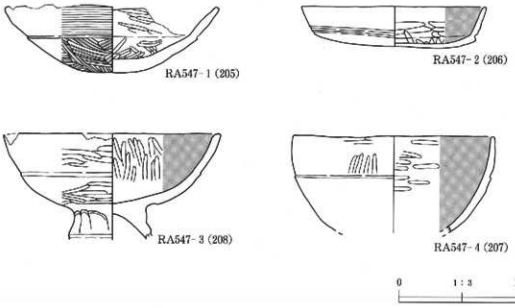
0　1：3　10cm

掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
								口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA393-1	52	16	Ma 2		土	甕	AII?	YN	刷一ナデ風	－	YN	H	－	×	18.3	－	(19.7)	50	7.5YR5/4にぶい橙～7/4橙	一部は逆上として取り上げている。胎土全体砂多い。一部煤付着
RA393-2	52	15	Ma 2		土	小型壺	／	YN	H	HN?	YN	HN	HN	×	12.9	8.0	15.5	70	10YR7/6明黄褐	体径≒口径
RA393-3	52	17	Ma 3、Pit 2 埋土		土	壺	AIS	YN	H	－	YN	H	－	×	(18.7)	－	(19.6)	60	7.5YR5/4にぶい橙	Ma 3（床上）を主体に、Pit 1のものも接合、胎土砂多
RA393-4	52	19	Ma 3		土	小型壺	／	－	HN・HK	－	HN	HN・H	－	×	(13.4)	－	(7.5)	20	7.5YR5/6明褐	
掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別			部位			施文原体・文様の特徴									備考
RA393-5	52	329	Q 1 床面		縄文土器			体部			RL									器面内外とも磨滅、流れ込みか。
RA393-6	52	330	貼床層		弥生土器か?			体部			RL 崩潰縄文 沈線									

第54図　RA393（1）出土遺物

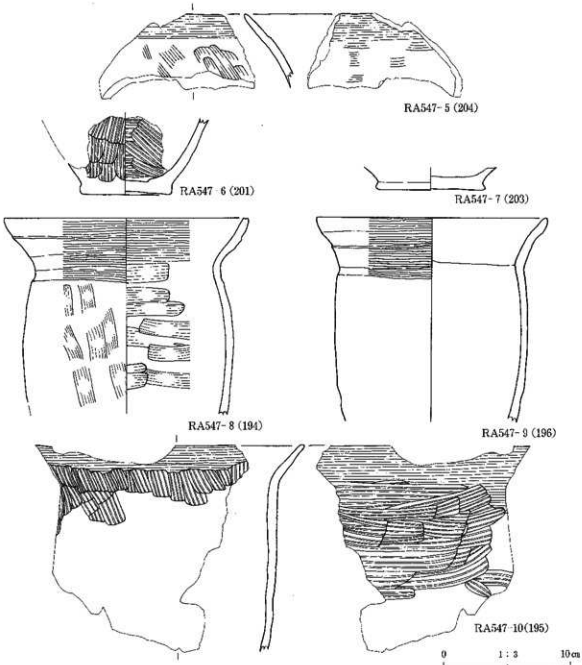


掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	重量(g)	計測値ほか		備考
RA393-7	52	1001	Pit 2 埋土	紡錘車（土製品）	35.4	残存率：50%	色調：7.5Y R6/8	欠損品
RA393-8	52	3001	Pit 4 埋土	石器石鏃	1.8	計測値(cm)：長さ(3.1) 幅1.6 厚さ0.4		
RA393-9	52	3002	Pit 4 埋土	石器石鏃	1.0	計測値(cm)：長さ2.9 幅1.4 厚さ0.3		
RA393-11	52	4002	Pit 2 埋土	釘	6.4	計測値(cm)：長さ(3.7) 厚さ0.8		写真のみ
RA393-12	52	4003	Pit 2 埋土	刀子	10.1	計測値(cm)：長さ(5.5) 幅2.3 厚さ0.6		写真のみ
RA393-13	52	4004	Pit 2 埋土	釘	2.3	計測値(cm)：長さ(4.3) 厚さ0.7		写真のみ



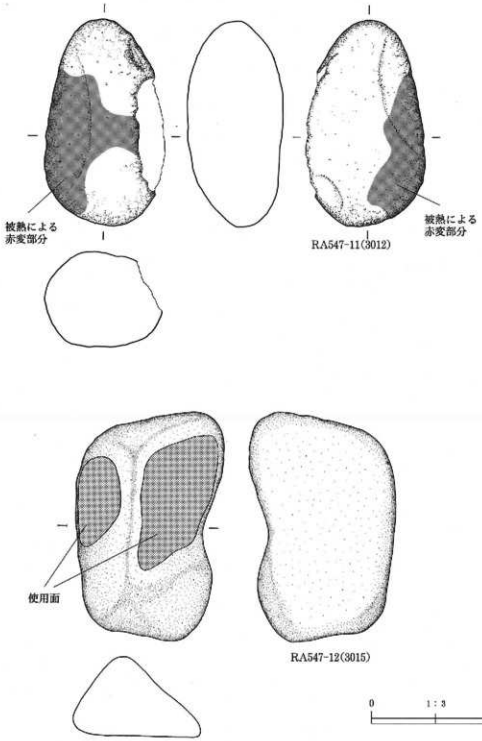
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	焼成	色調	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA547-1	53	205	第2	土	坏	AIB1	YN	H	H	－	HM	HM	×	17.2	－	5.5	85	7.5YR5/4 にぶい褐	外面有段 内面段弱
RA547-2	53	206	第3	土	坏	AIH1	－	－	－	HM	HM	HM	○	(14.8)	－	3.4	40	10YR7/6 明黄褐	外面稜近く有段－内面外と同じに段有
RA547-3	53	208	南西側壁焼土中位4	土	高坏	／	HM	HM	－	HM	HM	－	○	17.4	－	(8.6)	60	7.5YR5/6 明褐	高台部分外面に擦圧痕あり。台部中位、外面有段
RA547-4	53	207	南ベルト下層	土	鉢?	／	HM	－	－	HM	HM	－	○	(16.2)	－	(7.8)	30	10YR6/6 橙－2.5Y5/6明黄褐	

第55図　RA393（2）・547（1）出土遺物



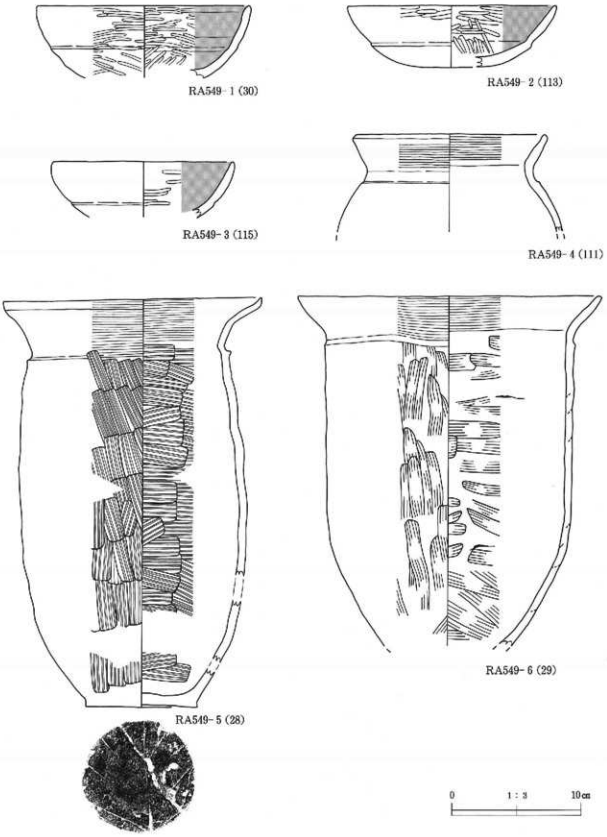
掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別	器種	分類	外面調整			内面調整			焼成	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
								口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA547-5	53	204	Pit 4 埋土	上	土	鉢?	／	YN	IIN	－	YN	IIM(残少)	－	×	－	－	(5.9)	10	10YR4/4褐	口縁しほむ型か?
RA547-6	53	201	北西埋土上層	上	土	甕	AI	－	H	HN	－	II	IIN	×	－	6.8	(6.2)	10	5YR6/6橙~10YR7/6にぶい黄橙	
RA547-7	／	203	Ka 4	上	瓷	AI		－		HN	－	－	－	×	－	8.2	(1.8)	−10	10YR7/3にぶい黄橙	写真なし
RA547-8	53	194	Sa 1	上	瓷	AIT1	YN	IIN	－	YN	HN	－	×	19.3	－	(15.8)	40	7.5YR5/6にぶい褐~4/3褐	口縁に浅い沈線有
RA547-9	53	196	北西埋土上層	上	瓷	AIT1	YN	－	－	－	－	－	－	×	(18.2)	－	(16.2)	10	10YR6/2~5/2灰黄褐	RA547-8と同一タイプ
RA547-10	53	195	Sa 1 北西埋土	上	瓷	AIT?2	YN	H		YN	H	－	×		－	－	(16.0)	15	7.5YR4/6褐	胎土黒 構成良

第56図 RA547（2）出土遺物

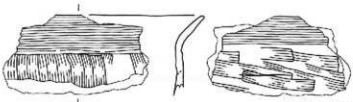


掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	重量(g)	石材	産出地	備考
RA547-11	54	3012	カマド埋土	支脚	1490	安山岩	鷲羽山麓	S5
RA547-12	54	3015	床面	敲石	1860	安山岩	鷲羽山麓	S3

第57図　RA547（3）出土遺物



第58図　RA549（1）出土遺物

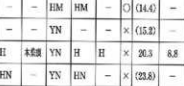


RA549-7 (112)

RA549-8 (331)

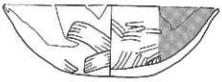
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA549-1	55	26	Pit. No.3	土	坏	AIM1	HM	HM	－	HM	HM	－	○	16.8	－	(5.8)	50	10YR5/4 にぶい黄褐	ヘラミガキ痕跡(内外とも)　底部欠損、体部中位有段
RA549-2	55	113	No.7	土	坏	AIM1	HM	HM	手前区 奥区	HM	HM	－	○	(16.4)	－	(4.9)	20	7.5YR6/4 にぶい橙	内外有段
RA549-3	55	115	No.3	土	坏	AIM2	－	－	－	HM	HM	－	○	(14.4)	－	(4.4)	10	10YR8/2 灰白	
RA549-4	55	111	P14 2、カマド7掘辺	土	甕	AI	YN	－	－	YN	－	－	×	(15.2)	－	(7.7)	10	7.5YR5/4 浅黄橙	胎土粗
RA549-5	55	38	埋土上層、No.1	土	甕	AIT3	YN	H	本来痕	YN	H	H	×	20.5	8.8	32.5	70	7.5YR5/4 にぶい橙	体部下半から底部(本葉痕)砂の混合多い。
RA549-6	55	29	No.5	土	甕	AIT2	YN	HN	－	YN	HN	－	×	(23.8)	－	(27.7)	30	7.5YR4/2 灰褐	脚部付近煤付着
RA549-7	55	112	貼床埋土	土	甕	AIT	YN	HN	－	YN	HN	－	×	－	－	(6.3)	～10	7.5YR5/4 にぶい橙	輪積痕有
RA549-8	55	331	層位：検出面	種別：縄文土器			部位：体部			施文原体・文様の特徴：RL、口縁部にも施文(RL)									
RA549-9	55	2001	層位：埋土上部	器種：器台鉢?					残存部位：口縁部			縄(肥前)　18～19世紀							写真のみ
RA549-10	55	4005	層位：Q3 埋土中層	種別：角釘?					重量(g)：6．90			計測値(cm)：長さ(5.0)　幅0.8　厚さ0.6							写真のみ

RA550-1 (37)



RA550-2 (39)

RA550-3 (40)



RA550-4 (38)

RA550-5 (35)

RA550-6 (33)

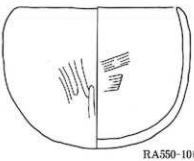
RA550-7 (32)

RA550-8 (1002)

0　1：3　10cm

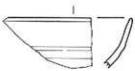
第59図　RA549（2）・550（1）出土遺物

RA550-9 (34)



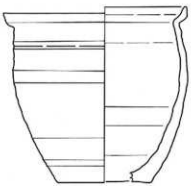
RA550-10(36)

RA551-1 (45)



RA551-2 (46)

RA551-4 (44)

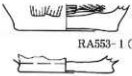


RA551-3 (42)

0　1：3　10cm

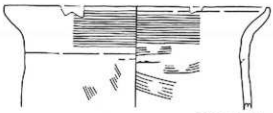
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA550-1	56	27	№12	土	坏	AIM3	HK後HM	HK後HM	－	HM	HM	HM	○	13.7	－	4.7	70	10YR7/3に近い黄橙	底部平→丸の中間
RA550-2	56	39	№1・2、G1・2埋土	土	坏	AIM2	HM	HM	HM	HM	HM	HM	○	(13.7)	－	4.2	50	10YR5/3に近い褐	全体に内外共器面が薄く剥離している。体部中位　底部平→丸の中間、有段(弱)
RA550-3	56	40	G2埋土	土	坏	?	HM	HM	－	HM	HM	－	◎	(10.8)	－	(5.2)	30	10YR2/1黒	
RA550-4	56	39	№6・9・10、埋土	土	坏	AI	－	HN	HN	HM	HM	HM	○	17.0	－	5.6	70	10YR7/3に近い黄橙	RG447出土分合
RA550-5	56	35	№4・7	土	?	／	HM	HM	HM	HM	H	H・HM	◎	(11.9)	7.4	5.8	70	10YR2/1黒	器種不明一外面有段
RA550-6	56	33	№13	土	甕	AIT	－	H	HM・HN	－	HN	HN	×	－	7.8	(7.2)	30	7.5YR7/4に近い橙	被熱のため底部～体部下半一部赤変
RA550-7	56	32	G1埋土上層、ベルト埋土	土	小型壺	／	YN	HM	－	YN	HM	－	◎	(10.0)	－	(6.0)	10	10YR3/1黒褐～2/1黒	
RA550-9	56	34	№3・5、表採、G2埋土	土	鉢？鉢？	／	－	HM	HM	－	HM	HN	◎	－	6.4	(9.2)	80	2.5YR4/2灰黄褐～5/2灰褐	口縁内湾するか？一底部は有
RA550-10	56	36	埋土	土	小型鉢？	／	－	HM	－	－	HN	－	×	12.5	－	11.2	90	7.5YR8/4浅黄橙	口縁内湾、壁体の上半1/3除、丸底風
RA551-1	56	45	№1	土	坏	IA1	RN	RN	赤彩後HN	HM	HM	－	○	(13.4)	5.2	5.3	50	10YR7/4に近い黄橙	
RA551-2	56	46	黒炭埋土	土	坏	IB	RN	RN	－	RN	RN	－	×	－	－	(4.0)	10	10YR5/6明黄褐	
RA551-3	56	42	支脚№4等	土	小型甕	／	RN	RN	赤彩後HN	RN	RN	RN	×	14.2	7.2	13.9	80	10YR7/4に近い橙～5YR6/6橙	内外面共に磨滅している。支脚
RA551-4	56	44	№1	土	甕	AI	－	HK	HN	－	HN	HN	×	－	(7.0)	(2.2)	10	7.5YR6/8橙	
RA550-8	56	1002	排位：Pit 1 埋土		種別：土玉					重量(g)：10．6				色調：7.5YR 6／8					貫通孔2ヶ所

第60図　RA550（2）・551　出土遺物

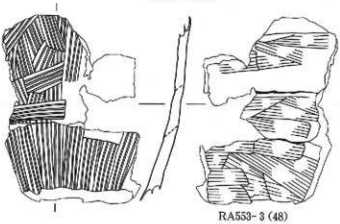


RA553-1 (49)

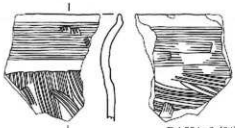
RA553-2 (50)



RA554-1 (53)

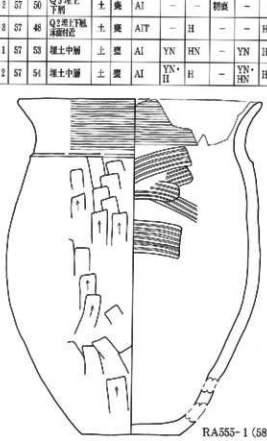


RA553-3 (48)

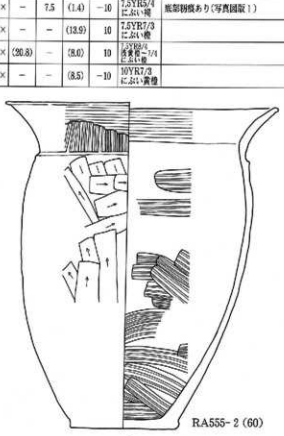


RA554-2 (54)

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	風化・粗雑	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	現存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA553-1	57	49	経塚埋土、Q2埋土	土	壺	AI?	－	HN	木製皿	－	H	コビキ？	×	－	8.0	(2.1)	－10	7.5YR6/6 橙	
RA553-2	57	50	Q5埋土、下層	土	壺	AI	－	－	朝鮮	－	－	－	×	－	7.5	(1.4)	－10	7.5YR5/4 に赤い褐	底部朝鮮あり（写真図版1）
RA553-3	57	48	Q3周辺下層、表面付近	土	壺	AIT	－	H	－	－	HN	－	×	－	－	(13.9)	10	7.5YR7/3 に赤い橙	
RA554-1	57	53	埋土中層	土	壺	AI	YN	HN	－	YN	HN	－	×	(20.8)	－	(8.0)	10	7.5YR6/4 浅黄橙～7/4 に赤い橙	
RA554-2	57	54	埋土中層	土	壺	AI	YN・H	H	－	YN・HN	H	－	×	－	－	(8.5)	－10	10YR7/3 に赤い黄橙	



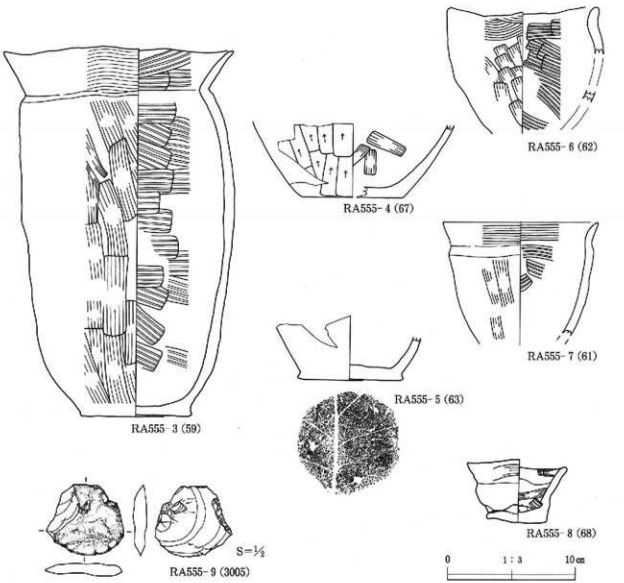
RA555-1 (58)



RA555-2 (60)

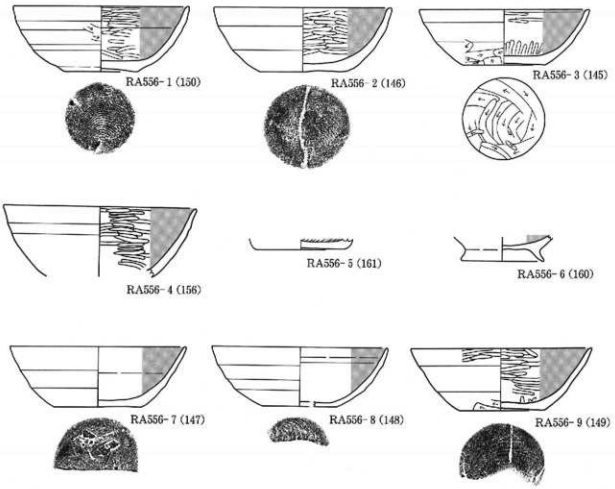
0　1：3　10cm

第61図　RA553・554・555（1）出土遺物



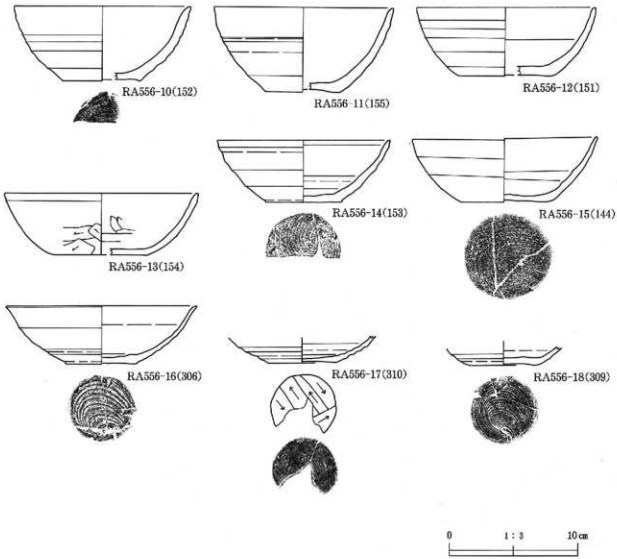
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA555-1	57	58	Ka.1・3・6、埋土中部	土	甕	AIT2	YN	HK	HK	YN	H	−	×	19.0	7.6	26.6	90	7.5YR7/8 黄橙	外面煤付着、胎土に砂混入
RA555-2	57	60	Ka.2・6・8	土	甕	AIT1	YN・H	HK	−	YN	H	H	×	21.2	8.3	26.9	80	7.5YR6/4 にぶい橙	
RA555-3	58	59	Ka.4	土	壺	AIT2	YN	HN	木製底	H	H	HN	×	18.0	8.4	29.3	95	10YR6/6 明黄褐～5/3 にぶい黄褐	
RA555-4	58	67	埋土中～下層、ベルト埋土	土	甕	AI	−	HK	HK	−	HN	−	×	−	8.0	(5.8)	−10	7.5YR5/6 明褐	底部外面ヘラケズリ同心円状に有り。
RA555-5	58	63	Ka.3・4、埋土中～下層	土	壺	AI	−	−	木製底	−	−	−	×	−	8.2	(5.2)	−10	7.5YR5/3 にぶい褐	胎土に赤雲に砂（径2mm前後）が多い。調整不明
RA555-6	58	62	Ka.4・6、埋土中～下層	土	小型壺	／	YN	HN	−	H	H	−	×	12.0	−	(10.0)	80	7.5YR5/4 にぶい褐	底部欠損
RA555-7	58	61	Ka.3・5、Ka.6、埋土下層	土	小型壺	／	YN	HN	−	YN	H	−	×	12.2	−	(9.8)	90	7.5YR6/4 浅黄橙	底部欠損
RA555-8	58	68	Ka.3	土	小形ミニチュア壺	／	HN	HN	−	HN	HN・H	−	×	7.9	4.8	5.0	完形	7.5YR6/4 にぶい橙	内外とも指圧痕強い。内面、その上に少しのヘラナデ有り。片口風？
RA555-9	58	3005	層位：埋土下層		種別：石器剥片類					重量(g)：11.1				計測値（cm）：長さ3.7 幅4.0 厚さ0.7					

第62図　RA555（2）出土遺物



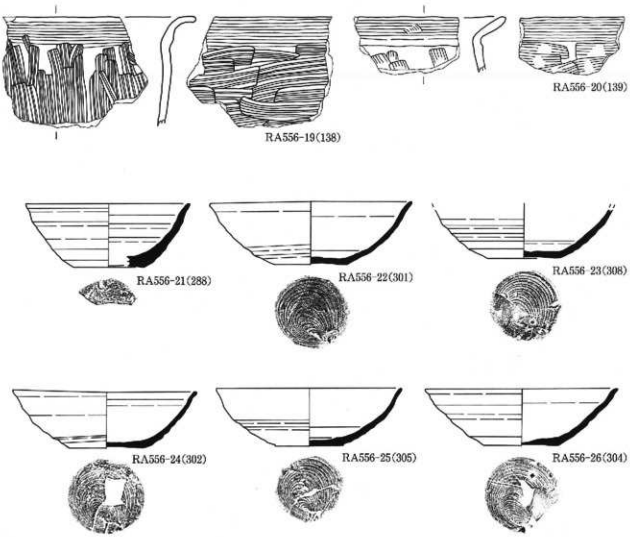
実測番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	焼成・特記	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA556-1	59	150	Q2埋土	土	坏	IA2	RN	回転ヘラ切後ナデ	回転糸切	HM	HM	HM	○	(13.8)	5.7	5.2	50	10YR7/3 に近い黄橙	
RA556-2	59	146	Q2埋土	土	坏	IA1	RN	RN	回転糸切後ナデ	HM	HM	−	○	(14.0)	6.6	5.1	90	10YR7/3 に近い黄橙	
RA556-3	59	145	Q2埋土	土	坏	IA6	RN?	横ヘラ磨	HK?	HM	HM	HM	○	(13.2)	6.4	4.4	90	10YR7/3 に近い黄橙	
RA556-4	59	156	Q4埋土	土	坏	IA	RN	RN	−	HM	HM	−	○	(15.2)	−	(5.5)	40	7.5YR6/4 に近い橙	胎土は精良である。
RA556-5	62	161	Pit1埋土	土	坏	IA1?	−	−	回転糸切後ナデ	−	−	HM	○	−	6.6	(0.8)	−10	7.5YR6/4 に近い橙	欠けた面を磨いた痕あり、転用目的か?
RA556-6	59	160	Q1埋土	土	高台付坏	／	−	−	−	−	−	−	○	−	(6.5)	(1.9)	30	7.5YR7/4 に近い橙	
RA556-7	59	147	Pit1埋土	土	坏	IA2	RN	横ヘラ磨	−	RN	RN	RN	○	(13.7)	6.8	4.8	50	10YR6/3 灰黄褐	底部磨滅で調整不明瞭
RA556-8	59	148	Q4埋土	土	坏	IA2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	○	(13.6)	(5.6)	4.7	50	10YR7/2〜7/4に近い黄橙	底部一部磨滅
RA556-9	59	149	Q1・4埋土	土	坏	IA1?	HM	HM	回転糸切後ナデ	HM	HM	HM	○	(14.2)	6.5	4.9	50	7.5YR5/2 灰褐	位置により放射状ヘラミガキが明瞭

第63図　RA556（1）出土遺物



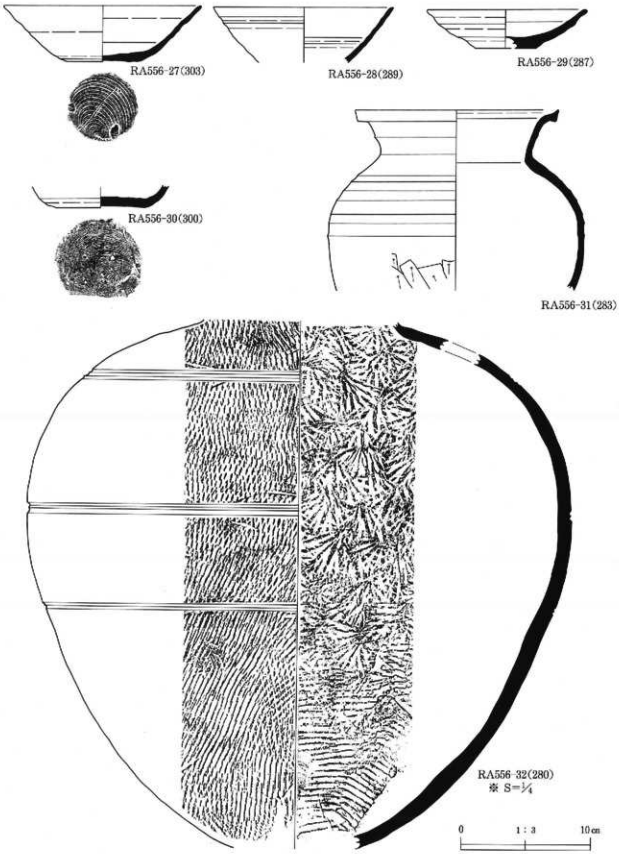
掲載番号	写真図版	物録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			焼色	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部	焼成	口径	底径	器高			
RA556-10	59	152	Q2埋土	土	坏	IB1	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(13.6)	(5.9)	5.9	40	7.5YR5/3 によい橙	あかやき土器 内面磨滅
RA556-11	59	155	焼床下	土	坏	IB2	RN	RN	下半から右回転	－	－	－	×	(14.0)	(5.6)	6.7	30	7.5YR5/3 によい橙	あかやき土器
RA556-12	59	151	焼6、Q1埋土	土	坏	IB1	RN	RN	磨滅	RN	RN	RN	×	(13.8)	(7.2)	5.4	50	7.5YR6/6 橙	あかやき土器 体部下半～底部線多少再調整
RA556-13	59	154	Q2埋土	土	坏	IB2	RN	切り手 HM	糸切	RN	HM	－	×	(15.2)	(6.8)	4.9	20	7.5YR6/3 によい橙～6/4 によい橙	あかやき土器
RA556-14	60	153	検出面(埋土)	土	坏	IB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(13.4)	5.8	4.9	40	7.5YR6/6 橙	あかやき土器
RA556-15	60	144	焼5	土	坏	IB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	14.3	6.9	5.1	90	10YR6/3～6/2 にぶい黄橙	やや還元色を呈している。
RA556-16	60	306	ベルト部?	土	坏	IB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.8)	5.4	4.6	20	10YR7/4 によい黄橙	あかやき土器 かなり還元色を呈する部位あり
RA556-17	60	310	Q2埋土?	土	坏	IIB1	－	RN	切り手 磨滅	－	RN	RN	×	－	5.0	(2.0)	10	10YR8/4 浅黄橙	
RA556-18	60	309	Q3,4埋土?、ベルト部	土	坏	IIB2	－	RN	回転糸切	－	RN	RN	×	－	5.2	(1.3)	10	10YR8/3 浅黄橙	

第64図　RA556（2）出土遺物

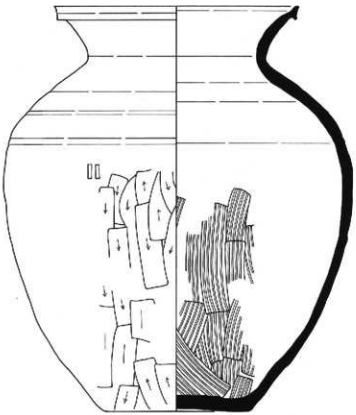


掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA556-19	60	138	Q2埋土	土	甕	IB	YN	H	－	YN	H	－	×	－	－	(8.5)	10	7.5YR5/6 明褐	口縁著しく外反
RA556-20	60	139	Q2埋土	土	甕	IB	YN	HN	－	YN	HN	－	×	－	－	(4.6)	－10	7.5YR5/3 にぶい褐	口縁外反
RA556-21	／	288	ベルト部	須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(12.8)	(5.5)	5.0	10	10YR8/1 純灰	写真なし
RA556-22	60	301	Q2埋土	須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	15.7	5.5	5.0	90	10YR7/6 にぶい黄橙～灰白(部分的)	
RA556-23	60	308	Q2埋土	須	坏	IIB2	－	RN	回転糸切	－	RN	RN	×	－	5.3	(3.8)	20	7.5YR8/6 浅黄橙	
RA556-24	60	302	Q2埋土	須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	14.4	5.8	4.6	80	10YR7/2 にぶい黄橙	
RA556-25	61	305	ベルト部	須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.4)	5.3	4.6	20	10YR7/4 にぶい黄橙	
RA556-26	61	304	Q2埋土	須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切→ヘラ削り→磨耗	RN	RN	RN	×	15.0	5.7	4.5	30	2.5YR/2 灰白	

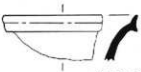
第65図　RA556（3）出土遺物



第66図　RA556（4）出土遺物

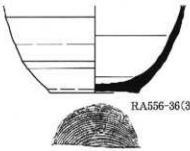


RA556-33(281、282)



RA556-34(284)

RA556-35(285)

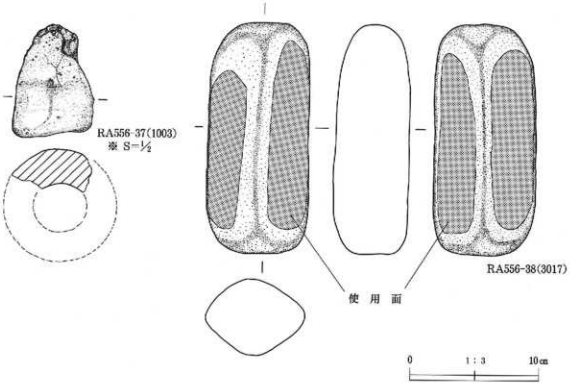


RA556-36(307)

0　1：3　10cm

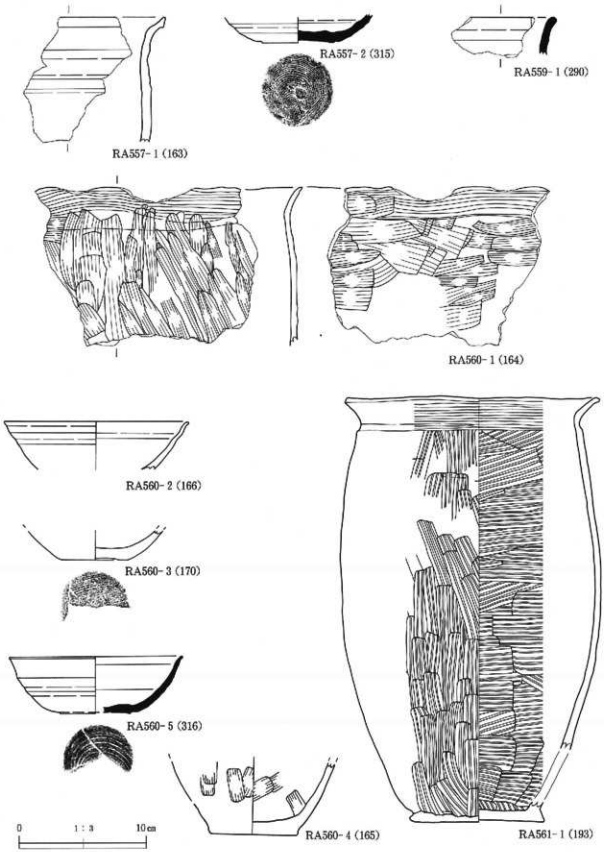
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA556-27	61	303	Pit 1 埋土、Q 1・2 埋土	須	坏	ⅡB 2	RN	RN	糸切痕+板目状圧痕	RN	RN	RN	×	15.4	5.4	4.4	60	2.5Y8/1 灰白	
RA556-28	61	289	Q 1 埋土・ベルト部	須	坏	Ⅱ	RN	RN	－	RN	RN	－	×	(14.2)	－	(4.5)	30	5Y5/1灰	体部外面、黒の縁有(焼成時に付いた?)
RA556-29	／	287	Q 2 埋土	須	杯	Ⅱ	RN	RN	RN	RN	RN	RN	×	(12.4)	(4.7)	3.0	−10	N4/0灰	口縁外反　写真なし
RA556-30	61	300	鞍床下部	須	坏	ⅡB 2	－	RN	回転糸切	－	RN	RN	×	－	6.8	(1.7)	−10	10Y6/1 褐灰	
RA556-31	62	293	Ma 2、Q 2 埋土	須	甕	ⅢA	RN	HX・ケズリ	－	RN	RN	－	×	16.0	－	(14.3)	50	10YR6/1 褐灰	
RA556-32	61	286	Q 1 A、Q 2 埋土下部、Q 3 埋土	須	甕	ⅢA	－	タタキ目	－	－	アテ具痕	－	×	－	－	(42.0)	40	N3/0暗灰	
RA556-33	62	281	Q 2 埋土下部、Q 3 埋土、Q 4 埋土、鞍床下	須	甕	ⅢA	RN	HX	－	RN	H	－	×	(19.0)	(11.2)	(32.1)	80	N5/0灰	口縁一部ゆがみ有り。
RA556-33	62	282	Q 2 埋土下部、Q 3 埋土、Q 4 埋土	須	甕	ⅢA	RN	HK	－	RN	H	－	×	(19.0)	(11.2)	(32.1)	80	N5/0灰	281と同一個体
RA556-34	／	284	Q 2 埋土上層	須	壺	ⅢA	RN	RN	－	RN	RN	－	×	－	－	(3.5)	−10	外面10YR8/1灰白、内面10YR6/1褐灰	口縁のみ　写真なし
RA556-35	／	285	Q 1 埋土	須	壺?	ⅢA	－	RN	RN	－	RN	RN	×	－	(11.6)	(3.7)	10	10YR6/1褐灰	底が上がる一部のみ　写真なし
RA556-36	62	307	Q 2 埋土	須	壺?	ⅢA	－	RN	回転糸切	－	RN	RN	×	－	(7.0)	(5.9)	20	10YR6/1褐灰、内面黒褐～ベンガラ状ふき取り痕	体部下半沈線後

第67図　RA556（5）出土遺物



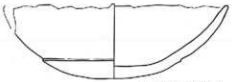
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	重量(g)	色調		備考
RA556-37	62	1003	ベルト埋土	羽口(土製品)	39.0	5YR5/6		欠損品
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	重量(g)	石材	産出地	備考
RA556-38	/	3017	カマド埋土	支脚(石器)	1390	安山岩	奥羽山脈	砥石を支脚に転用したものか。No.5の下

第68図　RA556（6）出土遺物



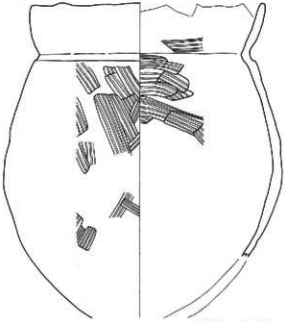
第69図　RA557・559・560・561　出土遺物

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	焼成	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA557-1	63	163	埋土下層	土	甕	IA	RN	RN	－	RN	RN	－	×	－	－	(9.8)	－10	10YR6/4 にぶい黄橙	
RA557-2	63	315	埋土下層	須	坏	IIB2	－	RN	静止糸切	－	RN	RN	×	－	5.6	(2.0)	35	7.5Y6/1灰	
RA559-1	63	290	Q2埋土	須	甕	IIA?	RN	－	－	RN	－	－	×	－	－	(3.0)	－10	N5/0灰	口縁一部のみ
RA560-1	63	164	ベルト埋土	土	甕	IA	YN	HN	－	YN・HN	HN	－	×	－	－	(12.5)	10	7.5YR7/4～6/ にぶい黄橙	
RA560-2	63	166	Q1・3埋土	土	坏	IB	RN	RN	－	RN	RN	－	×	(14.4)	－	(3.6)	20	10YR7/6 明黄褐	底部欠損　あかやき土器
RA560-3	63	170	埋土、北ベルト埋土	土	坏	IA4	－	－	静止糸切	－	－	－	×	－	5.1	(2.3)	10	7.5YR6/4～7/4にぶい橙	内黒？ヘラミガキ不明瞭
RA560-4	63	165	Q1・2埋土	土	甕	IB	－	HN	－	－	HN	HN	×	－	7.0	(5.7)	10	5YR5/6～7/6橙	胎土は砂を多量に含んでおり良質ではない。
RA560-5	63	316	Q3埋土等	須	坏	IIB1	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(13.6)	5.5	4.5	45	10YR7/1 灰白	
RA561-1	63	193	埋土	土	甕	AII?3	YN	H	H	YN	H	H	×	(20.0)	10.5	33.8	95	5YR4/6 赤褐	天井は平？口縁開く傾斜　胎土精　板ナデ　ヘラ調整　底部外に張りでている　一部代補
RA560-6	63	(608)	層位：Q1埋土		種別：不明（鉄製品）					重量(g)：7.3				計測値(cm)：長さ(10.4)		幅3.5　厚さ0.3			写真のみ

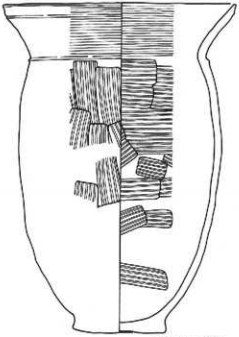


RA562-1 (231)

RA562-2 (232)



RA562-3 (227)

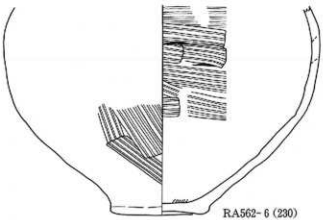


RA562-4 (228)

0　1:3　10cm

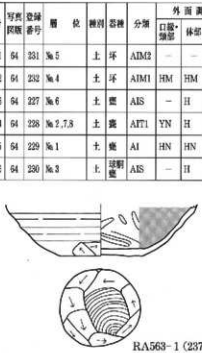
第70図　RA562（1）出土遺物

RA562-5 (229)



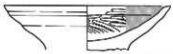
RA562-6 (230)

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA562-1	64	231	№5	土	坏	AIM2	—	—	一部HN	—	—	—	×	(17.6)	—	5.9	75	5YR5/6明赤褐	胎土斜 砂質傾向大-外有段
RA562-2	64	232	№4	土	坏	AIM1	HM	HM	HM	HM	HM	HM	○	16.2	—	4.8	90	10YR5/4にぶい黄褐	内外有段?(内面弱) 体部下半に段
RA562-3	64	227	№6	土	甕	AIS	—	H	—	H	H	—	×	18.5	—	(35.0)	75	7.5YR5/6明褐	体部中位煤付着 胎土砂質傾向
RA562-4	64	228	№2,7,8	土	甕	AIT1	YN	H	木葉痕	YN	H	—	×	(18.1)	7.2	26.2	80	5YR5/4にぶい赤褐	胎土赤-被熱による赤変部分あり。部付着
RA562-5	64	229	№1	土	甕	AI	HN	HN	—	HN	HN	—	×	(16.0)	—	(9.5)	20	7.5YR6/4にぶい橙	輪積痕有
RA562-6	64	230	№3	土	壺形土器	AIS	—	H	H	—	H	H	×	—	7.8	(16.5)	40	7.5YR6/4にぶい橙	輪積痕有 胎土粗

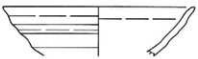


RA563-1 (237)

RA563-2 (236)



RA563-4 (242)

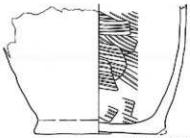


RA563-3 (239)

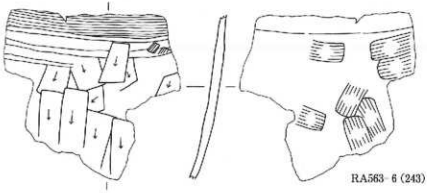
0 1:3 10cm

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA563-1	65	237	№4・5	土	坏	1A5	RN	RN?・下半HK	回転糸切	HM	HM	HM	○	—	6.3	(4.0)	30	10YR6/3にぶい黄橙	
RA563-2	65	236	床面、カマド周辺	土	坏	1A2	RN	RN		—	RN・HM	—	○	(14.7)	(7.2)	4.6	45	5YR6/8橙	回転糸切痕わずかに残 胎土粗
RA563-3	／	239	№1	土	坏	1B	RN	RN	回転糸切	RN	RN	—	×	(15.0)	—	(3.8)	10	5YR5/6明赤褐	あかやき土器 胎土粗 写真なし
RA563-4	65	242	カマド周辺Q1埋土	土	高台付坏	／	RN	RN	—	HM	HM	—	○	(13.0)	—	(3.5)	60	7.5YR6/8橙	高台欠損、台接合部明瞭粗状にひらく。

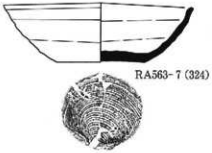
第71図 RA562（2）・563（1）出土遺物



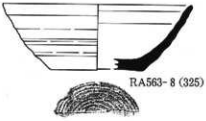
RA563-5 (234)



RA563-6 (243)



RA563-7 (324)

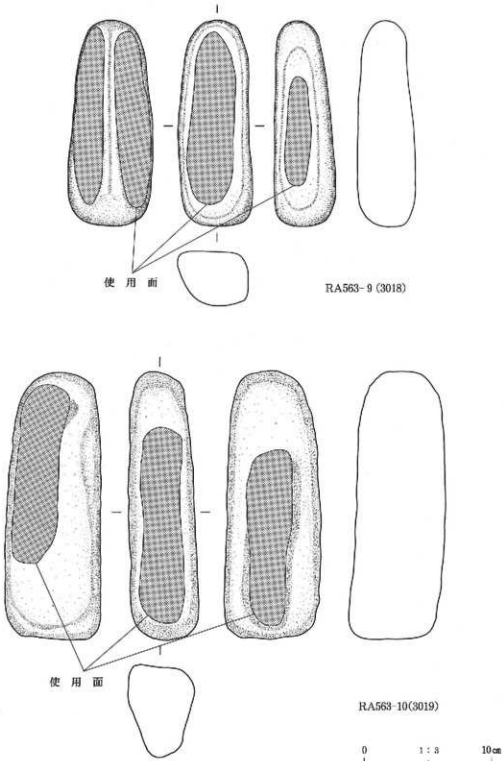


RA563-8 (325)

0　1：3　10cm

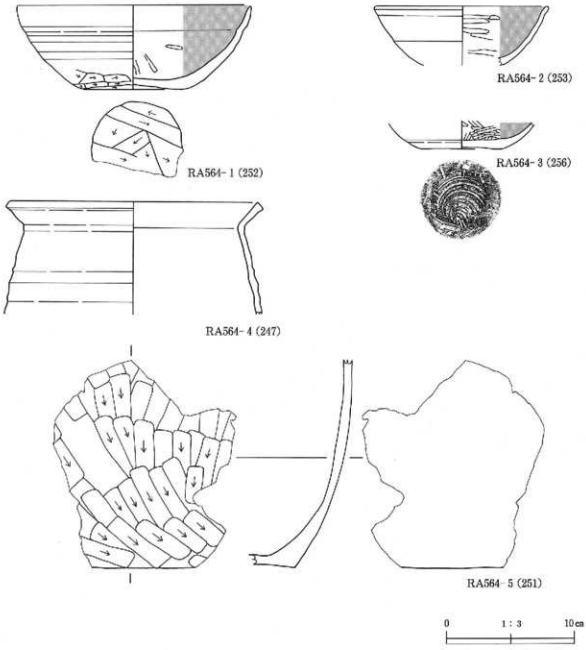
掲載番号	写真図版	物録番号	層位	遺構	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA563-5	65	234	カマド周辺床面	土	甕	IA	—	—	—	—	H	—	×	—	(10.1)	(10.3)	25	5YR4/6 赤褐	胎土粗　砂粒非常に多い。
RA563-6	65	243	埋土	土	不明鉢?	／	YN	HK	—	—	HN	—	×	—	—	(13.0)	20	7.5YR5/6 明褐	内側胎土剥　調整一部不明
RA563-7	65	324	旧10	須	坏	II B2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	14.8	6.8	4.7	略完形	2.5Y7/2 灰黄	
RA563-8	65	325	表面	須	坏	II B2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.8)	(7.2)	5.2	40	10YR7/1 灰白	

第72図　RA563（2）出土遺物



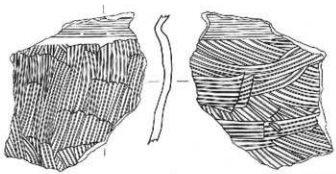
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	重量（g）	石材	産出地	備考
RA563-9	65	3018	床面	砥石（石器）	750	安山岩	奥羽山脈	S-1
RA563-10	65	3019	床面	砥石（石器）	1250	デイサイト	奥羽山脈	S-2

第73図　RA563（3）出土遺物

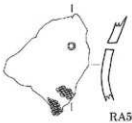


掲載番号	写真図版	登録番号	群位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA564-1	66	252	Q1埋土	土	坏	IA1	RN	RN→ナデ→HK	HK	RN	HM	HM	○	(18.3)	8.0	7.0	30	10YR7/4 にぶい黄橙	底部再調整
RA564-2	66	253	Q1埋土	土	坏	IA	RN	RN	－	HM	HM	－	○	(13.6)	－	(4.7)	10	10YR4/2 灰黄褐	
RA564-3	66	256	Q1埋土	土	坏	IA1	－	RN	切離面ヘラ→器面HN	－	HM	HM	○	－	6.2	(2.6)	10	10YR6/4 にぶい黄橙	
RA564-4	66	247	標道部埋土	土	甕	IA	RN	RN	－	RN	RN	－	×	(20.2)	－	(8.9)	20	7.5YR6/4 にぶい橙	
RA564-5	66	251	Ni 1、標道部	土	甕	IA	－	HK	－	－	－	－	×	－	－	(16.4)	10	10YR7/4～5/ にぶい黄橙	胎土粗

第74図　RA564（1）出土遺物

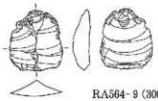


RA564-6 (250)



RA564-7 (328)

RA564-8 (332)

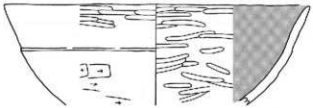


RA564-9 (3003)
※ S=1/2

0　1：3　10cm

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	器別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RA564-6	66	250	Q1埋土	土	壺	IB	YN	H	－	YN	H	－	×	－	－	(12.5)	10	2.5YR5/6 明赤褐	
RA564-7	66	328	層位：検出面		種別：縄文土器		部位：体部			色調：10YR4/3 にぶい黄褐									
RA564-8	66	332	層位：Q1埋土		種別：縄文土器		部位：体部			施文原体・文様の特徴：LR									
RA564-9	66	3003	層位：Q1埋土		種別：石器剥離器					重量(g)：7.0				計測値(cm)：長さ3.2 幅2.8 厚さ0.9					
RA564-10	66	4009	層位：Q1埋土		種別：刀子					重量(g)：70.3				計測値(cm)：長さ(10.4) 幅3.6 厚さ0.3					写真のみ

第75図　RA564（2）出土遺物

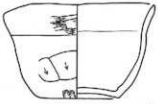


RD1060-1 (132)

RD1060-2 (133)

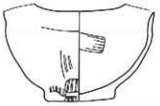
RD1060-4 (131)

RD1060-3 (129)

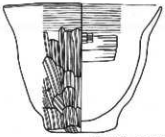


RD1060-6 (119)

RD1060-5 (130)



RD1060-8 (124、126)

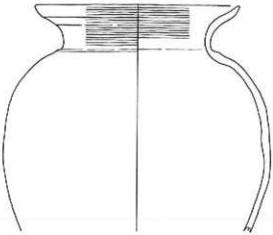


RD1060-7 (120)

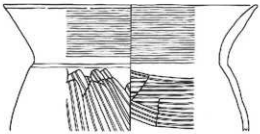
0　1：3　10cm

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RD1060-1	67	132	埋土上～中層	土師	大型坏	AI	HM	HM・HK	－	HM	HM	－	○	(24.0)	－	(8.0)	20		外面上半有段　底部欠損
RD1060-2	67	133	埋土上～中層	土師	坏	AI	HM	HM	－	HM	HM	－	○	(17.0)	－	(3.7)	～10	7.5YR6/4に近い橙	内外有段　底部欠損
RD1060-3	67	129	埋土上層9	土師	坏	AIM2	HM	－	HN	HM	HM	HM	○	12.9	－	4.5	70	10YR8/3浅黄橙	赤彩痕にタテ位圧痕の観察あり。底位下半有段。底よりも外面にゆるやかにたちあがる。
RD1060-4	67	131	埋土上層	土師	坏	AIM2	HM	HM	HM～HK	HM	HM	HM	○	12.6	－	(4.1)	50	7.5YR6/4に近い橙	外面下半有段
RD1060-5	67	130	埋土上層～中層	土師	坏	AIM2	HM	HM	HM・HK	HM	HM	HM	○	12.0	－	5.0	80	7.5YR8/8橙	外面下半有段 調形に近い。器より丸みをおびて立ちとがる。
RD1060-6	67	119	埋土層4、埋土上～中層	土師	小型甕	／	HN	HK	HN	－	－	－	×	11.9	6.0	7.5	70	7.5YR7/6橙	胎土の色調明るいが、雲母砂質 底が上がる。(No.122も)
RD1060-7	67	120	埋土上～中層	土師	小型鉢	／	YN	H	HN	YN・H	HN	－	×	(12.4)	5.7	10.2	50	7.5YR7/6橙	
RD1060-8	67	124 126	埋土上～中層	土師	小型鉢？蓋？	／	－	H	－	HN	－	－	×	(11.8)	5.5	7.7	40	10YR8/3浅黄橙	

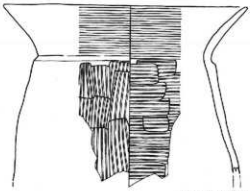
第76図　RD1060（1）出土遺物



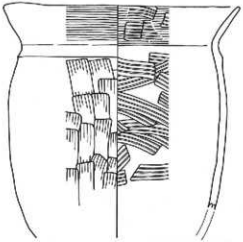
RD1060-9(116)



RD1060-11(263)



RD1060-12(117)



RD1060-10(118)

RD1060-13(121)

RD1060-14(123)

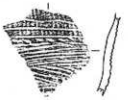
RD1060-15(122)

0　1:3　10cm

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	胎土色調	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RD1060-9	67	116	埋土上層	土	壺	AIS	YN	－	－	YN	－	－	×	(16.0)	－	(18.0)	30	7.5YR5/5～6/6浅黄橙	
RD1060-10	67	118	埋土上～中層	土	壺	AIT2	YN	HN	－	YN・H	H	－	×	(18.4)	－	(18.6)	60	7.5YR5/4にぶい褐	金雲母含
RD1060-11	67	263	埋土上～中層	土	壺	AIT?	YN	H	－	YN	H	－	×	(20.0)	－	(10.0)	10	7.5YR8/4浅黄橙	口縁のひろま大
RD1060-12	67	117	埋土上層4・10、埋土	土	壺	AIT1	YN	H	－	YN	H	－	×	(19.1)	－	(16.2)	30	7.5YR7/3～7/4にぶい橙	口縁著しくひらく
RD1060-13	67	121	埋土上層1、埋土上～中層	土	壺	AI	－	HN	かすかに木葉痕	－	H	H	×	－	8.4	(6.5)	30	7.5YR5/4にぶい橙	編整痕有 底の部分重く、立ち上がり明瞭
RD1060-14	67	123	埋土上～中層	土	壺	AI	－	H	かすかに木葉痕	－	H	－	×	－	8.4	(3.2)	～10	7.5YR5/3にぶい褐	
RD1060-15	67	122	埋土上～中層	土	壺	AI	－	H	顆粒痕	－	H	－	×	－	(6.8)	(4.5)	～10	7.5YR7/4にぶい橙	

第77図　RD1060（2）出土遺物

RD1039-1 (209)



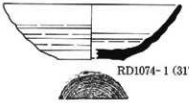
RD1066-1 (333)

RD1071-1 (171)

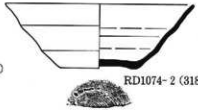
RD1072-1 (135)

RD1072-2 (337)

RD1073-1 (172)



RD1074-1 (317)



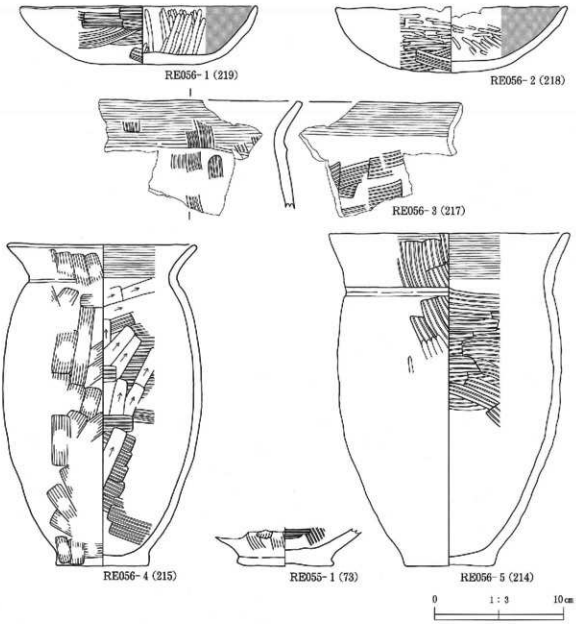
RD1074-2 (318)

RD1075-1 (212)

0　1：3　10cm

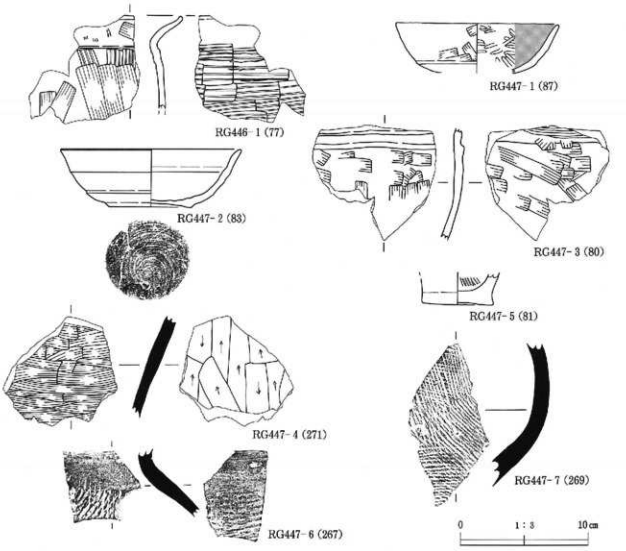
掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RD1039-1	68	209	埋土		土	甕	AI	－	H	－	H・YN	－	－	×	－	－	(6.0)	－10	10YR4/3にぶい黄褐	
RD1071-1	68	171	埋土		土	坏	IA2	RN	RN	回転糸切	HM	－	－	○	(14.8)	(5.4)	5.5	30	7.5YR7/4にぶい橙～7/3橙	
RD1072-1	68	135	埋土		土	甕	AI	YN	HN	－	YN	H	－	×	12.0	－	(5.7)	－20	7.5YR6/4にぶい橙	
RD1073-1	68	172	埋土		土	甕	AI?	－	－	木葉痕	－	HN	－	×	－	(9.8)	(1.6)	－10	5YR5/6明赤褐	
RD1074-1	68	317	埋土下層		須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.0)	(5.2)	4.4	40	10YR7/4にぶい黄橙	
RD1074-2	68	318	埋土下層		須	坏	IIB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.6)	5.9	5.1	30	10YR6/3にぶい黄橙～7.5YR7/4にぶい橙	
RD1075-1	68	212	埋土		土	甕	AI	－	H（下半）	H（下半）	－	－	－	?	－	－	(1.7)	－10	10YR4/4褐	
掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別		部位				施文原体・文様の特徴									備考
RD1066-1	68	333	埋土		弥生土器か?		体部				多条の沈線文が施されている									
RD1072-2	68	337	埋土		縄文土器		体部				RL									

第78図　RD1039・1066・1071・1072・1073・1074・1075　出土遺物



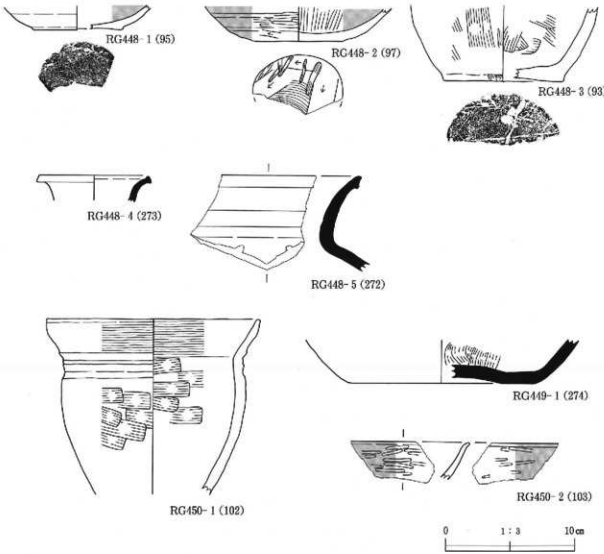
図版番号	写真図版	登録番号	別位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RE055-1	68	73	西側埋土	土	壺	AI	−	HN	−	−	H	−	×	−	7.5	(2.7)	10	7.5YR6/4 にぶい橙	胎土粗
RE056-1	68	219	Q2埋土	土	坏	AIM3	H	H	一部にHM	HM	HM	HM	○	18.5	−	4.6	85	7.5YR4/3 褐	平底に近いが不安定
RE056-2	68	218	埋土	土	坏	AIM3	HM	HM・下半H	H	HM	HM	−	○	18.2	−	5.2	95	7.5YR4/4 褐	
RE056-3	68	217	北壁沿埋土	土	壺	AI	YN・H	H	−	YN	H	−	×	−	−	(3.7)	10	7.5YR6/6 橙	
RE056-4	69	215	Xa 2・3、北壁沿	土	壺	AIT2	HN	HN	−	YN	H・HK	−	×	(14.6)	7.2	25.7	50	5YR5/6にぶい赤褐～5YR6/6橙	
RE056-5	69	214	北壁沿埋土	土	壺	AIT3	YN・H	H・HN	−	YN	H	−	×	(18.2)	7.0	26.5	70	7.5YR5/6 明褐	体部下半被熱により赤変
RE055-2	68	20022	層位：埋土1，2		器種：陶器編紐?					残存部位：口縁部									写真のみ

第79図　RE055・056　出土遺物



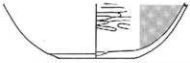
掲載番号	写真図版	登録番号	層位		種別				重量(g)	計測値ほか					備考
RG444-1	69	4010	埋土		鉋の刃				85.0						写真のみ
RG444-2	69	4011	埋土		釘				5.60	計測値(cm):長8(5.5) 厚8(0.7					写真のみ
掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)				胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高	残存率(%)		
RG446-1	69	77	埋土	土	瓮	AI?	HN	H・HN	−	−	H	−	×	−	−	(8.5)	−10	7.5YR7/6橙	
RG447-1	69	87	埋土、流乱	土	坏	AI	HN	HN	−	HM	HM	−	○	(13.0)	−	(3.9)	10	7.5YR6/6橙	外面有段
RG447-2	69	83	埋土	土	坏	IB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(14.2)	6.4	4.6	60	10YR8/3浅黄橙	焼成良好 須恵器に近い。
RG447-3	69	80	西端埋土	土	瓮	AI?	YN	HN	−	YN	HN	−	×	−	−	−	−20	7.5YR6/4にぶい橙	胎土に金雲母含む。
RG447-4	69	271	西端埋土	須	甕	IIA	−	HK	−	−	HN	−	×	−	−	−	−10	外面7.5YR5/1褐灰 内面N5/0暗灰	
RG447-5	69	81	西端埋土	土	小型甕	／	−	−	−	−	H	−	×	−	5.6	(2.6)	−10	10YR7/6にぶい黄橙～5/4にぶい黄橙	
RG447-6	69	267	西端埋土	須	甕	IIA	−	ナデ・指頭	−	−	ナデ・指頭	−	×	−	−	−	−10	N4/0灰	
RG447-7	69	269	西端埋土	須	甕	IIA	−	ナデ・指頭	−	−	ナデ・指頭	−	×	−	−	−	−10	N4/0灰	内面横有 体部下半

第80図　RG446・447　出土遺物



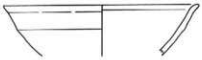
掲載番号	写真図版	登録番号	出土位置	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	焼成処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
RG448-1	79	95	西側埋土	土	坏	IA2	−	RN	−	−	(ミガキ)・内黒土器化	−	○	(6.6)	(1.7)	−10	7.5YR6/6橙	内外とも磨滅	
RG448-2	79	97	検出面	土	坏	IA1	−	HM	糸切後HA	−	HM	−	◎	−	7.9	(2.7)	20	10Y3/1暗灰~5/1黒褐	
RG448-3	79	93	埋土	土	甕	AI	−	HN	本来痕	−	HN	−	×	−	(9.4)	(6.0)	−10	7.5YR5/4にぶい褐	
RG448-4	79	273	西側埋土	須	壺	ⅡA	RN	−	−	RN	−	−	×	(8.8)	−	(2.0)	−10	5YS/1灰	
RG448-5	79	272	西側埋土	須	甕	ⅡA	RN	RN	−	RN	RN・ヨコナデ・ナデ(低台部迄)	−	×	−	−	(7.5)	−10	N4.5/1灰~10YR4/2灰黄褐(底部)・黒褐	
RG449-1	79	274	埋土	須	甕	ⅡA	−	−	−	−	ナデ	ナデ	×	−	(14.4)	(3.4)	−10	10YR5/1褐灰	内部のナデは指圧痕に近い。
RG450-1	79	102	西端埋土	土	甕	AIT2	YN	HN	−	YN	HN	−	×	(16.8)	−	(13.9)	30	10YR7/3にぶい黄橙	砂土金雲母多い
RG450-2	79	103	西端埋土	土	坏	AI	HM	HM	−	HM	HM	−	◎	−	−	(2.9)	−10	10YR3/1黒褐	底部欠損
RG449-2	79	2003	層位：埋土			器種：大甕				残存部位：体部									中世陶器 写真のみ

第81図 RG448・449・450 出土遺物



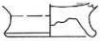
RG453-1 (175)

RG453-2 (174)

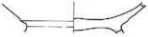


RG453-3 (181)

RG453-4 (176)



RG453-5 (177)



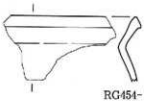
RG453-6 (179)

RG453-7 (173)

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RG453-1	70	175	埋土	土	坏	IA2	−	−	未切離痕?	−	HM	−	○	−	6.0	(4.3)	10	5YR6/8橙	
RG453-2	70	174	検出面	土	坏	IB2	−	RN	回転糸切	−	−	−	○	−	5.2	(2.4)	25	5YR7/6橙	あかやき土器
RG453-3	／	181	検出面、埋土	土	坏	IB	RN	RN	−	RN	RN	−	×	(15.2)	−	(4.0)	30	5YR6/6橙	あかやき土器　写真なし
RG453-4	70	176	炉1	土	高台付坏	／	−	RN	RN	−	−	−	○	−	−	(2.7)	10	7.5YR7/6橙	ヘラミガキ不明瞭
RG453-5	70	177	検出面、埋土	土	高台付坏	／	−	RN	RN	−	−	HM	○	−	7.2	(2.4)	10	7.5YR6/4にぶい橙	台内側に太いロクロ線あり
RG453-6	70	179	検出面、埋土	土	高台付坏	／	−	RN	−	−	RN	−	×	−	−	(2.2)	15	5YR6/6橙	あかやき土器
RG453-7	70	173	検出面、埋土	土	小型甕	／	RN	−	−	RN	−	−	×	−	−	(4.3)	−10	5YR5/6橙	粗土粗

RG454-1 (186)

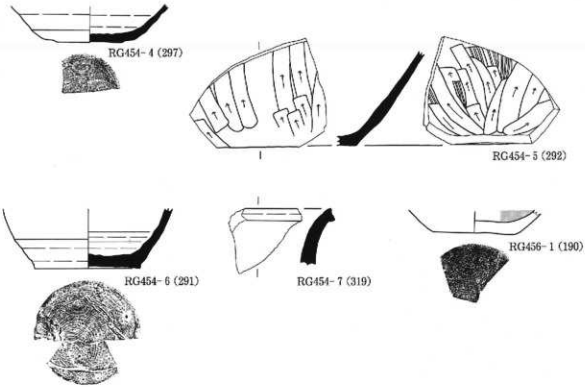
RG454-2 (187)



RG454-3 (185)

0　1：3　10cm

第82図　RG453・454（1）出土遺物

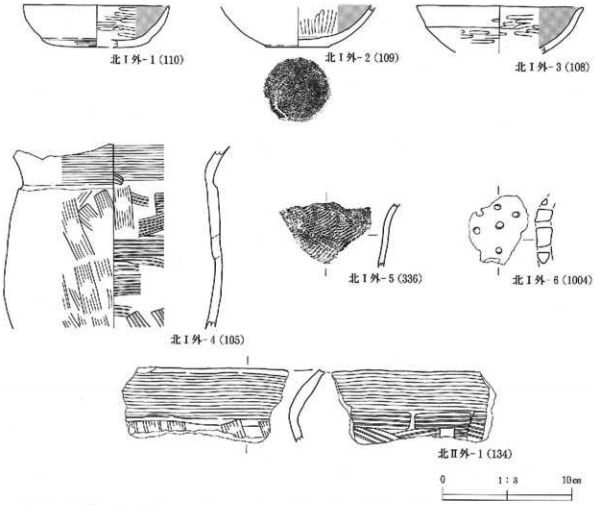


掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物,色調等)	備考
RG454-1	70	186	埋土上層	土	坏	IA	RN・HM	RN・HM	－	HM	HM	－	◎	(14.4)	－	(3.4)	20	10YR1.7/1 黒	
RG454-2	70	187	埋土	土	坏	IA2	－	－	回転糸切	－	HM	－	○	－	5.5	(1.2)	10	10YR8/4 浅黄橙	
RG454-3	70	183	埋土上層	土	甕	IA	RN	RN	－	－	－	－	×	－	－	(5.1)	－10	7.5YR7/6 橙	
RG454-4	／	297	埋土	須	坏	IIB2	－	RN	回転糸切	－	RN	RN	×	－	(5.0)	(2.8)	－10	N8/0灰	体部下半丸味帯びる。写真なし
RG454-5	70	292	埋土上層	須	甕	IIA	－	HK(下半)	－	－	H・HK	－	×	－	－	(8.4)	－10	N5/0灰	
RG454-6	70	291	埋土、西壁部底面近く	須	鉢	IIA	－	RN	回転糸切・ヘラ切り痕	－	RN	RN	×	－	8.3	(4.7)	－20	5YR7/8・5Y 5/2灰オリーブ	
RG454-7	70	319	埋土	須	甕	IIA	RN	－	－	RN	－	－	×	－	－	(5.2)	－10	2.5YR6/1 黄灰	頸部の一部分
RG456-1	71	190	埋土	土	坏	IA2	－	－	回転糸切	－	－	－	○	－	(6.4)	(1.7)	10	10YR8/4 浅黄橙	

掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	黒色処理	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物,色調等)	備考
RG457-1	71	220	埋土	土	坏	AI?	YN	－	－	－	－	－	×	－	－	(3.4)	－10	10YR8/3 浅黄橙	分類は推定
RG464-1	71	334	層位：理土	種別：縄文土器			器位：体部			施文部位・文様の特徴：LR									

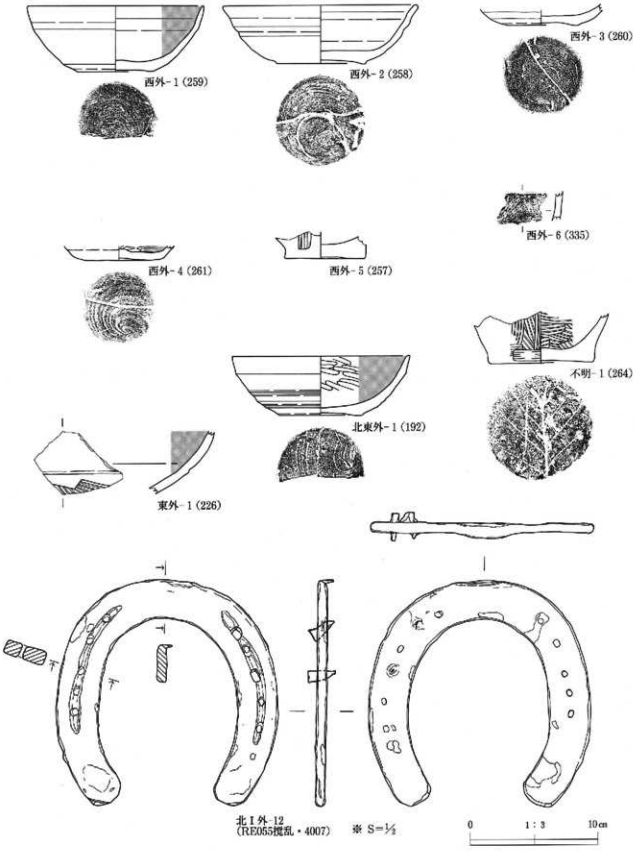
0　1：3　10cm

第83図　RG454（2）・456・457・464　出土遺物



掲載番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色処理	計測値(cm)			残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
							口縁・頸部	体部	底部	口縁・頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
北Ⅰ外-1	71	110	南西側拡張	土	坏	AIM2	－	－	HM	HM	HM	HM	○	(11.4)	－	3.3	20	7.5YR6/4 にぶい橙	粘土黒－水酸化鉄有 小型
北Ⅰ外-2	71	109	トレンチ9	土	坏	1A2	－	RN	糸切痕	－	HM	－	○	－	4.8	(3.2)	30	7.5YR5/4 にぶい褐	
北Ⅰ外-3	71	108	トレンチ9 表土層	土	坏	AI	RN	?	－	HM	HM	－	○	13.0	－	(3.7)	15	7.5YR5/6 明褐	底部欠損
北Ⅰ外-4	71	105	トレンチ10 表土層	土	瓶	AIT2	YN	HN	－	YN	H・HN	－	×	－	－	(14.4)	20	HYR4/3 にぶい黒褐～4/4褐	
北Ⅱ外-1	71	134	東端視土	土	甕	AI	YN	HN	－	YN	H	－	×	－	－	(5.0)	－10	7.5YR6/4 にぶい橙	
北Ⅰ外-5	71	336	層位：トレンチ4埋土		種別：縄文土器		部位：体部			施文原体・文様の特徴：LR									
北Ⅰ外-6	71	1004	層位：トレンチ5表土層		器種：土師器甕					重量(g)：25．6				色調：7.5YR6／6					底部
北Ⅰ外-7	71	2005	層位：北Ⅰ区		器種：器台類					残存部位：口縁部				碗 19世紀以降					表採 写真のみ
北Ⅰ外-8	71	2006	層位：トレンチ8表土層		器種：陶器					残存部位：口縁部				徳口 18後半～19世紀					写真のみ
北Ⅰ外-9	71	2007	層位：表土層		器種：磁器					残存部位：口縁部				急須又は土びん 19世紀					写真のみ
北Ⅰ外-10	71	2011	層位：－2－A09 1区拡張土		器種：陶器鉢					残存部位：底部～体部下半				鉢 19世紀以後					2010と同一個体 写真のみ
北Ⅰ外-11	71	4013	層位：Pit埋土		種別：釘					重量(g)： 4．2				計測値(cm)：長さ(4.0) 厚さ0.7					写真のみ
北Ⅰ外-12	72	4007	層位：TED55拡張北Ⅰ区		種別：鉄鉄					重量(g)：209．15									

第84図 北Ⅰ・北Ⅱ 遺構外出土遺物



第85図　西・東・北東・不明・RE055撹乱　遺構外　出土遺物

遺構番号	写真図版	登録番号	層位	種別	器種	分類	外面調整 口縁・頸部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁・頸部	内面調整 体部	内面調整 底部	焼成良否	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 器高	残存率(%)	胎土(含有物、色調等)	備考
西外-1	72	259	表土層	土	坏	IA2	RN	RN	回転糸切	－	－	－	○	(13.8)	5.8	5.2	50	10YR7/3 にぶい黄橙	内面黒色処理剥落 内外面共に磨滅
西外-2	72	258	西・北トレンチ内東側	土	坏	IB2	RN	RN	回転糸切	RN	RN	RN	×	(15.2)	7.0	4.6	50	7.5YR7/8 黄橙	あかやき土器
西外-3	72	260	旧pit通西側トレンチ	土	坏	IB	－	－	回転糸切	－	－	－	×	－	5.8	(1.2)	20	7.5YR7/4 にぶい黄橙	磨滅剥落 内面黒色処理されていた可能性有
西外-4	72	261	西・北トレンチ内東側	土	坏	IA2	－	RN	回転糸切		HM	－	○	－	5.6	(1.1)	-10	7.5YR6/6 明黄褐	磨滅剥落
西外-5	72	257	試所道南側トレンチ	土	甕	AI	－	H	HN?	－	－	－	×	－	6.4	(2.1)	10	10YR7/3 にぶい黄橙	
東外-1	72	256	表層	土	坏	AIM2	－	H	－	－	－	－	○	－	－	(4.8)	-10	10YR7/4 にぶい黄橙	分類は推定
不明-1	72	264	不明(北D区表土)	土	甕	AI		H	木葉痕	－	H	－	×	－	8.3	(4.1)	-10	7.5YR7/6 橙	
北東外-1	72	192	-2A03L 横川面	土	坏	IA2	RN	RN	回転糸切	HM	HM	－	○	(14.0)	(6.6)	4.7	30	10YR6/4 にぶい黄橙	
西外-6	72	335	層位：検出面	種別：縄文土器			部位：体部			施文順序・文様の特徴：LR									西面表滅
東外 2	72	2004	層位：表層	器種：磁器碗			残存部位：口縁部			時(肥前) 18～19世紀									写真のみ
Ⅱ-A-1	72	2008	層位：-2-A 9m区 Ⅳ層上面	器種：磁器碗			残存部位：口縁部			碗 19世紀以降									写真のみ
-3-A-2	72	2009	層位：-2-A 13m区 掘落土	器種：磁器碗			残存部位：体部			碗 18後半～19世紀									写真のみ
-2-A-3	72	2010	層位：-2 A 8～9m区 掘乱土	器種：磁器鉢			残存部位：口縁部			鉢 19世紀以降									2011と同一個体 写真のみ

第86図　遺構外　出土遺物

V まとめ

1 遺構について

本年度行われた第44次調査は、調査対象面積3,527㎡、調査面積2,907㎡、調査期間平成14年4月9日～8月5日、調査区は新築された住宅間との宅地跡、休耕田と畑地跡が主であり、5小調査区（北Ⅰ区・北Ⅱ区・北東区・東区・西区）に分かれている。検出遺構数は、竪穴住居跡20棟（奈良時代11棟・平安時代9棟）、掘立柱建物跡5棟、土坑37基、竪穴状遺構2棟、焼土遺構2基、溝跡25条、井戸跡1基、柱穴状土坑約130基であった。本遺跡の調査は第44次を数えることより、遺跡の南東部分を除いては、住宅に囲まれた区域を調査していくという状況である。これは、調査の中で排土処理や地域住民からの苦情（作業進行や騒音）等問題を有することにもなるが、一方で過去の調査からある程度の予想や仮説を導き出してから調査を行うことができるというメリットも有することになる。

まとめにあたっては、他の調査年度に比して調査面積も狭く、検出遺構数も少なかったことから、各小調査区毎のまとめを中心に行い、終わりに第23・26次調査とデーターを重ね、台太郎遺跡第44次調査についてのまとめとした。

（1）北Ⅰ区（2-A～3-Aグリッド）

①竪穴住居跡

〈検出数〉全9棟、内3棟は過年度調査済みの部分があり未調査部分について調査を行った（RA185・393・396）。不掲載遺物の整理とカマドの方向から、一部推定も含み奈良時代の竪穴住居跡8棟（RA185・393・396・550・552・553・554・555）、平安時代の竪穴住居跡1棟（RA551）である。検出面は黄褐色土上面である。宅地跡でありかなりの撹乱がみられたが、丁寧に精査を進めると住居跡の全容を明らかにすることが出来、遺物の数も多い。RG452を中心とすると西側に奈良時代、東側に平安時代の住居跡が分布する。

〈平面形〉方形　隅丸方形

〈規模・主軸方向－南北中心・カマドの位置と向き－主に北から〉

表5　北Ⅰ区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模（東西×南北）m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA185	奈良	4.4×（1.05）・中形	N－9°－W	北壁中央西寄　N－11°－W
RA393	奈良	（4.3）×5.6・中形	N－24°－E	（過年度調査済み）
RA396	奈良	不明	N－36°－E	不明
RA550	奈良	3.9×3.6・小形	N－40°－W	北壁中央東寄　N－40°－W
RA551	平安	3.5×3.7・小形	N－25°－W	西壁中央南寄　S－74°－W
RA552	奈良	2.8×2.5・小形	N－63°－W	西壁中央南寄　N－63°－W
RA553	奈良	（6.8×6.5）・大形？	N－30°－W	北壁中央　N－32°－W
RA554	奈良	不明	不明	不明
RA555	奈良	4.55×4・中形	N－55°－W	西壁中央南寄　N－58°－W

奈良時代に於いては小形～大形（一部推定）、カマドの位置は北～西壁の中央ないし北か西に寄る。平安時代に於いては小形が一棟、カマドの位置は西壁南寄である。重複については、奈良時代は二ヶ所みられ、一ヶ所はRA552（小形）とRA553（大形）、もう一ヶ所は不確定ながら同規模のRA554とRA555である。

〈埋土・壁・床面・Pit〉奈良時代の住居跡に於いては、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体、壁の立ち上がりは明瞭である。壁高残存値は10～30cmの範囲で、遺構により違いがある。床面は平坦である。上層において撹乱が入り込んでいる場合でも、床面までは至らないものみられる一方で、RA552・553では、撹乱の土が床面まで至る。住居を作る際、深く掘りこんでいたからであろう。RA393では主柱穴がみとめられ、RA550では主柱穴とみられる柱穴がある。

平安時代の住居跡に於いても、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体、壁高残存値は8～20cm、特に南端のRA551の残り状態は悪い。付近にRB047・048と柱穴状土坑群があり、その柱穴が床面やカマド内まで入り込んでいる。

〈カマド〉奈良時代の住居跡に於いて、カマドの精査を行ったのは8棟中5棟である。方向は北西向き、作り方は刳貫式2（掘込式の可能性も有）掘込式3である。袖は黒褐色土～黄褐色土で構成され、袖が無いものも、焼成良好の燃焼部中心が残る場合がある。燃焼部の中心は明確、RA185では支脚につかわれた礫やRA555では支脚抜取痕が認められる。平安時代の住居跡は1棟について精査を行った。方向は南西向き、作り方は掘込式1（刳貫式の可能性も有る）、袖は黒褐色土で構成される。

②掘立柱建物跡　3棟検出した。RB046はRE055を伴う曲家とみられ、RB047は間隔がRB046と同じく柱中心間1mを意識して作られており、ほぼ同時期の建物跡とみられる。RB048は主軸が南北方向を示し、RB047同様、柱穴中には礎が認められる。

③土坑　24基検出した。埋土中に焼土や炭化物を含み、RD1045・1048・1050・1051・1055・1067のように何かを焼いたと考えられる土坑、また平面形が方形等を呈する土坑もみられるが、出土遺物も少なく、時期と性格については判定できない。

④竪穴状遺構　RB046に伴う馬屋部分である。三時期に区分されている。

⑤焼土遺構　2基検出、小規模ながら焼成が良好である。

⑥溝跡　11条検出する。東西に走る溝跡については、過年度の調査区の溝跡に続くものになろう。RG448を中心に、不掲載遺物となる土師器・甕と坏の小破片は多いが、撹乱が多くまた重複部分も有ることから、遺物をもって時期を特定することは出来ない。

⑦柱穴状土坑群　北Ⅰ区中央から南側にかけてあり。特に南側には礎が入るものがあり、より多くの掘立柱建物跡を構成するとも考えられる。

⑧不掲載遺物からみた傾向　非ロクロ・甕と坏の破片が主になることから、やはり奈良時代の住居跡等の遺構が集まっている区域といえよう。種々の遺構との重複のみられる溝跡に関しては、非ロクロとロクロの土師器破片数の混じっている状況である。総じて竪穴住居跡内から出土する遺物と同傾向を示している。

（2）北Ⅱ区（-3-A グリッド）

①竪穴住居跡

〈検出数〉 1棟で遺物の特性より奈良時代に属する。

〈平面形〉 一部推定だが方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉検出した住居跡はRA549、規模東西（5.0）×南北5.4m、大きめの中形で主軸N－26°－E、カマドの位置は北壁か、調査区外になるので詳細は不明である。埋土は暗褐色土～黒褐色土主体、壁の立ち上がりは明瞭で、残りのよい住居跡である。床は締まりがあり、主柱穴とみられる柱穴もある。

②土坑　北Ⅱ区に於いて特筆すべきは、重複するRD1059・1060・1061・1068・1072である。黄褐色土上面、黒褐色土～暗褐色土の落ち込みで検出可能であった。出土遺物は、AI類甕　球胴・長胴・小型甕、AI類坏－丸底・内外面又は外面に段が認められるもの、推定　径20cmに近い大型坏等、多種にわたる。埋土は黒褐色土～暗褐色土主体、埋土中層～下層にかけて土師器が出土し焼土と炭化物を含む層状の堆積より、埋土と土師器が人為的に投げ込まれた土坑と考えられる。

③不掲載遺物からみた傾向　一部須恵器とロクロ使用の口縁部破片のみられる他はほぼ非ロクロの土師器破片である。北Ⅰ区同様、奈良時代の遺構の集まっている区域であるといえよう。

（3）北東区（-2A ～-3A グリッド）

①竪穴住居跡

〈検出数〉 6棟検出、うち3棟については調査区外に延びるため全容を把握することは出来ない。不掲載遺物の整理と遺構内出土遺物の傾向より、平安時代の遺構と推定される。

〈平面形〉方形　隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉

表6　北東区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模（東西×南北）m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA556	平安	4.8×4.9・中形	N　43°－W	西壁中央　N－50°－W
RA557	平安	(3.6×2.0)	不明	不明
RA558	平安	(2.7×0.5)	不明	不明
RA559	平安	2.8×2.9・小形	N－5°－E	なし
RA560	平安	4.2×（2.4）・小形	N－15°－E	南壁中央やや東寄　南北

〈埋土・壁・床面・Pit〉埋土は主に黒褐色土～暗褐色土主体、壁は10～22cm、床面はRA556はやや北側が下がる。他は平坦だが小礫が目立つ。主柱穴が認められる住居跡は無い。カマドに関する土坑はあり。

〈カマド〉RA556とRA560に於いて認められ、両方とも掘込式である。RA556においては袖芯材に礫が用いられている。RA560に於いては袖自体が明確にならない。加えて、いずれも燃焼部中心の焼土焼成は弱く、中心が明確にならない。

②土坑　3基検出、根痕撹乱とみられる土坑もあるが、遺物が出土している土坑もある。

③溝跡　4条検出、北側が低いことと過年度検出の東側の溝に向かって流れ込むものであろう。

RG453に於いて出土遺物が多い。器種は、小型甕、ロクロ使用の坏とあかやき土器の出土がみら

れる。また、不掲載遺物の整理より、須恵器の出土もあり、破片に於いてもあかやき上器の出土が多い。出土状況についての細かい記録が無いため、投げ入れか流れ込みの遺物かは断定できない。意図的に、投げ入れられた可能性のあることだけを記す。

④不掲載遺物からみた傾向　a．非ロクロとロクロの坏・甕が混在する状態である。また、ロクロ・坏（内黒とあかやき）の他にも須恵器破片の出土も認められる。

b．ロクロ・杯の内黒と、あかやき土器の破片をみた場合、同じ又はやや内黒の多い様子であることより、遺物に関しても9世紀中～後半に属するものがみられる区域と考えられる。RA556の北西向きのカマドの位置とも合致するものである。

c．RG453に関しても③で書いた傾向のとおりである。非ロクロ・甕とロクロ・坏の破片が特にも多い。RG454に於いても、かたよりがみられていることから、時期とともに遺構の性格についても予想する資料とはなる。

（4）東区（3Fグリッド付近）

①竪穴住居跡

〈検出数〉1棟、遺物の特徴とカマドの向きより奈良時代に属する。

〈平面形〉隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉検出した遺構はRA547、規模東西5.7×5.3m中形、主軸N－24°－W、カマド北壁の中央部分で向きはN－21°－Wである。埋土は暗褐色土主体、壁の立ち上がりは明確で、壁高残存値は30～42cmと残りのよい住居跡である。袖構成土はやや締まりの有る黄褐色土主体、中心部の焼成は良、間仕切、周溝と主柱穴が確認できる住居跡である。

②土坑・溝跡・堀跡　RG458は方形に巡る溝跡である。断面は箱形、底面は平坦であるが部分的に深く掘り込まれているところもあり、Ⅱ期に分かれる可能性もある。昨年度の調査区の溝跡と結びつくが、西側で礫層に至るため消滅している部分がある。出土遺物は、不掲載遺物の整理より、埋土上層から出土した非ロクロ・甕体部破片が多いが、立体になるものが少なく、遺構の性格を裏付ける資料には出来なかった。

RG461は狭い東側調査区を東西に横切る、やや小規模ではあるが堀跡である。西側は昨年度の調査区に至るが、境付近では埋土と底面には礫が多くなり、礫層に至る。全容及びその性格については、東区全体の調査を待ちたい。

RG458の内側と外側には3基の土坑がある。RD1040は溝の内側にあり、埋土は黒褐色土～暗褐色土～にぶい黄褐色土主体、上層と周辺に焼骨と焼土がある。出土遺物は非ロクロ・甕と坏の破片である。RG458に関しては、非ロクロ・甕体部破片が多い。RD1039は溝の外側にあり、埋土は黒褐色土～褐色土主体、焼土無し、出土遺物はRD1040と同傾向である。RD1075は溝の外側にあり、埋土は等はRD1039と同傾向である。

3基ともわずかではあるが遺物があり、その傾向より東区の住居跡等と同じ古代の遺構とみられる。

③掘立柱建物跡　1棟検出、2間×2間の方形で主軸はN－21°－W、RA547と同じである。断面の観察よりRG458よりも古く、遺物がないので断言出来ないが、周囲の遺構と同じく古代の倉庫のような建物跡であったとみられる。

④不掲載遺物からみた傾向　東区の遺構の状況と合致する傾向にある、時々みられるロクロの土師器については、投げ込みによるものであろう。RD1040とRG448に関しては前述の②のとおりである。遺構の時期に関しては問題はないが、体部破片の数が著しく多いことは、こわして意図的に投げ入れた等、何らかの理由を付加したい。

（5）西区（1-Cグリッド）

①竪穴住居跡

〈検出数〉全部で3棟検出、不掲載遺物の整理と掲載遺物、カマドの方向より奈良時代の住居跡1棟、平安時代の住居跡2棟である。

〈平面形〉隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの向きと方向〉

表7　西区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模（東西×南北）m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA562	奈良	3.3×3.3・小形	N－31°－E	西壁中央　N－50°－W
RA563	平安	2.2×2.4・小形	N－11°－W	北西壁西寄　N－18°－W
RA564	平安	2.8×（2.5）・小形	N－40°－W	北東壁中央　N－45°－E

RA562のカマドの作りは掘込式か袖構成土は黄褐色土主体、燃焼部中心の焼成は中、壁の残りは悪く、検出面よりすぐ床面に至る状態である。RA563・564ともカマドの作りは掘込式、袖は検出されない。検出時点でカマドの位置は明確であったが、削平のため重複関係は明確にならない点もある。

②掘立柱建物跡

詳細は前述の通りであり、RB044掘立柱建物跡を検出した。旧河道上で検出したので、新しい時代の建物跡とみられる。

③溝跡・井戸跡

RG464・465・466の3条である。積極的に時期を断定できる遺物は出土していないが、重複関係よりRA563・564よりも古い古代の溝跡とみられる。

④不掲載遺物からみた傾向　他の区域同様、遺構の状況と合致する傾向にある。

西側に広がる旧河道中より出土する遺物についても、土師器・非ロクロ・坏・甕、ロクロ・坏（内黒とあかやき）と甕、須恵器がみられ、西区の遺構が平安時代を中心にしたものであることを示している。

（6）不掲載遺物の整理

①整理方法　今回の整理において、小調査区毎に不掲載遺物の整理を行い、遺構や小調査区毎のおよその時期を考える資料とした。結果は表8～15「台太郎遺跡不掲載遺物一覧」に示した通りである。以下本文と一緒に参照されたい。分類は以下の方法による。

a　遺構名で仕分けする。

b　土師器と須恵器で分ける。

c　出土地点毎に整理する。

- 遺物
  - 土師器
    - 坏
      - ロクロ
        - 内黒（口縁部数・体部数・底部数）
        - あかやき土器（同　　上）
      - 非ロクロ
    - 甕
      - ロクロ　（口縁部数・体部数・底部数）
      - 非ロクロ（同　　上）
  - 須恵器
    - 坏（口縁部数・体部数・底部数）
    - 甕（口縁部数・体部数・底部数）

以下の処理に於いては、データーとして利用できるものとして、数の多い口縁部破片数と体部破片数の関係に着目した。

②分析1　表に示した内容は、周囲の状況とその形態だけから推定した遺構の時期的分布とほぼ合致するものと言えよう。すなわち、奈良時代と平安時代の遺構が混在する北Ⅰ区と西区に於いては、ロクロ使用と未使用の遺物が混在する。一方、昨年度の調査と今次調査の遺構からみて予想が立てられた東区に於いては、ロクロ未使用の遺物の出土が大部分であった。同様なことは、北Ⅱ区と北東区においても言えることであった。

③分析2　次に不掲載遺物の多い遺構に限り、口縁部と体部の破片数関係を整理したものが第87・88図である。この図からは以下3つの傾向が読みとれる。

a　ある一部分に集中するもの－RA551・563

b　集中する部分がありながら他に特に多い部分のあるもの－RA393・547・550　RG448・453

c　集中点がなく全体的に分布するもの　RA550・556・564　RD1060　RG454

RG448（体部破片数が多）やRG453（口縁部破片数が多）のように特殊な部分を有するものについては流れ込みや投げ込み等のことも考えられたが、現場における資料収集不足があり、可能性のみ記す。

④分析3　器種毎に口縁部数と体部数の関係を整理したものが第89図である。器種毎に整理すると以下のようになる。

a　非ロクロ・甕－器種の特性上体部破片数の割合が多く、ばらつきがある。

b　ロクロ・甕　集中する部分に於いては口縁部破片数≒体部破片数である。周辺にばらつきが見られるがaに比べると平均化している。

c　非ロクロ・坏－口縁部破片数≒体部破片数である。

（7）竪穴住居跡の床面積と主軸方向

台太郎遺跡第44次調査における竪穴住居跡の床面積と主軸方向について、過去の第23次と26次調査の結果とあわせてみた。本次調査においては調査遺構数が少なく、その結果だけでは傾向が把握できないため比較を試みた。以下わかったことについてまとめる。

①奈良時代の竪穴住居跡について

a　今次調査区の住居跡は小形～中形に属するものがみられる。第23・26次調査の住居跡の数の多い部分の分布に重なる範囲内にある。

b　住居の主軸方向についても同様である。主軸方向は北西方向を示す。第23・26次調査においては北から約30°西に傾くものと、西から約25°北に傾くものに集まる傾向が伺える。カマドの向きと一致する。

②平安時代の竪穴住居跡について

a　第23・26次調査においては奈良時代に比べ住居跡はより小形化の傾向をたどる。第44次調査においても同様の傾向が伺える。

b　住居跡の主軸方向については、今次調査は分散する傾向にあるといえよう。完全に南方向を意識した住居跡主軸（カマド方向）が2例にわたりみられる。第23・26次調査においては西－北－東－南と多方向にわたっている。住居跡の中心は今次調査区が北東区・北区・西区であり、過年度調査区がそれより西乃至東であったこと、すなわち場所（占地）による違いから生じた結果であろうか。今次調査区の遺構数が少ないため傾向についての考察には至らない。

竪穴住居跡の床面積と主軸方向について、同じ盛南開発関連遺跡である野古A遺跡でも行った。台太郎遺跡よりも少し西側に位置する遺跡であるが、台太郎遺跡と共通する部分とやや異なる傾向がみられた。「野古A遺跡第15次発掘調査報告書」（第421集）を参照されたい。　（阿部　眞澄）

2．古代台太郎ムラについての若干の考察

（1）はじめに

前節で阿部が報告したように、今次調査においては8世紀から9世紀にかけての竪穴住居跡が20棟検出されている。台太郎遺跡でこれまでに精査されている古代の住居跡の年代は、古墳時代から10世紀代までと幅広いが、この節では今次調査で検出された住居跡の時代に限定して、出土遺物のまとめと当時の台太郎ムラに関する若干の考察を行いたい。

（2）出土遺物について

①非ロクロ成形土器〔第91図〕

酸化焔焼成された、いわゆる土師器である。器種は坏・高坏・甕・鉢・多孔式甑・小型手捏ね土器の各種である。以下で器種別に述べる。

a．坏

丸底タイプの作りのものと平底風の作りのものが見られる。これまでの研究では前者が相対的に古いタイプのものであるとされている。前者には口縁部から体部にかけて、あるいは体部の下半に横走沈線が施されているものが多く（AIM 1・2類）、横走沈線が無いもの（AIM 3類）もあるがその出土点数は少ない。共に体部は丸みを持って底部から立ち上がる。後者は丸底タイプのものが漸次平底風に変化してきたものとされており、形態的にはロクロ成形の坏に近い。やはり体部外面に横走沈線の施されるもの（AIH 1・2類）と、沈線の無いもの（AIM 3類）の2種が存在しているが、出土点数の傾向として無沈線のものの割合が増している点は注意される。以上の形態の坏以外にも、底部が割に平坦な作りで、体部がやや直立気味に立ち上がるタイプがみられる（RA547-2、RD1060-5）。このタイプの出土点数は僅少であったが、RA547住居跡およびRD1060土坑から各1点出土しており、いずれもAIM 1・2類の丸底タイプに共伴する。特にもRD1060土坑出土の個体（RD1060-5）は、埋土上層から中層にかけて一括出土した多量の投げ込み土器の1つであったゆえ、共伴関係を検討するのには良好な資料であろう。

b．高坏

RA547住居跡の埋土中から1点出土している（RA547-3）。体部外面に段を有する丸底・内面黒色処理された坏に高台部が取り付けられたような器形である。器面は内外ともよく研かれており、高台部は下端を欠損しており器高は不明である。丸底タイプの坏（RA547-1）が共伴する。

c．甕

球胴タイプのものと長胴タイプの2種が出土している。球胴タイプは摩滅のために分からないものもあるが、口縁部内外面ともヨコナデ・体部内外面ともハケメ調整を基本とする。RD1060-9は口縁部に稜を持つ。

長胴タイプの甕には器形の違いが認められた。これまでの研究を参考に旧いとされるものの順に述べれば、①体部最大径を体部下半に持つもの（RA549-5・6、RA185-6）、②口縁に稜を持ち横走沈線が施されたもの（RA547-8・9、RA562-4）、③口唇部が角張って最大径を体部に持ち、底部の外方への張り出しが弱いもの（共伴するものも含む。RE056-4・5、RA555-2、RA393-1）、④口縁部幅が狭くなり、器形的にはロクロ成形甕に類似するもの（RA561-1）となろうか。

d．鉢

器高よりも口径が大きく（大きいと推定されるものも含む）、坏とは形態を殊にするものを基本とし、これらに器形の類するものを鉢として分離した。

器形の違いから3つのタイプに分離出来る。1つは体部内外面に段を有し、平底で、体部が外傾して立ち上がるもの（RA550-3、RA550-5、RD1060-6）。このタイプには内外面黒色処理されたもの、非黒色処理のものの2種が存在する。2つ目は体部が球体状の丸みを持ち、口径が体部最大径よりも小さく窄まっているもの（RA550-9、RA550-10、RA555-6）。このタイプの底部は平底のものと丸底のものとが存在しており、内外面黒色処理されるものもあった。3つ目は長胴甕を小型化したような器形のもの（RA185-4、RA555-7、RG450-1、RD1060-7）である。このタイプには、頸部に多条の横走沈線をもつもの、頸部有段のもの、頸部の段が不明瞭化しているものの3種が存在する。

e．甑

北Ⅰ区のトレンチ5・表土層より小破片が1点出土している（第84図・北1外-6）。多孔式甑の底部の破片である。遺構に伴わず、器形も不明である。

f．小型手捏ね土器

明らかに小型手捏ね土器と判明するのは、RA555住居跡出土の完形品1点のみで（RA555-8）、猪口のような器形である。片口風の作りかとも思われる。

②ロクロ成形土器〔第92図〕

焼成状況の違いから土師器と須恵器の2種に分かれる。土師器は坏・高台付坏・甕の3つの器種がある。須恵器は坏・甕の2つの器種がある。以下、土師器・須恵器に分けて器種別に述べる。

②－1　土師器

a．坏

土師器坏（Ⅰ類）は二次調整・黒色処理の施されたタイプ（ⅠA類）と、非黒色処理で器面に成形時のロクロナデしかなく、基本的には二次調整の施されないタイプ（ⅠB類、いわゆる「あかやき坏」）とに大別される。

ⅠA類で全体の器形が分かる個体はRA556住居跡出土のものが多い。第91図に掲げたRA556住居跡出土のⅠA類坏の法量値は、器高4.3～5.1cm、底径5.8～7.0cm、口径13.1～14.0cmの範囲に収まり、著しい器形の差異は認められない。RA563-2もこれに器形が近似する。底部切り離しは回転糸切無調整が主体をなすが、RA566-3はヘラケズリの二次調整を施されており、ケズリは体部下半にまで及んでいる。以上の坏類は、法量が志波城跡出土の遺物に近い個体もあるものの、体部が丸みを持って立ち上がる器形ばかりであり、9世紀中葉の年代観が想定される。その他に底径が5cm強と小振りなもの（RA555-1、RD1071-1）、反対に底径8.0cm・口径18.2cmとやや大きめの個体も出土している。

ⅠB類で全体的器形の分かる個体もRA556住居跡出土のものが多かった。器高が6cm弱～6cm強のもの（RA556-10・11）と器高5cm弱～5cm強のもの2タイプ存在するが、何れもRA556住居より出土しており、両者にそれほどの時期差を想定し得ないであろう。RA556-17の底部がヘラケズリの二次調整を受け、RA556-13の体部がヘラケズリされているが、その他の出土個体には二次調整は無い。

b．高台付坏

5点出土している（RA556-6、RA563-4、RG453-4・5・6）。完形品は1点もない。RG453-6以外はすべて内面黒色処理が施されている。

c．甕

出土点数が僅少である。全体の器形が判明するのはRA551-3の小型甕のみであった。その他RA564住居跡、RG453・454溝跡で破片が出土している。

②-2　須恵器

a．坏

底部は全て回転糸切り無調整である。器形は体部に若干の違いを認めることが出来る。すなわち体部が底部より直線的に立ち上がるもの（RA556-26、RA556-27、RA556-28、RD1074-2）と、若干内湾しながら立ち上がるものの2つのタイプが存在する。前者は口径が14.7～15.0cm、底径が6.0～7.2cm、器高が4.8～5.2cmを計測し、後者は口径が13.8～15.8cm、底径が5.2～6.0cm、器高が4.2～5.2cmを計測する。各タイプ内で個体間の著しい計測値の差異は認められない。

器形を見た場合には前者が志波城跡などで出土するものと類似しているが、その大半が出土しているRA556住居跡では、前記のように9世紀中葉とみられるⅠA類の坏が共伴していた。また同住居の主軸方向やカマド位置が前代の奈良時代的様相を引きずっていることから、これを積極的に9世紀初頭の住居跡とは断言し得ない。なお掲載した須恵器（Ⅱ類）の大半は北東調査区・RA556住居跡の埋土中、床面、カマド内出土のものであり、この点からも今次調査においてはRA556住居跡が特異な存在であった。

b．甕

器形がある程度分かって、甕と判断されるものは3点、RA556住居跡で出土している（RA556-31、RA556-32、RA556-33）。RA556-31・33は成形後に体部がヘラケズリされている。RA556-32は外面にタタキメ・内面にアテグ痕がみられ、外面を叩いた後に3箇所に横走する沈線が施されている。これら以外にも須恵器甕の可能性があるものが出土してはいるが、何れも一部分の破片であるために壺との識別が難しい。

③土製品

出土した土製品は全部で僅かに3点にすぎない。RA393住居跡では床面で検出されたPit 2の埋土下層から紡錘車のはずみ車部が出土している（RA393-7）。軸部は木っ端ないしは、出土事例の知られた細い棒状の鉄の類であったかと思われる。

RA550住居跡のPit 1では土玉状の製品が出土している。焼成前の貫通孔を2箇所もつものであるが、その用途や製品の性格は不明である。

RA556住居跡では住居本体の埋土中から補の羽口破片が出土している。大きさと形状は、断面図作成部分において外径約6cm・内径2.5cmの円形を呈すると推定復元される。被熱のためか脆くなっている。破損品が廃棄されたものであろうか。

④鉄

古代の遺構から出土した鉄製品は若干7点に過ぎない。完形品は一つもなく、部分的なものの図化・掲載にとどめた。種別は、釘（RA185-11、RA393-11、RA393-13、RA549 10）、刀子（RA393-12、RA564-10）および種別不明の鉄製品である。RA556住居跡では鞴の羽口破片が出土しているから、小鍛冶くらいは集落内で行われていたのかもしれない。

（3）古代・台太郎ムラについての予察

過去台太郎遺跡の調査は、盛岡市教育委員会および岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって、今次を含め49次に渉って行われてきた。現在、発掘調査の成果を総括するべき時期にきているが、紙幅期間の制約から台太郎遺跡全体に関する詳細な検討は些か難しい。よって以下では今次調査の成果を中心に据えた形で古代・台太郎ムラについて予察的報告を行わざるを得ないことをご諒解頂きたい。とはいえ調査で得られた貴重な資料を死蔵させないためにも、古代台太郎ムラについての詳細な分析検討は、今後何らかの形で行わねばならないと考えている。

①文献史料にみる古代「志波村」

台太郎遺跡の北西すぐそば、雫石川の南岸には、律令国家によって造営された陸奥国最北端の城柵「志波城」跡が占地している。このことからしても、台太郎遺跡は文献史料にたびたび名を現す古代・志波村の範囲に含まれる地域であったことは今更言うまでもなかろう。8世紀末葉から9世紀初頭にかけて、律令国家が列島辺境地帯に支配領域を拡大しようと画策するなかで、恐らくは台太郎遺跡に暮らした人々も否応なく歴史の荒波にもまれることとなり、自らそれへの対応を決断したはずである。この節では、台太郎ムラを含む古代志波村について文献史料からたどれる歴史をまとめ、台太郎遺跡について考える上での前提としたい。なお文献史料および出土文字資料にみえる志波の表記は「志波」、「子波」、「斯波」の各種がある。以下、史料を引用した部分以外は便宜的に「志波」に統一して話を進めて行くこととする。

「志波」の初見記事は『続日本紀』宝亀7年（776）5月2日条「出羽国志波村の賊、叛逆して、国と相戦ふ。官軍、利せずして下総・下野・常陸等の国の騎兵を発して之を伐つ。」とみえる。この記事から、当時出羽国府が志波村を管掌していたらしいことが窺える。これより先の宝亀5年7月25日には「海道蝦夷」が桃生城を直接攻撃して西の外郭を破るという事件が発生しており、きな臭いときでもあった。

志波村の人々が出羽国軍と戦闘することとなった背景を考えるに、『続紀』宝亀7年2月6日条は示唆的である。即ち同条には「陸奥国言す。『来る四月上旬を取りて、軍十二万人を発し、まさに山海二道の賊を討つべし。』是において出羽国に勅して軍士四千人を発して、道を雄勝よりその西辺を伐つ。」とある。陸奥国で宝亀7年の4月に山道・海道の蝦夷を攻撃する計画があり、朝廷はさらに出羽国に対しても雄勝から出兵・攻撃を加えるように命じているわけである。恐らくは律令国家の山道地域に対する攻撃計画を察知した志波村の人々が、これに先んじて出羽国軍に急襲をかけたのではなかったかと憶測される。『続紀』宝亀8年12月14日条には「初め陸奥鎮守将軍紀朝臣廣純言す。『志波村の賊、蟻結して毒をほしいままにす。出羽国の軍、之と相戦ひて敗れ退く。』云々」とみえ、これが宝亀7年のことであったとするならば、出羽国軍は志波村の人々に敗れ後退させられていたということになろう。なお宝亀7年には律令国家軍が陸奥にも兵を発している（『続紀』同年11月26日条）。このような時期、志波村を含めて北上盆地に生活していた人々にとっては落ち着かない日々が続いていたことだろうと思われる。

続いて志波の地名がみえるのは『続紀』延暦8年（789）6月9日条で、「征東将軍、奏して偉す、『胆沢の地は絨奴の奥区なり。まさに今、大軍征討して村邑を剪除すれども、余党伏し竄れて、人・物を殺し略めり。また、子波・和我は辭りて深奥に在り。臣ら遠く薄伐せんと欲すれども、糧運に艱有り。云々』」とある。同年、律令国家は阿弓流為ら率いる胆沢蝦夷と戦いで多大な人的・物的被害を被っていた。この6月9日条によって律令国家は征討の当初、志波に至るまでの進軍計画を持っていたことが知られるのである。同条の征東将軍奏は続けて、志波（子波）までの行程・日程について述べ、軍事物資受納の困難さと征討軍に疲労が大きいこと、そして蝦夷は農期を逃して滅ぶを待つだけである、などと取って付けたような言い訳をして征討軍を解くことの許可を天皇に求めている。ここで注意されるのが将軍奏の次の一文である。

「盡尓たる小寇、且（しばら）く天誅を逃れると雖も、水陸の田、耕種を得ずして、既に農時を失へり。滅せずして何をか待たむ。」

この一文は、①「久しく賊地に屯（いわ）みて、粮を百里の外に運ぶは良策に非ず。」という志波までの運粮を想定した前文を受けてのものである点、②将軍奏は征討軍を解体したいがために、志波への進軍が困難であることを口実としていると読める点、この2点より「水陸の田、耕種を得ずして、既に農時を失えり。」とは志波村の人々の状況を語っていると捉えることも可能であろう。即ち「水陸が頃にして蝦虜いきながらえり。」と言われた胆沢地方と同様に、古代志波村もまた水田・陸田の広がる景観を呈する地域であったと推測されるのである。このことは台太郎遺跡で多く検出されている様々な「溝跡」について、その性格を考える上でも重要ではないかと思われる（今次調査において、北区で検出された溝跡の中には、埋土に水酸化鉄の集積が確認されるものもあった。しかしその性格は明らかに出来なかった。）なお将軍の奏上において玉造塞より志波までの行程が具体的日数でもって示されていることは、恐らくこれ以前に朝貢関係にあった志波村の蝦夷によって、志波村の地勢やそこへ至る経路がある程度の情報として律令国家側にもたらされていた可能性を暗示しているのではなかろうか。

延暦8年の蝦夷征討に失敗した律令国家は、延暦11年頃より蝦夷への懐柔策や、蝦夷内国移配の多用によって胆沢蝦夷の孤立化を画策しはじめる。その延暦11年に次のようなことがあった。

【史料】『類聚国史』延暦11年（792）正月11日条

陸奥国言。斯波村夷膽澤公阿奴志己等。遣ㇾ使請曰。己等思ㇾ帰二王化一。何日忘之。而為二伊治村俘等所一ㇾ遮。無ㇾ由二二自達一。願制二彼遮關一。永開二降路一。即為ㇾ示二朝恩一。賜ㇾ物放還。夷狄之性。虛言不実。常称二帰服一。唯利是求。自今以後。有二夷使者一。勿ㇾ加二常賜一。

志波（斯波）村に住む胆沢公阿奴志己なる人物が帰降の意思を示すために使者を遣わせ、帰順のための障害となっている伊治村の俘囚の排除を求めているのである。これに対して陸奥国では賜物して帰してやったという。前に述べたように、延暦8年の征夷段階で志波村は胆沢と同じく征討の対象地域であり、律令国家に敵視された場所であった。この地域に居住するものが突然に帰服の意思を示してきたということに、朝廷は些か動揺したことであろう、「蝦夷のひととなりは、偽りを言って真実が無い。いつも帰服と言いながら、

ただ利益ばかりを求めている。これから以降は蝦夷の使者があったならば、常に賜い物を与えてはならない。」と陸奥国に注文をつけた。

この史料でもう一つ注目されるのは、胆沢に出自を持つと考えられる阿奴志己が志波村に居を遷すという事態が発生していたことである。この事態の発生理由は何であったのか明確にし得ないが、延暦8年の征夷への対応について阿弓流為ら首長層との対立があったと推測する見解もある。いずれにせよ、数年前までは一蓮托生であった胆沢地方の蝦夷と志波村の蝦夷との間で、律令国家への対応を巡って温度差が生じ始めていたとみることはできるのではなかろうか。具体的に言うならば、徹底抗戦の姿勢を貫く胆沢蝦夷に対して、志波村の蝦夷らは律令国家へ帰順して身の安全を確保しようとの思いを抱く者が現れてきていたということである。後年延暦21年（802）には胆沢城が造営され、そして阿弓流為・母禮らに率いられて胆沢蝦夷が降伏する。その翌延暦22年には一気に城柵が北進、北上盆地北端に志波城が造営されることとなる。胆沢蝦夷の降伏が北上盆地への律令支配域拡大の一つの契機となった訳であるが、志波村の蝦夷が好戦的な態度であったならば急な城柵の北進はあり得なかったはずで、律令国家と志波村の蝦夷との間で攻防が生じていたであろう。しかしそれが史料として残っていないことは、史料の散逸もあり得ようが、志波村の蝦夷が胆沢降伏以前に律令国家に帰順していたと考えることもできるのではないだろうか。延暦11年の阿奴志己の帰順姿勢にその端緒を認めても、強ち外れてはいないと思われる。

志波城の造営開始期は明確でないが、遅くとも延暦22年の初頭には始まっていたとみることが出来る。『日本紀略』延暦22年（803）2月12日条には「越後国をして米三十斛、窪用斛を造志波城所に送らしむ。」とあって、この時点で既に造営が開始されていたことがわかる。総責任者は「造志波城使従三位行近衛中将坂上田村麿」（『紀略』延暦22年3月6日条）であった。志波村の人々にとって巨大な建物が着々と造られていくのを目の当たりにすることは大いに驚きであったことだろう。

ところで、胆沢城造営時には駿河など10国の浪人4000人が胆沢城に配されており、これらの人々は胆沢城の周辺に集住させられ、労働者として造営に携わったと考えられる。その一方で志波城造営時には、移民が行われたことを示す史料は存在せず、志波城の造営を実際に担った人々は誰であったのか必ずしも明らかでない。先の越後国から塩を搬送させた記事の存在や、体部に叩目をもつ北陸系の土師器出土例より、北陸地方からの移民の存在を想定する見方もある。これが事実であったとすれば、北陸からの移民が造営労働を行っていた可能性もあろう。また、志波村の譜代有力層の一部に律令国家に親和的になっていた者が存在していたとすれば、彼らの協力も得られたのではなかったかと推測される（伊藤1991）。

志波城の造営によって志波村にも律令支配の拠点が確立した。これ以後、志波村の人々はロクロ成形土器を主体的に使用するようになるとか、カマド煙道の方向に多様化がみられるなど実生活上の変化は認められるが、政治的に如何なる処遇を受けたのかは詳しく分かっていない。『日本後紀』弘仁2年（811）正月11日条には「陸奥国に於いて、和我・蒋縫・斯波三郡を置く」とあり、北上盆地北部にも令制郡が設置されている。郡の設置が志波村の蝦夷にとっての政治的な処遇変化につながったかどうか、このあたりも明らかでない。この斯波三郡については郡家遺跡が未確認であり、『延喜式』や『和名抄』にも郡名を欠いている。これを積極的にとらえて斯波三郡では郡家を置くことが放棄され、ただ地域単位として郡を建置したとの見解もある（八木、2001・2002）。なお『延喜式』のいわゆる神名帳には「斯波郡一座　小　志賀理和気神社」とみえ、斯波郡内に祈年祭の班幣に与る官社が存在していたことが知られる（現在の志賀理和気神社は紫波郡紫波町に所在し、南部重直が明暦年間に再興したとされる。）から、郡自体は普通言われたような権郡な

どではなく、厳然として存在していたのであった。この郡が地域支配にどのような役割を果たしていたのか、そしてまた一般に蝦夷系住民は城柵に直接支配されて公民と異なる特殊税を負担したとされるが、こと9世紀初頭の北上盆地北部においてその一般論を普遍化して当てはめることが適当かどうか、今後検討してみたいところである。

先の斯波郡の建置を伝える記事の後には、安倍氏の時代まで志波は史上姿をあらわさない。もちろん史料が存在しないからといって人が住まわない場所であったわけではないし、そこには人々の日々の暮らしがあった。これを明らかにするのが遺跡調査であるが、以下では今後の調査と遺跡の検討に関して若干の問題提起をしておきたいと思う。

②古代台太郎ムラに関する若干の予察

今次調査において奈良時代・平安時代の竪穴住居跡が20棟検出された。この中で、明確に9世紀初頭の遺物を伴うものは認められていない。このことは過去の台太郎遺跡の調査においても同様であった。このことの意味について若干の予察をおこない、以後の調査や遺跡検討への問題提起としたい。

まず考えられるのは集落の断絶である。この場合、何を契機とするのか問題だが、第一に想起されるのは志波城の造営であろう。志波城の造営に恐れをなし、集落を捨てて何処かへ移住したという見方をする向きもある（高橋與右衛門氏）し、また延暦年間には律令国家の政策で、盛んに胆沢周縁の蝦夷が内国移配されており（菊池、2003）、この政策の一環で台太郎ムラの人々も内国へ移住していたのではないかとも考えられる。この場合、台太郎ムラ全体が移配の対象とされていたということもあり得るかもしれない。

以上とは反対に、集落は継続して存在していたと考えることも出来るかも知れない。一般に志波城の造営が在地集落の土器様式に影響して、ロクロ成形土器が集落に主体的にみられるようになるとされているが、志波城造営によって、にわかに非ロクロ土器からロクロ土器へと変化したというのも考えてみれば些か無理がありそうで、ある程度の時間差を想定する必要もあるだろう。つまり志波城造営以後も非ロクロ土器を暫く継続作成・使用する者がいたとしてもおかしくない。こう考えれば、台太郎遺跡は断絶しておらず、漸次ロクロ使用土器が集落内に導入されたという可能性も想定されるのである。西野修氏が指摘するようにロクロ使用土器を持たないがために、実際は9世紀に存在した住居跡を8世紀に入れていることもあり得なくはないであろう（西野、1998）。当然にカマド煙道方向や住居主軸の多様化も漸次の変化である。

9世紀、北上盆地においては竪穴住居の小型化・均一化がみられ（西野、1998）器物の保有も小型の住居に拡散するようになるとされている。今次調査でRA556住居跡では他の住居跡に比較して多量の須恵器が出土している。このような器物を多量に保有した居住者の性格について、今よく分からないが、単純に考えれば集落における有力者であろうか。このような人物が他の台太郎ムラ住人とどんな関わりにあったのか、城柵との関わりは、郡との関わりはどうなったのかなど興味深いところである。

台太郎遺跡の調査はいま終盤戦をむかえている。8世紀から9世紀にかけて台太郎ムラを含む志波村の人々のたどった歴史と生活の実態は、これまでの台太郎遺跡の詳細検討によって今後いくらかでも明らかになるだろう。その為に具体的には、

a．土器編年の再検討と同時期的に存在する器種構成の再検討、その他土器以外の遺物について（鉄や砥石など）の検討

b．集落構成要素（遺構）の変化（掘立柱建物の出現期の問題など）についての問題に関する検討

c．住居規模の変化・住居主軸方向及びカマド位置の変化など、住まいについての観念変化（？）が意味

するところに関する検討

d．歴史時代にありながら、これまで殆ど行われてこなかった文献史料との摺り合わせ

といった課題をよく考えてみる必要があると思われる。本報告では d．について若干の検討を行ってみたところである。その他の問題については今後さらに検討を加えたい。　（菊池　賢）

（引用・参考文献　50音順）

伊藤博幸「奥六郡成立の史的前提」（『岩手考古学』3号、1991年）

遠藤勝博・相原康二「岩手県南部（北上川中流域）における所謂第Ⅰ型式の土師器・前期土師器の内容について」（『芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会編『考古学論叢』事楽社1983年）

菊池　賢「38年戦争と蝦夷移配」（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『紀要 』ＸＸⅡ，2003年３月）

熊谷公男「平安初期における征夷の終焉と蝦夷支配の変質」（東北学院大学『東北文化研究所紀要』第24号1992年８月）

杉本　良「岩手県北上盆地における蝦夷（エミシ）集団の動態―北上市藤沢遺跡の再検討から―」（『考古学研究』第45巻１号、1998年６月）

西野　修「北上盆地北部の様相」（『第24回 古代城柵官衙遺跡検討会 資料集』1998年２月）

樋口知志「９世紀の蝦夷政策」（『第28回 古代城柵官衙遺跡検討会 資料集』2002年２月）

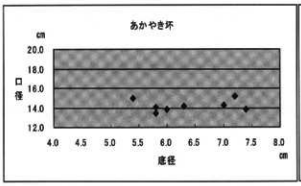
樋口知志「延暦８年胆沢の合戦の再検討」（延暦八年の会『アテルイ没後1200年記念シンポジウム　アテルイとエミシの時代 報告資料集』2002年９月）

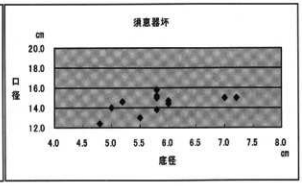
八木光則「城柵の再編」（『日本考古学』第12号、2001年10月）

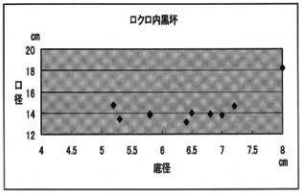
八木光則「徳丹城・胆沢城と蝦夷政策」（『古代文化』第54巻、2002年11月）

八木光則「安倍・清原の城柵遺跡」（『岩手考古学』１号、1989年）

〔参考　出土坏類の法量値計測グラフ〕







3　遺跡について

（1）平成17年度まで行われる予定の盛南開発（盛岡南新都市開発整備事業　以下盛南開発と略）、それに伴う遺跡発掘作業も終盤、まとめの時期にさしかかっている。入手できた資料と今次調査区との図面を合成し、全体把握のための一助としたい。（第93図）

a　前次調査までで明確になったように、第44次調査北Ⅰ区・Ⅱ区・北東区が含まれる-3-A～-3A、2-A～-2A グリッド付近は、遺跡全体からみても遺構密度は濃く、竪穴住居跡や溝跡が入り組んでいる。重複する遺構も多く、また攪乱も多く入り組んでいる状態であった。その中でも北Ⅰ区は奈良時代と平安時代の時期の遺構が集まっているのに対して、北東区は平安時代、北Ⅰ区は奈良時代の遺構と占地の差がみられた。

b　西区は、過年度までの調査より比較的遺構が薄いエリアと予想されたが、竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡1棟、溝跡3条等の遺構を確認できた。北Ⅰ区同様、奈良時代から平安時代まで人々の生活が営まれていた区域であった。

c　aとbに対して、3E～3Fグリッド付近に位置する東区は未調査区域が多いエリアである。昨年度の調査区と併せ、奈良時代の中形の住居跡、溝跡（方形周溝）と東西に延びる堀跡の調査を行うことができた。今後は、東区における奈良時代の人々の生活の状況について（大形住居跡を中心にした小形住居跡群）の検出が予想される、今後が楽しみなエリアである。

（2）盛南開発関連遺跡には様々な特性を有する集落がみられる。

古代を中心に中世～江戸の長きにわたり人々が生活の地とした台太郎遺跡、居住域と墓域としての役割を有した飯岡沢H遺跡、日当たりの良い段丘縁辺部に長時期にわたり広い居住域を展開したと予想される鬼柳・熊堂B・野古A遺跡、一方で同じ自然条件下比較的短期間の居住域であったとみられる細谷地遺跡、そして細谷地遺跡の北側に位置し住居跡の他に倉庫群とみられる掘立柱建物跡が並ぶ飯岡才川遺跡など、近年の調査により、細部にわたり古代の人々の生活のあり方がより明確となってきている。

朝夕美しい岩手山を望み、古代より多くの人々が愛し大切にしてきたこの盛岡の地に、盛南開発という計画の下、平成の人々はどのような街をつくりだしていくのであろうか。　（阿部　眞澄）

4　おわりに

「盆前には白菜を蒔きたいので、がんばってや。」

7月上旬、隣の畑で働く地権者の奥さんからのお話ですが、攪乱と初夏の暑さの中、作業はなかなか進みませんでした。4月中旬スタートした仕事でしたが、調査員の病休と交代の中、先が見えず苦しい日が続きました。調査員を支えてくれたのは、遺跡の魅力と野外作業員の協力でした。何日もかけて攪乱を丁寧に取り除くと、そのしたから鮮やかなカマド中心部の焼土が現れます。染め物をする人にはたまらない朱・・・と作業員さんの表現した朱を見た時、仕事を投げ出すことなど考えられなくなっていました。住宅地に囲まれ風の通らない東区での仕事、旧河道を掘り込み重い土を上げた西区トレンチなど、野外作業員の皆さんに汗を流しながら働いていただきました。台太郎遺跡発掘作業は、予定より半月遅れて終了し、次の野古A遺跡に移ることができました。

室内作業も大変でした。野古A遺跡と併せ、厚くはないものの報告書2冊を年度内に処理することとなり

ました。ここでも、室内作業員に助けてもらいました。5ヶ月で2遺跡、計450個の土器を接合し実測し整理しました。何度も直しがはいりいやな気持ちになることも多々あろうに、形の整わない土器もある中で、「仕事ですから・・・。」

と最後までくいついてやり遂げてくれた皆さんに感謝します。

発掘調査と整理作業に対して、沢山の協力と指導をしてくださった方々の労に報いることができる完全な報告書を作り上げることができた自信はないですが、この台太郎遺跡第44次調査報告書の発刊で台太郎遺跡第44次担当調査員としての任を解かせていただきます。

最後に関係各位の協力に重ねて感謝致します。

（平成15年3月暖かい春の日に・　阿部眞澄　菊池　賢）

〈野外作業員〉

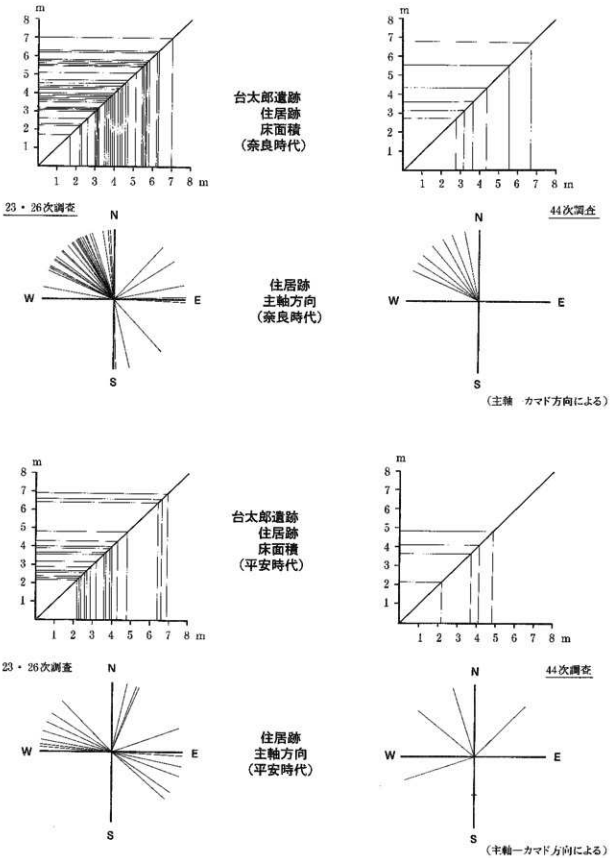
柴田久美子・松本善枝・佐藤久美子・中村繁子・下平喜代美・佐藤ヒデ子・村上節子・佐藤美知子
猪股智子・吉田テルミ・吉田叶子・川村アエ子・山本光子・朝倉恵津子・山本智夫・上女鹿正二
吉田年雄・伊藤進之介・加藤喜一

〈室内作業員－盛南開発関連遺跡・調査課・力持遺跡〉

中塚真理子・小笠原千代子・岩淵光子・伊藤周子・斎坂信吾・澤口由希子・高橋千里・越場美幸
澤瀬幸子・村上千代・湯村奈保・高橋冨美子・中塚久美子・細川真裕美・鎌田条子・藤沢成子
臼澤里砂・斎藤山香・藤原奈美

参考：引用文献

1　盛岡市教育委員会（1979）：『太田方八丁遺跡』昭和53年度発掘調査概報
2　盛岡市教育委員会（1998）：『盛岡市埋蔵文化財調査年報　－平成5・6度』
3　八戸市教育委員会（2002）：『亘地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第95集
4　栗駒町教育委員会（1995）：『長者原遺跡』栗駒町文化財調査報告書第3集
5　八木光則（1998）：『馬淵川流域』「東北地方の古代集落第24回古代城柵官遺跡検討会資料
6　伊藤博幸（1987）：「7・8世紀エミシ社会の基礎構造」『岩手史学研究』70
7　伊藤博幸（1998）：「北上盆地南部」『東北地方の古代集落』第24回古代官衙遺跡検討会資料
8　岩手県文化振興事業団（1998）：『岩手県埋蔵文化財発掘報告略報（平成9年度分）』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第282集
9　岩手県文化振興事業団（2003）：『岩手県埋蔵文化財発掘報告略報（平成13年度分）』同397集
10　伊東　格（1995）：『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』同226集
11　千葉正彦（2002）：『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』同377集
12　菊地栄壽・小笠原健一郎（1999）：『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼藤A遺跡第4次発掘調査報告書』同308集
13　小笠原健一郎（1999）：『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡16次発掘調査報告書』同293集
14　斉藤邦雄（1996）：『小幅遺跡第2次発掘調査報告書』同244集
15　酒井宗孝（1996）：『小幅遺跡第4次発掘調査報告書』同265集
16　溜浩二郎（2000）：『向中野館第3次・小幅遺跡第10次発掘調査報告書』同338集
17　高橋義介（1999）：『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』同309集
18　高橋義介・金子佐知子・佐藤綾子（2001）：『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』同369集
19　杉沢昭太郎（2003）：『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』同416集



第87図　住居跡床面積・軸方向分布図

表8　台太郎遺跡不掲載土器一覧（1）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備　　考
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		2		No. 2
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		2		No. 3
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		109		No. 4
RA185	Pit 2	土師器	甕	非ロクロ	1	10		
RA185	Pit 3	土師器	坏	非ロクロ	4			内外黒色
RA185	Pit 3	土師器	甕	非ロクロ	2	27		
RA185	カマド内	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA185	カマド内	土師器	甕	非ロクロ		11		
RA185	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	31		
RA185	埋土	土師器	甕	非ロクロ		12		
RA393	床面	土師器	坏	非ロクロ	1	1		No. 1 ～ 4 内黒
RA393	床面	土師器	甕	非ロクロ		12	1	No. 1 ～ 4
RA393	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	3		
RA393	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	157	1	
RA393	床面土坑	あかやき	坏	ロクロ	3	1		
RA393	床面土坑	土師器	坏	非ロクロ			1	内黒
RA393	床面土坑	土師器	甕	非ロクロ	4	110	1	
RA547	Pit 4	土師器	坏	非ロクロ		1		体部1（黒）
RA547	Pit 4	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	Pit 9	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	煙道埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		口縁2（1つは内黒）
RA547	煙道埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	3		
RA547	煙道埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		口縁2（1つは内黒）
RA547	南ベルト下層	土師器	坏	非ロクロ		3		体部3（内黒）
RA547	南ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA547	南ベルト壁埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	南ベルト壁埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	北ベルト上層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	西ベルト	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	西ベルト	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA547	西ベルト下層	土師器	坏	ロクロ	5	6	1	内黒・底部1（回転糸）
RA547	西ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA547	西ベルト下層	須恵器	坏	ロクロ	1			
RA547	東ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA547	検出面	あかやき	坏	ロクロ		1	1	
RA547	検出面	土師器	甕	非ロクロ	3	23		
RA547	貼床埋土	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA547	南西埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	2	4		内黒
RA547	南西埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	2	?	1	
RA547	南西埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	南西埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		10		
RA547	南西埋土中層	土師器	坏	非ロクロ	1			口縁1（内外内黒）
RA547	南西埋土中層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	南東埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	3	6		口縁内黒1点、体部有段
RA547	南東埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	2	33	1	
RA547	北西埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒

表9　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（2）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備　　考
RA547	北西埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	1	100	1	
RA547	北東埋土	土師器	甕	非ロクロ	7	96	2	
RA547	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA547	埋土	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA547	埋土	土師器	甕	ロクロ	2			
RA547	埋土	土師器	甕	非ロクロ		15		1点は球胴
RA547	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	1	1	体部1（内黒）
RA547	埋土	須恵器	坏	ロクロ		1		
RA547	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ	1	8		
RA547	床面	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RA547	床面	土師器	甕	非ロクロ		9		
RA547	床面	土師器	甕	非ロクロ		3		No.1
RA549	検出面	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA549	貼床層	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RA549	貼床層	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA549	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1	1	内黒
RA549	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	1		
RA549	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	5	5		内黒
RA549	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	3	57	1	体部6点は内黒
RA549	埋土上層	あかやき	坏	ロクロ	1	1		
RA549	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	1		1	内黒
RA549	埋土上層	土師器	甕	ロクロ		1		
RA549	埋土中層（Q3）	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ	1	1		No.6
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ		1		No.1 内外面黒色処理
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ		4		No.2　1点は内黒
RA550	カマド周辺埋土	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA550	カマド周辺埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	11	1	
RA550	検出面	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA550	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		
RA550	埋土	土師器	甕	非ロクロ	5	66	1	
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	6	5		No.12～14
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.12
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.13
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.14
RA550	床面	土師器	坏	非ロクロ			1	No.10、No.11
RA551	カマド付近	土師器	坏	ロクロ	5	1		
RA551	カマド付近	土師器	甕	非ロクロ		9	2	
RA551	貼床埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
RA551	貼床埋土	土師器	坏	ロクロ		2		内黒
RA551	埋土	土師器	甕	非ロクロ		14		
RA551	埋土	土師器	坏	ロクロ	3	2		内黒
RA551	埋土	須恵器	坏	ロクロ	3	1		
RA552	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			
RA552	埋土	土師器	甕	非ロクロ	2	8		
RA553	貼床層	あかやき	坏	ロクロ	1	2		

表10　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（3）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備考
RA553	貼床層	土師器	坏	ロクロ		2		内黒
RA553	貼床層	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA553	貼床層	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA553	埋土	土師器	甕	非ロクロ		40	3	
RA553	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA553	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA554	埋土下層	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
RA554	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ	3	36		
RA555	Pit埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
RA555	Pit埋土	土師器	甕	非ロクロ		4		
RA555	貼床埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒
RA555	貼床埋土	土師器	甕	非ロクロ		19		
RA555	埋土	土師器	甕	非ロクロ	2	27		
RA555	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	2		
RA555	埋土	須恵器	甕	ロクロ	1			
RA556	Pit 1	あかやき	坏	ロクロ	3	1		
RA556	Pit 1	土師器	坏	ロクロ	2	1		内黒
RA556	Pit 1	土師器	甕	非ロクロ	1	2		
RA556	Pit 1	須恵器	坏	ロクロ		1		
RA556	Pit 2	あかやき	坏	ロクロ		3	2	
RA556	Pit 2	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA556	Pit 2	土師器	甕	非ロクロ	2	3		
RA556	検出面	あかやき	坏	ロクロ	21	62	12	
RA556	検出面	土師器	坏	ロクロ	17	14	3	内黒
RA556	検出面	土師器	坏	非ロクロ	3	11	4	内黒
RA556	検出面	土師器	甕	非ロクロ	1	30	2	
RA556	検出面	須恵器	坏	ロクロ	2			
RA556	検出面	須恵器	甕	ロクロ		2		
RA556	貼床下	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
RA556	貼床下	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA556	埋土	あかやき	坏	ロクロ	30	40	17	
RA556	埋土	土師器	坏	ロクロ	11	10	4	内黒
RA556	埋土	土師器	坏	非ロクロ		1	1	内黒
RA556	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	89	1	
RA556	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	2	1	底部1点は内黒
RA556	埋土	須恵器	坏	ロクロ	24	32	7	
RA556	埋土	須恵器	坏	ロクロ	12	4	5	底部5点別個体
RA556	埋土	須恵器	甕	ロクロ	2	15	1	
RA556	埋土ベルト部	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA557	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA557	埋土下層	土師器	坏	ロクロ	1	1		内黒
RA557	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA559	住居	土師器	甕	非ロクロ		11		
RA559	住居	土師器	坏	ロクロ	3	2		
RA559	住居	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RA560	ベルト埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		

表11　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（4）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備　　考
RA560	ベルト埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA560	埋土	あかやき	坏	ロクロ	6	10	2	
RA560	埋土	土師器	坏	ロクロ	2			内黒
RA560	埋土	土師器	坏	非ロクロ	3	14		内黒
RA560	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	25	3	
RA560	埋土	須恵器	坏	ロクロ	7	3	1	
RA560	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA560	埋土（北ベルト）	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RA560	埋土（北ベルト）	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA560	埋土（西ベルト）	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA560	埋土（西ベルト）	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA560	埋土（南ベルト）	あかやき	坏	ロクロ	2			
RA560	埋土（南ベルト）	土師器	甕	非ロクロ		3	1	
RA562	床面	土師器	甕	非ロクロ	1	12		
RA563	カマド周辺	あかやき	坏	非ロクロ	2	3		
RA563	カマド周辺	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒
RA563	カマド周辺	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RA563	カマド周辺	土師器	甕	非ロクロ		23		
RA563	埋土	あかやき	坏	ロクロ	2			
RA563	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	1	2	内黒
RA563	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	13		
RA563	床面	あかやき	坏	ロクロ	2	2		
RA563	床面	あかやき	坏	非ロクロ	2	2		
RA563	床面	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA563	床面	土師器	坏	非ロクロ		5		
RA563	床面	土師器	甕	非ロクロ		4		
RA564	煙道部	あかやき	坏	ロクロ	3			
RA564	煙道部	土師器	坏	非ロクロ	2	9	2	内黒
RA564	煙道部	土師器	甕	非ロクロ		8		
RA564	埋土	あかやき	坏	ロクロ		1		
RA564	埋土	あかやき	坏	非ロクロ	3			
RA564	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	1		内黒
RA564	埋土	土師器	坏	非ロクロ	5	2		内黒
RA564	埋土	土師器	坏	非ロクロ	4	10	4	
RA564	埋土	土師器	甕	ロクロ	1			
RA564	埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	61	2	
RD1039	検出面	土師器	坏	非ロクロ				
RD1039	検出面	土師器	甕	非ロクロ		1		
RD1039	埋土	土師器	坏	非ロクロ	3	8		
RD1039	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	17	1	内黒　口縁2（内外黒1点）体部17（うち3点は内外黒）
RD1039	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		1点は内黒
RD1040	検出面	土師器	甕	非ロクロ		25	2	
RD1040	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	4	1		口縁4（内黒1内外黒1）
RD1040	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	1	11	1	
RD1052	埋土中層	土師器	甕	非ロクロ		5		

表12　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（5）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備　　考
RD1057	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	3		
RD1057	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1057	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RD1060	埋土	土師器	坏	非ロクロ	18	25	5	内黒
RD1060	埋土	土師器	坏	非ロクロ	10	8	5	
RD1060	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		内黒
RD1060	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	79	2	
RD1060	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ			1	No.11内黒
RD1060	床面	土師器	甕	非ロクロ		1		No.6
RD1060	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.4
RD1066	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1071	埋土	あかやき	坏	ロクロ	1			
RD1071	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RD1071	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1073	埋土	土師器	甕			3		
RD1073	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RD1074	埋土	須恵器	坏	ロクロ	1			
RD1074	埋土下層	あかやき	坏	ロクロ	3	5	2	
RD1074	埋土下層	土師器	坏	ロクロ		1	1	内黒
RD1075	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RD1075	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		6		
RE055	ベルト埋土	土師器	甕	非ロクロ		5	1	
RE055	埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RE055	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RE056	Q1埋土	土師器	甕	非ロクロ		4		
RE056	カマド周辺埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	23	1	
RG443	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG443	西側埋土	土師器	高台付坏	ロクロ			1	休部まで残存
RG443	埋土	あかやき	坏	ロクロ		9		
RG443	埋土	土師器	甕	非ロクロ		4	3	
RG443	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RG444	西側埋土	土師器	坏	ロクロ	1	2		
RG444	西側埋土	土師器	坏	非ロクロ	1			
RG444	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RG444	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RG444	埋土	土師器	甕	非ロクロ		5	1	
RG444	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RG446	埋土	あかやき	坏	ロクロ	2			
RG446	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	3		
RG446	埋土	土師器	甕	非ロクロ		44	1	
RG447	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RG447	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG448	西端埋土	土師器	坏	ロクロ	2			内黒
RG448	西端埋土	土師器	坏	非ロクロ		6		
RG448	西端埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	31	1	
RG448	西端埋土	須恵器	坏	ロクロ	1			

表13　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（6）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備　　考
RG448	底面	土師器	甕	非ロクロ	1	8		
RG448	西側埋土	あかやき	坏	ロクロ	1			
RG448	西側埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RG448	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ		27		
RG448	埋土	あかやき	坏	ロクロ	1	7	1	
RG448	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内外黒色
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2			
RG448	埋土	土師器	甕	非ロクロ	24	333	8	
RG449	西端	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG449	西端	土師器	甕	非ロクロ		20		
RG450	西端埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RG450	西端埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	16		
RG450	西端埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RG450	西端埋土	弥生土器?				1		
RG450	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1			
RG450	埋土	土師器	甕	非ロクロ		1		
RG453	埋土	あかやき	坏	ロクロ	63	77	13	
RG453	埋土	あかやき	坏	非ロクロ		2		
RG453	埋土	土師器	坏	ロクロ	17	22	10	内黒
RG453	埋土	土師器	坏	非ロクロ		5	4	内黒
RG453	埋土	土師器	甕	ロクロ			2	
RG453	埋土	土師器	甕	ロクロ		(下)1	1	
RG453	埋土	土師器	甕	非ロクロ	9	140	8	
RG453	埋土	須恵器	坏	ロクロ	8	11		
RG453	埋土	須恵器	甕	ロクロ		10		
RG454	埋土	あかやき	坏	ロクロ	23	28	8	
RG454	埋土	土師器	坏	ロクロ	9	21	5	内黒
RG454	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2			内黒
RG454	埋土	土師器	甕	ロクロ	3	6	2	
RG454	埋土	土師器	甕	非ロクロ	7	48	1	
RG454	埋土	須恵器	坏	ロクロ	5	4	1	
RG454	埋土	須恵器	甕	ロクロ	1	3		
RG454	埋土上層	須恵器	坏	ロクロ	2	3		
RG455	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RG456	埋土	あかやき	坏	ロクロ				
RG456	埋土	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG456	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	4	1	
RG457	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RG457	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3	1	
RG458	埋土	土師器	坏	非ロクロ			1	内黒
RG458	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RG458	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	4	10		
RG458	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	8	95		
RG460	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		

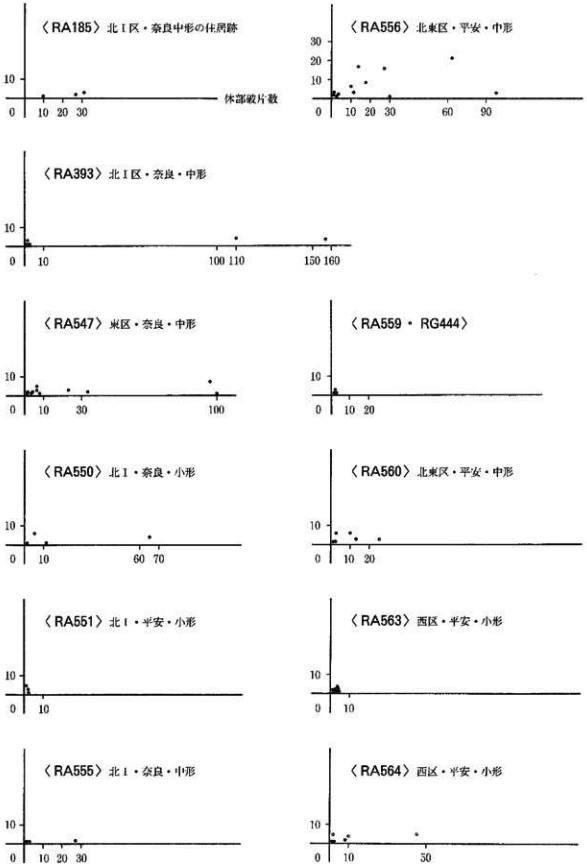
表14　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（7）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備考
RG461	埋土中層	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG463・464	検出面	土師器	甕	非ロクロ		3		
RG464	埋土	須恵器	坏	ロクロ			1	
RG465	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	6		
北Ⅰ区	P56埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
北Ⅰ区	T10表土	土師器	甕	非ロクロ	2	9	3	
北Ⅰ区	T 1 表土	土師器	甕	非ロクロ	1	22		
北Ⅰ区	T 4 表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T 6 表土	土師器	甕	非ロクロ		6	1	
北Ⅰ区	T 7 表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T 9 表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T 9 表土	土師器	甕	非ロクロ		1		内黒
北Ⅰ区	T 9 表土	あかやき	坏	ロクロ	1	1		
北Ⅰ区	撹乱	土師器	甕	非ロクロ		19		
北Ⅰ区	検出面	土師器	甕	非ロクロ	2	17	2	
北Ⅰ区	廃棄土	土師器	甕	非ロクロ		1		
北Ⅰ区	表採	あかやき	坏	ロクロ		1		
北Ⅰ区	表採	土師器	甕	非ロクロ		10		
北Ⅰ区	表採	土師器	甕	非ロクロ		4		内黒
北Ⅰ区	表土層	あかやき	甕	非ロクロ	1	5		
北Ⅰ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ	5	47	1	
北Ⅰ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ		2		内黒
北Ⅰ区		土師器	坏	ロクロ	3			内黒
北Ⅰ区		土師器	甕	非ロクロ	1	1	1	
北Ⅰ区		土師器					1	小型手捏ね土器
北Ⅰ区		須恵器	甕	ロクロ		4		
北Ⅱ区	RD1072付近表土	土師器	甕	非ロクロ	2	5		
北Ⅱ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ	1	29	1	
北Ⅱ区	表土層	須恵器	甕	ロクロ			1	
県警前東区	Ⅲ層	あかやき	坏	非ロクロ		1		
県警前東区	Ⅲ層	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
県警前東区	Ⅲ層	土師器	甕	非ロクロ	4	148	7	
県警前東区	Ⅲ層	土師器	甕	非ロクロ		13		内黒
西区	T 1	須恵器	甕	ロクロ		2		
西区旧河道	北トレンチ東側	あかやき	坏	ロクロ	13	7	1	
西区旧河道	北トレンチ東側	あかやき	坏	ロクロ	2			
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	坏	ロクロ	2	3	4	内黒
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	甕	非ロクロ	2			
西区旧河道	北トレンチ東側	須恵器	甕	ロクロ		2		
西区旧河道	北トレンチ東側	須恵器	坏	ロクロ		1	1	
西区	検出面	土師器	甕	非ロクロ		13		
西区	表採	あかやき	坏	ロクロ	2	4	1	
西区	表採	土師器	坏	ロクロ		1		内黒
西区	表採	土師器	坏	非ロクロ	3	10		

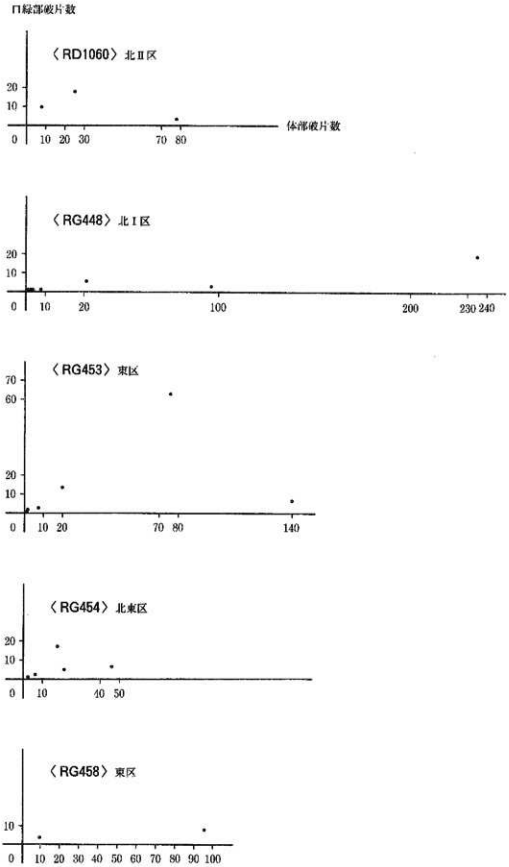
表15　台太郎遺跡不掲載土器一覧表（8）

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁（点）	体部（点）	底部（点）	備考
西区	表採	土師器	甕	非ロクロ		20		
西区		あかやき	坏	ロクロ			2	
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	ロクロ			1	
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	ロクロ	1	2		内黒
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	甕	非ロクロ		1		
西区旧河道	南側トレンチ	須恵器	坏	ロクロ	1			
西区旧河道	北側トレンチ	土師器	甕	非ロクロ		2	1	
西区旧河道		須恵器	坏	ロクロ	3	1		
西区		土師器	甕	非ロクロ		3		
東区県警前	埋土	土師器	甕	非ロクロ	-	1	—	
東区県警前	表土層	土師器	坏	非ロクロ	—	—	—	
東区県警前	表土層	土師器	甕	非ロクロ	—	-	1	
北東区	検出面	あかやき	坏	ロクロ		1	3	
北東区	検出面	土師器	坏	ロクロ	1	1	1	内黒
北東区	検出面	土師器	坏	ロクロ	2			
北東区	検出面	土師器	坏	非ロクロ	7	14	6	
北東区	検出面	土師器	坏	非ロクロ		5	2	内黒
北東区	検出面	土師器	甕	非ロクロ		2	1	
北東区	検出面	土師器	甕	ロクロ			1	
北東区	検出面	土師器	甕	非ロクロ	2	36	3	
北東区	検出面	須恵器	坏	ロクロ	4	1		
北東区	南西隅撹乱土中	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
北東区	南西隅撹乱土中	土師器	坏	非ロクロ	1	2		内黒
北東区	南西隅撹乱土中	土師器	甕	非ロクロ	2	12	1	
北東区	廃棄土中	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
北東区		あかやき	坏	ロクロ		1	3	
北東区		土師器	坏	ロクロ			1	
北東区		土師器	甕	ロクロ			1	
北東区		土師器	甕	非ロクロ		2	1	
北東区		須恵器	坏	ロクロ	4	2	1	
北東区		須恵器	甕	ロクロ		5	2	
北Ⅱ区	南端検出面	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
北Ⅱ区	南端検出面	土師器	甕	非ロクロ		7		
東区県警前	Ⅲ層（沢跡）	土師器	甕	非ロクロ	2	47	3	
南端Ⅲ層	Ⅲ層（沢跡）	土師器	甕	非ロクロ		2		内黒

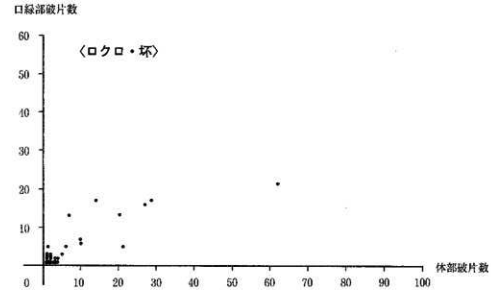
口縁部破片数

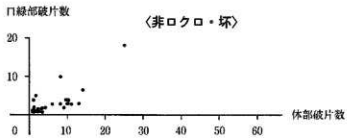


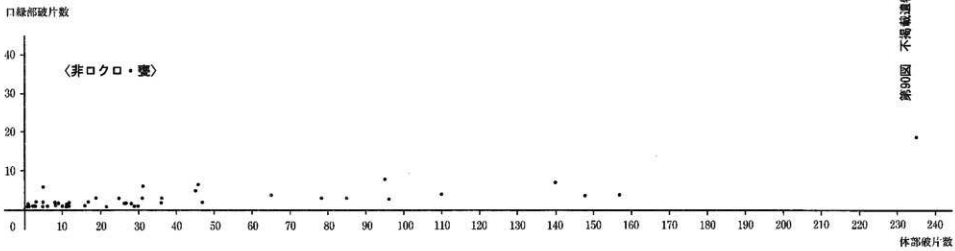
第88図　不掲載遺物　遺構別口縁・体部数（1）



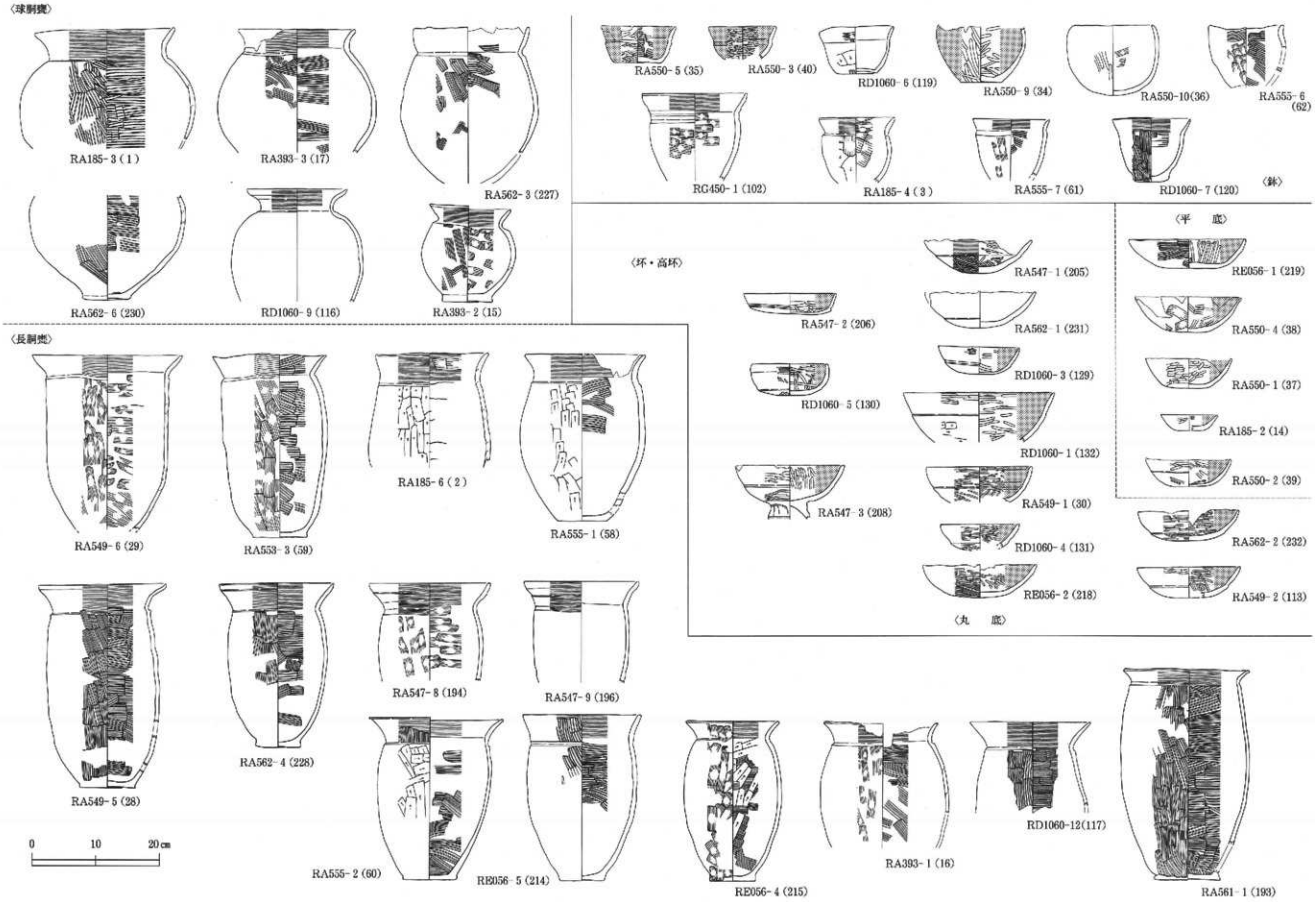
第89図　不掲載遺物　遺構別口縁・体部数（2）



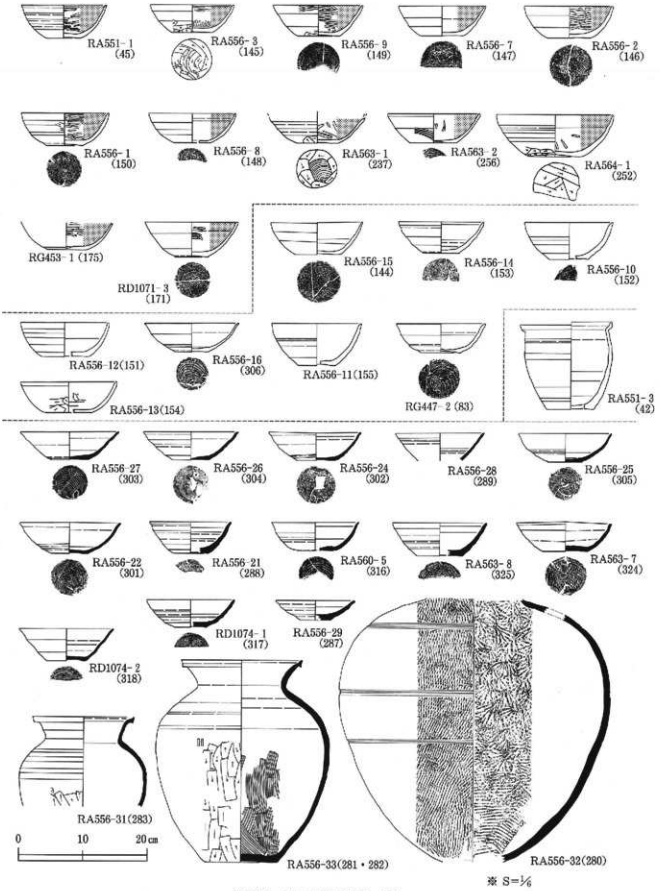




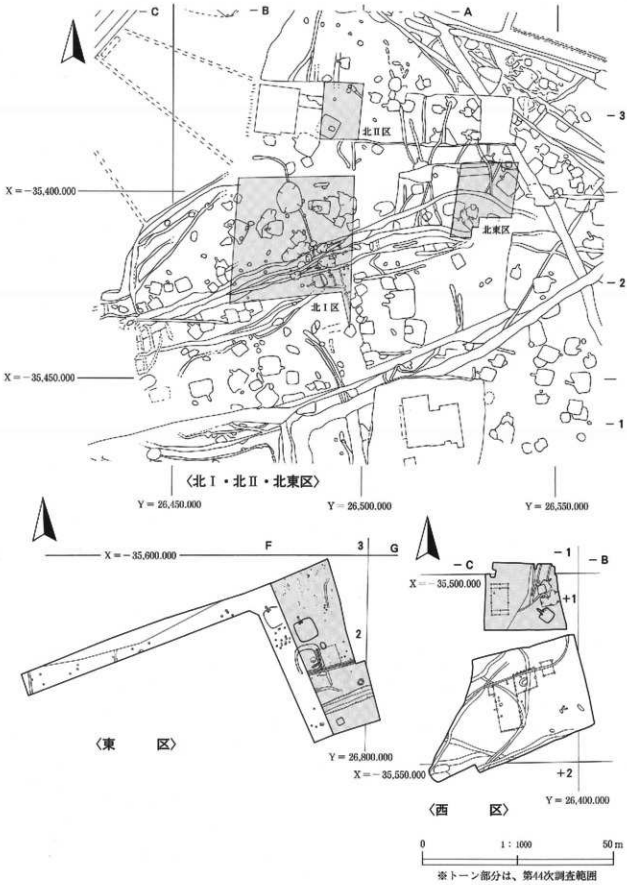
第90図　不掲載遺物　器種別口縁・体部数



第91図　出土土器集成図（1）　※ S=1/6



第92図　出土土器集成図（2）



第93図　台太郎遺跡・遺構配置図

台太郎遺跡出土骨の鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県盛岡市に所在する台太郎遺跡は、北上川支流の雫石川右岸に広がる河岸段丘上に位置する。この段丘は、吉田ほか（1984）により低位段丘に分類されている。段丘の形成年代については、詳細には記載されていないが、更新世後期に位置付けられている。

今回の発掘調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構および遺物が検出されているが、周辺にも同時期の遺構・遺物が確認されている熊堂B遺跡や野古A遺跡などが分布する。今回の分析調査では、古代とされる周溝内側の土坑や竪穴住居跡内の土坑およびカマドより出土した骨片の同定を行い、当時の食性等に関する情報を得る。

1．試料

試料は、東区の周溝内側の土坑（RD1040）から出土した骨（骨1）、北Ⅰ区の住居跡（RA185）のPitとカマド内から検出された骨2点（骨2・3）、北Ⅰ区の住居跡（RA393）のPit3から出土した骨（骨4）、計4点である。試料は破片であり、1試料に複数の点数が認められる。また、これら出土骨は、いずれも灰白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じている。これら遺構の所属時期は、いずれも古代とされている。試料の詳細については、結果と共に表示する。

2．分析方法

試料に付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、同定には、金子浩昌先生の協力を得た。

3．結果

検出動物分類群の一覧を表1に、同定結果を表2に示す。検出される種類は、ヒト、ニホンジカの2種類である。いずれも破片である。以下、各試料ごとに結果を記す。

表1　検出動物分類群の一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
サル目（霊長目）	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	*Homo sapiens*
ウシ目（偶蹄目）	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	*Cervus nippon*

・骨1

ヒトの頭骨（頭頂骨や側頭骨）の破片を検出している。この中には、鼓室部岩骨が1点認められる。おそらく一個の頭骨が破片となったものと推定される。火葬骨である。

・骨2

ニホンジカの末節骨近位骨端が認められる。焼骨であり、破損している。他に認められる獣骨片は、おそらくニホンジカなどの骨片であろう。

・骨3

焼骨である。はりついている上を剥がすと崩壊する危険があるので、そのままの状態にしてある。内側に海綿体が全面にみえるので、鹿角の可能性がある。

・骨4

ニホンジカの上腕骨片や鼓室部岩骨片などを含む獣骨片である。

表2　骨同定結果

試料	調査区	遺構	地点	分類群	部位	部分	備考
骨1	東区	RD1040	周溝内側土坑	ヒト	頭骨	頭頂骨・側頭骨・鼓室部岩骨片など	30歳代成人男性
骨2	北I区	RA185	Pit 2 埋土	ニホンジカ	末節骨	近位端	
骨3	北I区	RA185	カマド内	ニホンジカ	鹿角		
骨4	北I区	RA393	Pit 3 埋土	ニホンジカ	上腕骨	破片	
					頭骨	鼓室部岩骨片	

4．考察

RD1040から出土した骨1は、火葬された人骨であった。頭骨が確認され、頭蓋縫合が骨化していないことから、30歳代の成人と考えられる。また、乳様突起が大きいことから、男性と推定される。これがどのような経路をもってRD1040の土坑から検出されたのか不明であるが、火葬された骨であることから、付近に墓が存在していることが推測される。なお、馬場ほか（1986）を参考にすると、人骨を焼いた場合、600℃以下ではほとんど変化がなく、800℃付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われる等、最も激しく変化するとされている。このことから、本人骨は、800℃以上の高温で焼かれていると考えられる。

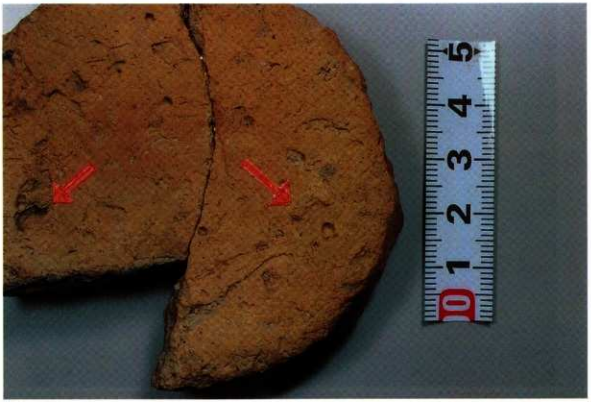
一方、2基の住居跡RA185・RA393から検出された骨は、ニホンジカである。これらの骨は、灰白色を呈し、表面に細かいひび割れがあり、加熱を受けた痕跡が認められることから、人為的に投棄されたことが推定される。おそらく、当時の食料源として利用されていたのであろう。

引用文献

馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治（1986）根古屋遺跡出土の人骨・動物骨．『室山根古屋遺跡の研究　　福島県室山町根古屋における再葬墓群　』．p.93-113．福島県室山町教育委員会．

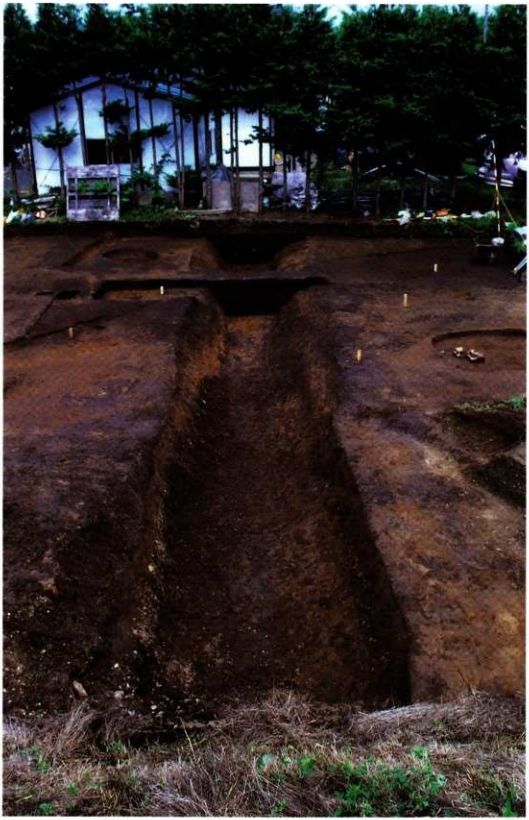
写 真 図 版

各種出土土器



モミ痕のある土器（RA553-2・底部）

写真図版1　遺物



写真図版 2　RG461堀跡

RB045掘立柱建物跡（南から）

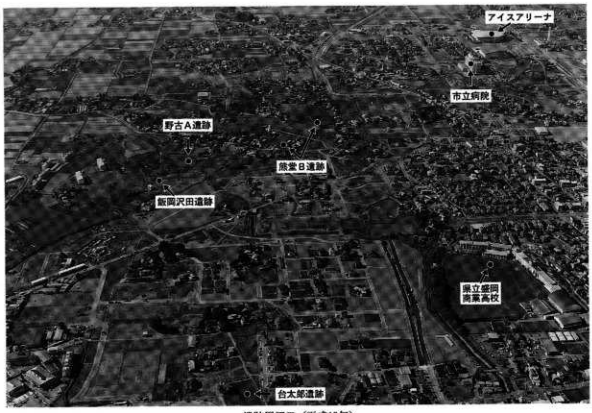
東区作業風景（西から）

写真図版３　RB045掘立柱建物跡・東区作業風景

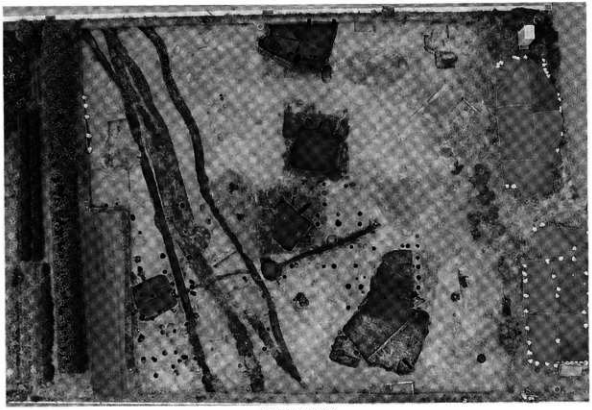
遺跡周辺Ⅰ
（昭和23年頃
米軍撮影の空中
写真）

遺跡周辺Ⅱ
（昭和37年頃
国土地理院撮影
の空中写真）

写真図版4　盛南地区の変遷

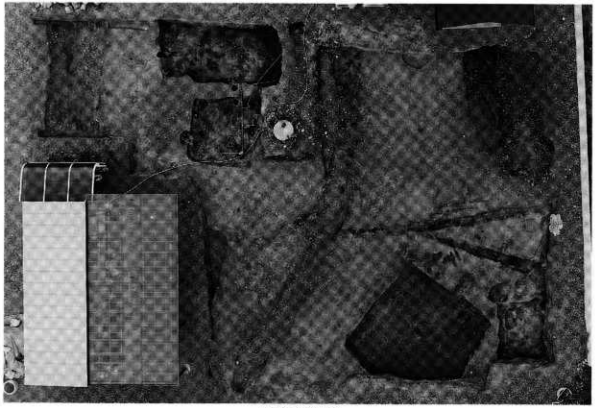


遺跡周辺Ⅲ（平成13年）

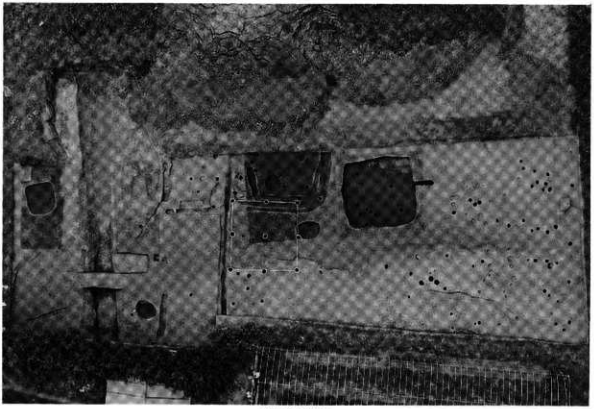


北Ⅰ区（上が西）

写真図版5　空中写真

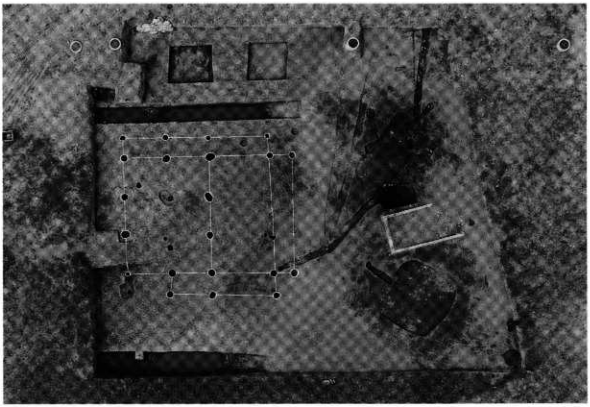


北東区（上が西）

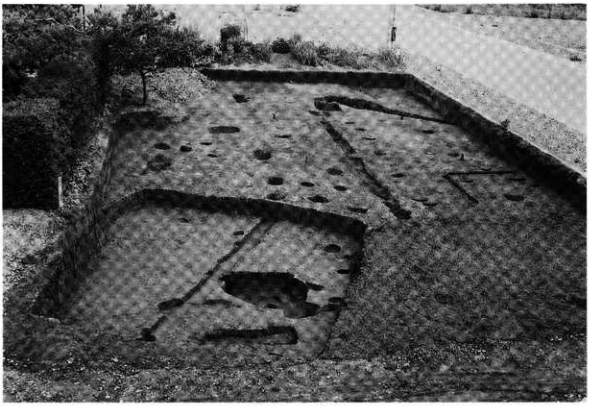


東区（上が西）

写真図版 6　空中写真

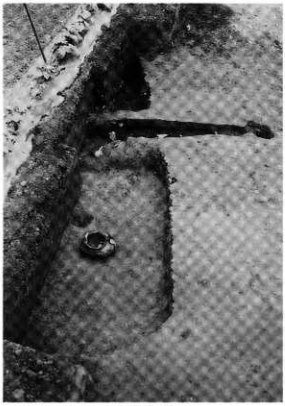


西区（上が北）



北Ⅱ区（上が北）

写真図版７　空中写真、北Ⅱ区全景



完掘（東から）

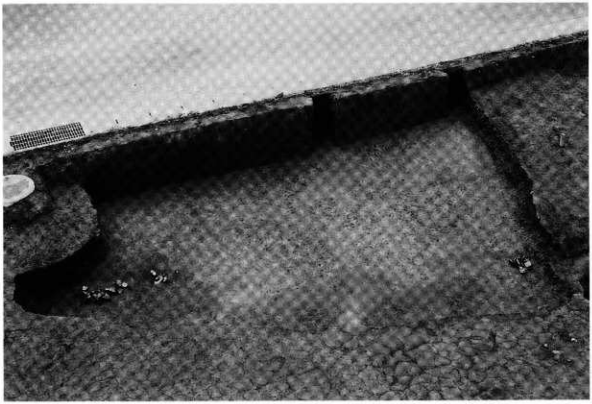
カマド完掘（南から）

土層断面（北から）

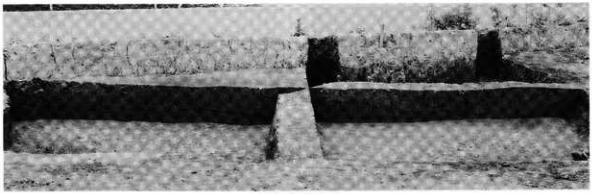
煙道横断面（北から）

遺物出土状況（№1、北から）

写真図版8　RA185竪穴住居跡



完掘（東から）

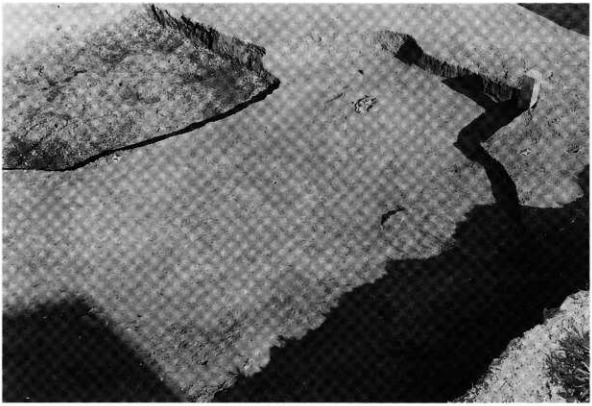


土層断面（東から）

遺物出土状況（№15・16、東から）

遺物出土状況（Pit 2、北から）

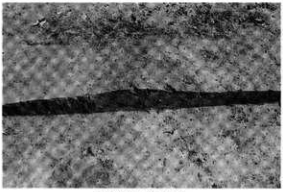
写真図版 9　RA393竪穴住居跡



完掘（北から）

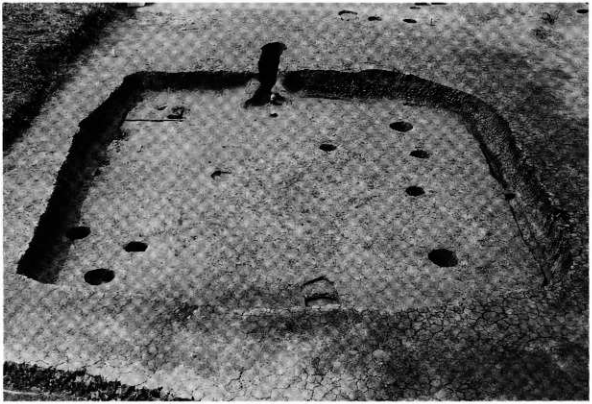
土層断面（北から）

土層断面（東から）

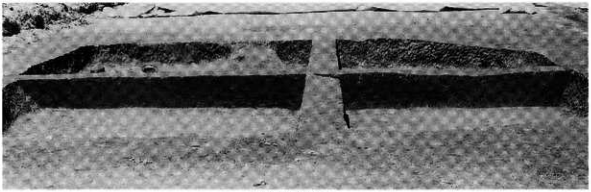


焼土断面（南から）

写真図版10　RA396竪穴住居跡



完掘（南から）

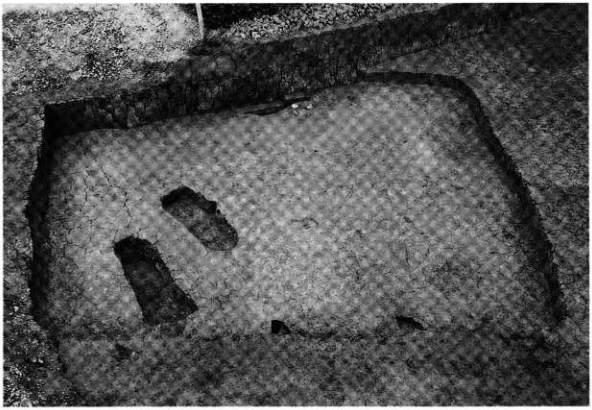


土層断面（西から）

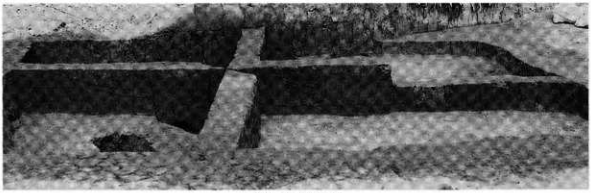
カマド袖断面（南から）

遺物出土状況（No.1、北から）

写真図版11　RA547竪穴住居跡



完掘（東から）



土層断面（南から）

Pit 3 完掘（南から）

遺物出土状況（№2、西から）

写真図版12　RA549竪穴住居跡

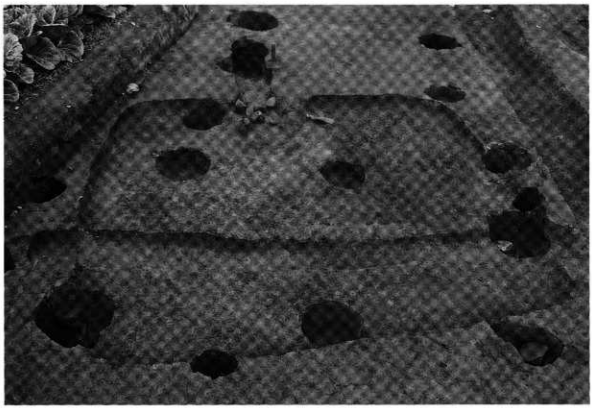
完掘（南から）

土層断面（北東から）

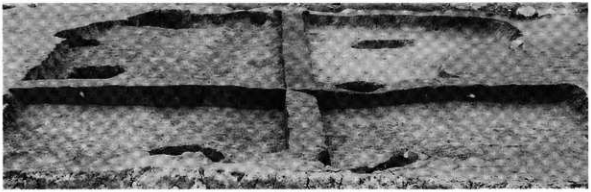
袖断面（南から）

遺物出土状況（北コーナー、南東から）

写真図版13　RA550竪穴住居跡

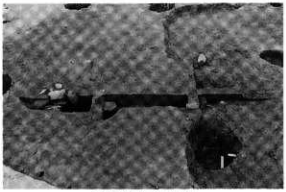


完掘（南東から）



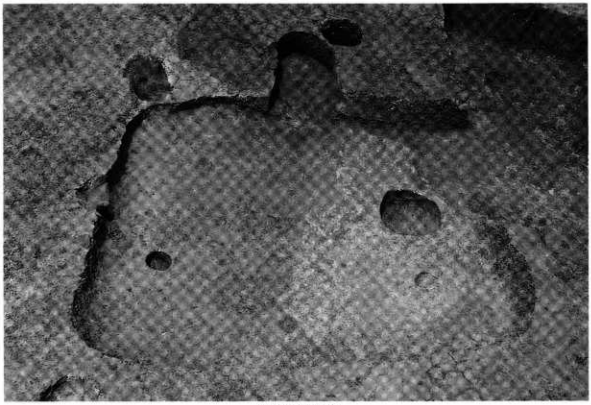
土層断面（北から）

袖断面（東から）

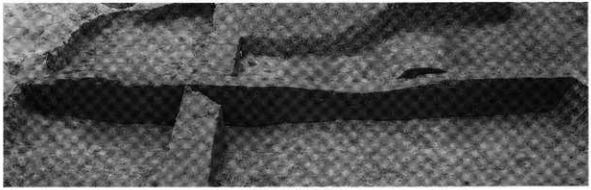


煙道縦断面（南から）

写真図版14　RA551竪穴住居跡

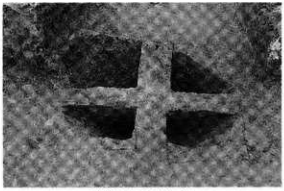


完掘（南東から）



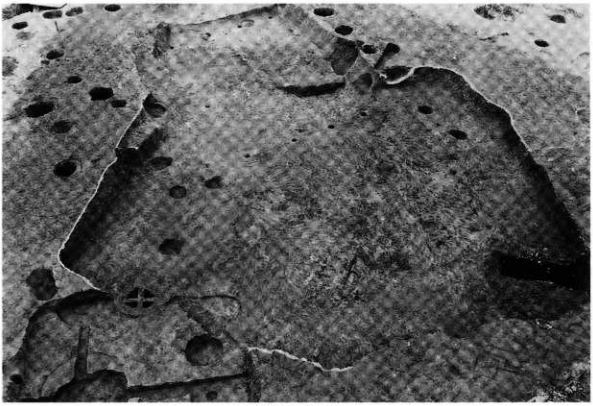
土層断面（東から）

煙道縦断面（北東から）



燃焼部断面（東から）

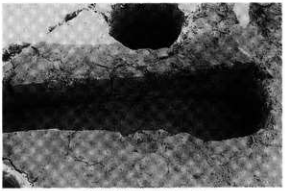
写真図版15　RA552竪穴住居跡



完掘（南東から）

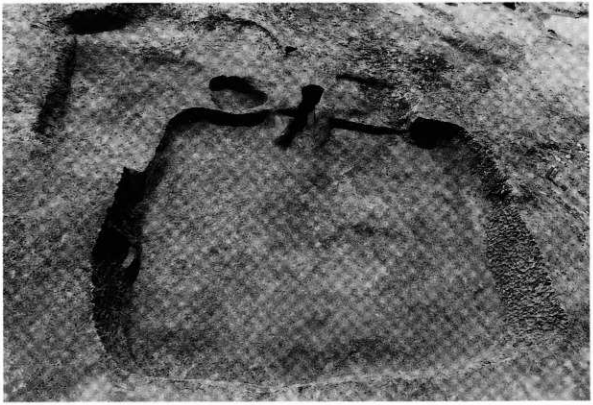
土層断面（南東から）

焼土断面

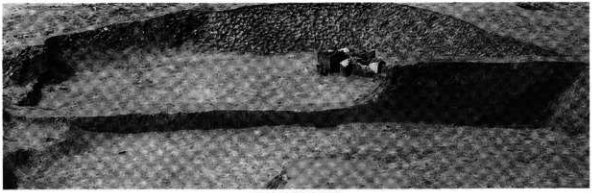


煙道部縦断面（北東から）

写真図版16　RA553竪穴住居跡

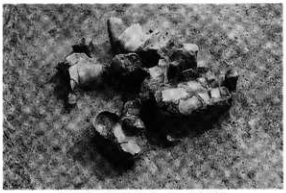


完掘（東から）



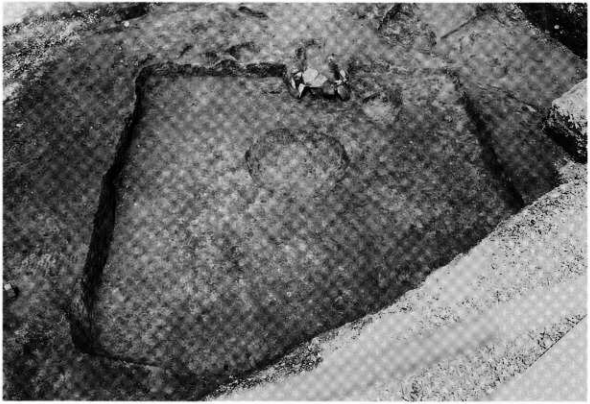
土層断面（南から）

袖断面（南から）

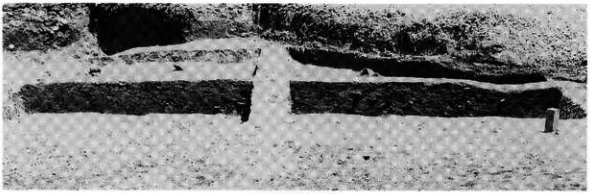


遺物出土状況（№1～6、東から）

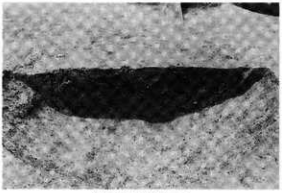
写真図版17　RA554・555竪穴住居跡



完掘（東から）



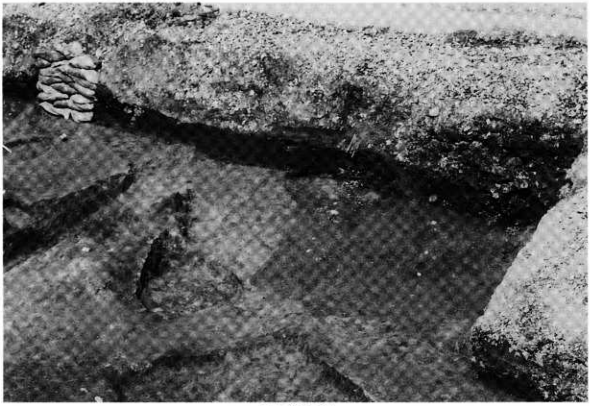
土層断面（西から）



Pit 1 断面（東から）

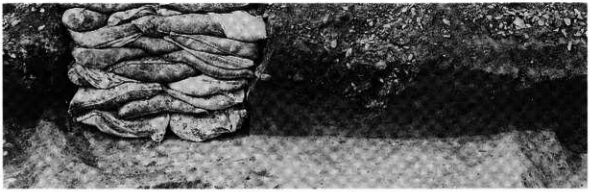
遺物出土状況（No.2、東から）

写真図版18　RA556竪穴住居跡



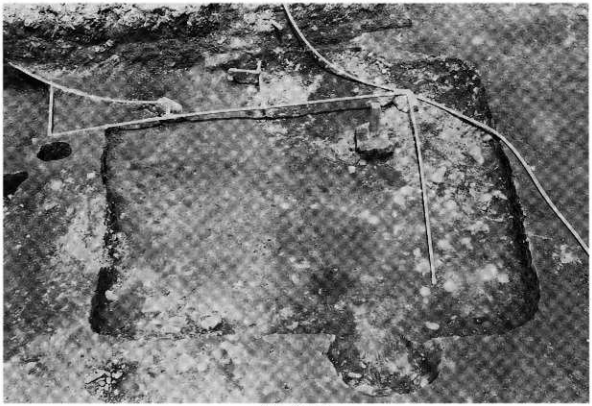
完掘（南から）

土層断面（RA557南から）

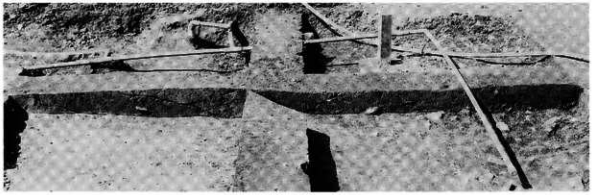


土層断面（RA558南から）

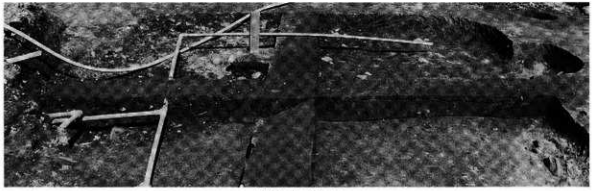
写真図版19　RA557・558竪穴住居跡



完掘（南から）

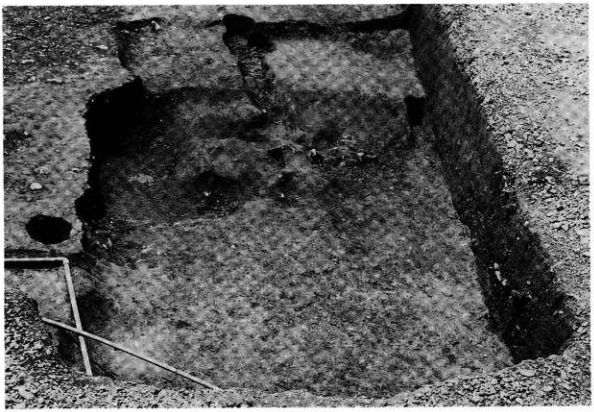


土層断面（南から）

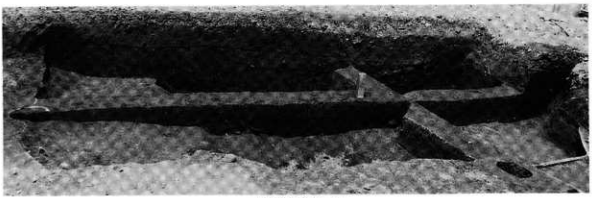


土層断面（東から）

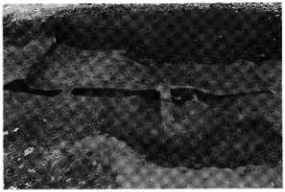
写真図版20　RA559竪穴住居跡



完掘（北から）



土層断面（東から）

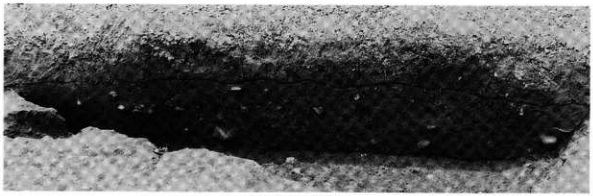


煙道縦断面（東から）

カマド横断面（北から）

写真図版21　RA560竪穴住居跡

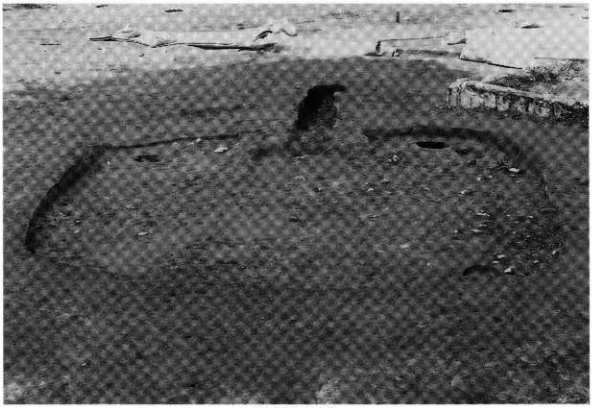
完掘（南東から）



土層断面（北から）

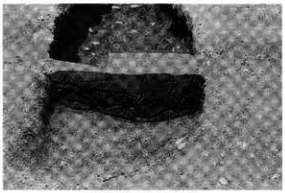
遺物出土状況（北西から）

写真図版22　RA561竪穴住居跡



完掘（南東から）

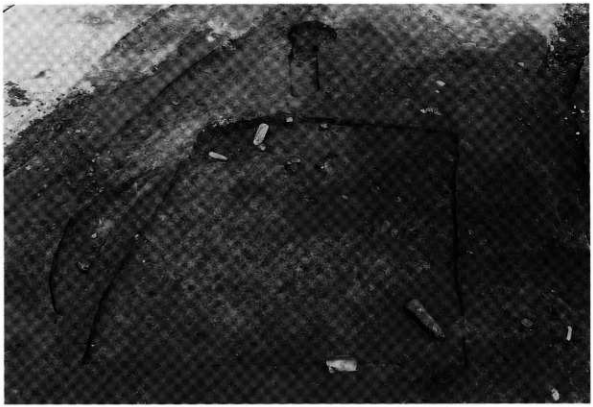
土層断面（東から）



煙道横断面（南東から）

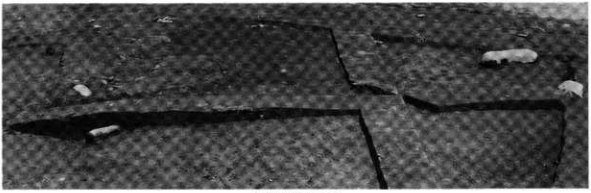
遺物出土状況（北コーナー部分　東から）

写真図版23　RA562竪穴住居跡



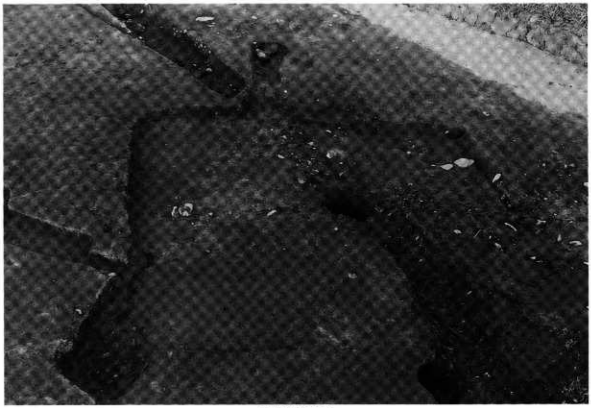
完掘（南から）

土層断面（南から）

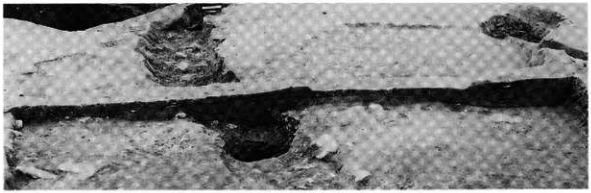


土層断面（西から）

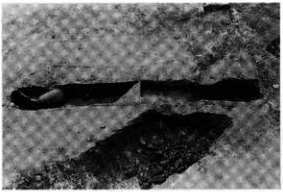
写真図版24　RA563竪穴住居跡



完掘（南西から）



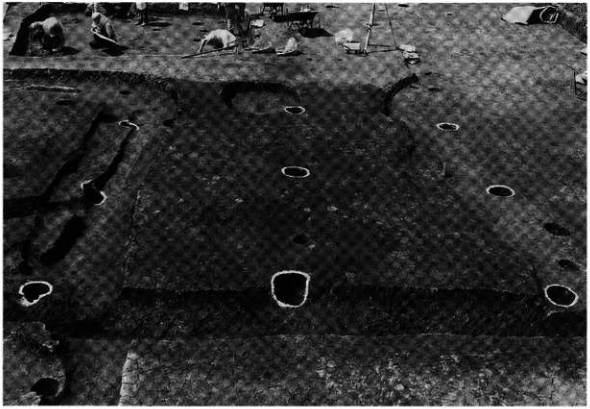
土層断面（北東から）



煙道縦断面（北西から）

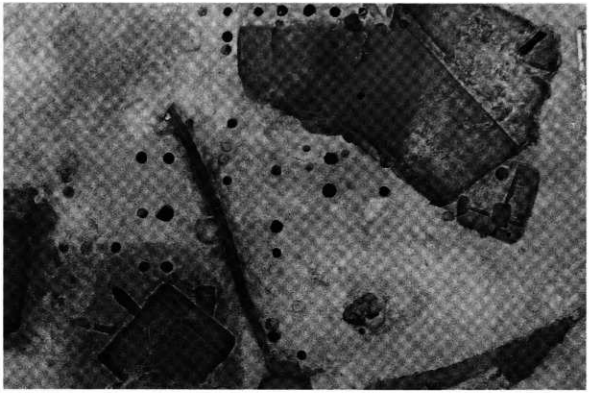
写真図版25　RA564竪穴住居跡

RB044完掘（東から）

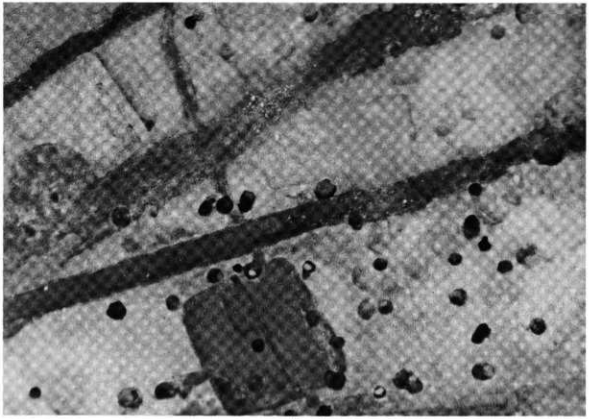


RB045完掘（南東から）

写真図版26　RB044・045掘立柱建物跡



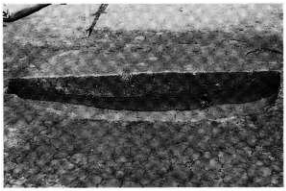
RB046完掘（南から）



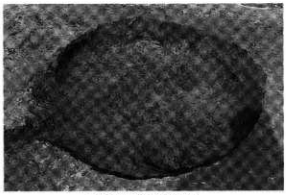
RB047・048完掘（南から）

写真図版27　RB046・047・048掘立柱建物跡

RD1039完掘（南から）

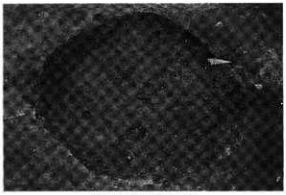


RD1039断面（西から）



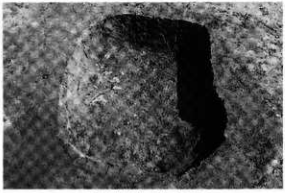
RD1040完掘（南から）

RD1040断面（南西から）

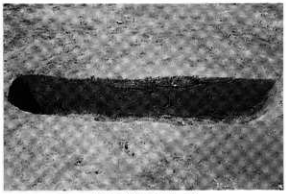


RD1041完掘（南から）

RD1041断面（南から）



RD1042完掘（北西から）

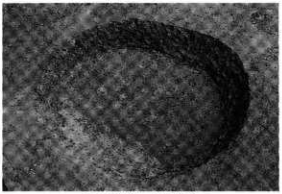


RD1042断面（東から）

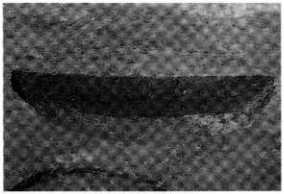
写真図版28　RD1039～1042土坑

RD1043完掘（北西から）

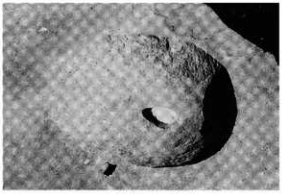
RD1043断面（北西から）



RD1045完掘（南西から）



RD1045断面（東から）



RD1046完掘（北西から）

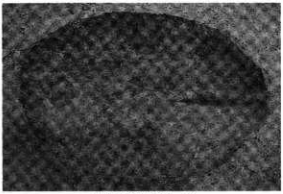
RD1047完掘・遺物出土（南から）

RD1047断面（西から）

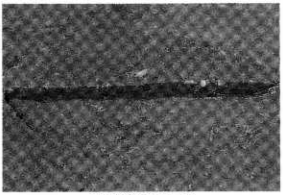
写真図版29　RD1043・1045～1047土坑

RD1048完掘（南から）

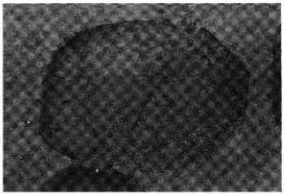
RD1048断面（南西から）



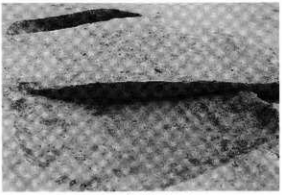
RD1049完掘（東から）



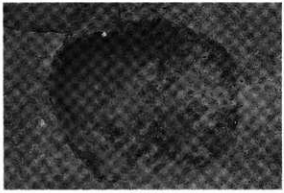
RD1049断面（東から）



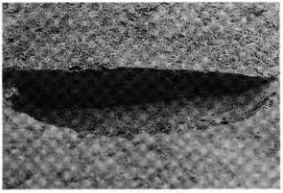
RD1050完掘（南から）



RD1050断面（西から）

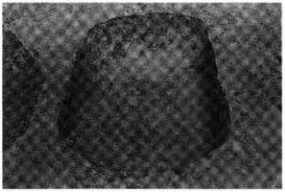


RD1051完掘（南から）

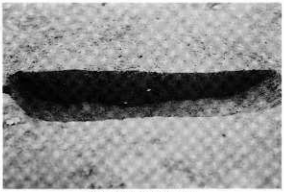


RD1051断面（西から）

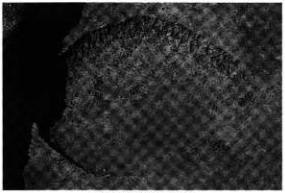
写真図版30　RD1048～1051土坑



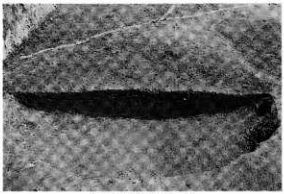
RD1052完掘（南から）



RD1052断面（東から）

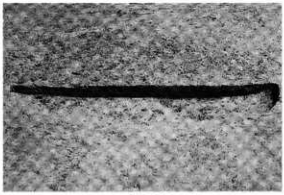


RD1053完掘（南から）

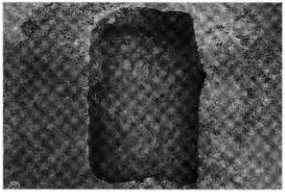


RD1053断面（南から）

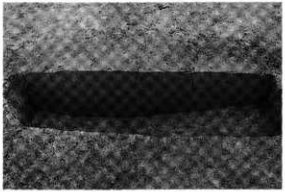
RD1054完掘（西から）



RD1054完掘（南から）

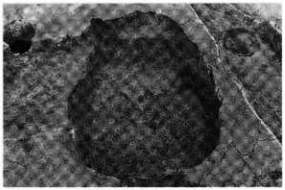


RD1055完掘（南から）

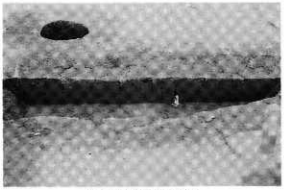


RD1055断面（西から）

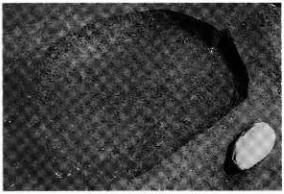
写真図版31　RD1052～1055土坑



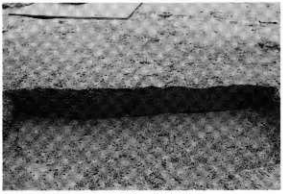
RD1056完掘（西から）



RD1056断面（西から）

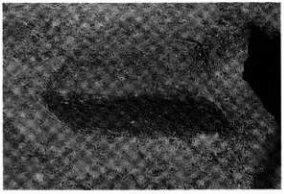


RD1057完掘（南から）



RD1057断面（南から）

RD1058完掘（南東から）



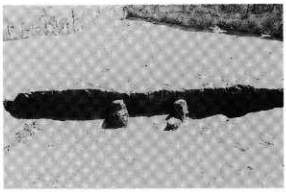
RD1058断面（南から）

RD1060遺物出土（南東から）

RD1059断面（西から）

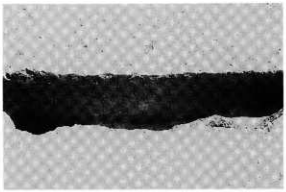
写真図版32　RD1056～1060土坑

RD1060完掘（南東から）

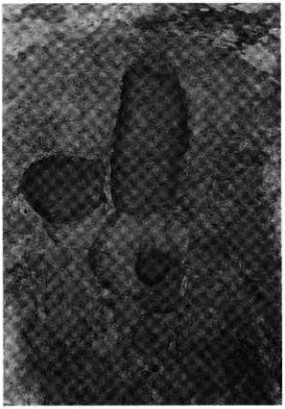


RD1060断面（東から）

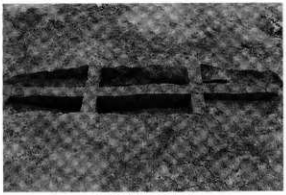
RD1062完掘（東から）



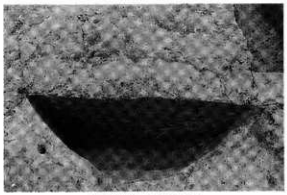
RD1061断面（西から）



RD1062・1063完掘（東から）



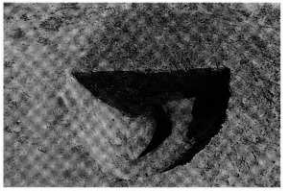
RD1062断面（南から）



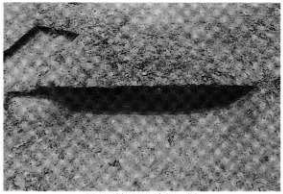
RD1063断面（東から）

写真図版33　RD1060～1063土坑

RD1064完掘（南から）

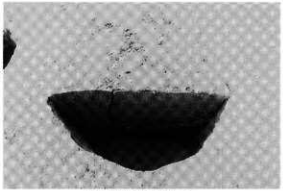


RD1064断面（南から）

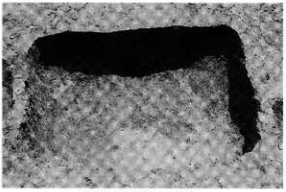


RD1066断面（東から）

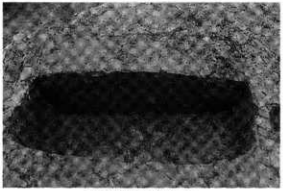
RD1067完掘（南から）



RD1067断面（南から）



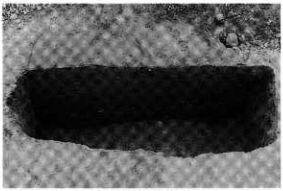
RD1068完掘（北西から）



RD1068断面（西から）

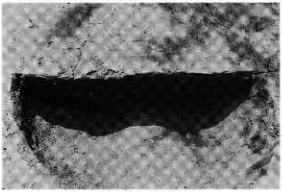
写真図版34　RD1064・1066～1068土坑

RD1069完掘（東から）



RD1069断面（東から）

RD1070完掘（東から）



RD1070断面（東から）

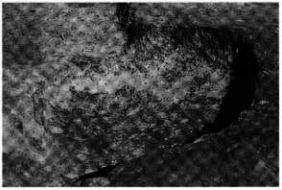
RD1071完掘（南から）

RD1071断面（南から）

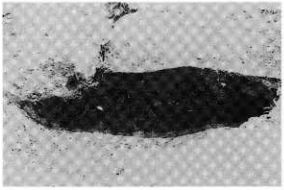
RD1072完掘（北から）

RD1072断面（北西から）

写真図版35　RD1069～1072土坑

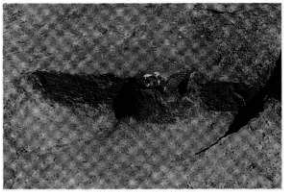


RD1073完掘（西から）



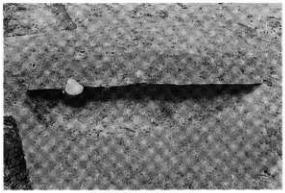
RD1073断面（西から）

RD1074完掘（西から）



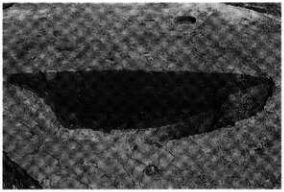
RD1074断面（西から）

RD1075完掘（北から）



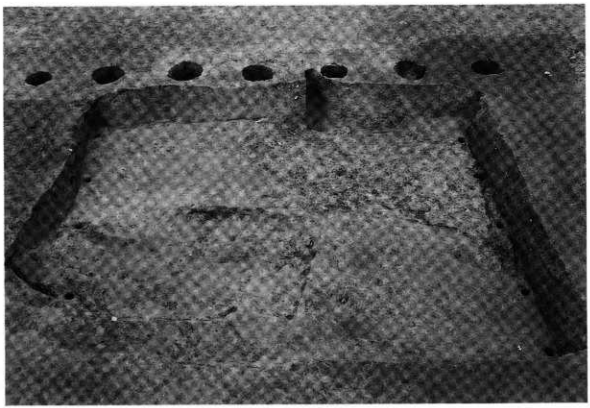
RD1075断面（北から）

RD1076完掘（北から）

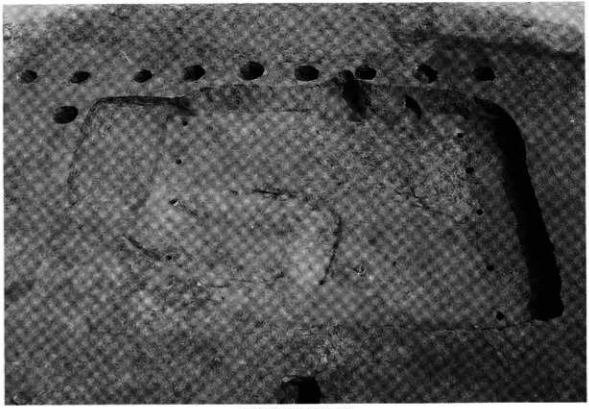


RD1076断面（西から）

写真図版36　RD1073～1076土坑



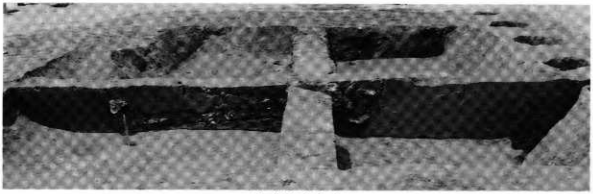
RE055完掘Ⅰ（南から）



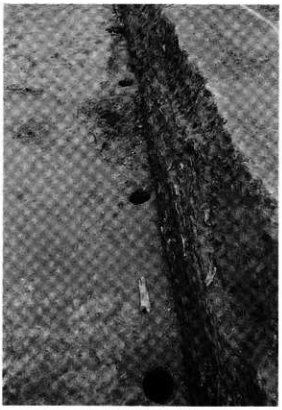
RE055完掘Ⅱ（南から）

写真図版37　RE055竪穴状遺構（1）

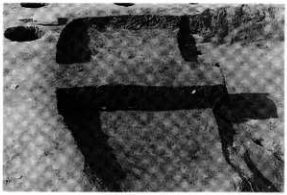
土層断面（南から）



土層断面（東から）



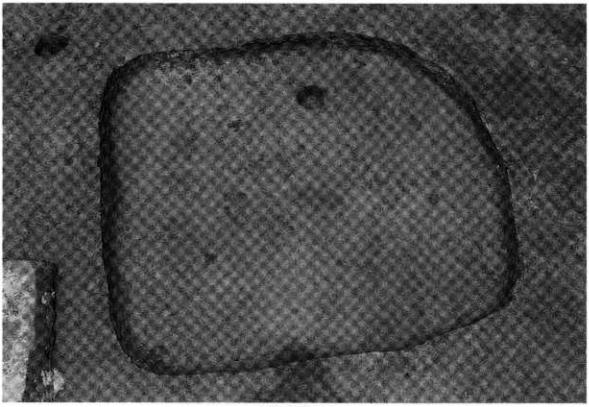
壁面木質検出（西から）



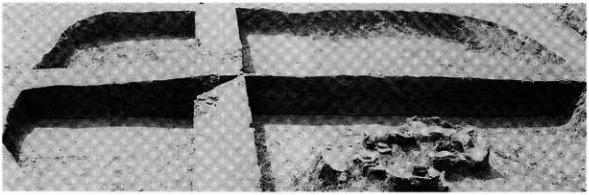
土層断面２次（南から）

壁面木質

写真図版38　RE055竪穴状遺構（２）



完掘（南から）

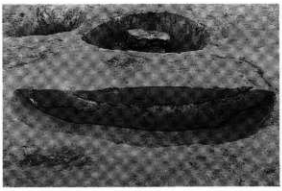


土層断面（南から）

遺物出土状況（南から）

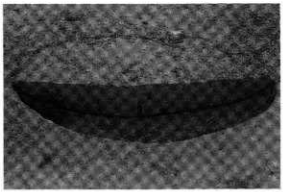
写真図版39　RE056竪穴状遺構

RF063焼土遺構平面（南から）



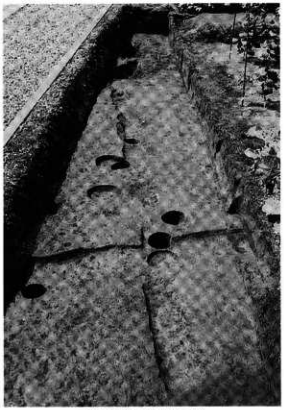
RF063断面（西から）

RF064焼土遺構平面（西から）



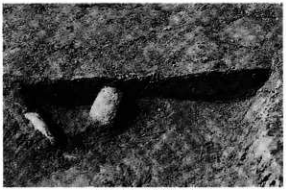
RF064断面（西から）

RG442北側完掘（南から）

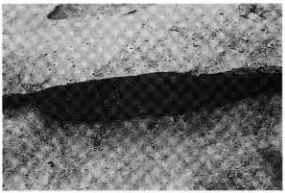


RG442南側完掘（北から）

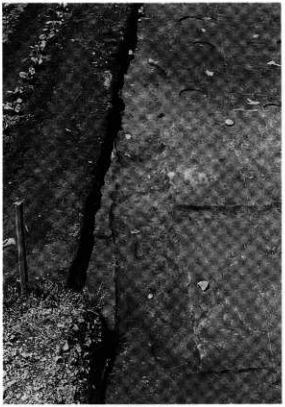
写真図版40　RF063・064焼土遺構　RG442溝跡



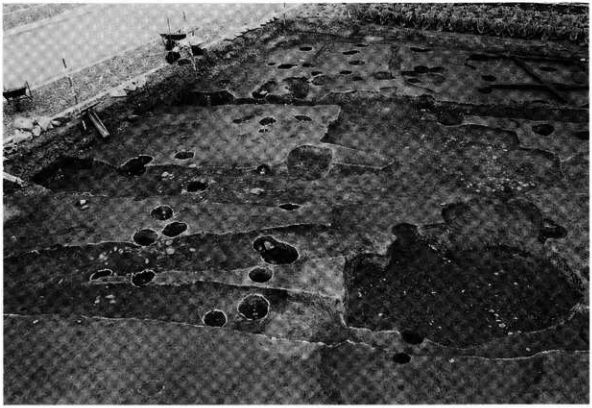
RG442断面（南から）



RG443断面（西から）

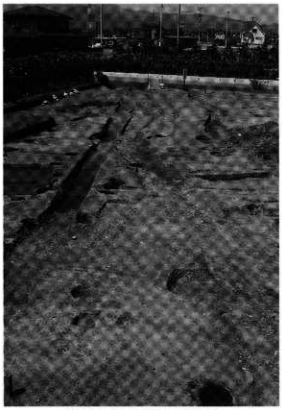


RG443完掘（東から）



RG444～449完掘（北から）

写真図版41　RG442～449溝跡

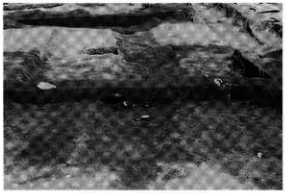


RG444・446～450完掘（東から）

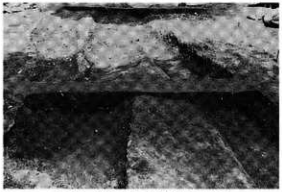
RG444断面（西から）

RG446断面（西から）

RG446・447断面（西から）



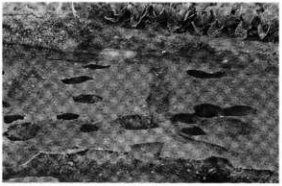
RG447～449断面（西から）



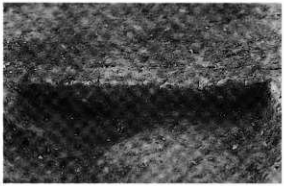
RG444・447・449・450断面（西から）

RG448断面（西から）

写真図版42　RG444・446～450溝跡

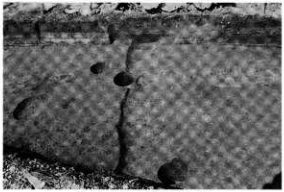


RG445完掘（北から）



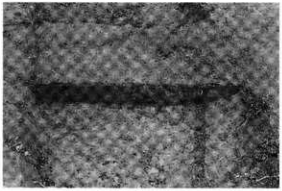
RG445断面（南から）

RG452完掘（北から）

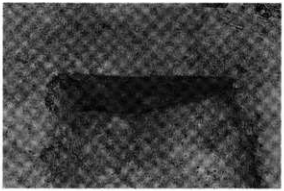


RG451完掘・断面（東から）

RG452北端部完掘（南から）

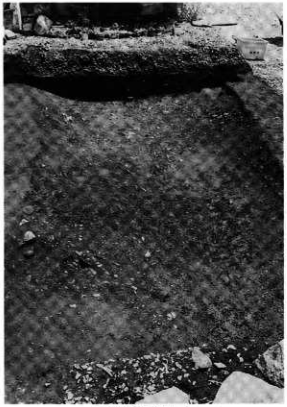


RG452南側断面（南から）

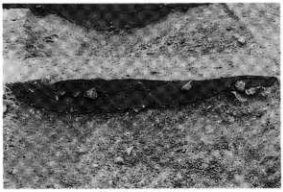


RG452北側断面（南から）

写真図版43　RG445・451・452溝跡



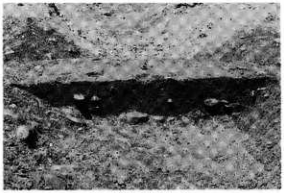
RG453完掘（西から）



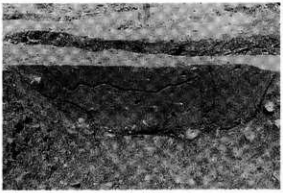
RG453断面（東から）

RG453断面（東から）

RG454完掘（東から）



RG454断面（東から）



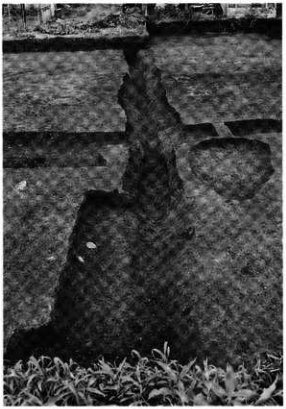
RG454断面（東から）

写真図版44　RG453・454溝跡

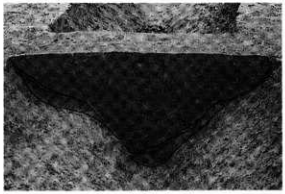
RG455・456完掘（北から）

RG455断面（南から）

RG456断面（南から）



RG457完掘（北から）

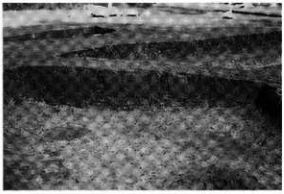


RG457断面（西から）

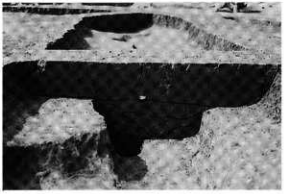
RG457断面（西から）

写真図版45　RG455～457溝跡

RG458完掘（南から）



RG458断面（北から）



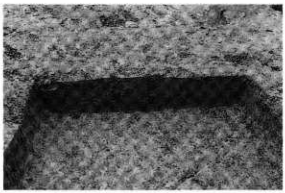
RG458断面（西から）

東区作業風景

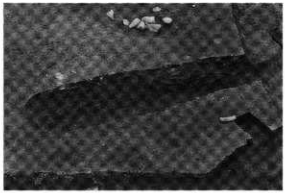
現地説明会（2003．7．暑いH）

写真図版46　RG458溝跡

RG459完掘（南から）



RG459断面（北から）



RG460完掘（南から）

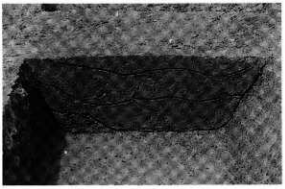
RG461完掘（西から）

RG461断面（西から）

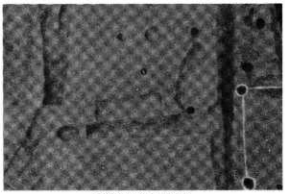
RG461断面（西から）

写真図版47　RG459・460溝跡　RG461堀跡

RG462完掘（西から）



RG462断面（東から）



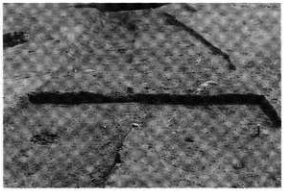
RG463完掘（直上）

RG464～466完掘（北東から）

写真図版48　RG462～465溝跡

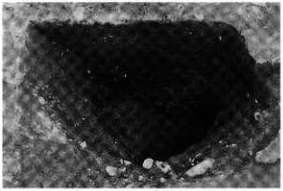
RG464断面（南から）

RG465断面（南から）



RG464・466の交点断面（北から）

RG466断面（南から）



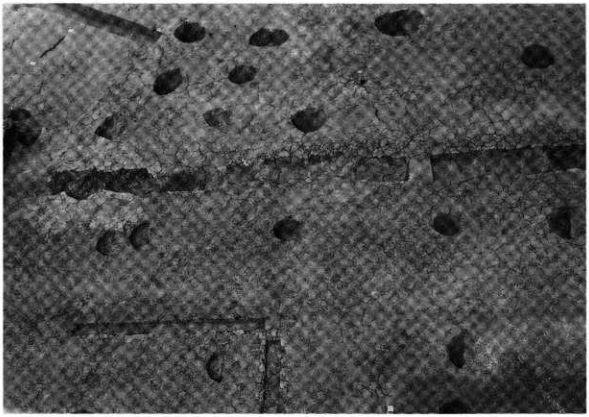
RI016完掘（北から）

RI016断面（東から）

西区作業風景（東から）

北東区作業風景（南西から）

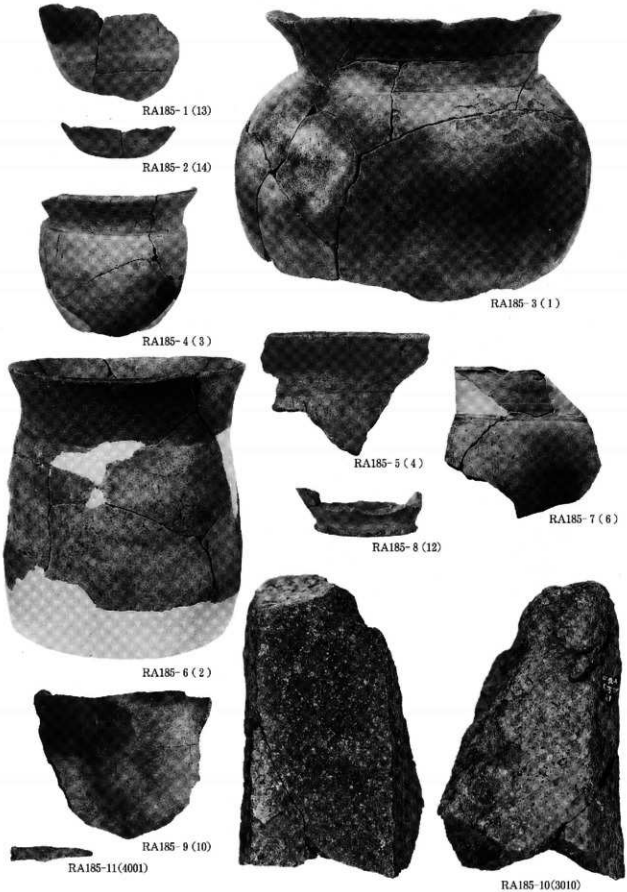
写真図版49　RG463～466溝跡　RI016井戸跡



RZ031北Ⅱ区柱穴状土坑

RZ033東区柱穴状土坑

写真図版50　RZ031・RZ033柱穴状土坑



写真図版51　RA185　出土遺物

RA393-1 (16)

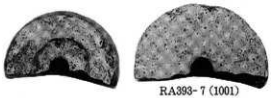
RA393-2 (15)

RA393-4 (19)

RA393-3 (17)

RA393-5 (329)

RA393-6 (330)



RA393-7 (1001)
※ S=⅔

RA393-11(4002) ※ S=½

RA393-8 (3001)
※ S=⅔

RA393-9 (3002)
※ S=⅔

RA393-12(4003)
※ S=½

RA393-13(4004)
※ S=½

写真図版52　RA393　出土遺物

RA547-1 (205)

RA547-2 (206)

RA547-3 (208)

RA547-4 (207)

RA547-5 (204)

RA547-6 (201)

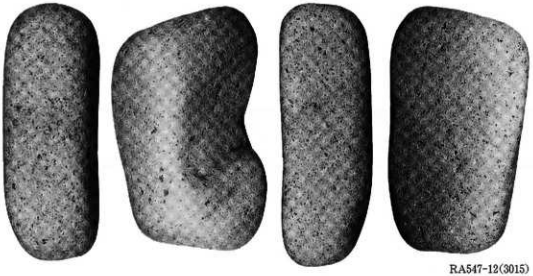
RA547-8 (194)

RA547-9 (196)

RA547-10(195)

写真図版53　RA547（1）出土遺物

RA547-11(3012)



RA547-12(3015)

写真図版54　RA547（2）出土遺物

RA549-1 (30)

RA549-2 (113)

RA549-3 (115)

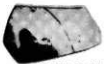
RA549-4 (111)

RA549-5 (28)

RA549-6 (29)

RA549-7 (112)

RA549-8 (331)



RA549-9 (2001)

RA549-10(4005)

写真図版55　RA549　出土遺物

RA550-1 (37)

RA550-2 (39)

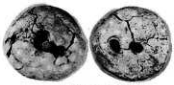
RA550-3 (40)

RA550-4 (38)

RA550-5 (35)

RA550-6 (33)

RA550-7 (32)


RA550-8 (1002)
※ S=⅔

RA550-9 (34)

RA550-10(36)

RA551-1 (45)

RA551-2 (46)

RA551-4 (44)

RA551-3 (42)

写真図版56　RA550・551　出土遺物

RA553-1 (49)

RA553-2 (50)

RA553-3 (48)

RA554-1 (53)

RA554-2 (54)

RA555-1 (58)

RA555-2 (60)

写真図版57　RA553・554・555（1）出土遺物

RA555-3 (59)

RA555-4 (67)

RA555-5 (63)

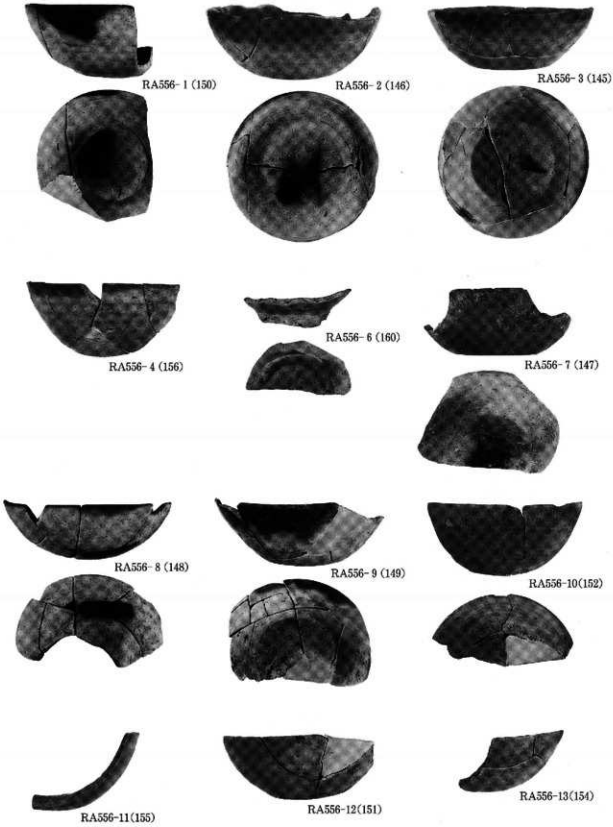
RA555-6 (62)

RA555-7 (61)

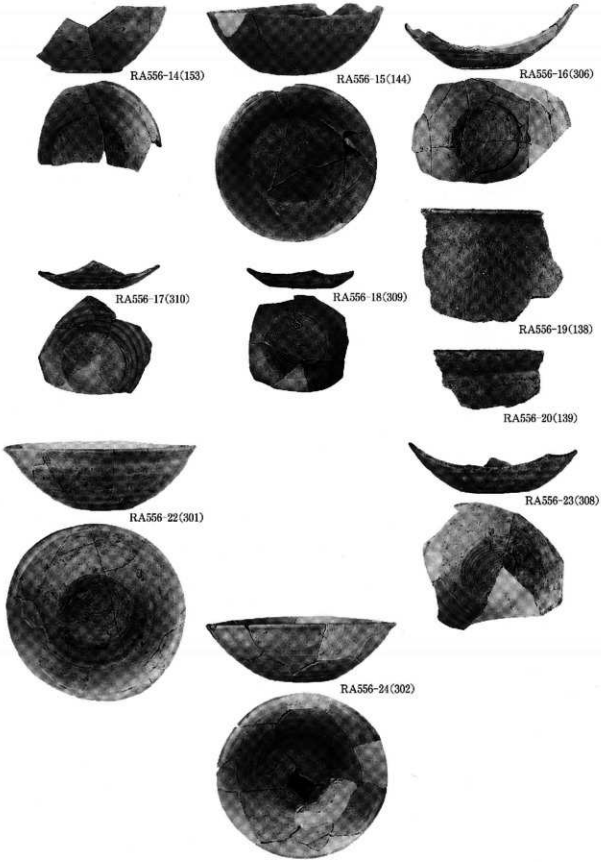
RA555-8 (68)

RA555-9 (3005) ※ S=½

写真図版58　RA555（2）出土遺物



写真図版59　RA556（1）出土遺物



写真図版60　RA556（2）出土遺物

写真図版61　RA556（3）出土遺物

RA556-31(283)

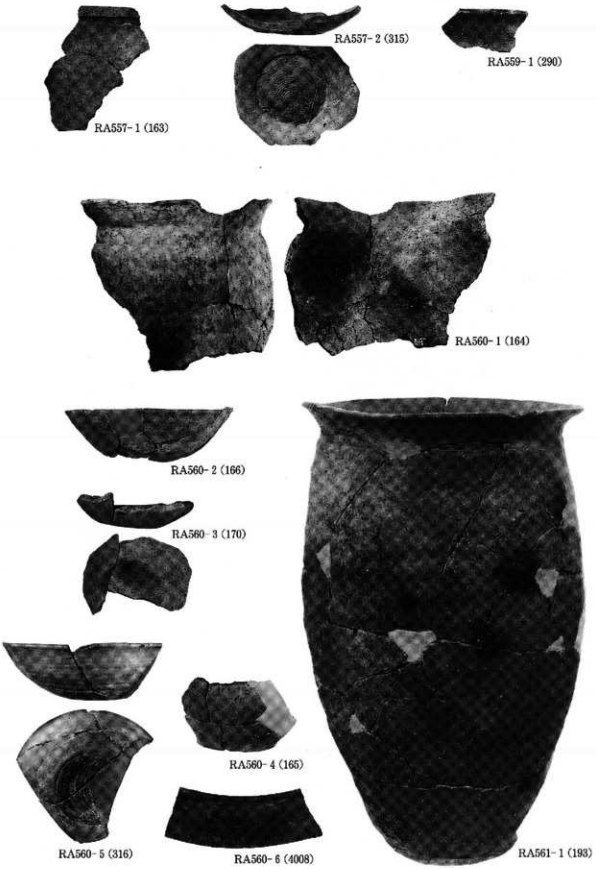
RA556-36(307)

RA556-37(1003)
※ S=⅔

RA556-5(161)

RA556-33(281、282)

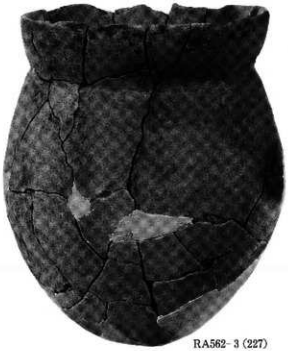
写真図版62　RA556（4）出土遺物



写真図版63　RA557・559・560・561　出土遺物

RA562-1 (231)

RA562-2 (232)



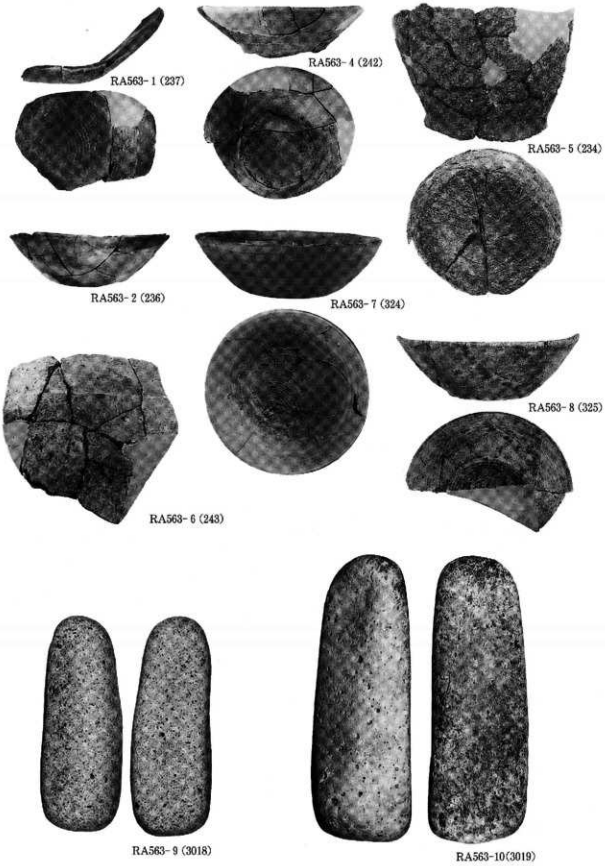
RA562-3 (227)

RA562-4 (228)

RA562-5 (229)

RA562-6 (230)

写真図版64　RA562　出土遺物

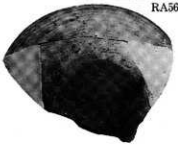


写真図版65　RA563　出土遺物

RA564-1 (252)

RA564-2 (253)

RA564-3 (256)



RA564-4 (247)

RA564-6 (250)

RA564-5 (251)

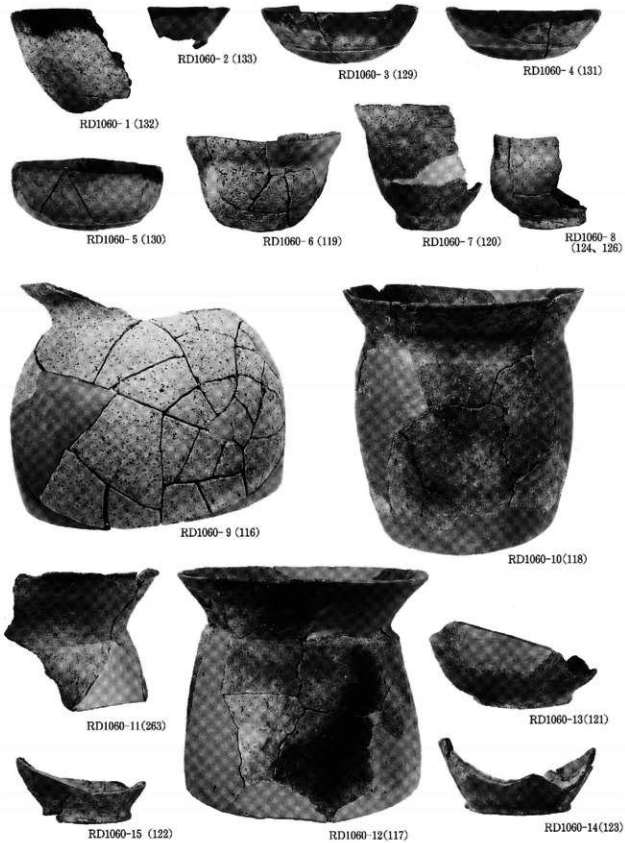
RA564-7 (328)

RA564-8 (332)

RA564-9 (3003)
※ S=½

RA564-10(4009)

写真図版66　RA564　出土遺物



写真図版67　RD1060　出土遺物

RD1039-1 (209)

RD1066-1 (333)

RD1071-1 (171)

RD1072-1 (135)

RD1072-2 (337)

RD1073-1 (172)

RD1074-1 (317)

RD1074-2 (318)

RD1075-1 (212)

RE055-1 (73)

RE056-1 (219)

RE055-2 (2002)

RE056-2 (218)

RE056-3 (217)

写真図版68　RD1074・1075　RE055・056（1）出土遺物

RE056-4 (215)

RE056-5 (214)

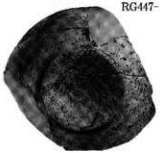
RG444-1 (4010)

RG446-1 (77)

RG447-1 (87)

RG444-2 (4011)

RG447-2 (83)



RG447-3 (80)

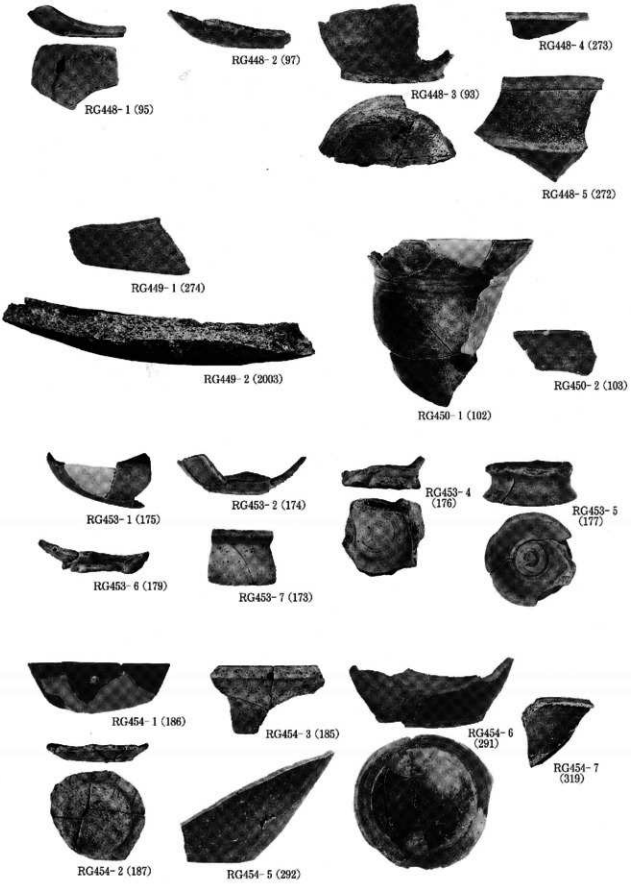
RG447-4 (271)

RG447-5 (81)

RG447-6 (267)

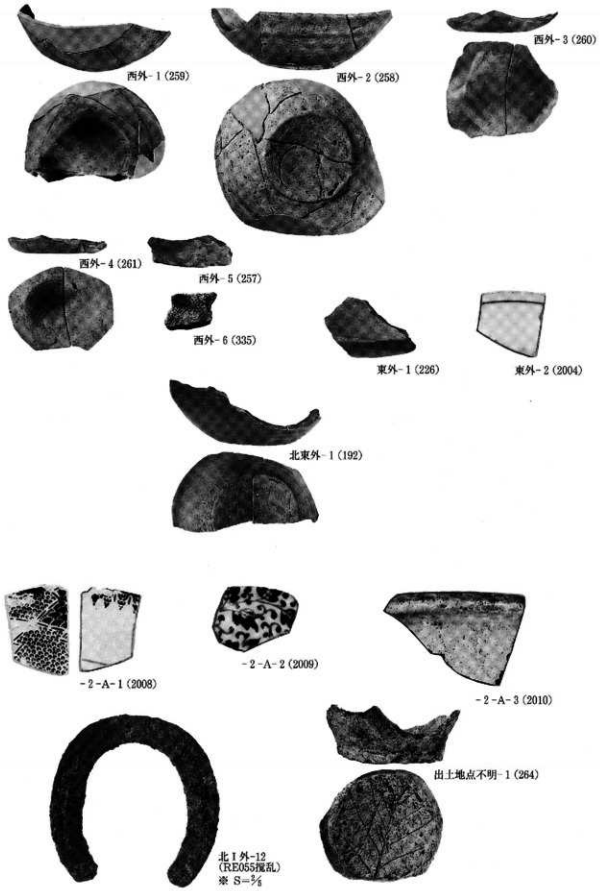
RG447-7 (269)

写真図版69　RE056（2）RG444・446・447　出土遺物



写真図版70　RG448・449・450・453・454　出土遺物

写真図版71　RG456・457・464・北Ⅰ外・北Ⅱ外　出土遺物



写真図版72　西外・東外・北東外・-2-A・RE055・不明　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせきだいよんじゅうよじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	台太郎遺跡第44次発掘調査報告書
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第422集
編著者名	阿部眞澄・安藤由紀夫・菊池　暨
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地　TEL 019-638-9001
発行年月日	平成15年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
台太郎遺跡	岩手(いわて)県盛岡市 向中野字八月 市場41－1他	03201	LE －16 －2269	39度 40分 47秒	141度 8分 40秒	2002.04.09 ～ 2002.08.05	2,907㎡	盛岡南新都市開発整備事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	
台太郎遺跡 （第44次）	集落跡	7世紀後半 ～ 奈良時代	竪穴住居跡11棟・竪穴状遺構1棟・土坑7基	土師器・土製紡錘車・石器（砥石）	住居跡は北西壁にカマドを据えつける。
		平安時代 （9世紀～10世紀）	竪穴住居跡9棟・掘立柱建物跡（古代）2棟・土坑4基・溝跡（古代）20条	土師器・須恵器・赤焼土器・鉄製品・（釘など）・石器（砥石）	
		中世～近代 （時期不明含む）	掘立柱建物跡3棟・土坑26基・堀跡1条・溝跡3条・焼土遺構2基・竪穴状遺構1棟・柱穴約130基	陶磁器・蹄鉄	建物跡1棟は馬屋のある商部曲家。堀跡は屋敷の区画か。東区の溝1条は方形周溝。

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長　木村　昇

〔管理課〕

課長　菖沢　吾
課長補佐　山崎　光
〃　山岸　美
主査　中嶋　直一
〃　　賢

〔調査第一課〕

課長　佐々木　勝
課長補佐　佐々木　清文
〃　高橋　義介
文化財専門員　小山内　透
文化財調査員　古田　充
〃　亀　人一郎
〃　佐々木　信一
〃　早坂　則　淳
〃　小松　也
〃　金野　真　進
〃　金野　昭　盛
〃　阿部　孝　彦
〃　阿部　勝　明
〃　羽柴　直　則
〃　高木　晃　人
〃　長村　克　稔
〃　星　幸　文
〃　杉沢　昭太郎
〃　村上　拓
〃　本多　準一郎
〃　青山　紀　和
〃　西澤　正　晴
〃　村木　敬
〃　北島　正　和
〃　八村　忠　昭
〃　米田　勝　枝
〃　丸山　浩　寛
〃　北田　治
〃　鳥原　弘　勲
〃　中村　絵　征
期限付調査員　坂部　恵　美
〃　小林　弘　造
〃　江藤　卓
〃　川又　敦
〃　吉田　由　晋
〃　長洞　真　芙
〃　玉山　ひかり　一
〃　太田代　健　彦
〃　藤原　一　輔
〃　裳地　大　剛
〃　立花　公　志

副所長　高橋　正　儀

駒託　高橋　照　雄
〃　加藤　美代子
〃　湯沢　邦　子
〃　伊藤　滋　子

〔調査第二課〕

課長　高橋　真　衛門
課長補佐　中川　亜　紀
文化財専門員　金子　裕　知
文化財調査員　赤石　雅　登
〃　阿部　佐　滋
〃　飯坂　一　重
〃　鈴木　裕　明
〃　久慈　泰　彦
〃　安藤　由　夫
〃　星　紀　之
〃　佐藤　淳　一
〃　半澤　武　彦
〃　皆川　英　香
〃　溜　浩　二郎
〃　丸山　直　郎
〃　(濱田　　宏)
期限付調査員　齋藤　麻　美
〃　原　美　子
〃　古里　里　津
〃　菊池　智　和
〃　駒野　花　賢
〃　木花　崎　寛
〃　立石　高　裕
　　　　　　　臣

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

台太郎遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成15年3月20日

発行　平成15年3月28日

発行　財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　盛岡市下飯岡第11地割185番地
電話　(019) 638-9001・9002
FAX　(019) 638-8563

印刷　株式会社　熊谷印刷
〒020-0066　盛岡市上田1丁目6番49号
電話　(019) 653-4151
FAX　(019) 654-0435

©（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003